

病院年報

第 31 号（平成 30 年度）



八尾市立病院

基本理念

- 一．地域住民の健康な生活を守るため、高度で良質な医療を提供します。
- 一．信頼される市の中核病院として、地域に密着した医療を推進します。
- 一．市民に誇れる公立病院として、品格ある病院運営を実践します。

基本方針

- 1．医療安全を重視し、医療ニーズに対応した高度医療・急性期医療を充実させます。
- 2．地域の医療機関との連携の強化と、保健・福祉分野との役割分担により、地域完結型の医療を確立します。
- 3．救急医療、小児・周産期医療、災害医療などの政策医療を確保します。
- 4．患者の意思と権利を尊重し、市民に信頼される病院をめざします。
- 5．良心に基づく運営と公民協働による健全経営の維持により、職員が誇れる病院を追求します。
- 6．医療従事者の教育・研修の充実により、医療水準の向上に努めます。

患者の権利章典

- 1．個人の人格および価値観は尊重され、だれでも等しく安全で良質な医療を受ける権利があります。
- 2．自分の受ける医療について、必要な情報が提供され、十分な説明を受けた上で、自分の意思で治療方法などを選択し、決定する権利があります。
- 3．自分の受ける医療について、納得できるまで質問でき、さらに不明の点があれば診療情報の提供やカルテ開示を求める権利があります。
- 4．個人情報および診療情報は厳密に保護され、プライバシーを尊重される権利があります。
- 5．自分の受ける医療について、他の医師の意見を聞いたり（セカンドオピニオンを含む）、他の医療機関を受診する権利があります。
- 6．自分の健康に関する情報を正しく伝えるとともに、他の患者の診療を妨げないように配慮する責務があります。

平成 30 年度病院年報 挨拶

超高齢社会において医療への社会的ニーズが刻々と変化している。本格化する地域医療構想の行方を見極め、市立病院に求められる役割を実現していくため、「3本の矢を“市立病院チーム”一丸となり推進していく」というメッセージのもとに病院運営を進めてきた。

1 本目の矢は「急性期病院機能の充実」である。急性期病床の定義が変化する中で、当院が果たすべき役割として、高度で良質な医療を提供できる急性期病院機能を充実させることが重要である。その実現のために電子カルテ部門システムの更新と共に高度医療機器（手術室装備、放射線診断・治療装置など）の整備を行い、実際の診療現場においてその威力を発揮している。地域医療構想が本格化する未来に向けての病床機能の再編は今後の課題である。

2 本目の矢は「地域医療支援病院としての活動の継続」である。平成 24 年 11 月に地域医療支援病院の承認を受け、地域の医療機関の先生方との連携をさらに深めており、紹介率 50%以上・逆紹介率 70%以上を平成 30 年度も維持した。活動の継続のためには救急部門の充実が必要であり、救急部長を新たに迎え当院の救急搬送患者数は飛躍的に増加した。市民向けの情報提供として、八尾市立病院公開講座を継続するとともに、市民の求める場所に当院スタッフが出向き、求める内容の講演を行う出前講座にも積極的に取り組んでいる。

3 本目の矢は「地域がん診療連携拠点病院としての活動の定着化」である。平成 27 年 4 月に府指定から国指定の連携拠点病院となったが、活動の定着化には病院の総合力が問われている。がん診療連携拠点にふさわしい病院づくりを推進するため院内の地域がん診療連携拠点病院運営委員会を中心に、病院内の情報共有化並びに目標とする方向性を明確にして有機的な統合を図り、種々の課題を解決すべく一層の努力を行っている。

「高度で良質な医療の提供」「地域に密着した医療の推進」「品格ある病院運営の実践」といった病院の基本理念の実現のためには、3本の矢を束ねる組織力が必要である。幹部会議を中心とした病院全体の総合力のもと平成 30 年 6 月に大阪府内で初めて自治体立優良病院表彰（総務大臣表彰）の栄誉を受けた。平成 16 年から日本で最初に始まった P F I 方式による病院運営により当初 7 年間は赤字であったが後半 8 年間は連続黒字となり、平成 30 年度で 15 年間の第 1 期 P F I 事業が終了した。今回の受賞を励みに、今後も市民に愛され信頼される病院をめざし、良質で安全な医療を提供し、健全経営を続けていきたい。

総長 星田 四朗

目 次

病院の沿革

病院の沿革	1
-------	---

病院の現況

概要	5
認定・指定	6
機構	7
院内管理体制	8
院内会議・委員会	9
病院職員	
1. 病院職員	14
2. 人員配置表	18
八尾市立病院自衛消防組織編成表	20

診療局の現況

診療局の現況	21
内科の現況	22
血液内科の現況	26
消化器内科の現況	27
循環器内科の現況	30
外科の現況	
一般外科・消化器外科	32
呼吸器外科	34
乳腺外科の現況	36
脳神経外科の現況	38
整形外科の現況	40
形成外科の現況	41
産婦人科の現況	42
小児科の現況	44
新生児集中治療部の現況	46
眼科の現況	48
耳鼻咽喉科の現況	49
泌尿器科の現況	51
皮膚科の現況	53
リハビリテーション科の現況	55
麻酔科の現況	56
放射線科の現況	
放射線科・放射線診断科	57
放射線治療科	60
歯科口腔外科の現況	62
病理診断科の現況	64
集中治療部の現況	66
救急診療科の現況	67
中央手術部の現況	68
通院治療センターの現況	69
内視鏡センターの現況	71
糖尿病センターの現況	73
健診センターの現況	75
中央検査部の現況	76
MEセンターの現況	79
緩和ケアセンターの現況	81
栄養科の現況	82
薬剤部の現況	84

臨床研究センターの現況	93
地域医療連携室の現況	97
診療情報管理室の現況	102
医療安全管理室の現況	108
感染対策管理室の現況	110
看護部の現況	
看護部の現況	112
1. 看護部委員会活動状況	113
2. 認定看護師の活動報告	116
3. 院外活動状況	121
4. 体験学習受け入れ	122
事務局の現況	
事務局企画運営課の現況	123
P F I 事業の現況	
八尾医療 P F I 株式会社（S P C）の現況	125
経営状況	
1. 収益費用明細書（税抜）	
（1）収益の部	127
（2）費用の部	128
2. 資本的収入及び支出明細書（税抜）	
（1）資本的収入の部	129
（2）資本的支出の部	129
3. 比較貸借対照表（税抜）	129
4. 経営・財務分析表	130
業務状況	
1. 患者状況	
（1）外来患者数	131
（2）入院患者数	131
（3）外来・入院別、診療科別、月別患者数	132
（4）地域別患者数	134
（5）診療科別救急取扱患者数	135
（6）紹介率	137
（7）逆紹介率	138
（8）逆紹介時の診療科別月別診療情報提供数	139
2. 診療収益状況（税抜）	
（1）医業収益（外来）	140
（2）医業収益（入院）	140
3. T Q M活動	141
4. チーム医療活動	142
5. 大規模災害発生時のトリアージ・応急救護訓練	143
6. 消防総合訓練	143
7. 八尾市立病院公開講座	144
8. 八尾地域医療合同研究会	145
9. 業績集	
（1）刊行論文、著書	147
（2）学会発表	148
（3）研究会発表	154
（4）講演	155
（5）院内研修会	157
（6）学会等司会・座長	157

病 院 の 沿 革

病 院 の 沿 革

昭和	21 年	5 月	日本医療団八尾病院開設、八尾町西郷
昭和	23 年	4 月	八尾市誕生、市立八尾市民病院と名称変更
昭和	24 年	8 月	八尾市太子堂(現 南太子堂)に木造 2 階建、延324坪の新築工事着工
昭和	25 年	2 月	市立八尾市民病院開院、内科・外科・産婦人科・歯科・放射線科の 5 科を設置 病床数32床
		8 月	皮膚泌尿器科開設、中央館完成、20床増床、病床数52床
昭和	26 年	10 月	結核病棟完成、50床増床、病床数102床
昭和	28 年	2 月	八尾市民病院の名称を廃止、八尾市立病院と呼称、小児科開設
		4 月	眼科・耳鼻咽喉科開設(診療科 9 科)
		6 月	本館棟完成、76床増床、病床数178床
		9 月	中央館第 1 病棟 7 床増床、病床数185床
昭和	29 年	12 月	看護婦宿舍増築及び中央館改造工事完成、2 床増床、病床数187床
昭和	31 年	1 月	整形外科独立(診療科10科)
		10 月	平屋建一般病棟新築竣工(新館と呼称、後に南館と名称変更) 40床増床、病床数227床
昭和	32 年	2 月	円形伝染病棟竣工、鉄筋 3 階建370坪、66床
		5 月	円形看護婦宿舍竣工
		8 月	総合病院の承認を受ける
昭和	33 年	11 月	基準看護『1 類』、基準給食の実施の承認を受ける
昭和	34 年	4 月	市立 4 診療所(西郡、大正、南高安、高安)市立病院に統合 (その後35、36年にいずれも民間移管或いは廃止)
昭和	36 年	1 月	中央検査科独立
		10 月	全病棟に基準寝具実施
		12 月	新館(北館)・玄関棟・レントゲン棟竣工、病床数309床
昭和	39 年	1 月	泌尿器科独立
		4 月	昭和39年度会計から企業会計方式採用(地方公営企業法一部適用)
昭和	41 年	4 月	歯科廃止
		7 月	南館病室増築工事完成
		10 月	中館新築工事完成、病床数339床
昭和	42 年	4 月	社会保険診療報酬点数表『乙表』に切り替え
昭和	44 年	1 月	放射線科 X 線テレビ装置購入
昭和	47 年	2 月	基準看護『特類』承認、リハビリ棟新築、看護婦宿舍増築工事竣工
昭和	48 年	3 月	アイソトープ治療装置購入
		8 月	本館、北館及びコバルト60棟改築工事完成 病床数412床(一般346床、伝染66床)
昭和	49 年	10 月	基準看護『特 2 類』実施
昭和	50 年	1 月	公立病院特例債借入(668, 400千円)
昭和	52 年	12 月	中館 2 階分娩室改修工事完了
昭和	53 年	3 月	X 線新型テレビ装置設置
		4 月	八尾市立病院院内学級開設
		11 月	スプリンクラー設置
昭和	54 年	11 月	病院事業経営健全化団体指定の認可
昭和	55 年	9 月	南館病棟増改築工事完成。病床数446床(一般380床、伝染66床)
昭和	56 年	11 月	理学療法科開設
昭和	57 年	12 月	コバルト60線源入替え
昭和	58 年	3 月	病院事業経営健全化措置実施要領による経営健全化完了
		9 月	全身用コンピュータ X 線断層撮影装置設置
昭和	59 年	9 月	多項目自動血球計数装置設置
昭和	60 年	9 月	医事業務を中心にコンピュータ導入
昭和	62 年	10 月	X 線テレビ撮影装置(ジャイロ)入替え、カセットレス X 線テレビ装置設置
		11 月	人間ドック開設
昭和	63 年	5 月	内科改装
		7 月	中館 2 階病棟基準看護『特 3 類』実施
		11 月	病棟科別再編成
平成	元 年	5 月	外科・整形外科・皮膚科改装
平成	2 年	1 月	循環器 X 線検査システム及び D S A 装置設置
		5 月	小児科・泌尿器科改装
		7 月	コバルト60線源入替え
		12 月	内視鏡ビデオ情報システム設置
平成	3 年	3 月	東側駐車場増設整備

	5 月	産婦人科・眼科改装
平成 4 年	5 月	耳鼻咽喉科改装
平成 5 年	1 月	C T 装置新機種に更新設置
	4 月	内科、外科、小児科以外の診療科につき土曜日休診を実施 内科において、午後の一般外来診療を開始
	8 月	来院者用駐車場有料化実施
	9 月	中館 3 階、南館 3 階病棟『特 3 類』実施 病棟科別病床再編成
平成 6 年	12 月	北館 4 階病棟『特 3 類』実施
	4 月	産婦人科 土曜日の外来診療を開始 医局を診療局と改称し、診療局長を置く。看護科は医局より独立
	8 月	MR I 装置設置
平成 7 年	10 月	内視鏡室改装
	5 月	南館 1 階・2 階病棟『特 3 類』実施
	7 月	新看護 2.5 対 1、A 加算、13 対 1 看護補助に移行 病棟科別病床再編成
平成 8 年	2 月	適時適温給食実施 病診連携窓口設置
	3 月	八尾市立病院建設基金条例施行
	4 月	病衣貸与実施 看護相談窓口開設
	7 月	J R 八尾駅に広告看板を設置
平成 9 年	12 月	理学療法科をリハビリテーション科と改称
	3 月	中館 2 階病棟詰所及び新生児室他改修
	4 月	病院建設準備室設置
	5 月	正面玄関増改築
	6 月	新看護 2 対 1、A 加算に移行 薬の相談窓口設置
平成 10 年	1 月	夜間小児急病診療開始(平日の火曜日・木曜日午後 5 時から午後 12 時まで) 入院患者(内科、整形外科、眼科)に対する服薬指導実施
	3 月	コバルト 60 線源入替え
	4 月	救急告示認定(内科・外科・産婦人科) 産婦人科の土曜日休診を実施
平成 11 年	8 月	貸与病衣の使用料徴収開始
	1 月	外来患者に対する薬剤情報提供の実施
	3 月	伝染病床廃止、病床数 380 床
	9 月	入院患者に対する服薬指導の拡大 (耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科の患者にも拡大)
平成 12 年	12 月	伝染病棟取り壊し、跡地を駐車場利用
	1 月	夜間小児急病診療の拡大 (第 2、4、5 土曜日午後 5 時から午後 12 時までについても実施)
	3 月	新病院建設用地の購入 中館 2 階病棟、分娩室改修 新市立病院建設事業に伴う久宝寺遺跡発掘調査着手
	6 月	夜間小児急病診療の拡大 (第 2、4 金曜日午後 5 時から午後 12 時までについても実施)
	7 月	市立病院創立 50 周年記念行事「健康バンザイ」開催 NHK 総合テレビジョン「関西クローズアップ」で市立病院新人看護職員の 看護体験放映
平成 13 年	2 月	医療事故防止マニュアルの発行
	3 月	八尾市医師会地域医療情報ネットワークに参画
	8 月	新病院起工式
平成 14 年	10 月	市民参加の患者サービス検討会議設置
	2 月	北館 4 階病棟に 24 時間監視体制の病室(HCU)を設置
	4 月	院外処方箋の全面实施
平成 15 年	9 月	P F I 事業(新病院維持管理・運営事業)実施方針の公表
	4 月	臨床研修病院の指定(医科)
	11 月	新病院定礎式(21 日)
	12 月	新病院建物の引き渡し(26 日)
平成 16 年	3 月	八尾医療 P F I 株式会社と維持管理・運営事業契約の締結(26 日)
	4 月	新病院竣工式(21 日) 新病院市民見学会(24、25 日)
	5 月	新病院開院(1 日)新たに循環器科、神経内科、脳神経外科、歯科口腔外科を

		設置し、全16診療科となる。病床数380床 小児救急診療を輪番制(火曜日・木曜日・土曜日)で開始 地域医療連携室設置 総合医療情報システムを導入 新しく高度医療機器(結石破碎装置、磁気共鳴画像診断装置、放射線治療装置、 血管造影撮影装置、X線テレビシステム、X線CT、ガンマカメラ、骨密度測定 検査装置、乳房X線撮影装置)を導入 ICU、HCU、NICUを完備 新病院外来診療開始(7日)
	平成 17 年	7 月 PFI 事業に関し、モニタリング委員会、事業評価部会を設置 大阪府自治体病院開設者協議会会長就任 8 月 日本医療機能評価機構病院機能評価 Ver. 4 認定(一般病院) 11 月 女性専門外来開始 2 月 自治体病院協議会見学会 3 月 病院建設準備室が解散 5 月 新病院移転一周年記念講演会開催 10 月 分娩休止 病院各委員会見直し・再編 まちなかステーションにインターネットコーナー設置
	平成 18 年	3 月 まちなかステーションに住民票等自動交付機設置 旧病院解体工事着手 4 月 分娩再開 院内敷地内全面禁煙開始 5 月 ナースキャップ廃止 10 月 2階フロアに市民ギャラリー設置 11 月 旧病院解体工事完了
	平成 19 年	4 月 病院事務局機構改革(一課へ統合) 診療情報管理室設置 5 月 小児病棟にプレイルーム設置 NICU増床(3床→6床) 10 月 臨床研修病院の指定(歯科) 11 月 大阪府地域周産期母子医療センターの認定
	平成 20 年	2 月 がん相談支援センター設置 4 月 クレジットカードによる診療費の精算開始 医療安全管理室設置 5 月 ICU施設基準届出 6 月 7:1入院基本料に移行 7 月 乳がん検診の拡大(土曜日) DPC(診断群分類別包括評価)開始
	平成 21 年	11 月 従来の16科に、形成外科・病理診断科を加え、全18診療科となる 2 月 八尾市立病院改革プラン策定 3 月 院内保育開始 4 月 地方公営企業法全部適用体制への移行(病院事業管理者を設置) 大阪府がん診療拠点病院指定 5 月 新型インフルエンザ発生のため拠点型発熱外来を設置 6 月 女性専門外来休止 7 月 八尾市立病院PFI事業検証のための実態調査・分析実施 8 月 日本医療機能評価機構病院機能評価 Ver. 6.0 認定
	平成 22 年	1 月 太陽光発電システム設置 2 月 MRI装置を増設 3 月 陰圧病床設置 医局拡張工事実施 7 月 心臓オンコール開始 9 月 八尾市災害医療センターとして、大規模災害を想定したトリアージ訓練を実施 10 月 八尾市立病院開院60周年記念講演会開催 12 月 八尾市立病院開院60周年記念誌発行
	平成 23 年	3 月 JR久宝寺駅2階部分ペDESTリアンデッキ接続に伴い、2階南エントランス開通 東日本大震災の被災地(宮城県石巻市)に看護協会を通じて看護師を派遣 4 月 従来の18科に、消化器内科・腫瘍内科を加え、全20診療科となる 5 月 東日本大震災の被災地(岩手県大槌町)に日本医師会災害医療チーム(JMAT) として医療チームを派遣(医師2名、看護師2名、薬剤師2名、事務員2名) 登録医制度、開放病床の運用開始 6 月 電子カルテシステム更新

平成 24 年	2 月	八尾市立病院経営計画策定
	4 月	血液内科、乳腺外科を標榜し、神経内科を取り下げ、全21診療科となる ボランティア「スマイル」活動開始 糖尿病センター設置 中河内地域感染防止対策協議会立ち上げ
平成 25 年	10 月	大阪府がん診療拠点病院指定更新 せせらぎの運用開始
	11 月	地域医療支援病院承認
	12 月	病院・診療所・薬局連携ネットワークシステム稼動
	3 月	マンモグラフィ機器を更新 C T装置を更新（16列から80列へ） 院内インターネット環境整備
平成 26 年	8 月	病棟へ薬剤師の常駐配置開始 市立病院看護師による健康相談の開始
	10 月	海外招請講演会（MEET THE EXPERTS）を開催 がんばれ八尾市立病院応援寄付金制度の創設
	12 月	肝臓がんよろず専門外来開設
	1 月	機能拡充のための施設整備に向けた北部駐輪場の解体
平成 27 年	4 月	緩和ケアセンター設置 臨床研究センター設置 出前講座開始
	5 月	薬剤師によるお薬相談の開始 市立病院機能拡充工事開始
	6 月	第36回日本癌局所療法研究会を開催
	8 月	日本医療機能評価機構機能評価3rdG:Ver. 1.0認定
	12 月	新型インフルエンザ等対応訓練を実施
	2 月	八尾市立病院経営計画（Ver. II）策定
	3 月	北館工事完成、北館内覧会実施 中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会がんシンポジウム実施（毎年開催）
	4 月	基本理念、基本方針の改訂 地域がん診療連携拠点病院指定
	5 月	八尾市立病院 P F I 事業検証実施
	6 月	I C U増床、外来化学療法室増床
	7 月	患者サポート・ケアセンター設置
	8 月	駐輪場ラック設置
平成 28 年	9 月	血管撮影装置を更新 市立病院機能拡充工事竣工
	2 月	放射線治療装置を更新
	4 月	感染対策管理室設置
平成 29 年	5 月	熊本地震の被災地（熊本県阿蘇郡西原村、上益城郡御船町）に看護師を派遣
	2 月	血管撮影装置を増設 P F I 事業期間終了後の八尾市立病院の維持管理・運営事業に関する検討報告書作成
	5 月	禁煙外来開設
	6 月	自治体立優良病院表彰（全国自治体病院開設者協議会および 全国自治体病院協議会会長表彰）を受賞
	9 月	八尾市立病院維持管理・運営事業（第2期）実施方針の公表
	10 月	電子カルテシステム更新
	11 月	全国公立病院連盟会員病院の優良病院表彰を受賞
平成 30 年	12 月	八尾市立病院維持管理・運営事業（第2期）の特定事業の選定
	2 月	八尾市立病院経営計画（Ver. III）策定
	3 月	ガンマカメラを更新
	4 月	認定看護師による同行訪問看護を開始 病診薬連携システムに訪看・地域包括ケアセンター介護事業所拡大
	6 月	自治体立優良病院表彰（総務大臣表彰）を受賞
	7 月	6 階病棟改修工事实施
	12 月	MR I 装置を更新
平成 31 年	2 月	新型インフルエンザ対応訓練を実施
	3 月	大阪大学電子カルテシステム相互参照システム導入 八尾医療 P F I 株式会社と維持管理・運営事業契約の締結（25日） 中河内医療安全対策連携協議会立ち上げ

病 院 の 現 況

概 要

1. 施設の概要

位 置	八尾市龍華町1丁目3番1号
敷 地 面 積	14,999.98 m ²
建 物 延 面 積	40,470.38 m ² (駐車場・駐輪場含む) (本館 39,160.28 m ² 、北館 1,310.10 m ²)

2. 診療科目

内科・血液内科・消化器内科・循環器内科・腫瘍内科・外科・乳腺外科・脳神経外科・
整形外科・形成外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・
リハビリテーション科・麻酔科・放射線科・歯科口腔外科・病理診断科

3. 受付時間

外 来 診 療	(初診・再診)	平日 午前8時45分から午前11時30分 (予約のある方) 平日 午前8時45分から午後2時30分
	休診日	土曜日・日曜日・祝日・年末年始
救 急 診 療	内科・外科 (24時間受付)	
小児救急診療	火曜日・土曜日 (午前9時から翌午前8時)	

4. 病 床 数

380 床	
内訳	特別室 7 室 (7 床)、個室 81 室 (81 床)、4 床室 66 室 (264 床)、 HCU 7 室 (14 床)、NICU (6 床)、ICU (6 床)、無菌病室 (2 床)

5. 病 棟

8階病棟 (東)	外科、緊急緩和ケア病床
8階病棟 (西)	内科 (消化器・一般)、救急病床
7階病棟 (東)	泌尿器科、形成外科、眼科、皮膚科、内科 (腫瘍・血液、透析)
7階病棟 (西)	内科 (循環器・血液・腫瘍)
6階病棟 (東)	整形外科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科
6階病棟 (西)	小児科
6階病棟 (NICU)	新生児集中治療部
5階病棟 (東)	内科 (呼吸器・糖尿・感染・一般)、消化器内科、脳神経外科、 緊急緩和ケア病床、外科
5階病棟 (西)	産婦人科、外科、内科
3階病棟 (ICU)	集中治療部

6. 外 来 等

[本館]	4 階	リハビリテーション科、通院治療センター
	3 階	手術部門、ICU、検査部門、管理諸室
	2 階	総合待合、一般外来、医事部門、放射線部門、生理検査部門、 がん相談支援センター、健診センター、地域医療連携室、 患者サポート・ケアセンター、入退院支援センター
	1 階	救急部門、糖尿病センター、放射線治療、核医学検査、SPD部門、 滅菌・消毒部門、薬剤部門、栄養部門、防災センター、まちなかステーション
	地下1階	駐車場
[北館]		院内保育ルーム、防災備蓄倉庫、大会議室、図書室

認 定 ・ 指 定

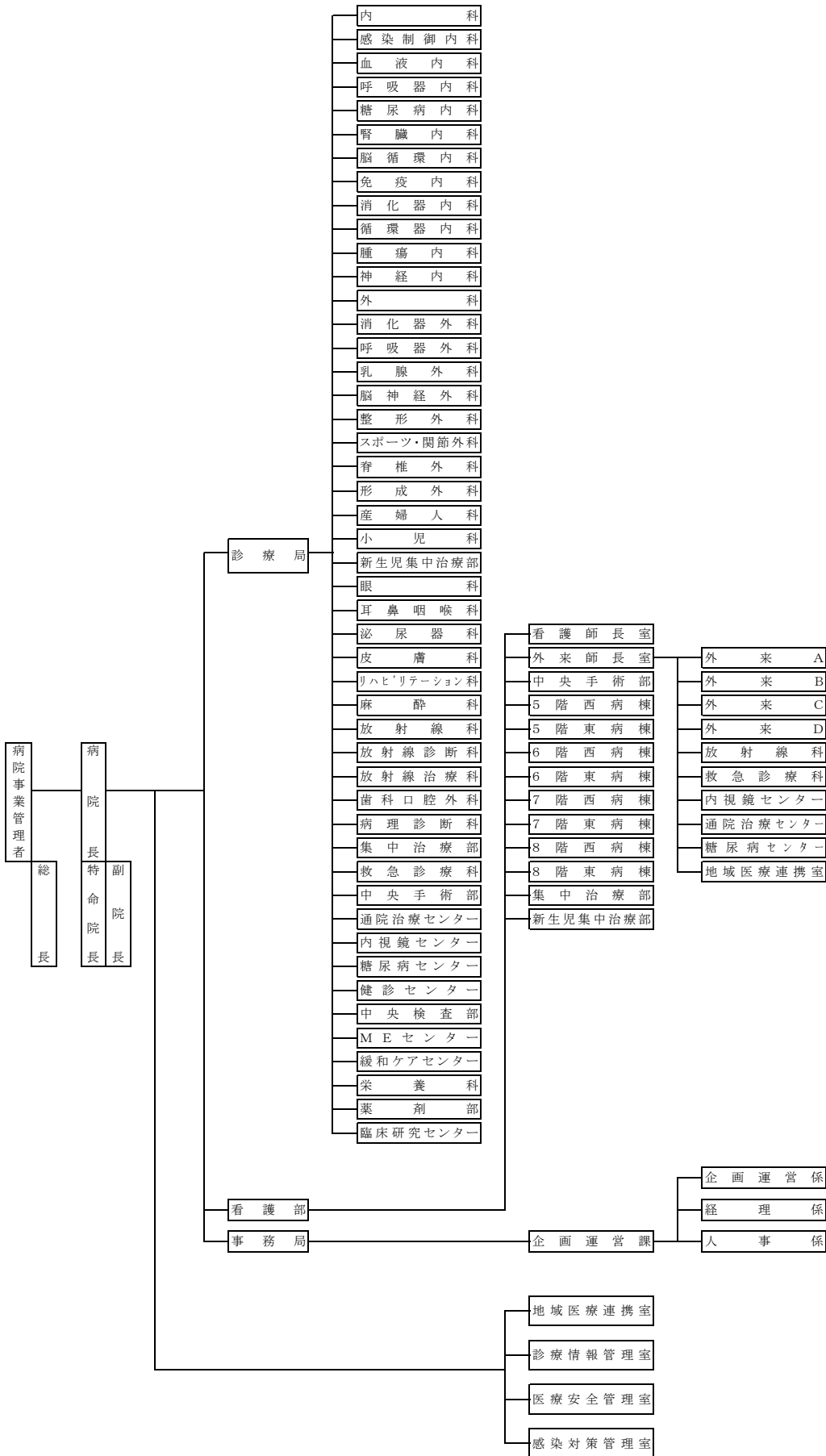
<各種学会認定（専門）医制による研修施設>

日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本小児科学会専門医研修施設
日本小児科学会専門医研修支援施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本内科学会認定医教育関連病院
日本麻酔科学会研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本乳癌学会専門医制度認定施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本周産期・新生児医学会
周産期専門医（新生児）暫定研修施設
日本周産期・新生児医学会
母体・胎児専門医制度研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関
日本口腔外科学会専門医制度研修施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
母体保護法指定医師研修機関
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本老年医学会認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本肝臓学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本静脈経腸栄養学会N S T専門療法士認定教育施設
日本臨床細胞学会認定施設
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設（B認定）
日本形成外科学会認定施設
日本緩和医療学会認定研修施設
呼吸器外科専門医制度基幹施設関連施設
日本病理学会専門医制度研修登録施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本ペインクリニック学会指定研修施設
日本アレルギー学会専門医教育研修施設
日本脳神経外科学会専門医研修プログラム連携施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本薬剤師会教育研修病院

<指定医療機関>

日本医療機能評価機構認定病院
臨床研修指定病院（医科）
臨床研修指定病院（歯科）
保険医療機関
労災保険指定医療機関
労災保険二次健診等給付医療機関
大阪府結核予防法指定医療機関
生活保護法指定医療機関
障害者指定自立支援医療機関
障害者指定自立支援医療機関（精神通院医療）
児童福祉法育成医療指定医療機関
未熟児養育医療指定養育医療機関
原子爆弾被爆者一般疾病指定医療機関
救急告示指定病院
母体保護法指定医療機関
指定難病医療費助成制度指定医療機関
小児慢性特定疾病医療費助成制度指定医療機関
妊婦一般健康診査取扱機関
乳児一般健康診査取扱機関
B型肝炎母子感染防止事業取扱機関
国民健康保険療養取扱機関
母子保健法指定医療機関
児童福祉施設（助産施設）
公害健康被害補償法公害医療機関
マンモグラフィ検診施設画像認定施設
大阪府特定給食施設
新生児聴性脳幹反応（A B R）実施病院
日本静脈経腸栄養学会N S T稼動認定施設
大阪府地域周産期母子医療センター認定医療機関
地域がん診療連携拠点病院指定医療機関
地域医療支援病院
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
インプラント実施施設
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
エキスパンダー実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

機 構



院内管理体制



院内会議・委員会

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
1	企画会議	基本理念、基本方針、診療機能等、病院経営における重要かつ基本的事項について、病院幹部職員の円滑な意思形成に基づいた確かな意思決定を期する	必要の都度	福田一成	星田四朗、佐々木 洋、兒玉 憲、西山謹司、田中一郎、福井弘幸、田村茂行、千種保子、植野茂明、門井洋二
2	幹部会議	病院事業の充実・発展と効率的運用を期する	毎週木曜日	星田四朗	植野茂明、福田一成、佐々木 洋、兒玉 憲、西山謹司、田中一郎、田村茂行、福井弘幸、千種保子、門井洋二
3	運営会議	円滑な管理運営を期するために連絡・調整を行う	第4水曜日	福井弘幸	植野茂明、福田一成、佐々木 洋、星田四朗、兒玉 憲、西山謹司、田中一郎、田村茂行、千種保子、門井洋二、上水流雅人、浅岡伸光、榊原 充、山崎 肇、馬場貴仁、平井良介、岩崎 悟、黒田昇平、佐藤美代子、原田美永子、山中トモエ、甲斐幸代、青木美加子、山田智子、神田ゆか、菱井義則、朴井 晃、小枝伸行、橋本将延、古東文夫
4	医療事故対策会議	医療事故の適切な対応を図る	必要の都度	星田四朗	田中一郎、福井弘幸、田村茂行、佐々木 洋、福田一成、千種保子、植野茂明、山中トモエ、山崎 肇、門井洋二、朴井 晃
5	医事紛争対策委員会	医事紛争等の問題対策を行う	必要の都度	星田四朗	佐々木 洋、福田一成、田中一郎、福井弘幸、田村茂行、千種保子、植野茂明、朴井 晃
6	児童虐待防止委員会	院内における児童虐待に関する対応方針等を明確にし、児童虐待の早期発見、被害者への保護・救済への迅速な対応及び組織的な対応を行う	必要の都度	田中一郎	山中トモエ、中野智巳、馬場貴仁、三岡智規、都築 貴、畑中邦子、井澤初美、西 麻弥、吉田正雄
7	診療情報開示判定委員会	診療情報の開示に係る事務を適正かつ迅速に処理する	必要の都度	星田四朗	福田一成、田中一郎、福井弘幸、田村茂行、千種保子、植野茂明
8	業務入札審査委員会	委託業務等に関し、入札業者指名等の決定等を行う	必要の都度	植野茂明	星田四朗、田中一郎、福井弘幸、田村茂行、千種保子、朴井 晃、高草恒平
9	経営計画評価委員会	八尾市立病院経営計画に基づく経営改善の取組み状況を点検・評価するため	年1回	福田一成	星田四朗、佐々木 洋、田中一郎、福井弘幸、田村茂行、千種保子、植野茂明、門井洋二、貴島秀樹、谷田一久、津田慶子
10	行財政改革(経営健全化)推進会議	市財政改革推進本部による「新しい行財政改革大綱」に基づき、八尾市立病院の運営および財政改革並びに経営の健全化を推進する	必要の都度	福田一成	星田四朗、佐々木 洋、兒玉 憲、西山謹司、田中一郎、福井弘幸、田村茂行、千種保子、植野茂明、山崎 肇、浅岡伸光、平井良介、菱井義則、佐藤美代子、朴井 晃、小枝伸行、門井洋二、橋本将延
11	経営健全化推進会議専門部門(収益部会)	病院経営健全化を推進する上で、増収に向けての内容について検討する	必要の都度	田中一郎	田村茂行、植野茂明、朴井 晃、千種保子、浅岡伸光、平井良介、門井洋二、橋本将延、小枝伸行、宮田克爾
12	経営健全化推進会議専門部門(費用部会)	病院経営健全化を推進する上で、コスト削減に向けての内容について検討する	必要の都度	福井弘幸	田村茂行、植野茂明、菱井義則、佐藤美代子、山崎 肇、朴井 晃、門井洋二、橋本将延、葛原秀明
13	職員任採用委員会	八尾市立病院に勤務する企業職員の任採用に関して必要な事項を定める	必要の都度		
14	職員分限懲戒審査委員会	職員の分限懲戒に関して適正を期する	必要の都度		
15	臨床研究審査委員会	医薬品の製造販売承認申請又は承認事項一部変更承認申請の際に提出すべき資料の収集の為に治験、使用成績調査、特定使用成績調査、製造販売後臨床試験および副作用・感染症報告および医療行為について倫理的な観点から審議する	年8回(4・5・7・8・10・11・1・2月)の第3金曜日	森本 卓	田村茂行、山田嘉彦、高木圭一、千種保子、山中トモエ、山崎 肇、浅岡伸光、植野茂明、山本恵郎、鶴飼万貴子、森明富美子、西田一明、辻 京子
16	モニタリング委員会	維持管理・運営事業の実施にともない、PFI事業に関する事業評価を適正に行う	年4回	植野茂明	佐々木 洋、星田四朗、田中一郎、福井弘幸、田村茂行、千種保子、朴井 晃

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
17	事業評価部会	業務ごとの個別のモニタリング評価を行う	第3火曜日	菱井義則	田村茂行、大江洋介、山崎 肇、黒田昇平、山中トモエ、山田智子、神田ゆか、浅岡伸光、平井良介、宮田克爾、門井洋二
18	維持管理・運営事業検討委員会	PFI契約期間終了後の維持管理・運営事業の検討に伴う重要な方針等を決定する。	必要の都度	植野茂明	佐々木 洋、星田四朗、田中一郎、福井弘幸、田村茂行、千種保子、朴井 晃
19	教育研修委員会	八尾市立病院の理念を踏まえ、病院職員の資質と能力の向上を図り、安全で高度な医療サービスを提供する	必要の都度	福井弘幸	森本 卓、大江洋介、佐藤美代子、丸山明子、小川充恵、浅岡伸光、河野和男、小枝伸行、中田亮太
20	臨床研修管理委員会	医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を協力型臨床研修病院と臨床研修協力施設と共に臨床研修病院群として行う	必要の都度	星田四朗	田中一郎、福井弘幸、田村茂行、千種保子、植野茂明、柏井洋平、塩野 茂、久保研二、梅本清嗣、下山弘展、田中規文、元村正明、松本伸治
21	臨床プログラム部会	臨床研修に関する情報収集及びプログラムを作成する	必要の都度	田中一郎	福井弘幸、大江洋介、榊原 充、渡部徹也、松山 仁、森本 卓、小多田英貴、馬場貴仁、山田嘉彦、中野智巳、三岡智規、都築 貴、三宅ヨシカズ、川島貴之、高木圭一、池本慎一、吉田重幸、竹田雅司、服部英喜、高木圭一、柏井洋平、梅本清嗣、下山弘展、塩野 茂、田中規文、元村正明
22	臨床研修活性化部会	臨床研修に関するプログラムの内容を検討する	必要の都度	福井弘幸	田中一郎、馬場貴仁、榊原 充、松山 仁、渡部徹也、大江洋介、小多田英貴、岡本正幸、峯 健太郎
23	接遇改善委員会	八尾市立病院の理念を踏まえた患者サービスの向上を図る	第2木曜日	田中一郎	山中トモエ、桑山真輝、山崎 肇、平井良介、浅岡伸光、朴井 晃、吉田正雄、門井洋二、山本恵郎
24	TQM活動実行委員会	TQM活動研修会や発表会の開催を通して、TQM活動の活性化と定着化に向けた啓発を行う	必要の都度	星田四朗	植野茂明、千種保子、渡壁淳子、畑中邦子、丸山明子、川筋晶子、長谷圭悟、政岡佳久、小枝伸行、門井洋二、橋本将延
25	職員被服委員会	八尾市立病院に勤務する職員に対する被服の種類および貸与数量等の変更に際して、意見の調整を行う	必要の都度	星田四朗	青木美加子、平井良介、浅岡伸光、黒田昇平、森本美百、葛原秀明
26	倫理問題検討委員会	日常診療の中で起こる様々な倫理的問題を、医学的、倫理的及び社会的観点から公正な立場で協議、助言する	年4回(3、6、9、12月) 第2月曜日	田中一郎	山中トモエ、蔵 昌宏、馬場貴仁、池田嘉一、木戸里佳、畑中邦子、吉野知子、香川雅一、宮田克爾
27	情報管理委員会	病院で取り扱う個人情報を含む全ての情報管理や院内の情報機器、外部記録ネットワーク媒体(USBメモリ等)、ネットワーク及び外部とのデータ通信等における保安管理、セキュリティ及び適切な運用を図る	必要の都度	植野茂明	星田四朗、田中一郎、福井弘幸、田村茂行、千種保子、菱井義則、朴井 晃、門井洋二、橋本将延
28	情報システム管理委員会	システム運用に係る院内の全体調整や方針の策定、システム機器の管理に関する検討、およびシステム利用に係る管理運営を行う	第3月曜日	三岡智規	小枝伸行、葛原秀明、田村茂行、大江洋介、廣瀬 創、山田智子、山下春美、小川充恵、山本恵郎、竹内良平
29	診療情報・がん登録管理委員会	診療録の管理を適切に行うことにより病院機能の向上を図る	第3金曜日	福井弘幸	山田智子、小枝伸行、山本恵郎、原田美永子、芹川千智、西野淳子、川上佑起子
30	パス委員会	診療計画・実施プロセスの標準化による、医療の質の向上、効率化、医療安全対策等、病院運営の向上を図る	偶数月の 第2火曜日	都築 貴	田村茂行、山下春美、福丸香奈、佐藤浩二、浅岡伸光、黒田昇平、小枝伸行、原田美永子、山本恵郎
31	診療報酬委員会	保険診療の適正化を図る	偶数月の 第4月曜日	星田四朗	三岡智規、高木圭一、山田智子、佐藤美代子、宮田克爾、山本恵郎、原田美永子
32	DPC・コーディング委員会	DPC請求にかかる検討を行う	第4火曜日	星田四朗	福井弘幸、青木美加子、佐藤美代子、山崎 肇、西野淳子、原田美永子、藤谷彩香、門井洋二、山本恵郎、宮田克爾、橋本将延
33	広報委員会	地域各医療機関や市民等に広く病院事業の広報を行う	必要の都度	門井洋二	田中一郎、山田智子、菱井義則、畑中博文
34	年報編集委員会	病院運営の記録の保存を行う	必要の都度	田中一郎	葛原秀明、上水流雅人、長谷圭悟、大江洋介、平井良介、青木美加子、山本恵郎、原田美永子、宮副えみ
35	薬事委員会	薬品の購入および適正使用等に関する事項を検討し、院内で使用する薬品の合理的運営を図る	偶数月の 第3水曜日	福井弘幸	山崎 肇、中野智巳、高木圭一、松山 仁、山田嘉彦、木戸里佳、北野こずえ、門井洋二、廣瀬 淳、稲田健三、青木美加子、小枝伸行

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
36	診療材料検討委員会	診療材料の採用・取消および適正価格・適正使用等に関する事項を検討し、院内で使用する材料の合理的管理運営を図る	第2火曜日	福井弘幸	上水流雅人、渡部徹也、橋本安司、山中トモエ、松川麻由美、植村佳子、森本千穂、門井洋二、廣瀬 淳、稲田健三
37	図書委員会	図書の適切な購入と管理を行う	必要の都度	西山謹司	大江洋介、廣瀬 創、植田真理、岩崎 浩、政岡佳久、丸山明子、畑中邦子、山本恵郎
38	医療機器等整備委員会	資産購入および適正使用に関する事項を検討し、その合理的運用を図る	奇数月の第1火曜日	星田四朗	福田一成、兒玉 憲、佐々木 洋、西山謹司、田中一郎、福井弘幸、田村茂行、池本慎一、吉田重幸、千種保子、山崎 肇、平井良介、浅岡伸光、植野茂明、菱井義則、門井洋二
39	エコー部会	エコー装置の稼動状況の把握や機器の更新、増設、新規購入の要望があった場合の一次審議を行う	必要の都度	星田四朗	福井弘幸、浅岡伸光、寺西ふみ子、森本 卓、濱田匡章、山田嘉彦、池本慎一、菱井義則、門井洋二、渡部徹也
40	外来運営委員会	外来診療部門の運営の円滑化、効率化および患者サービスの向上を図る	第2金曜日	大江洋介	渡部徹也、松山 仁、山田智子、畑中邦子、佐藤美代子、横山敬子、蓬郷千里、藤本史朗、小枝伸行、橋本将延、畑中博文
41	救急医療運営委員会	救急医療の円滑な推進を図る	第3金曜日	馬場貴仁	渡部徹也、大江洋介、榊原 充、橋本安司、中野智巳、三岡智規、都築 貴、池田嘉一、山田智子、畑中邦子、佐藤美代子、北野こずえ、松村圭司、宮田克爾、門井洋二
42	病棟運営委員会	病棟の業務の円滑な推進を図る	偶数月の第4月曜日	池本慎一	木戸里佳、三岡智規、井出義人、丸山明子、杉村美貴、神田ゆか、中谷成美、黒田昇平、小枝伸行、山本恵郎、藤谷彩香、山本恭子
43	ICU運営委員会	ICU病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	年4回(5、8、11、2月)第1月曜日	池田嘉一	大江洋介、渡部徹也、松山 仁、都築 貴、神田ゆか、近藤純代、長谷圭悟、長山俊明、四ツ井 敦
44	NICU運営委員会	NICU病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	奇数月の第4月曜日	田中一郎	道之前八重、山田嘉彦、柏山康江、生藤由紀子、安田幸代、井澤初美、森本千穂、長山俊明、廣瀬 淳
45	中央手術部運営委員会	所轄の機器・施設整備等に関する調整、所轄の業務内容変更等に伴う各診療科の調整を行う	年4回(4、7、10、1月)第4金曜日	上水流雅人	松川麻由美、佐々木 洋、田村茂行、福井弘幸、井出義人、森本 卓、都築 貴、三岡智規、山田嘉彦、川島貴之、三宅ヨシカズ、池本慎一、濱口裕弘、小多田英貴、山本佳司、神田ゆか
46	中央検査部運営委員会	業務運営の円滑かつ効率的な運用を行う	偶数月の第1月曜日	服部英喜	浅岡伸光、福井弘幸、馬場貴仁、中野智巳、山田智子、菱井義則、鈴木慎也、西野多江子
47	放射線科運営委員会	所轄の機器・施設整備等に関する調整、所轄の業務内容変更等に伴う各部署間の調整を行う	奇数月の第1月曜日	吉田重幸	平井良介、田中一郎、河野和男、松村圭司、渡部徹也、橋本安司、池本慎一、山田智子、葛原秀明
48	放射線安全委員会	放射線施設従事者等の放射線障害発生の防止、放射線施設の整備・計画やその他、管理上必要な事項について検討する。	必要の都度	田中一郎	吉田重幸、隅田 茂、橋本 岬、平井良介、河野和男、岩崎 浩、山中トモエ、蛭田澄枝、勝野真由美
49	病床運営委員会	病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	偶数月の第1月曜日	青木美加子	福井弘幸、田村茂行、大江洋介、杉村美貴、山下春美、神田ゆか、北村尚洋、宮田克爾、山本佳司、山本恵郎
50	入退院運用調整プロジェクト	入退院支援センターを円滑に運用し、リスクコントロールによる医療事故の防止や入退院患者の満足度の向上を図る	必要の都度	田村茂行	佐藤美代子、尾山明美、北村尚洋、渡部徹也、橋本安司、重光愛子、村尾昌輝、木戸里佳、東 浩司、都築 貴、神田ゆか、畑中邦子、長谷圭悟、中谷成美、尾山明美、門井洋二
51	病院勤務医等負担軽減検討委員会	医師の事務作業負担を軽減することを目的として医師事務作業補助者を配置するにあたり、その業務の内容と役割分担を整理把握する体制を確保する	必要の都度	田中一郎	川島貴之、畑中邦子、山田智子、榊原 充、松山 仁、佐々木高綱、濱口裕弘、宮田克爾
52	栄養委員会	給食業務および臨床栄養業務が病院の本義に則したものとして、適切に推進され、かつ円滑な運用を行う	奇数月の第3金曜日	田中一郎	黒田昇平、木戸里佳、山田嘉彦、安田幸代、井澤初美、神田ゆか、菱井義則、大坪久美子、大西彩香、北山博文
53	省エネルギー推進委員会	院内における省エネルギー活動を効率的に推進する	必要の都度	植野茂明	田中一郎、青木美加子、菱井義則、門井洋二、四ツ井 敦、前川直義

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
54	省エネ部会	院内のエネルギー使用状況や具体的対策等について適切な運用を図る	必要の都度	青木美加子	大石 馨、楠本 恵、下田美鈴、播本靖子、西村勢津子、尾野優子、奥田清美、沖本桂子、西本恵美子
55	危機管理対策委員会	危機管理の対策を行う	必要の都度	星田四朗	福田一成、佐々木 洋、兒玉 憲、西山謹司、田中一郎、福井弘幸、田村茂行、千種保子、植野茂明、朴井 晃、丸谷泰寛、門井洋二
56	危機管理マニュアル部会	危機管理の対策に関するマニュアル作成を行う	必要の都度	田中一郎	山田智子、馬場貴仁、甲斐幸代、松川麻由美、蓬郷千里、平井良介、山崎 肇、朴井 晃、丸谷泰寛、四ツ井 敦
57	安全衛生委員会	労働安全衛生法の規定に基づき、職場における安全および衛生の維持向上並びに職員の健康保持増進を図る	第4月曜日	植野茂明	山崎 肇、山本俊明、上水流雅人、千種保子、平井良介、森本美百、中尾由美子、蓬郷千里、川筋晶子、徳上美智子
58	肝炎感染防止対策委員会	病院内の肝炎の感染防止に関する予防対策の監視と指導、職員へのワクチン接種及び接種計画、感染が生じた場合の感染の原因についての疫学調査を実施する	必要の都度	福井弘幸	山本俊明、長谷川和恵、浅岡伸光、畑中邦子
59	医療安全管理委員会	患者が安心して医療を受けられる環境整備を促進し、患者が医師および医療機関を信頼するとともに、医療提供者が安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第2月曜日	池本慎一	山中トモエ、尾山明美、安田幸代、田中一郎、篠田幸紀、土屋典生、有田都史香、山田智子、山崎 肇、長山俊明、浅岡伸光、平井良介、宮田克爾、門井洋二
60	医療安全推進部会	医療安全管理委員会における事故の発生原因、再発防止策の検討結果・決裁事項の職員への周知、毎月1回の院内ラウンドの実施、内部監査の実施、および危険予知トレーニングを実施する	第4月曜日	安田幸代	上岡いづみ、山中トモエ、土屋典生、中谷成美、駒 美佳子、小林信道、小川卓也、長山俊明、黒田昇平、吉本弘深、吉藤真理子、吉田洋子、松戸 忍、宮本久美子、村上味穂、松本美保、中山三恵、堀 かすみ、文山真依、加藤圭美、森 有美、東原有紀、丸谷泰寛、宮田克爾、四ツ井 敦
61	周術期血栓対策部会	周術期の血栓対策について検討する	必要の都度	上水流雅人	土屋典生、岸本朋也、山田裕三、重光愛子、篠田幸紀、近藤純代、神田ゆか、松川麻由美、小川充恵、寺西ふみ子
62	医療ガス安全管理委員会	実施責任者に保守点検業務を実施させる。医療ガス設備に係る新設および増設工事、部分改造、修理等に当たっては臨床各部門にその旨、周知徹底を図るとともに、その使用に先立ち、厳正な試験および検査を行い、安全確認を行う	年1回	上水流雅人	土屋典生、森本千穂、松川麻由美、葛原秀明、長山俊明、四ツ井 敦、黒木亮輔
63	院内感染対策委員会	感染対策に関して、患者が安心して医療を受けられる環境を整えること、そして患者が医師および医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第3木曜日	服部英喜	中野智巳、星田四朗、兒玉 憲、山本奈穂、山崎 肇、浅岡伸光、千種保子、松川麻由美、甲斐幸代、植野茂明、四ツ井 敦、吉年雅子、黒田昇平、平井良介
64	院内感染対策チーム(ICT)	病院内の感染症の防止、発生時に必要な対策に関する情報収集、院内の啓発活動、施設・設備の点検および改善、微生物学的検査を実施する	第3水曜日	服部英喜	岸本朋也、福盛達也、長谷川和恵、西野多江子、松川麻由美、林 正美、甲斐幸代、四ツ井 敦
65	抗菌薬適正使用支援チーム(ASIT)	抗菌薬曝露による耐性菌化の抑止に努めるとともに、抗菌薬治療最適化のために、種類や用法・用量・治療期間が適切かをモニタリングし、必要に応じて抗菌薬ラウンドまたは主治医へのアドバイスをを行う	第3水曜日	福盛達也	甲斐幸代、長谷川和恵、西野多江子、大和篤史
66	輸血療法委員会	輸血療法の安全性確保と適正化を図る	奇数月の第4木曜日	服部英喜	上水流雅人、木津 崇、水田裕久、山崎 肇、浅岡伸光、松本数博、鈴木慎也、大石 馨、藤原美智代、松元 愛、瀬古佳奈、乾 美鈴、松野敦美、松谷知世、大東伸枝、四元さゆり、佐藤雅子、竹丸信子
67	チーム医療推進委員会	医療の高度化、細分化に対応しつつ、医師及び各部門職員のパートナーシップのもとに質の高い医療を提供する	必要の都度	田村茂行	千種保子、山崎 肇、兒玉 憲、佐々木 洋、橋村俊哉、井出義人、松山 仁、三宅ヨシカズ、服部英喜、福盛達也、蔵 昌宏、上水流雅人、甲斐幸代、長谷川和恵、横山敬子、中谷摩利子、島田敏江、吉野知子、中西千賀子、佐藤浩二、寺西ふみ子、奥田清美、木戸里佳

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
68	呼吸器ケアチーム	安全な呼吸療法を行うためのスタッフへの教育、呼吸療法全般についての質の維持・向上、呼吸管理備品の整備、および呼吸管理の研究を行う	必要の都度	児玉 憲	橋村俊哉、渡部徹也、池田嘉一、桃實 徹、近藤純代、真貝佳代子、福盛達也、中西千賀子、岡田つづみ、岩崎綾子、永岡照美、坂中美奈子、生藤由紀子、村上雅美、山崎香名、吉崎美香、黒瀬理恵、長山俊明
69	栄養管理チーム(NST)	栄養管理のための調査・研究、および、医療従事者への教育を行う	第2水曜日 第4水曜日	松山 仁	藤本史朗、黒田昇平、丸山明子、木戸上真也、瀬川朋未、岸本幸次、中谷摩利子、坂中美奈子、早川裕起子
70	糖尿病診療チーム	糖尿病のある方の腎機能の低下を早期に発見し、腎機能の低下と透析導入を予防する、および入院、外来の糖尿病治療を横断的な診療チームで行う	必要の都度	木戸里佳	上田高志、辻 真由美、久保典代、金丸洋蔵、奥田清美、山下春美、高瀬由香利、中谷成美、小川充恵、米田勇太
71	褥瘡対策チーム	褥瘡対策に関して、患者が安心して医療が受けられる環境を整えること、そして患者が医師および医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第2木曜日	三宅ヨシカズ	高木圭一、横山敬子、杉村美貴、馬場貴仁、大江洋介、甲斐幸代、中谷摩利子、吉年雅子、西野多江子、中谷成美、早川裕起子、西 麻弥
72	地域がん診療連携拠点病院運営委員会	地域がん診療連携拠点病院に指定されたことを受け、八尾市立病院及び地域のがん診療の向上をめざす	必要の都度	佐々木 洋	星田四朗、児玉 憲、西山謹司、福井弘幸、田村茂行、蔵 昌宏、井出義人、千種保子、山田智子、佐藤美代子、植野茂明、山崎 肇、朴井 晃、小枝伸行、門井洋二、原田美永子
73	緩和ケアチーム	緩和ケア医療を実践する	毎週水曜日	蔵 昌宏	長谷圭悟、西山謹司、木村幸男、山田修太郎、山田智子、西村勢津子、小林啓子、吉野知子、本多紀子、早川裕起子、大和裕香、新田遼平、陶山由季子、江川 功
74	化学療法部会	各種悪性腫瘍に対する抗がん剤化学療法の診療計画・実施プロセスの標準化による、医療の質の向上、効率化、医療安全対策等、病院運営の向上を図る	奇数月の 第3金曜日	井出義人	森本 卓、松山 仁、桑山真輝、木津 崇、町田裕一、水田裕久、真貝佳代子、山田智子、畑中邦子、柚木原和子、津江かおる、島田敏江、佐藤浩二、小枝伸行、門井洋二
75	レジメン審査部会	各種悪性腫瘍に対する抗がん剤化学療法の診療計画・実施プロセスの標準化を図り、管理する	必要の都度	井出義人	山崎 肇、桑山真輝、森本 卓
76	地域医療支援委員会	地域医療支援病院の承認に向けた取り組みについて、地域医療機関の意見を聞き、承認後は地域における医療の確保のための必要な支援業務を審議する	年4回	星田四朗	貴島秀樹、田村茂行、田中一郎、千種保子、佐藤美代子、植野茂明、富田高明、豊口雅子、西田一明、藤原正彦、高山佳洋、東村博子
77	PFI事業者選定審査委員会	PFI事業の事業者選定に関して、必要な事項を審議する	必要の都度	横山幸司	原田峻平、中川美雪、貴島秀樹、富田高明、豊口雅子、星田四朗
78	機能評価受審プロジェクト・コア会議	日本医療機能評価機構の実施する機能評価を受審し、その認定を受けるため調査・審議を行う ※受審終了まで	必要の都度	田村茂行	田中一郎、福井弘幸、青木美加子、神田ゆか、山田智子、佐藤美代子、西村勢津子、山下春美、大石 馨、山崎 肇、平井良介、浅岡伸光、山中トモエ、甲斐幸代、朴井 晃、小枝伸行、宮田克爾、門井洋二、橋本将延、原田美永子

病 院 職 員

1. 病院職員

病院事業管理者	福 田 一 成
総 院 長	佐 々 木 洋
病 院 長	星 田 四 朗
特 命 院 長	兒 玉 憲 司
特 命 院 長	西 山 謹 司
副 院 長	田 中 一 郎
副 院 長	福 井 弘 幸
副 院 長	田 村 茂 行
看護部 長	千 種 保 子
事務 局 長	植 野 茂 明

所 属 名	補 職	氏 名	備 考
	総 院 長 病 院 長 特 命 院 長 特 命 院 長 副 院 長 副 院 長 副 院 長	佐 々 木 洋 星 田 四 朗 兒 玉 憲 司 西 山 謹 司 田 中 一 郎 福 井 弘 幸 田 村 茂 行	(兼感染対策管理室長) (兼診療局長) (兼診療情報管理室長) (兼地域医療連携室長)
内 科	部 長 嘱 託 員	大 江 洋 介 渡 瀬 晴 人	H31. 3. 31 退職
感 染 制 御 内 科	副 医 長	福 盛 達 也	H31. 3. 31 退職
血 液 内 科	部 長 部 長	服 部 英 喜 桑 山 真 輝	(兼中央検査部医長)
消 化 器 内 科	部 長 医 長 医 長 副 医 長 嘱 託 員 嘱 託 員 嘱 託 員 嘱 託 員 嘱 託 員	榊 原 充 木 津 崇 小 倉 志 瀬 川 未 岡 本 正 李 惠 利 長 岡 達 中 村 宗 清 水 雅 渡 部 徹 篠 田 幸 南 坂 朋 乾 礼 興 福 岡 秀 植 野 啓 井 上 創 峯 健 太	H30. 4. 1 採用 (兼内視鏡センター医長) H31. 3. 31 退職
循 環 器 内 科	部 長 医 長 医 長 医 長 医 長 副 医 長 嘱 託 員 嘱 託 員	渡 部 徹 篠 田 幸 南 坂 朋 乾 礼 興 福 岡 秀 植 野 啓 井 上 創 峯 健 太	(兼MEセンター医長)
外 科 ・ 消 化 器 外 科	部 長 部 長 部 長 医 長 医 長 医 長 医 長 副 医 長 嘱 託 員 嘱 託 員 嘱 託 員	松 山 仁 井 出 義 遠 藤 俊 廣 瀬 安 橋 本 朋 岸 本 友 杳 谷 香 木 戸 真 指 月 海 今 村 宏 米 田 直	H30. 6. 30 退職 H31. 3. 31 退職 (兼通院治療センター医長) H30. 7. 1 採用 H30. 4. 1 採用 H30. 4. 1 採用 H30. 4. 1 採用 H30. 4. 1 採用 H30. 9. 30 退職 H30. 4. 1 採用
呼 吸 器 外 科	医 長 医 長 嘱 託 員	木 村 幸 男 桃 實 徹 八 木 悠 理 森 本 卓	H30. 4. 1 採用 H31. 3. 31 退職
乳 腺 外 科	部 長	森 本 卓	

所 属 名	補 職	氏 名	備 考
	医 長 医 長	西 向 有 沙 高 本 香	H30. 4. 1 採用 H30. 4. 1 採用
脳 神 経 外 科	部 医 長 医 長	都 築 貴 有 田 都 史 香	
整 形 外 科	部 医 長 医 長 医 長 副 医 長	三 岡 智 規 山 田 裕 三 岡 本 道 雄 山 田 修 太 郎	(兼リハビリテーション科医長)
脊 椎 外 科	部 医 長	立 石 耕 介	
形 成 外 科	医 長 医 長 嘱 託 員	三 宅 ヨ シ カ ズ 仲 野 雅 之 松 岡 祐 貴 木 原 雅 志	H31. 3. 31 退職
産 婦 人 科	部 医 長 医 長 医 長 医 長 医 長 副 医 長 副 嘱 託 員	山 田 嘉 彦 水 田 裕 久 吉 澤 順 子 佐 々 木 高 綱 重 光 愛 子 森 岡 佐 知 子 松 浦 美 幸 山 田 弘 次 植 田 陽 子	H30. 10. 31 退職 H30. 4. 1 採用 H30. 6. 30 退職 H30. 4. 1 採用
小 児 科	部 医 長 医 長 医 長 医 長 医 長 副 医 長 副 医 長 副 嘱 託 員	中 野 智 巳 井 崎 和 史 濱 田 匡 章 能 村 賀 子 白 潤 夏 近 藤 由 佳 桐 村 章 大 芳 田 龍 太 吉 川 侑 子 山 口 侑 加	H30. 4. 1 採用 H30. 4. 1 採用 H31. 3. 31 退職 H31. 3. 31 退職 H30. 4. 1 採用 H31. 3. 31 退職
新生児集中治療部	部 医 長	道 之 前 八 重	
耳 鼻 咽 喉 科	部 医 長 医 長 医 長 嘱 託 員 嘱 託 員	川 島 貴 之 真 貝 佳 子 日 尾 祥 子 野 之 口 由 華 田 中 晶 平	H30. 4. 1 採用 H31. 3. 31 退職 H30. 4. 1 採用
泌 尿 器 科	診 療 局 次 長 医 長 医 長 嘱 託 員	池 本 慎 一 町 田 裕 一 村 尾 昌 輝 山 本 匠 真	(兼泌尿器科部長・医療安全管理室長)
皮 膚 科	部 医 長	高 木 圭 一	
リハビリテーション科	嘱 託 員	小 西 克 侑 岩 崎 悟	H30. 4. 1 採用 H31. 3. 31 退職
麻 酔 科	部 医 長 医 長 医 長 医 長 医 長 医 長 医 長	小 多 田 英 貴 土 屋 典 生 東 浩 司 乾 大 資 谷 本 敬 橋 村 俊 哉 山 本 奈 穂 義 間 友 佳 子	H31. 3. 31 退職 H31. 3. 31 退職 H31. 3. 31 退職 H30. 6. 30 退職
放 射 線 科	部 診 療 科 特 任 部 長 技 師 長 係 長 係 長 係 長	吉 田 重 幸 荒 木 裕 介 平 井 良 和 河 野 圭 男 松 村 司 西 川 期 金 澤 達	
放 射 線 診 断 科	医 長		

所 属 名	補 職	氏 名	備 考
放 射 線 治 療 科	医 長	豊 福 隆 将	
歯 科 口 腔 外 科	部 副 医 嘱 託	濱 口 裕 弘 西 村 奈 穂 鈴 木 真 央	H30. 7. 1 採用 H31. 2. 28 退職
病 理 診 断 科	部 嘱 係 係 託	竹 田 雅 司 明 里 知 美 政 岡 佳 久 福 田 文 美	H30. 5. 1 採用
集 中 治 療 部	部 長	池 田 嘉 一	H31. 3. 31 退職
救 急 診 療 科	部 長	馬 場 貴 仁	H30. 4. 1 採用
中 央 手 術 部	部 長	上 水 流 雅 人	(兼泌尿器科医長)
通院治療センター	医 長	井 出 義 人	H31. 3. 31 退職
内 視 鏡 センター	セ ン ター 長	榑 原 充	(兼消化器内科部長)
糖 尿 病 センター	部 医 長 医 長 医 長 副 医 長	木 戸 里 佳 上 田 高 志 辻 眞 由 美 久 保 典 代 金 丸 洋 蔵	(兼内科医長) (兼内科医長) (兼内科医長) H31. 3. 31 退職 (兼内科医長) (兼内科副医長) H30. 4. 1 採用
健 診 センター	診療科特任部長	山 本 俊 明	
中 央 検 査 部	技 師 係 長 係 長	浅 岡 伸 光 寺 西 ふ み 子 細 井 亮 二	
M E センター	係 長	長 山 俊 明	
緩和ケアセンター	部 長	藏 昌 宏	(兼麻酔科医長)
栄 養 科	係 長	黒 田 昇 平	
薬 剤 部	診 療 局 次 長 薬 剂 部 長 補 佐 薬 剂 部 長 補 佐 係 長 係 長 係 長	山 崎 肇 長 谷 圭 悟 中 谷 成 美 松 本 数 博 森 本 千 穗 藤 本 史 朗 佐 藤 浩 二	(兼薬剤部長・臨床研究センター長) H31. 3. 31 退職
臨床研究センター	センタール長補佐	香 川 雅 一	
診 療 局	嘱 託 員 嘱 託 員 嘱 託 員 嘱 託 員 嘱 託 員 嘱 託 員 嘱 託 員 嘱 託 員 嘱 託 員	小 野 充 嗣 花 岡 希 松 島 央 和 山 田 佳 奈 青 原 大 介 川 端 將 生 中 島 安 紗 海 山 浦 大 輝 浅 井 祐 志 矢 野 恵 理 奈	(研修医) H31. 3. 31 退職 (研修医) H31. 3. 31 退職 (研修医) H31. 3. 31 退職 (研修医) H30. 4. 1 採用 (研修医) H30. 4. 1 採用 (研修医) H30. 4. 1 採用 (研修医) H30. 4. 1 採用 (研修医) H30. 4. 1 採用 (研修医) H30. 4. 1 採用 H31. 3. 31 退職 (研修医) H30. 4. 1 採用 H31. 3. 31 退職
地 域 医 療 連 携 室	係 長 係 長	大 和 裕 香 北 村 尚 洋	
看 護 部	部 次 次 科 科 科 科 看護 看護 看護 看護 看護 看護 看護 看護 看護	千 種 保 子 山 中 ト モ エ 青 木 美 加 子 山 田 智 子 佐 藤 美 代 子 神 田 ゆ か 尾 山 明 美 横 山 敬 子 甲 斐 幸 代 畑 中 邦 子 松 川 麻 由 美 安 田 幸 代 山 下 春 美 井 澤 初 美 杉 村 美 貴	看護師長室 看護師長室(兼 医療安全管理者・医療安全管理室看護師長) 看護師長室 看護師長室 看護師長室(兼 地域医療連携室看護師長) 看護師長室(兼 8階東病棟看護師長) 看護師長室(兼 地域医療連携室看護師長) 看護師長室 看護師長室(兼 感染対策管理室看護係長) 外来師長室 中央手術部 5階西病棟 5階東病棟 6階西病棟 6階東病棟

所 属 名	補 職	氏 名	備 考
	看護師長	大石馨	7階西病棟
	看護師長	西村勢津子	7階東病棟
	看護師長	丸山明子	8階西病棟
	看護師長	近藤純代	集中治療部
	看護師長	柏山康江	新生児集中治療部
	看護係長	小林啓子	外来師長室
	看護係長	沢井ゆかり	外来師長室
	看護係長	吉野知子	外来師長室
	看護係長	尾野優子	外来師長室
	看護係長	渡壁淳子	外来師長室外来A H31. 3.31 退職
	看護係長	黒江みつ	外来師長室外来B
	看護係長	黒木好深	外来師長室外来C
	看護係長	楠本恵	外来師長室外来D
	看護係長	蓬郷千里	外来師長室救急診療科
	看護係長	柚木原和子	外来師長室通院治療センター H31. 3.31 退職
	看護係長	奥田清美	外来師長室糖尿病センター
	看護係長	蛭田澄枝	外来師長室放射線科
	看護係長	藤原美智代	外来師長室内視鏡センター
	看護係長	森本美百	外来師長室地域医療連携室
	看護係長	北村亜矢子	外来師長室地域医療連携室
	看護係長	城内陽子	外来師長室地域医療連携室
	看護係長	青木ひとみ	中央手術部
	看護係長	猪之鼻理絵	5階西病棟
	看護係長	吉井孝子	5階西病棟
	看護係長	浅井真由美	5階東病棟
	看護係長	石田弘美	5階東病棟
	看護係長	播本靖子	6階西病棟
	看護係長	下田美鈴	6階西病棟
	看護係長	中尾由美子	6階東病棟
	看護係長	比嘉和歌子	6階東病棟
	看護係長	西原君代	7階西病棟
	看護係長	福丸香奈子	7階西病棟
	看護係長	沖本桂子	7階東病棟
看護係長	林正美子	7階東病棟	
看護係長	中西千賀子	8階西病棟	
看護係長	佐藤雅子	8階西病棟	
看護係長	多田由佳	8階東病棟	
看護係長	服部留美	8階東病棟 H31. 3.31 退職	
看護係長	上岡いづみ	集中治療部	
看護係長	村上雅美	集中治療部	
看護係長	西本恵美子	新生児集中治療部 H31. 3.31 退職	
看護係長	生藤由紀子	新生児集中治療部	
事務局	事務局長	植野茂明	(兼企画運営課長)
	事務次長	菱井井晃	
企画運営課	参課長補補係 課長長補補係 課企画運営係 企企運営係 経人理事係	小枝伸行	(兼企業出納員)
		葛原秀明	
		宮田克爾	
		丸谷泰寛	
		植村佳子	
		高大恒平	
		大田篤亮	

2. 人員配置表

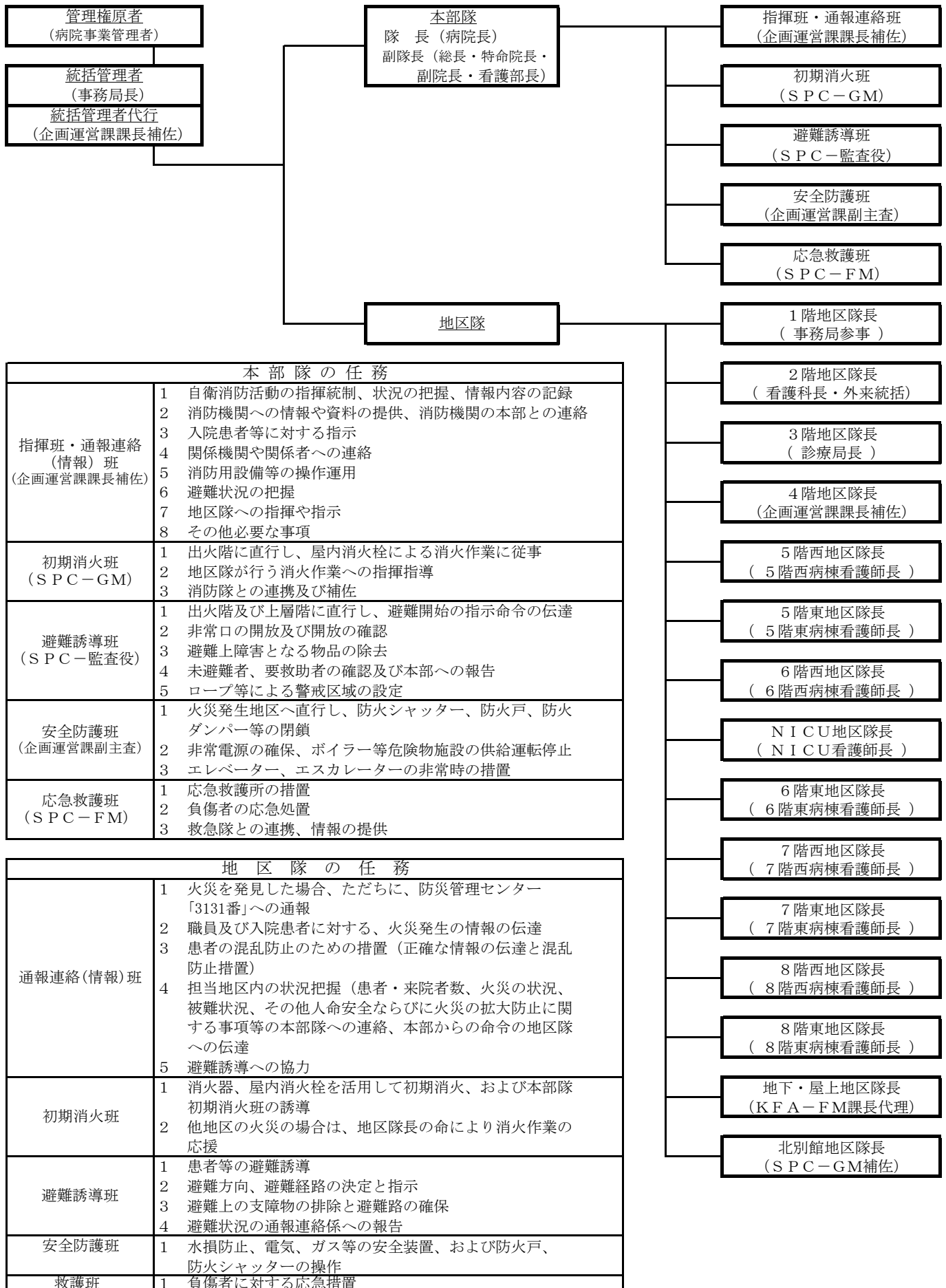
所属 職種		総長 病院長 特命院長 副院長	診療局																																		
			内 科	感 染 制 御 内 科	血 液 内 科	消 化 器 内 科	循 環 器 内 科	外 科	消 化 器 外 科	呼 吸 器 外 科	乳 腺 外 科	脳 神 経 外 科	整 形 外 科	脊 椎 外 科	形 成 外 科	産 婦 人 科	小 児 科	新 生 児 集 中 治 療 部	耳 鼻 咽 喉 科	泌 尿 器 科	皮 膚 科	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	麻 酔 科	放 射 線 科	放 射 線 診 断 科	放 射 線 治 療 科	歯 科 口 腔 外 科	病 理 診 断 科	集 中 治 療 部	救 急 診 療 科	中 央 手 術 部	通 院 治 療 セ ン タ ー	内 視 鏡 セ ン タ ー	糖 尿 病 セ ン タ ー	健 診 セ ン タ ー	中 央 検 査 部	M E セ ン タ ー
医 師	正 規 職 員	4	兼5 1	1	2	兼1 4	兼1 6	兼1 1	兼1 6	兼1 2	3	2	4	1	2	6	兼1 8	1	3	兼1 3	1	兼1 1	兼1 7	1	1	兼1 1	2	1	1	1	1	兼1 1	兼1 1	5		兼1 1	兼1 1
	嘱 託 員	3	1			5	2		2	1					2	1	2		2	1		1		1				1						1			
医 療 技 術 員	正 規 職 員																					4		18				4								9	1
	嘱 託 員																		2								2	1								3	2
	非 常 勤 嘱 託 職 員																					1															
	臨 時 的 任 用 職 員																																			1	
看 護 師	正 規 職 員																																				
	嘱 託 員																																				
	非 常 勤 嘱 託 職 員																																				
	臨 時 的 任 用 職 員																																				
准 看 護 師	正 規 職 員																																				
	嘱 託 員																																				
	非 常 勤 嘱 託 職 員																																				
	臨 時 的 任 用 職 員																																				
事 務 職	正 規 職 員																																				
	嘱 託 員									1																								1			
	非 常 勤 嘱 託 職 員																																				
	臨 時 的 任 用 職 員																																				
技 能 労 務 職	正 規 職 員																																				
	嘱 託 員																																				
	非 常 勤 嘱 託 職 員																																				
	臨 時 的 任 用 職 員																																				
正 規 職 員		4	1	1	2	4	6	1	6	2	3	2	4	1	2	6	8	1	3	3	1	4	7	19	1	1	2	5	1	1	1			5		9	1
嘱 託 員		3	1			5	2		2	2					2	1	2		4	1		1		1		2	2						1	1	3	2	
非 常 勤 嘱 託 職 員																						1															
臨 時 的 任 用 職 員																																			1		
合 計		7	2	1	2	9	8	1	8	4	3	2	4	1	4	7	10	1	7	4	1	6	7	20	1	1	4	7	1	1	1		6	1	13	3	

(单位：人)

[illegible]

(平成31年3月31日現在)

八尾市立病院自衛消防組織編成表



診療局の現況

診療局の現況

平成 30 年度の診療局の目標として（１）がん診療を充実させることにより、がん患者数を増やすこと、（２）高度医療を推進することで入院および外来患者数を確保し、かつ診療単価のアップを図ること、（３）臨床研修医を含む優秀な医師を確保し、診療の質を向上させること、（４）地域の医療機関との連携を強化し、紹介率・逆紹介率の向上を目指すこと、（５）学会発表などの学術活動を推進し、医療の水準を高めることなどを掲げた。これらについては各診療科・各部門の努力により概ね目標を達成することができた。

主要な医師の人事として、４月から榊原充先生が消化器内科部長として、馬場貴仁先生が救急診療科部長として赴任されたほか、立石耕介先生が脊椎外科部長に就任された。７月には井出義人先生が外科部長に就任され、新たに消化器外科部長として遠藤俊治先生が赴任された。また、臨床研修医は、マッチングで４名、大阪市大と奈良医大の枠がけで１名ずつが採用となった。一方、今年度末で３名の研修医が当院での臨床研修を修了した。

今年度は、「断らない救急」の意識が救急担当医に浸透し、救急からの入院患者数が増加したことなどから病床稼働率が常時 90%を超え、病床管理が慢性的に困難な状況となった。その解決策の一つとして、今年度、新たに入退院支援センターの設置に向けた取り組みを進めるなど、患者の利便性の向上はもちろん、スムーズで効率的な病床管理を目指している。一方、外科系各診療科の手術件数が大幅に増加したことから、従来の手術枠では収まらなくなっており、病院の取り組むべき新たな課題となっている。

今年度は昨年度に引き続き病院として名誉ある表彰を受けることができた。優良な診療内容と 8 年連続の黒字という優良な経営が評価され、大阪府下の公立病院では初めて自治体立優良病院表彰（総務大臣表彰）を受賞した。これは病院の総合力が向上した証であり、胸を張って誇れる成果と言えるのではないと思われる。

なお、今年度も地域医療連携を推進する目的で、４月と 10 月の２度にわたり八尾地域医療合同研究会を開催したほか、年 6 回の市民公開講座や出前講座も開催した。地域の医療機関や診療所との連携ならびに地域の住民の方々への情報提供は今後も積極的に取り組んでいきたい。

内科の現況

1. スタッフ

部長 大江 洋介
医 長 木戸 里佳（兼糖尿病センター部長）、上田 高志（兼糖尿病センター医長）、
久保 典代（兼糖尿病センター医長）、金丸 洋蔵（兼糖尿病センター副医長）、
辻 真由美（兼糖尿病センター医長）（平成 31. 3. 31 退職）
副医長 福盛 達也（平成 31. 3. 31 退職）
嘱託医師 渡瀬 晴人（平成 31. 3. 31 退職）
応援医師 米田 正太郎、北村 哲也、武田 景敏、松本 伸治、西村 知子

2. 診療内容

1) 感染制御内科

一部の重症感染症の入院診療や、一般内科疾患の入院診療、嘱託医師とともに一般内科初診外来、専門外来診療を行っている。また当院は呼吸器内科常勤医不在のため、肺がん、肺結核・肺非結核性抗酸菌症、肺真菌症、びまん性肺疾患、喀血その他の診断目的で当科常勤医が気管支鏡検査を担当している。他に、難治性感染症や特殊感染症、不明熱、急性間質性肺炎、呼吸不全などの感染症・呼吸器良性疾患についてのコンサルテーション・診療を担当している。

院内活動では抗菌薬適正使用チーム（A S T）のリーダーとして、無菌検体培養陽性症例やメロペネム投与例、広域抗菌薬の長期投与症例に対する介入などを行い、抗菌薬適正使用の推進と耐性菌出現の抑制を推進している。また、院内感染対策チーム（I C T）の一員として院内感染対策の立案・実施と教育・啓発、感染症アウトブレイク時の危機管理、職員の感染症に対する安全管理、耐性菌の院内伝搬の抑制に努めている。

2) 糖尿病内科

1 階の糖尿病センターで、糖尿病専門外来を行っている。糖尿病専門医の他に、糖尿病センター専属の看護師、管理栄養士、医師事務作業補助者がスタッフとして常駐し、多職種から成る『糖尿病診療チーム』を構成して、糖尿病診療を行っている。平成 27 年 9 月からは、限定的ではあるがチームに臨床心理士も加わり、より多面的に糖尿病患者の指導を行うべく工夫を重ねている。また早期腎症以上の腎臓合併症を有する患者を対象に、透析予防を目的として、毎回受診時に、看護師による問診・療養指導、管理栄養士による個別の食事指導を行っている（糖尿病透析予防指導）。透析予防指導対象外の患者についても、必要に応じて、療養指導、栄養指導、薬剤指導など個別の指導を随時行っている。循環器内科、腎臓内科など他科との連携も積極的に行い、集学的治療を目指している。患者毎に胸部 X 線、心電図をはじめ、心臓・腹部・頸動脈の超音波検査などを定期予定検査として実施し、糖尿病患者に多くみられる大血管障害（動脈硬化）や悪性疾患の早期診断・治療にも取り組んでいる。合併症の進行した患者の足切断につながる足壊疽などの予防を目的に、看護師による足および神経障害のチェックを含めたフットケアも定期的実施している。下肢血流評価も実施し、必要に応じて循環器内科医およ

び形成外科医と積極的な連携を図っている。

平成 25 年度から 1 型糖尿病あるいは妊婦をおもな対象とするインスリンポンプの導入を開始し、持続血糖モニター（CGM）も導入した。近年、個人用の CGM と連動する新たなインスリンポンプ（SAP）が登場し、現在当院でもインスリンポンプ療法は SAP が主流になっている。さらに、新しいタイプの血糖測定器（FGM）が保険適用となり、当院でも導入し運用を開始した。インスリンポンプ治療の対象となる患者には積極的に導入を勧め、チームでの管理・指導を継続して行っている。またインスリンポンプ導入症例を主な対象者として、カーボカウント法の指導も行っている。このようにより専門的診療を積極的に取り入れ、他のメディカルスタッフとともによりよい糖尿病診療、とくにチーム医療の実践に取り組んでいる。糖尿病治療においては自己管理が非常に重要であり、とくに糖尿病教育に重点を置き、教育入院も積極的に行っている。

3) 腎臓内科

当科では応援医師の協力を得て、腎不全、水電解質代謝異常、原発性糸球体疾患、尿細管・間質疾患、全身性疾患による腎障害、高血圧および腎血管障害、腎・尿路感染症、遺伝性腎疾患などの腎臓内科疾患の外来診療を週 1 回行っている。

血液透析の必要な入院患者については、ICU、循環器内科、泌尿器科に協力いただいている。また腎生検を含め腎炎などの入院診療は他院へ紹介している。透析導入は行っていない。

4) 脳循環内科

平成 25 年度から脳循環内科として独立したが、スタッフは変わらないため診療内容は大きな変化はない。脳梗塞急性期の入院診療と脳梗塞ハイリスク患者の外来診療を行っている。また、脳神経外科と緊密な連携をとっており、合同カンファレンスも随時行っている。院内発症の脳梗塞についてのコンサルテーションも受けている。

5) 神経内科

当科では神経系（大脳・小脳・脊髄・末梢神経）および、筋肉に生じる炎症、変性、血管障害などを中心に診療を行っている。常勤医師不在のため外来診療のみで、変性疾患・パーキンソン病・脊髄小脳変性症や、てんかん・頭痛などを診療している。外来診療は火曜日午後となっている。

入院患者のコンサルテーションにも対応している。

3. 診療体制

1) 感染制御内科

外来診療：火曜日午前 一般内科初診外来

水曜日午後 気管支鏡検査

木曜日午前 一般内科初診外来（応援医師）

金曜日午後 予約制の専門外来

入院診療：入院患者のコンサルテーションについては随時受けている。

2) 糖尿病内科

外来診療：糖尿病センターにおいて、月曜日から金曜日の毎日、予約制の専門外来を行っている。初診外来は、月曜日、水曜日、木曜日、金曜日の午前に予約制で診療している。平成 27 年 1 月から地域の医療機関より新規に患者をご紹介頂く際に使用できる新たな連絡票の運用を開始し、ご要望に対してより適切な対応を行うことで、さらなる地域連携の活性化を目指している。療養指導、フットケア、個別食事指導、服薬指導は、必要に応じて随時行っている。

入院診療：クリニカルパスを用いて糖尿病教育入院を行っている（入院期間は数日間～数週間と、個々の症例に応じて幅広く対応）。入院中、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師による個人あるいは集団指導を実施。他院から紹介の重症症例、糖尿病ケトアシドーシス（DKA）などの緊急症例は随時対応している。また一部内分泌疾患（下垂体機能低下、甲状腺疾患、副腎皮質機能低下など）の診療も行っている。

3) 腎臓内科

外来診療：金曜日

入院診療：行っていない。

4) 脳循環内科

外来診療：火曜日の午後（予約診）と月曜日（初診）に行っている。待ち時間が長くなっているため、随時逆紹介を行い、かかりつけ医との病診連携を有効に活用したいと考えている。

入院診療：脳神経外科のバックアップを受けながら診療にあたっている。

検 査：CT/MRI/MR Angio/SPECT(脳血流シンチ)/頸動脈エコー/心エコー/経食道心エコー/ホルター心電図・血圧計/血圧脈波(ABI)/下肢血管エコー(動脈・静脈)などを活用している。

5) 神経内科

外来診療：火曜日午後に診療を行っている。

入院診療：行っていない。

4. 診療実績

1) 感染制御内科

外来延患者数は 537 人であった。入院延患者数は 1,001 人であった

2) 糖尿病内科

外来延患者数は 8,054 人であり、そのうち糖尿病透析予防指導管理料を算定した延患者は 1,390 人、糖尿病合併症管理料を算定した延患者は 287 人、在宅療養指導料を算定した延患者は 1,229 人、在宅自己注射導入期加算を算定した延患者は 422 人であった。糖尿病教育入院患者数は 166 人であった。8 月を除く毎月第 3 木曜日（13 時から）に、医師・薬剤師・管理栄養士など糖尿病診療チームスタッフによる糖尿病教室を開催しており、当院糖尿病患者会（いちょう会）会員をはじめ多くの一般市民に参加頂いている。延参加者数は 298 人、月平均 27.1 人であった。

3) 腎臓内科

外来延患者数は 1,036 人であった。

4) 脳循環内科

平成 30 年度の外来延患者数は 729 人で、入院延患者数は 1,885 人であった（院内コンサルテーション件数は含めず）。

5) 神経内科

外来延患者数 650 人と昨年度より増加している（これとは別に院内紹介を受け入れている）。

5. 教育活動

1) 感染制御内科：ICTとして、院内感染症研究会の企画立案、担当し院内感染対策講演会の講師を務めた。

臨床研修医に対して抗菌薬使用についての講義を 2 回行った。

臨床研修医の学会発表の指導・監督を 2 例行った。

2) 糖尿病内科：臨床研修医 4 名に対して、入院患者を中心にした診療の研修を行った。

また大阪大学医学部の学生 5 名（5 回生）の臨床実習を受け入れ、5 日間実施した。

3) 脳循環内科：臨床研修医 6 名、内科専修医 1 名の病棟研修を行った。

血液内科の現況

1. スタッフ

部 長 服部 英喜（兼中央検査部医長）、桑山 真輝

2. 診療内容

血液内科は白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫をはじめとする造血器腫瘍、貧血一般、再生不良性貧血、血小板減少症などを診療対象疾患としている。中でも造血器腫瘍においては、寛解・治癒が望める症例では自己末梢血幹細胞移植をはじめとして積極的な化学療法を施行し、高齢者・合併症併発症例には長期延命のためQOL療法を図るなど、個々の患者の病態・年齢・背景に応じた治療を選択している。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：血液内科専門予約外来 服部英喜部長は月曜日午前、木曜日午後、金曜日午前を担当している。桑山真輝部長は月曜日午後、水曜日午後、木曜日午前を担当している。一般内科初診外来（火曜日、金曜日共に午前）で主に血液疾患初診対応を行っている。
- 2) 入院診療：7階西病棟にて原則的には無菌室2床、一般病床18床で運営している。

4. 診療実績

平成30年度に血液内科で診療した血液疾患新規入院患者数は92人であった。内訳は悪性リンパ腫35人、急性白血病11人、多発性骨髄腫6人、骨髄異形成症候群15人、特発性血小板減少性紫斑病5人 その他20人（ATL、自己免疫性溶血性貧血、再生不良性貧血、骨髄増殖性腫瘍など）であった。

入院症例の多い悪性リンパ腫の主なタイプの初発例での治療成績は以下の如くである（高齢・合併症などでQOL療法のみとなった症例などは省き、治療評価可能例に限る）。

びまん性大細胞型B細胞性 完全寛解率81.0%（17例/21例）、濾胞性 同率100%（5例/5例）、ホジキン型 同率100%（2例/2例）であった。また1例（骨髄腫1人）に自己末梢血幹細胞移植を施行した。

5. 教育活動

服部英喜部長が平成30年4月に「院内感染疾患」、桑山真輝部長が同年9月に「血液検査の読み方」、についての臨床研修医レクチャーを行った。

消化器内科の現況

1. スタッフ

副 院 長 福井 弘幸（兼診療情報管理室長）
部 長 榊原 充（兼内視鏡センター医長）
医 長 木津 崇、小倉 智志
副 医 長 瀬川 朋未
嘱託医師 岡本 正幸（平成 31. 3. 31 退職）、李 恵利佳、長岡 達朗、中村 宗晴、
清水 雅之

2. 診療内容

消化器内科として毎日、初診外来・専門外来業務を担当、内視鏡検査下・超音波検査下の検査処置を毎日担当、病棟では地域連携紹介あるいは救急からの入院を中心とした病棟業務を担当している。

専用透視室を備えた内視鏡センターを運営し、あらゆる内視鏡下治療手技（EST・ENBD・ステントなど）を施行している。地域連携経由の紹介や救急入院が多いこともありESTなどの治療内視鏡件数が増加している。超音波下治療手技であるPTCD・ステントなども専用透視室で施行している。膵腫瘍や胃粘膜下腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺生検（EUSFNA）も多数施行している。ダブルバルーン小腸内視鏡装置にて小腸病変・挿入困難な大腸病変の診断に役立てている。

早期胃癌・大腸癌・食道癌に対する内視鏡下治療の粘膜剥離術（ESD）は症例が増加中である。ESDは長時間の治療になりがちであるが低侵襲であり、技術の向上や治療開始時間の工夫により多くの症例に適用していきたい。

ウィルス性肝炎に対する治療はインターフェロンフリーの内服薬（DAA）治療を行っており、ほぼHCV感染に関しては副作用なく完治できる時代になっている。今後は非代償期肝硬変にもHCV排除を行えるようになり、肝予備能の改善から肝癌治療耐性を向上することができると考えている。一方HCV感染は常に一定の割合で存在しており、特に他疾患で免疫抑制療法・化学療法を行う場合のHCV再活性化予防について他科から相談を受ける機会が増えている。

肝癌に対する治療はラジオ波焼灼術（RFA）を平成 14 年から開始している。肝癌症例自体が日本で減少するなか、当院では昨年度比で大幅に症例数が増加している。治療技術の向上や人工胸腹水などによる工夫により治療可能な病変が多くなっている。また、麻酔法の改良により痛みの少ないRFA治療を行う事で、再治療に対する抵抗感をなくす努力をしている。さらに従来のモノポーラ型RFAでは適用困難だったペースメーカー症例に対してマルチポーラ型RFAを施行したり、大腸癌肝転移に対してもRFAを行ったりしており、従来よりも幅広い症例に適用範囲を拡大している。

進行肝癌に対する分子標的薬の選択肢が増えており、奏効率も高くなっている。今後は免疫チェックポイント阻害剤との併用も現実的となりつつあり、従来では予後不良であった症例もその

高い奏効率から根治性の高い局所治療にコンバージョンできるようになると考えられる。

免疫チェックポイント阻害剤による I r A E (immune-related adverse event) で肝障害や炎症性腸疾患が生じることが知られており、今後他科から I r A E に関する相談が増えると予想される。当科としてもそれに向けて診療体制を整えていく。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：月曜日から金曜日まで、消化器内科専門診と消化器内科初診の 2 から 3 診体制。
- 2) 入院診療：基本 40 床で運用。
- 3) 腹部超音波検査：月曜日から金曜日までの毎日施行。

造影超音波検査：毎週水曜日午後に 1-3 件ずつ経皮的肝治療を要する患者を中心に医師立ち会いのもと施行。

消化管内視鏡：上部消化管内視鏡検査：月曜日から金曜日までの毎日施行。

下部消化管内視鏡検査：月曜日から金曜日までの毎日施行。

内視鏡下・超音波下処置：月曜日から金曜日の午後に施行。

経皮的肝治療・検査：毎月第 2 第 4 木曜日午後に手術室 7 にて施行。

肝腫瘍生検などの結果を急ぐ検査・処置については随時手術部門と調整し施行。

4. 診療実績

平成 30 年度延外来患者数 15,385 人 (2018/4~2019/3)

平成 30 年度延入院患者数 15,022 人 (2018/4~2019/3)

代表的な入院疾患件数 (上位 10 疾患)

(単位：件)

肝細胞癌	86
胆道結石	75
大腸腺腫・早期大腸癌	61
腸閉塞・イレウス	60
膵癌	56
早期胃癌	49
肝不全	43
大腸憩室出血	34
虚血性腸炎	28
大腸憩室炎	28

入院による主な検査・治療内容(2018/5～2019/3)

(単位：件) 入院件数

経皮的肝臓治療	36
原発性肝臓の経皮ラジオ波焼灼術（RFA）	34
モノポーラ型	33
マルチポーラ型	1
転移性肝臓のRFA	1
PEI	1
肝生検	35
肝組織生検	14
肝腫瘍生検	21
その他肝臓治療	35
肝細胞癌分子標的治療	9
TACE	26
消化管内視鏡	168
上部消化管内視鏡検査	127
緊急止血（潰瘍性出血）	42
異物除去	4
EVL/EIS（待機・緊急含む）	17
内視鏡下食道粘膜剥離術（食道ESD）	4
内視鏡下胃粘膜剥離術（胃ESD）	49
EUS/EUS-FNA	11
下部消化管内視鏡検査	41
緊急止血（直腸潰瘍・EMR後出血など）	8
内視鏡下大腸粘膜剥離術（大腸ESD）	33
胆膵処置	129
ERCP（ドレナージ、結石除去など）	114
経皮的減黄 or ドレナージ	15

注）上記は延検査件数ではない。特に胆膵処置は1回の入院で複数回行う事が多い。

5. 教育活動

臨床研修医1年目6名が各2か月間、消化器内科で研修を行った。

臨床研修医2年目4名が1か月間、消化器内科で研修を行った。

研修医講座を9月20日に実施した。（瀬川朋未副医長）

看護師向けの勉強会を2月26日に実施した。（榊原充部長）

8階西病棟看護師向けの勉強会を2月から3月に実施した。（木津崇医長、小倉智志医長、瀬川朋未副医長）

循環器内科の現況

1. スタッフ

病 院 長 星 田 四 朗
部 長 渡 部 徹 也（兼MEセンター医長）
医 長 篠 田 幸 紀、南 坂 朋 子、乾 礼 興、福 岡 秀 忠
副 医 長 植 野 啓 介
嘱託医師 井 上 創 輝、峯 健 太 朗

2. 診療内容

当科は、平成 16 年 5 月の病院移転時に内科より独立した。診療内容としては、心筋梗塞・狭心症といった虚血性心疾患を中心に、心不全、末梢血管疾患、不整脈といったほぼ全ての循環器疾患を扱っている。外来診療でも 3 D 描出可能な心エコー図検査、冠動脈描出可能なマルチスライス CT、非侵襲的に虚血診断のできる R I といった最新鋭装置にて診断を行えるようになった。外来の検査にて冠動脈疾患が疑われた場合、入院していただきカテーテル検査や治療を行う。患者の負担を減らすために従来は鼠径部から治療を行っていたが最近では多く手首から治療を行っている。再狭窄予防効果の強い薬剤流出性ステントが使用可能となり、長期的成績が著しく改善した。急性冠症候群（急性心筋梗塞・不安定狭心症）に対するカテーテル治療に関しては原則 24 時間対応を行っている。また、不整脈のカテーテルアブレーション治療や末梢血管治療にも力を入れている。心房細動や発作性上室性頻拍のカテーテルアブレーション治療、透析シャント治療や、総腸骨動脈、大腿動脈などのカテーテル治療も行うようになっている。平成 29 年 1 月には第二血管造影撮影室が新設され、急患対応に関してより迅速に行うことが出来るようになった。また、本年より 3 Tesla の MR I も導入され心臓 MR I も撮像可能となった。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：月曜日から金曜日まで循環器内科の初診・紹介患者に対応するため循環器内科医師が少なくとも 1 名外来を行っている。循環器疾患患者の再診外来も行っている。また、原則として毎月第 1・3 月曜日の午後および第 1・2 木曜日にペースメーカー外来を行っている。運動負荷心電図（トレッドミル）は木曜日、負荷心筋シンチは月曜日・木曜日・金曜日、エコー（経胸壁心エコー、経食道心エコー、頸動脈エコー、深部静脈エコー、下肢動脈エコー）は毎日行っている。
- 2) 入院診療：ベッド数は 30 床である。予定の心臓カテーテル検査・ペースメーカー・血管内治療は月曜日から金曜日まで行っている。
- 3) 救急体制：循環器内科として可能なかぎり 24 時間、365 日オンコール体制を目標に急性疾患に対応している。

4. 診療実績

代表的な手術・検査件数

(単位：件)

心臓カテーテル検査	710
経皮的冠動脈形成術（P C I）	376
ペースメーカー植え込み術	43
アブレーション	216
末梢血管形成術（E V T）	238
下大静脈フィルター	22
心エコー図	5,942
血管エコー	2,009
経食道心エコー図	189
ホルター心電図	895
トレッドミル	174
心筋シンチ	541

病院移転後5年目までには体制も整い、いずれの検査治療数も増加していた。一時、医師数減少により治療件数も減少傾向であったが、平成24年度より5名体制となり可能な限り心臓コールの受け入れを継続している。心エコー図、ホルター心電図、運動負荷検査、心筋シンチ、冠動脈C T等、診療内容は充実しており、カテーテル治療件数も平成30年度は平成25年度の10倍以上にまで増加している。今後、病診連携を広めつつ、病院全体としての救急充実を図り、いずれの数字も増加していくように努力していきたい。

5. 教育活動

臨床研修医6名が2か月間隔で研修を行った。また、内科と協力して症例検討会を開催した。毎週、火曜日に入院患者の症例検討会、金曜日にカテーテル検査・治療の検討会を行っている。また、コメディカルに対する循環器勉強会も月2回行っており、スタッフ全体の医療に対するレベルアップを図っている。

外科の現況（一般外科・消化器外科）

1. スタッフ

総 長 佐々木 洋
副 院 長 田村 茂行
部 長 松山 仁（平成 30. 6. 30 退職）、井出 義人（平成 31. 3. 31 退職）、
遠藤 俊治
医 長 廣瀬 創、橋本 安司、岸本 朋也、杵谷 友香子
副 医 長 木戸上 真也
嘱託医師 今村 宏輝、米田 直樹、指月 海地（平成 30. 9. 30 退職）

2. 診療内容

「一般外科」、「消化器外科」の診療を行っている。食道・胃疾患を中心とする上部消化管疾患を田村茂行副院長、遠藤俊治部長、木戸上真也副医長が、大腸・肛門を中心とする下部消化管疾患を井出義人部長、廣瀬創医長、杵谷友香子医長が、肝臓・胆のう・膵臓疾患を佐々木洋総長、橋本安司医長、岸本朋也医長が担当し、手術治療のみならず、化学療法や緩和医療も行っている。一般的な外科疾患である急性虫垂炎やヘルニア、イレウス、急性腹膜炎などは、外科医師全員で対応し、救急診療業務には、24 時間オンコールの体制で協力している。各種外科疾患の中でも、本院の診療の柱である「がんの診療」には外科医師全員が高い専門性を維持しながら特に力を注いでいる。

3. 診療体制

初診・紹介患者を対象とした一般外科外来は毎日診療しており、その他、上部消化管外来、大腸外来、肝・胆・膵疾患外来、ストーマ外来などの専門外来も行っている。手術は月曜日から金曜日まで終日行っている。ただし、手術日以外にも緊急手術や臨時手術を行うことも多い。検査関連では、上部消化管内視鏡検査は週 1 回、下部消化管内視鏡検査は週 2 回外科で分担実施している。また、通院治療センターでの業務についても、他科医師とともに外来患者の化学療法の実施に携わっている。

診療の特徴としては、①疾患別の専門的診療、②個々の患者の病態に見合った治療法の選択、③科学的根拠に基づいた医療（EBM）の実践、④緩和医療・終末期医療を含め、最後まで看る体制、⑤クリニカルパス導入による医療の標準化と効率化の実践などである。

4. 診療実績

総手術件数が 799 件であった。代表的な手術症例の内訳は次表のとおりである。

代表的疾患の手術件数

(単位：件)

	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
総数	799	638	643
食道癌	9	10	12
胃癌	68	59	79
幽門側胃切除術	48	46	49
胃全摘・噴切術	20	8	30
その他	12	5	7
腹腔鏡	30	27	32
大腸癌	140	147	155
結腸癌	97	94	94
直腸癌	43	53	61
腹腔鏡	133	144	151
胆石症・胆嚢炎	151	101	67
腹腔鏡	151	98	67
肝癌	31	40	39
肝切除	31	40	37
肝切＋胆管切	0	0	2
胆・膵癌	19	19	24
鼠径ヘルニア	102	130	129
腹腔鏡	88	103	67
虫垂炎	89	35	35
腹腔鏡	87	35	35

5. 教育活動

臨床研修医に対して、外科臨床研修を指導した。また、大阪大学医学部医学科と近畿大学医学部医学科の学生を対象にクリニカルクラークシップとして消化器外科実習を行った。

外科の現況（呼吸器外科）

1. スタッフ

特命院長 児玉 憲（兼感染対策管理室長）
医 長 木村 幸男、桃實 徹
嘱託医師 八木 悠理子（平成 31. 3. 31 退職）

2. 診療内容

呼吸器外科では肺がん、転移性肺がん、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍（胸膜悪性胸膜中皮腫や孤立性線維性腫瘍など）、胸壁腫瘍などの腫瘍性病変、気胸、肺膿瘍、膿胸、胸部外傷など、ほぼすべての呼吸器外科疾患を治療している。

肺がんは今なお「難治性がん」の代表とされているがゆえに、その1次予防としての禁煙キャンペーン、禁煙外来（木村幸男医長）や、2次予防としての早期発見に努めている。サイズが2 cm 以下の肺がんで、高分解能CT上、すりガラス状陰影(GGO)が優位な早期がんに対しては、主として縮小手術を行い呼吸機能の温存に努めるとともに、術中迅速肺切除マージン洗浄細胞診を行い、完全切除が行われたことを確認している。I期肺がんに対しては胸腔鏡下肺葉切除を取り入れている。一方、II-III期進行肺がんに対しては、気管支形成術や拡大手術を行い、さらに手術不能Ⅲ-IV期肺がんに対しては腫瘍内科と協力し、気管支鏡のみならず、胸腔鏡下に十分な量の腫瘍、リンパ節生検を行い、胸腔内 staging を行った後、化学療法、分子標的薬治療、放射線治療、免疫療法（チェックポイント阻害剤）を組み入れた、いわゆる個別化医療(personalized medicine)あるいは精密医療(precision medicine)でもって治療成績は向上している。

転移性肺腫瘍や多発肺がんに対しては適応を明確にしたうえで、両側同時手術も行っている。手術可能な悪性胸膜中皮腫に対してはpleurectomy/decortication+化学療法を行っている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：火曜日の午前、および木曜日の午前・午後に、初診、再診を問わず総合的に診察を行っているが、気胸や外傷など緊急処置が必要な場合は、緊急で随時受け入れている。また、紹介元より受診を急がれる場合は、地域医療連携室を通し、曜日を問わず可能な限り早急に対応できるように努めている。セカンド・オピニオンを受け入れるとともに、他施設へのセカンド・オピニオンを希望された場合、適切な施設への推薦を行っている。遠方から来られた肺がん患者には、負担軽減のため術後地域連携クリニカルパスの運用も行っている。
- 2) 手術：手術は毎週火曜日午前・午後、ただし緊急手術は随時対応可能である。
- 3) 入院診療：手術入院以外に、胸部外傷やドレーナージ治療、放射線治療あるいは呼吸器悪性腫瘍在宅治療患者の後方支援としての入院の受け入れも可能な限り行っている。高齢者気管支鏡検査は1日入院で水曜日の午後に行っている。

4. 診療実績

手術件数（全身麻酔症例のみ）

（単位：件）

疾 患	術 式	症例数	在院死	胸腔鏡下
原発性肺がん	部分切除	23	0	21
	区域切除	9	0	5
	肺葉切除	49	0	41
	全摘	0	0	0
転移性肺腫瘍	部分切除	11	0	11
	区域切除	5	0	5
	肺葉切除	5	0	5
縦隔腫瘍		3	0	0
胸壁腫瘍		5	0	2
気胸・膿胸		13	0	7
胸膜・肺・リンパ節生検		8	0	7
炎症性肺疾患その他		19	0	18
合 計		150	0	122

5. 教育活動

英文論文発表、学会への積極的な参加・発表を行い、情報発信に努めている。

呼吸器外科修練認定施設として、呼吸器外科専門医育成支援および呼吸器外科関連病院に対する技術支援を行っている。

嘱託医師として専攻医1名を受け入れている。

医療従事者あるいは一般市民を対象とした、研究会や公開講座において、呼吸器外科の情報伝達や教育活動を行っている。

乳腺外科の現況

1. スタッフ

部 長 森本 卓
医 長 高本 香、西向 有沙

2. 診療内容

乳がんの診断、治療全般を関連診療科と連携して行っている。乳がん検診で要精査となった方の2次検診（精密検査）や初期乳がんの治療、進行再発乳がんの治療および遺伝性乳がんのカウンセリング、検査を行っている。ガイドラインに基づいた標準治療を行いつつ、臨床試験・先進医療・治験に参加し、よりよい診療の提供を目指している。

金曜日の午後、土曜日は、八尾市乳がん検診を行っている。

3. 診療体制

2名の乳腺専門医と1名の乳腺認定医で外来・入院患者の診療を行っている。

1) 外来診療：午前中は月曜日から金曜日まで毎日行っている。午後は予約のみである。

予約無し初診は各曜日の午前中に行っており、事前予約も各曜日に受け入れている。

マンモグラフィー・トモシンセシスによる3次元マンモグラフィー、超音波、エラストグラフィーを併用している。組織診・細胞診は、可能な限り受診当日に施行している。

石灰化病変にはステレオガイド下マンモトーム生検を木曜日午後に施行している。診断困難症例には超音波ガイド下マンモトーム生検を行っている。

大阪大学医学部・兵庫医科大学より外来診療、検診に応援医師を派遣してもらっている。

2) 手術：手術は水曜日の全日と金曜日午後に行っている。

R I 法と色素法併用でのセンチネルリンパ節生検を実施している（同定率 99%以上）。常勤の病理診断科専門医によるリンパ節および切除断端の術中迅速病理診断を行っている。形成外科と連携して乳房再建を行っている（同時・異時）。

3) 入院診療：乳がん看護認定看護師が入院中は病棟で対応、また外来でも心理的サポート、リンパ浮腫診断・治療のサポートをしている。

4) 化学療法：通院治療センターで行っている。

5) 放射線治療：常勤の放射線治療専門医が担当している。

6) 術後の診療：地域の診療所と連携し、術後の経過観察・検査・ホルモン治療を行っている。

4. 診療実績

代表的な手術件数および検査件数

原発乳癌手術	175 件（乳房温存 41 件 乳房切除 134 件 同時再建 27 件）		
乳腺良性腫瘍手術	32 例	ステレオガイド下マンモトーム生検	56 件

臨床試験では、海外とのグローバル試験の「IBCSGのSOLE」、全国規模の「JBCRG」「CSPOR-BC」、近畿地区では「KBCSG」に参加している。

脳神経外科の現況

1. スタッフ

部 長 都築 貴
医 長 有田 都史香
応援医師 谷口 理章、中村 元、柳澤 琢史

2. 診療内容

当科では、脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷・神経機能的疾患を主として担当している。

脳神経外科の診療では、手術適応の決定の為に正確な画像診断が必須であり、当院にはその為の診断機器が基本的に整備されている。MD-CTにより、短時間で高解像度の画像情報を得ることが可能であり、造影CT画像を3D画像ワークステーションにより再構成することで従来の血管造影検査に遜色無く血管の形態的な異常をとらえることができ、さらにMRI画像データと融合させることにより、術前シミュレーションには絶大な偉力を発揮する。また新たに3 Tesla MRIが導入・稼動しておりTractgraphyによる重要な神経軸索経路の評価やSpectroscopyによる腫瘍性病変の質的評価も可能になっている。さらに頸部頸動脈エコー検査も随時可能であり血流速度や動脈硬化性病変の性状診断が迅速に可能である。これらの手法を用い、従来行われていた侵襲的検査を大幅に減少させ、より低侵襲で、かつ十分な画像診断情報を得ることが可能となっている。脳血流の評価にはSPECTを備えており、脳虚血に対する手術適応の決定に不可欠なものとなっている。これらの画像診断は放射線科および中央検査部の献身的な協力により可能となっている。

脳神経外科診療の中心はもちろん担当疾患の外科治療（手術）であるが、当院には手術を確実かつ安全に遂行するための機材として、手術用ナビゲーター（Stealth Station）・神経内視鏡（EndoArm）・術中神経刺激装置（NIM Pulse）・術中脳血流ドップラー（EZ-Dop）・術中SEP/MEP/ABRモニタリング（Neuropack）を装備しており、これらの機材を積極的に導入し、神経機能予後の改善に役立てている。手術用顕微鏡もライカ製顕微鏡に更新し、術中に蛍光血管造影検査や悪性腫瘍の蛍光診断も可能となった。スタンダードな脳神経外科手術のみだけでなく、特殊で専門性の高い手術も大阪大学脳神経外科関連施設医師の応援協力を得て、当院で提供できる環境を整えている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：基本的には月曜日から金曜日までの午前1診体制であり、火曜日および水曜日は予約のみだが午後1診の診療をしている。月曜日・金曜日の外来診療に関しては大阪大学脳神経外科関連施設医師の応援を得ている。
- 2) 入院診療：ベッド数は10床にて稼動している。現在は脳腫瘍・脳卒中に対する診療が中心となっている。予定手術は水曜日に行っている。血管造影検査は金曜日午後に行っている。

3) 救急診療：常勤医 2 名であり、現時点では常時の対応はできないが、可能な限りオンコール体制で 24 時間対応している。

4. 診療実績

外来延患者数 4,291 人、初診患者数 545 人であった。新入院患者数 141 人であった。手術は 68 件であり、脳血管障害や外傷の手術のみでは無く、悪性脳腫瘍や頭蓋底腫瘍の摘出術も施行しており、特殊な神経内視鏡手術や神経機能疾患の手術も含まれている。

5. 教育活動

脳神経外科合同カンファレンスや病院主催の臨床研修医レクチャーで臨床研修医を適宜指導している。

整形外科の現況

1. スタッフ

部 長	三岡 智規（兼リハビリテーション科医長）
脊椎外科部長	立石 耕介
医 長	山田 裕三、岡本 道雄
副 医 長	山田 修太郎

2. 診療内容

スポーツ外傷、膝関節疾患、脊椎疾患、手外科、骨折を中心に、診療を行った。

スポーツ整形外科では靱帯再建手術、半月板縫合術・切除術、肩脱臼に対する手術、肩腱板修復術を主に行っている。

関節外科は、膝関節を主に扱い、膝関節症に対する骨切り手術と人工関節置換術を病期に応じて適応している。骨切り手術は山田裕三医長が担当した。股関節疾患は応援医師を招聘して施行した。

脊椎外科は、平成 30 年 4 月から院内標榜科として「脊椎外科」が設立され、脊椎外科部長に立石耕介部長が就任した。山田修太郎副医長とともに、頸椎疾患から腰椎疾患にいたるまで幅広く対応した。頸椎椎弓形成術、腰椎固定術をはじめ手術症例も増加の一途をたどっている。

平成 30 年 1 月に手外科専門医として、岡本道雄医長が着任し、手の外科疾患の治療を開始した。岡本医師着任とともに、手外科症例の紹介が増え、平成 30 年の手外科疾患の手術症例数は 100 を超えた。

また、救急外傷は積極的に受け入れを行った。

3. 診療体制

外来診療については、初診は原則紹介のみとし、入院診療に重点を置いた。

4. 診療実績

当科で施行している主な手術は、骨折治療はもちろんのこと、膝靱帯再建術、肩関節脱臼、腱板手術、人工関節置換術、骨切り手術、脊椎手術など専門性の高いものである。

主な手術件数		(単位：件)	
スポーツ関連手術	140	人工関節置換術	50
脊髄手術	147	骨切り手術	42
手外科手術	126	骨折手術	184
		その他	240

形成外科の現況

1. スタッフ

医 長 三宅 ヨシカズ、仲野 雅之
嘱託医師 松岡 祐貴(平成 31. 3. 31 退職)、木原 雅志

2. 診療内容

当科は、平成 20 年 7 月 1 日に開設し、切断指救急を積極的に受け入れるとともに形成外科一般の診療にあたっている。切断指など手指外傷の救急診療には 24 時間オンコール体制をとっている。中小企業・工場の多い地域ということもあり、読売新聞の調査で、平成 28 年の切断指再接着手術は全国で 3 番目の症例数であった。専門外来では、「乳房再建外来」、「難治性創傷外来」に加え、上下肢リンパ浮腫に対する「リンパ浮腫外来」を開始した。一般外来では、表皮嚢腫、母斑、脂漏性角化症、脂肪腫などの良性腫瘍や基底細胞がん、有棘細胞がんなどの悪性腫瘍、瘢痕、眼瞼下垂、多合指症、耳介変形、顔面外傷、下肢静脈瘤など幅広い疾患の診療を行っている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：月曜日から木曜日の午前、金曜日は午後に一般外来を行っている。
火曜日の午後「乳房再建外来」「難治性創傷外来」「リンパ浮腫外来」を行っている。
- 2) 手術：月曜日、火曜日午前、木曜日午後、金曜日に手術を行っている。
水曜日には、乳腺外科と乳房再建を行うことが多い。
- 3) 救急体制：切断指などの手指外傷に対し 24 時間オンコール体制をとっている。

4. 診療実績

	手術件数			(単位：件)
	入院手術	外来手術	合 計	
外傷	290	167	457	
先天異常	12	6	18	
腫瘍	153	484	637	
瘢痕、ケロイド	15	20	35	
難治性潰瘍	48	12	60	
炎症・変性疾患	93	59	152	
その他	78	50	128	
合計	689	798	1,487	

*平成 30 年 1 月から 12 月までの手術実績

5. 教育活動

関西医科大学および大阪市立大学形成外科主催で年 2 から 3 回、各関連病院合同の症例検討会が開かれ、情報交換を行った。臨床研修医の形成外科研修として 5 名の研修医を受け入れた。また、関西医科大学 6 回生学外臨床実習施設として 1 名の学外実習生を受け入れた。

産婦人科の現況

1. スタッフ

部 長	山田 嘉彦
医 長	水田 裕久、吉澤 順子(平成 30. 10. 31 退職)、佐々木 高綱、重光 愛子、 森岡 佐知子
副 医 長	松浦 美幸、山田 弘次(平成 30. 6. 30 退職)
嘱託医師	植田 陽子
応援医師	長安 実加、前花 知果

2. 診療内容

- 1) 産 科：当院はNICU 6床を有し、産婦人科治療相互援助システムの参加病院として、地域の先生方からの母体搬送を受け入れている。分娩予約数を月 80 件程度に制限をしているが、ハイリスク症例は随時受け入れている。産婦人科周産期専門医と産婦人科超音波専門医の資格を持った医師が 1 名在籍している。
- 2) 婦人科：産婦人科内視鏡学会技術認定医 2 名が在籍し、低侵襲な手術に積極的に取り組んでいる。日本女性医学会専門医制度認定研修施設であり、月経困難症、子宮内膜症および更年期障害に対するホルモン療法を行っている。婦人科がんの治療に関しては各種ガイドラインに基づきながら、カンファレンスによって治療方針を決定し、手術療法、化学療法を行っている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：午前は初診、産科再診、婦人科再診の 3 診体制、午後は産科再診、手術前の説明、外来検査（生検など）および市民健診の子宮がん検診（水曜日）を行っている。水曜日と木曜日に各 1 名の応援医師が、奈良県立医科大学から派遣されている。
- 2) 入院診療：ベッド数は 30 床。産科の分娩も、婦人科の手術も入院期間は概ね 1 週間以内と短時間で、病床の回転率は高くなっている。
- 3) 手 術：月曜日、水曜日、木曜日の週 3 回である。悪性腫瘍の手術は主に木曜日に実施している。婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術は次年度から対応予定である。

4. 診療実績

平成 30 年度の分娩数は 780 件であった。手術件数は 467 件（帝王切開は 175 件）で、婦人科浸潤がんの手術件数は 39 件であった。腹腔鏡下手術の件数は増加しており、146 件であった。

主な婦人科疾患に対する手術実績 (重複あり、単位：件)

子宮頸部上皮内病変	45	円錐切除術	46	腹腔鏡下異所性妊娠手術	9
浸潤子宮頸がん	14	腹式単純子宮全摘術	32	骨盤臓器脱手術	9
子宮内膜増殖症	0	腹式子宮筋腫核出術	0	子宮鏡手術	17
子宮体がん	16	腹式付属器腫瘍手術	10	拡大子宮全摘術 (準広汎含む)	17
卵巣がん (境界悪性含む)	9	腹式異所性妊娠手術	0	広汎子宮全摘術	4
外陰がん	1	腹腔鏡下子宮全摘術	69	悪性腫瘍手術 (大網切除術まで)	4
卵巣腫瘍	65	腹腔鏡下子宮筋腫核出術	3	悪性腫瘍手術 (骨盤リン パ節郭清まで)	13
骨盤臓器脱	9	腹腔鏡下付属器手術	57	悪性腫瘍手術 (傍大動脈 リンパ節郭清まで)	6

分娩業務状況 (単位：件)

分娩数	780	帝王切開術	175
異常分娩	194	予定	111
双胎分娩	9	緊急	64
		吸引分娩	19
		鉗子分娩	0

5. 教育活動

臨床研修医 1 名が産婦人科研修を行った。毎週水曜日に術前症例検討会を行っている。隔週の水曜日に抄読会を行っている。また、病理診断科との合同カンファレンスを月に 1 回実施している。臨床研修医には、各種手術手技についてのプレゼンテーションを行ってもらい、その手技に対する理解度を定着させている。当施設は産婦人科専攻医研修指定施設である。奈良県立医科大学産婦人科教室から定期的に産婦人科専攻医の研修を受け入れている。

小児科の現況

1. スタッフ

副 院 長	田中 一郎（兼診療局長）
部 長	中野 智巳
医 長	井崎 和史、濱田 匡章、能村 賀子、白 潤夏
副 医 長	近藤 由佳、桐村 章大、芳田 龍太（平成 31. 3. 31 退職）
嘱託医師	吉川 侑子（平成 31. 3. 31 退職）、山口 侑加（平成 31. 3. 31 退職）
応援医師	柳本 嘉時

2. 診療内容

新生児から中学生までを対象としているが、慢性疾患などでは年長者までの診療を行っている。主な疾患としては呼吸器疾患、消化器疾患（小児外科疾患を除く）、気管支喘息、アレルギー性疾患、腎泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、神経疾患、血液疾患（造血器腫瘍を除く）、川崎病・IgA血管炎などの小児期特有の疾患、新生児・未熟児疾患、先天性疾患などそれぞれ専門担当医を決めて診療している。また、健診・予防業務として正常新生児の退院時健診、1か月健診、10か月後期健診や各種予防接種も行っている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：午前は4診制とし、一般外来を中心に、予約患者は1診・2診、予約外患者および救急は3診・4診で診療している。
午後は予約専門外来として、思春期／心身症外来・内分泌外来を月曜日、アレルギー・膠原病・腎外来を月曜日・火曜日、1か月健診および後期健診を火曜日、予防接種を水曜日、発達外来と食物アレルギー外来を木曜日、神経外来とスキンケア外来を金曜日に行っている。
- 2) 入院診療：小児単独病棟として6階西病棟の一般病床33床とNICU6床を有している。
院内学級には八尾市立龍華小学校から先生に専属で来ていただいております、慢性疾患患者の長期入院に際し、ベッドサイドや院内教室で授業を行っていただいております。
また、小児病棟恒例の七夕やクリスマスの催しにもご支援を賜っている。
- 3) 救急診療：日勤帯は救急担当医を決めて対応している。時間外救急診療については、中河内小児救急輪番制を維持し、当院は、火曜日および土曜日を担当している。

4. 診療実績

入院患者の内訳は肺炎などの呼吸器疾患、胃・腸炎などの消化器疾患といった急性感染症が大勢を占めていた。

代表的疾患件数

(単位：件)

肺炎・気管支炎	337	腸重積症	7
上気道炎・インフルエンザ・扁桃腺炎	80	消化器疾患（胃腸炎・腸重積症を除く）	22
胃・腸炎	89	新生児・未熟児疾患	186
クループ・喘息性気管支炎・気管支喘息	84	川崎病	55
感染症	72	リウマチ性疾患とその周辺疾患	19
細菌性・ウイルス性髄膜炎・脳炎・脳症	11	アレルギー疾患	14
神経・てんかん・熱性痙攣	83	食物アレルギー	291
腎炎・ネフローゼ・尿路感染症・尿路系疾患	55	血液・凝固異常	5
内分泌・代謝疾患	63	その他	28

5. 教育活動

臨床研修医4名、後期研修医2名が小児科研修を行った。また、奈良県立医科大学6回生3名がクリニカルクラークシップとして4月から6月にそれぞれ4週間の臨床実習を行った。

近隣の小児科医との連携推進のために中河内小児科談話会を6月と12月に開催し、主に八尾市や柏原市、東大阪市の医師会員や勤務医の先生方が参加され、症例検討や情報交換を行った。

新生児集中治療部の現況

1. スタッフ

部 長 道之前 八重

2. 診療内容

当院は地域周産期母子医療センターの認定を受けており、産婦人科は基礎疾患や産科的合併症のある母体の分娩と緊急母体搬送を積極的に受け入れている。当科はこれらのハイリスク分娩から出生した新生児、地域の開業産婦人科病院または大阪新生児相互援助システム（NMC S）から紹介となった病的新生児を診療している。早産の場合、具体的には当院で対応可能な在胎 28 週以上を対象としている。主な疾患は、新生児呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、胎便吸引症候群、空気漏出症候群、新生児無呼吸発作、未熟児動脈管開存症、直ちに外科的治療が必要でない先天性心疾患、先天性貧血、先天性血液凝固異常、黄疸、ビタミンK欠乏症、低血糖、新生児乳児消化管アレルギー、脳室内出血、脳室周囲白質軟化症、新生児痙攣、先天性肺炎、敗血症などの感染症、ダウン症候群などの染色体異常などである。心臓胸部、消化器および脳外科の外科的治療が必要な場合はNMC Sなどを介して、より高次の専門施設に紹介している。

3. 診療体制

小児科の人員不足のため、約半年間の小児救急輪番担当日に、NICUが対応できないため緊急母体搬送の受け入れができなかった。平成 30 年 4 月からは従来どおり緊急母体搬送を受け入れる診療体制に復帰した。

- 1) 分娩立会い：早産、多胎、胎児仮死徴候のある分娩、緊急帝王切開などのハイリスク分娩に立会い、新生児に蘇生処置を行いNICUに入院させている。
- 2) 入院診療：新生児特定集中治療室管理料の加算対象は6床。緊急時は8床まで対応している（24 時間以内）。日勤はNICUに専任する小児科医が入院治療を行い、ハイリスク分娩には複数名で立ち会っている。休日夜間はNICU当直医が常在し、ハイリスク分娩とNMC Sによる緊急新生児搬送入院に 24 時間体制で対応している。定期的に産婦人科・小児科の合同カンファレンスを行い、母体と胎児情報の確保と新生児の入院経過のフィードバックを密に行っている。呼吸・循環管理を中心とした急性期の治療に加え、将来の健常な発育と発達につながる栄養管理、developmental care と育児支援を大切にしている。
- 3) 外来診療：当院NICUを退院または他院のNICUから紹介された早産児、SGA (small for date) は 3 歳ごろまで発育と発達をフォローしている。新生児期と乳児期の栄養が非常に大切であることを定期的な診察を通して保護者に理解いただけるよう育児支援を行っている。SGAを含め低身長をきたした場合は成長ホルモン治療の適応があるかを診断し治療している。脳室周囲白質軟化症などによる脳性麻痺の早期発見に努め、八尾市立医療型児童発達支援センターなど小児リハビリ

テーションが可能な施設に紹介している。当院NICUを退院または他院のNICUから紹介された在宅人工呼吸管理、在宅酸素、気管切開、胃瘻などの高度な医療的ケアが必要な患者の診療を行っている。RSウイルスの流行時期は、在胎35週台までの早産児、先天性心臓奇形、ダウン症の患者を対象にRSウイルス予防薬のシナジス（パリビズマブ）の投与を行っている。

4. 診療実績

NICU入院総数は114人である。このうち院内出生児は106人、大阪府新生児相互援助システム（NMCS）を介した新生児搬送が8人である。OGCSと八尾市内の開業産婦人科からの緊急母体搬送後直ぐに分娩、NICU入院となった新生児は0であり、産婦人科の連携が良好で、早めに母体搬送していただいている様子うかがえた。

出生体重が1,000g未満の超低出生体重児は1人（院内出生）、出生体重が1,000g以上1,500g未満の極低出生体重児は4人（院内出生）である。気管内挿管・人工呼吸管理を施行したのは5人で経過良好だった。新生児死亡は1例。

患 者 数		()内は前年度	
在胎週数別入院数	(単位：人)	出生体重別入院数	(単位：人)
在胎28～33週	4	出生体重< 1,000g	1(1)
		1,000g ≤ 出生体重< 1,500g	4(5)
在胎34～35週	28	緊急母体搬送後直ぐに出生	0(3)
		新生児搬送（NMCS）の受け入れ	8(6)

5. 教育活動

平成30年度は院内新生児蘇生講習会を2回開催した。

眼 科 の 現 況

1. スタッフ

応援医師 十河 薫
視能訓練士 合羽 利加

2. 診療内容

当科では白内障、緑内障、糖尿病網膜症および入院中の未熟児網膜症診察を主に行っている。

現在は外来診療を中心とした診療体制になっており、外来診療を超え入院、手術が必要になった場合は然るべき施設へと紹介している。

3. 診療体制

1) 外来診療：すべて午前診で、月曜日から金曜日まで1診制で行っている。

視野検査、眼鏡処方等の精密検査については午後に視能訓練士の予定と照合した上で改めて予約をとっている。検査結果については後日再診日に報告している。

4. 診療実績

眼科検査では裸眼視力、矯正視力、光干渉断層計による黄斑部および視神経の撮影、網脈絡膜血管の造影として蛍光眼底造影検査を施行している。

また網膜光凝固術、後発白内障に対するYAGレーザー切開術、ドライアイに対するプラグ挿入等の外来手術、処置を行っている。

耳鼻咽喉科の現況

1. スタッフ

部 長 川島 貴之
医 長 真貝 佳代子、日尾 祥子
嘱託医師 野之口 由華(平成 31. 3. 31 退職)、田中 晶平

2. 診療内容

耳鼻咽喉科領域全般について、救急疾患、精密検査が必要な疾患、手術や入院加療を要する疾患を中心とした急性期病院としての診療を行っている。近隣には耳鼻咽喉科疾患での入院や手術に対応できる施設が少ないこともあり、八尾市内外の耳鼻咽喉科からの急性期病院としての期待は大きい。その役割を果たすため、当科では引き続き初診外来を紹介患者のみに限り、地域の病院や診療所からのニーズに可能な限り対応するようにしている。また病状の安定した患者を積極的に近隣耳鼻咽喉科診療所へ逆紹介することで、病院と診療所での役割分担を密に行っている。さらにスムーズな病診連携のために各地域の耳鼻咽喉科地域連携会を定期的開催している。

手術治療では、顕微鏡や内視鏡を用いた耳科手術を積極的に行っている。また内視鏡による鼻・副鼻腔手術ではナビゲーションを使用した安全な手術を多数行っている。扁桃やアデノイドに対する手術や声帯ポリープ・喉頭腫瘍などに行う喉頭微細手術、その他、耳下腺・顎下腺・甲状腺などの良性腫瘍に対する手術なども積極的に行っている。いずれも低侵襲手術を基本方針とし、できる限り入院期間が短くなるよう努めている。低侵襲の一例として、最近では内視鏡のみを用いた耳科手術が普及しつつあるが、それらも積極的に行っている。なお、現時点では頭頸部悪性腫瘍に対しては診断のみ行い、治療については他院関連病院への紹介にて対応している。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：月曜日から金曜日までの毎日、午前中に初診外来を行っている。なお、先述の通り初診は紹介患者に限っているが、当日紹介の受け入れもしているため、救急対応も可能である。再診外来も、月曜日から金曜日まで各医師が交替で行っているが基本的に予約制である。
- 2) 特殊外来：金曜日（第 1、3、5）の午後に幼児難聴外来、金曜日（第 2、4）の午後に補聴器外来、また火曜日（第 2、4）の午後に身体障害者認定外来を行い、幼少児から高齢者までの難聴患者へ対応している。
- 3) 入院診療：ベッド数は 15 床で、1 日平均入院患者数は 16.8 人であり、1 年を平均するとほぼフル稼働の状態が続いている。在院日数は短期化に努めている。手術日は、月曜日・水曜日・木曜日・金曜日の午前・午後に手術室での全身麻酔手術を行っている。全身麻酔は前日入院で、短期入院を考え、アデノイド切除術や喉頭微細手術などの侵襲の少ない手術では術翌日に退院としている。

当科は新生児聴覚スクリーニング事業における２次聴力検査施設であるため、スクリーニング後の難聴精査において中河内地区の中核を担っている。

4. 診療実績

- 1) 外来診療：外来延患者数は 13,744 人で、対前年度比は 96%とやや減少傾向であった。平成 30 年度 1 年間の紹介件数は 1,934 件であった。その大半は当院で加療が必要な救急疾患や、手術が必要な疾患であり、急性期病院としての役割を果たしている。
- 2) 入院診療：入院延患者数は 6,125 人であり、平成 29 年度と比較するとやや減少傾向であった。また手術室で行った主な手術件数は 544 件であった。その主な内訳を以下に示す。

平成 30 年度の主な手術件数（一側を一件として計算）

（単位：件）

鼓室形成術	77	口蓋扁桃摘出術	375
鼓膜形成術	6	アデノイド切除術	110
アブミ骨手術	2	舌・口腔・咽頭腫瘍摘出術	10
顔面神経減荷術	1	喉頭微細手術	28
外耳道腫瘍摘出術	3	気管切開術	13
内視鏡下鼻副鼻腔手術	113	甲状腺腫瘍手術	18
鼻中隔矯正術	64	耳下腺手術	14
下鼻甲介手術	98	顎下腺手術	6
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	4	頸嚢胞・頸部膿瘍手術	2
涙嚢鼻腔吻合術	2	リンパ節生検	11

5. 教育活動

八尾耳鼻咽喉科医会研修会が平成 31 年 2 月に開催され、その際に講演活動を行った。八尾市周辺地域の諸先生に当科の治療方針などを説明し、連携の強化を図っている。

また川島貴之部長は大阪大学医学部の臨床准教授として、大阪大学医学部の学生にクリニカルクラークシップの指導・教育を行っている。

泌尿器科の現況

1. スタッフ

部 長 池本 慎一(兼診療局次長・医療安全管理室長)
医 長 上水流 雅人(兼中央手術部部長)、町田 裕一、村尾 昌輝
嘱託医師 山本 匠真

2. 診療内容

当科では膀胱・腎・前立腺・精巣などの泌尿生殖器癌、尿路結石症、尿路感染症、前立腺肥大症、過活動膀胱、副腎の内分泌疾患、停留精巣や膀胱尿管逆流症などの小児泌尿器科、尿失禁や膀胱脱などの婦人科との関連疾患を含め、ほぼすべての泌尿器科疾患を治療している。特に泌尿器癌の治療に重点を置き、手術療法、化学療法、放射線療法またこれらを組み合わせた集学的治療を行っている。膀胱癌はできるだけ膀胱温存治療をめざしている。外科系診療科では、より侵襲の少ない手術法として腹腔鏡下による手術が増加している。当科でも積極的に腹腔鏡手術を取り入れている。平成 30 年度では腎摘除術 16 例、腎尿管全摘除術 18 例、腎部分切除術 11 例、膀胱全摘除術 11 例、腹腔鏡下副腎摘除術 3 例、その他合計で 67 件の腹腔鏡下手術が行われた。

尿路結石に対しては、体外衝撃波結石破砕装置を導入し、経尿道的尿管碎石術、経皮的腎碎石術と合わせてほぼ全ての尿路結石に対して治療が可能になっている。平成 26 年度より軟性尿管鏡を用いてレーザーで結石を破砕する軟性尿管鏡下レーザー碎石術も行っている。平成 26 年度は軟性尿管鏡下レーザー碎石術は 43 例であったが平成 29 年度 107 例、平成 30 年度 112 例と手術件数が増加している。

平成 19 年末に常勤の腎臓内科医が不在となり、平成 20 年 1 月より当院外来通院中の慢性腎不全患者の血液透析導入及び維持透析業務を泌尿器科のサポートにて施行している。また急性腎不全の血液浄化および重症患者の維持透析は I C U にて施行し、適宜当科がサポートしている。また当院は腎移植施設の認定を受けており、平成 26 年 1 月には第 1 例目の生体腎移植を施行した。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：午前診は 2 診を設け、午後診も行っている。泌尿器科検査では内視鏡検査、超音波検査、ウロダイナミックスなどは必要に応じて随時外来で施行している。膀胱癌、前立腺癌に対する外来化学療法を主に月曜日、火曜日、木曜日、金曜日に行っている。平成 30 年度は前立腺癌に対する内分泌療法は延 1,256 件、前立腺癌、膀胱癌に対する外来化学療法は延 478 件行われた。
- 2) 体外衝撃波結石破砕術：原則として 1 泊の入院扱いで施行しているが、尿管結石に対しては外来通院でも行っている。
- 3) 入院診療：ベッド数は 20 床、平均在院日数約 6.8 日で稼働している。尿路生殖器癌に対する腹腔鏡下手術、内視鏡手術を中心とした集学的治療、前立腺生検術、前立腺肥大症に対する内視鏡手術、尿路結石症に対する軟性尿管鏡下レーザー碎石術を柱にしている。手術は月曜日、火曜日、水曜日、金曜日の 4 日間行っている。

4. 診療実績

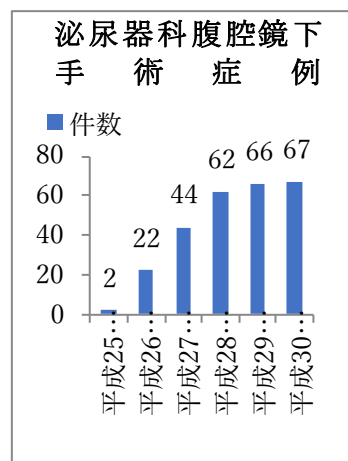
外来患者数は平成 28 年度 16,814 人、平成 29 年度 17,049 人、平成 30 年度 17,394 人となっている。初診患者数は平成 28 年度 1,044 人、平成 29 年度 970 人、平成 30 年度 1,020 人となっている。延入院患者数は平成 28 年度 7,212 人、平成 29 年度 6,357 人、平成 30 年度 6,846 人となっている。平均在院日数は平成 28 年度 8.1 日、平成 29 年度 7.1 日、平成 30 年度 6.8 日となっている。腹腔鏡手術の増加に伴い平均在院日数も減少していると考えられる。手術室を利用した手術件数（体外衝撃波結石破砕術を除き、前立腺生検術を含む）は平成 28 年度 694 件、平成 29 年度 734 件、平成 30 年度 775 件と年々増加している。体外衝撃波結石破砕術は平成 28 年度 8 件、平成 29 年度 12 件、平成 30 年度 10 件行っている。軟性尿管鏡下レーザー砕石術の増加に伴って体外衝撃波結石破砕術の件数は減少している。新入院患者数は平成 28 年度 785 人、平成 29 年度 773 人、平成 30 年度 864 人となっている。その内、前立腺癌の精査目的（前立腺生検術）、を含めると悪性腫瘍患者は全体の 6 割程度を占めている。疾患では膀胱癌が多く、平成 30 年度にて経尿道的膀胱腫瘍切除術は 145 件行われた。前立腺癌は本邦において 2020～2024 年（年平均）には罹患数は 105,800 人となり、男性癌のうち、第 1 番目の罹患数になると予測されている。前立腺癌は血清 P S A が鋭敏な腫瘍マーカーになっており P S A 検査の普及に伴い前立腺生検術が増加している。当科では平成 28 年度 147 件、平成 29 年度は 175 件、平成 30 年度は 171 件の前立腺生検術を行った。前立腺生検術施行例の 6 割程度で前立腺癌を認めている。根治療法の適応のある患者に対しては前立腺全摘除術と放射線療法を提示し、臨床病期、病理所見、年齢等を鑑み、十分なインフォームド・コンセントを行った後にどちらを選択するかを患者に決めていただいている。平成 30 年度の前立腺全摘除術は 2 件のみで、IMRT による根治的放射線療法が 48 件行われた。

平成 30 年度の血液浄化施行患者数は維持透析 44 件、透析導入 16 件であった。延 421 回の血液浄化を行った。

代表的な手術件数

（単位：件）

経尿道的膀胱腫瘍切除術	145	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	18
経尿道的尿路結石砕石術	112	腹腔鏡下根治的腎摘除術	13
経尿道的前立腺切除術	27	腹腔鏡下腎部分切除術	11
経尿道的膀胱砕石術	16	腹腔鏡下膀胱全摘除術+尿路変更術	11
経尿道的尿管ステント留置術	227	腹腔鏡下副腎摘除術	3
経皮的腎瘻造設術	19	腹腔鏡下腎盂形成術	3
経皮的尿路結石除去術	6	高位除睾術	6
内シャント造設術	21		



5. 教育活動

池本慎一郎長は大阪市立大学医学部の非常勤講師として、医学部の 5 回生、6 回生の学生に泌尿器科癌の講義を行っている。

皮膚科の現況

1. スタッフ

部 長 高木 圭一

2. 診療内容

当科では月曜日から金曜日までの連日外来診療を行っている。平成 22 年 5 月までは 2 人での診療体制であったが、それ以降は 1 人体制である。

疾患の検査や治療内容についても、患者に対して最良の医療を提供していると考ええる。外来においては、皮膚科全般の疾患について診療を行っている。また、皮膚生検、慢性疾患診療、小型の腫瘍やあざの摘出なども行っている。皮膚生検は皮膚疾患を解明するためには非常に重要で、当科では積極的にこれを行い、治療に役立てている。また、脂漏性角化症、色素性母斑、疣贅などの良性腫瘍や、日光角化症などの悪性腫瘍の治療も症例により形成外科への紹介も含め積極的に行っている。また、掌跖膿疱症や尋常性乾癬といった難治性皮膚疾患に対しては UVA、UVB を正確なジュール数で照射可能な光線療法機器を用いて治療を行っている。接触性皮膚炎や最近増加傾向にあるアレルギー性疾患の原因追求に非常に有用とされるパッチテストも随時行っている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：初診は月曜日・火曜日・水曜日・金曜日、再診は月曜日・金曜日、処置および再診は火曜日で毎日診療を行っている。なお、水曜日・木曜日にも随時再診患者を診察している。また、月曜日、火曜日と木曜日を中心にパッチテスト、皮膚生検を随時行い、木曜日は光線療法や腫瘍切除を中心に診療を行っている。しかし、これら処置も曜日にとらわれず随時入れるようにしている。
- 2) 手術：必要に応じて、随時皮膚科外来で行っている。
- 3) 入院診療：感染症、慢性皮膚疾患、手術、紫斑症などの疾患で外来診療に影響がでない範囲で積極的に入院加療を行っている。

4. 診療実績

外来延患者数は 3,222 人、入院延患者数は 28 人である。平成 22 年 5 月より診療体制が変更になり、1 人体制となっている。きめ細かい診療を心がけるようにしているため、診療に時間をさくことが多くなっている。当科での診療を希望する患者やリピーターは増加しているため、延患者数は増加している。しかし、外来通院での加療を希望する患者が多いため、入院患者数の増加はなく、減少している。

手術の症例数は形成外科での手術もあって減少している。炎症性皮膚疾患の症例数は徐々に増

加している。また帯状疱疹や蜂巣炎などの感染症はやや増加傾向にあると考える。光線療法は横ばい。今後は、現在主流となっている narrowband UVB の設置が必要と考える。

代表的疾病・治療及び手術件数

(単位：件)

良性腫瘍（処置室手術含む）	2
悪性腫瘍（処置室手術含む）	0
手術件数	3
全身麻酔	0
局所麻酔	2
生検	10
炭酸ガスレーザー	0
抜爪	0
光線療法	240

5. 教育活動

大阪大学医学部附属病院皮膚科主催で関連病院皮膚科合同の症例検討会を行った。また、2か月に1回の南大阪皮膚科症例検討会に参加し、難治症例の検討や最新の皮膚科学のレクチャーを受けた。さらに、毎月の複数病院参加による検討会（通称3病院症例検討会）にも参加した。地方会、総会も参加した。

リハビリテーション科の現況

1. スタッフ

医 長 三岡 智規（兼整形外科部長）
嘱託医師 小西 克侑（平成 31. 3. 31 退職）
係 長 岩崎 悟（理学療法士）
係長以下理学療法士 4 名、作業療法士 1 名

2. 診療内容

運動器リハビリテーション：整形外科手術後（骨折に対する観血的整復固定術、変形性関節症に対する人工関節置換術、膝周囲骨切り術、スポーツ関連手術、脊椎手術）のリハビリテーション、形成外科手術後（手指の切断、手指接合術）のリハビリテーションを実施した。

がんのリハビリテーション：外科、泌尿器科の周術期リハビリテーション、内科でがん治療中の患者に対してリハビリテーションを実施した。

脳血管リハビリテーション：脳神経外科手術後、脳梗塞のリハビリテーションを実施した。

廃用症候群リハビリテーション：心不全、肺炎などで長期臥床となった患者や日常生活が困難となった患者のリハビリテーションを実施した。

3. 診療体制

毎週水曜日がリハビリテーション診察日となっており、午前 9 時から午前 12 時、午後 1 時から午後 3 時まで診察を行った。急を要する場合は、各科医師よりリハビリテーション科医師に直接電話連絡していただき、対応した。

4. 診療実績

今年度の新たな取り組みとして 4 月からがんのリハビリテーションを理学療法士 3 名で実施した。

今年度のリハビリ実施総単位数は、18,459 単位であった。内訳は、運動器リハビリテーション 12,648 単位（約 69%）、がんのリハビリテーション 753 単位（約 4%）、脳血管リハビリテーション 1,406 単位（約 8%）、廃用症候群のリハビリテーション 3,652 単位（約 20%）であった。

5. 教育活動

整形外科の高位脛骨骨切り術を受ける患者について、術前術後に機能評価を実施し、その研究に取り組んでいる。また、本年度も 8 週間実習を 2 名、10 週間実習を 1 名受け入れた。

麻 酔 科 の 現 況

1. スタッフ

部 長 小多田 英貴
医 長 蔵 昌宏（兼緩和ケアセンター部長）、土屋 典生、東 浩司、乾 大資、
谷本 敬（平成 31. 3. 31 退職）、橋村 俊哉（平成 31. 3. 31 退職）、
山本 奈穂（平成 31. 3. 31 退職）、義間 友佳子（平成 30. 6. 30 退職）

2. 診療内容

当科では、午前 8 時 30 分からは集中治療室患者のカンファレンスを主治医とともにに行っている。産科の緊急症例についても対応しており、地域の周産期医療の一端を担っている。集中治療分野においては、24 時間麻酔科医が常駐し、重症患者に対して主治医とともに集中管理を行っている。ペインクリニックにおいては、外来診療（月曜日、木曜日（6 月まで））を行っている。また、呼吸器ケアチーム、緩和ケアチームなど、院内のチーム医療にも積極的に参加している。臨床研修医に対しては初期研修で習得すべき基本的手技・知識を始め、救急診療で必要な技能の取得を目標に教育している。

3. 診療体制

- | | |
|---------------|--|
| 1) 麻 酔 管 理 | : 手術の麻酔を毎日 6 列管理している。 |
| 2) 集 中 治 療 | : I C U 6 床の管理を担当医主治医制で行っている。
24 時間、集中治療医として麻酔科スタッフが常駐している。 |
| 3) ペインクリニック外来 | : 月曜日、木曜日（6 月まで）に行っている。 |
| 4) 緩 和 ケ ア | : 病棟ラウンド業務を週 2 回（水曜日・金曜日）、カンファレンスを週 1 回（水曜日）担当している。 |
| 5) 呼吸器ケアチーム | : ラウンドを週 1 回、カンファレンスを週 1 回担当している。 |
| 6) 術 前 診 察 | : 月曜日から金曜日の午前中に行っている。 |

4. 診療実績

全身麻酔件数	3,215 件
脊椎麻酔件数	566 件
ペインクリニック外来延患者数	1,451 人（初診 13 人）
I C U 延患者数	1,767 人（実数 525 人）

5. 教育活動

八尾消防署の救急救命士 3 名に対して気管挿管実習を、3 名に対して特殊気管挿管具（Airway scope®）使用での気管挿管実習を行った。

放射線科の現況（放射線科・放射線診断科）

1. スタッフ

部 長 吉田 重幸
特任部長 荒木 裕
医 長 金澤 達
応援医師 7名（CT、MRI読影） すべて放射線診断専門医
技 師 長 平井 良介
技師長以下技師 18名、看護師 8名

2. 診療内容

一般撮影検査、X線CT検査、磁気共鳴断層（MRI）検査、消化管造影検査、血管造影検査、核医学（RI）検査など、画像検査全般およびその診断を行っている。

また、画像を治療に応用する以下のような手技（IVR; interventional radiology）を行っている。

- ・肝腫瘍に対する抗癌剤動注・塞栓術
- ・動脈性出血に対する緊急塞栓術
- ・バルン閉塞下逆行性胃静脈瘤塞栓術（BRTO）
- ・画像（超音波、X線透視、CT）ガイド下のドレナージ・生検など

他院からの依頼については原則的にCD-Rへの出力を行い、依頼元の医療機関に読影所見とともに提供している。

また、他院から当院に紹介された症例の検査画像について、フィルム、デジタル・データともに当科の画像データ・サーバーに取り込みを行っている（画像ファイリング）。

3. 診療体制

1) 現在稼働中の検査機器

一般撮影装置	3台
乳房撮影装置（トモシンセシス撮影可能）	1台
X線テレビ装置	2台（1台は内視鏡検査室に設置）
多列（80列）X線CT撮影装置	1台
MRI検査装置（1.5T）	1台
MRI検査装置（3.0T）	1台
血管撮影装置（cone-beam CT撮影可能）	2台
核医学検査装置（SPECT-CT）	1台

2) 一般撮影、乳房撮影、CT検査、MRI検査、RI検査は毎日（月曜日から金曜日の午前・午後）に施行している。

いずれの検査についても地域医療連絡室経由での近隣の医療機関からの依頼に対応している。

一般撮影、乳房撮影は随時、その他の画像検査は原則予約制で行っているが、緊急の依頼には通常の診療時間内外を問わず随時対応している。

また、C T検査は地域医療連絡室経由での近隣の医療機関からの依頼を中心に、土曜日にも検査を行っている。

- 3) 乳がん検診(土曜日)のマンモグラフィ撮影も行っている。
- 4) 診療放射線技師は2交代制、24時間体制で診療に当たっている。
- 5) C T、MR I、核医学検査については、常勤医師を中心に、応援医師、他科医師の支援のもと、全例について読影・診断を行っており、「画像診断管理加算2」を算定している。
一般撮影については、読影依頼のあるものについて診断を行っている。
- 6) 人間ドックについても、胸部X線撮影、消化管造影を当科にて施行し、読影を行っている。

4. 診療実績

X線C T検査件数は、ここ数年で急増しており、今後さらに検査依頼件数の増加が見込まれるが、1台の機械の稼働で対応できる件数の限界に達しており、検査の予約待ちが1から2週間を切ることが不可能となっている。既存の他の機器(64列)の利用、あるいは機器の新規増設など、早急な対応が望まれる。

また、夜間・休日の検査について、読影が翌朝あるいは休日明けとなり、リアルタイムに診療に活かされていない状況が続いており、診療上のデメリットとなっている(診断の質の担保ができていない)。今後遠隔診断を行うことができる環境を整えるよう病院としての努力が必要である。

5. 教育活動

スタッフは研究会、講演会、学会に積極的に参加し、研鑽に励んでいる。

診療放射線技師専門学校の学生を、実習生として年間数名受け入れている。

平成 30 年度 診療科別検査件数

(単位：件)

検査種類 診療科	件数	一般撮影検査			透視造影検査			血管造影検査			核医学検査		
		全件数	内、入院 件数	日平均	全件数	内、入院 件数	日平均	全件数	内、入院 件数	日平均	全件数	内、入院 件数	日平均
内 科		4,015	871	16.5	18	18	0.1	495	477	2.0	252	32	1.0
血 液 内 科		498	294	2.0	0	0	0.0	2	2	0.0	1	0	0.0
消化器内科		2,055	1,385	8.4	318	310	1.3	58	58	0.2	5	1	0.0
循環器内科		3,936	2,586	16.1	1	1	0.0	1,291	1,229	5.3	307	98	1.3
腫 瘍 内 科		0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
外 科		9,093	5,579	37.3	443	396	1.8	51	49	0.2	7	2	0.0
乳 腺 外 科		2,369	74	9.7	0	0	0.0	0	0	0.0	223	139	0.9
脳神経外科		418	237	1.7	1	0	0.0	25	25	0.1	32	18	0.1
整 形 外 科		11,021	2,261	45.2	70	18	0.3	3	3	0.0	6	3	0.0
形 成 外 科		930	75	3.8	0	0	0.0	17	17	0.1	0	0	0.0
産 婦 人 科		600	165	2.5	32	12	0.1	1	1	0.0	1	0	0.0
小 児 科		2,409	615	9.9	23	19	0.1	0	0	0.0	7	1	0.0
眼 科		1	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
耳鼻咽喉科		757	42	3.1	0	0	0.0	0	0	0.0	2	1	0.0
泌 尿 器 科		2,496	429	10.2	256	129	1.0	8	8	0.0	155	5	0.6
皮 膚 科		0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
リハビリテーション科		6	6	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
麻 酔 科		1	1	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
放 射 線 科		185	15	0.8	0	0	0.0	3	3	0.0	107	0	0.4
歯科口腔外科		1,316	113	5.4	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
病理診断科		0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
救急診療科		5,168	235	21.2	25	12	0.1	91	69	0.4	2	0	0.0
健診センター		3,031	0	12.4	182	0	0.7	0	0	0.0	0	0	0.0
合 計		50,305	14,983	206.2	1,369	915	5.6	2,045	1,941	8.4	1,107	300	4.54

検査種類 診療科	件数	X線CT検査			MRI検査			骨密度			画像ファイリング			
		全件数	内、入院 件数	日平均	全件数	内、入院 件数	日平均	全件数	内、入院 件数	日平均	取込み	プリント	合計	日平均
内 科		1,570	196	6.4	365	61	1.5	23	0	0.1	432	509	941	3.9
血 液 内 科		346	117	1.4	53	19	0.2	0	0	0.0	22	23	45	0.2
消化器内科		1,491	384	6.1	733	92	3.0	16	5	0.1	254	289	543	2.2
循環器内科		438	162	1.8	87	29	0.4	0	0	0.0	68	304	372	1.5
腫 瘍 内 科		0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
外 科		4,129	575	16.9	658	109	2.7	0	0	0.0	555	540	1,095	4.5
乳 腺 外 科		736	26	3.0	144	2	0.6	347	3	1.4	472	254	726	3.0
脳神経外科		779	231	3.2	1,472	97	6.0	3	0	0.0	135	340	475	1.9
整 形 外 科		759	248	3.1	1,123	57	4.6	89	3	0.4	1,000	1,002	2,002	8.2
形 成 外 科		132	26	0.5	121	7	0.5	0	0	0.0	55	102	157	0.6
産 婦 人 科		330	36	1.4	364	28	1.5	9	0	0.0	104	86	190	0.8
小 児 科		49	18	0.2	276	53	1.1	11	6	0.0	131	165	296	1.2
眼 科		1	0	0.0	1	0	0.0	0	0	0.0	8	1	9	0.0
耳鼻咽喉科		737	38	3.0	320	13	1.3	0	0	0.0	183	79	262	1.1
泌 尿 器 科		1,470	87	6.0	518	18	2.1	52	0	0.2	227	96	323	1.3
皮 膚 科		0	0	0.0	7	0	0.0	0	0	0.0	0	2	2	0.0
リハビリテーション科		0	0	0.0	1	1	0.0	0	0	0.0	0	1	1	0.0
麻 酔 科		2	1	0.0	3	0	0.0	0	0	0.0	5	1	6	0.0
放 射 線 科		1,030	1	4.2	878	4	3.6	54	0	0.2	119	1,845	1,964	8.0
歯科口腔外科		630	22	2.6	27	1	0.1	0	0	0.0	272	219	491	2.0
病理診断科		0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急診療科		3,040	49	12.5	243	37	1.0	0	0	0.0	118	484	602	2.5
健診センター		1	0	0.0	155	0	0.6	54	0	0.2	0	8	8	0.0
合 計		17,670	2,217	72.4	7,549	628	30.9	658	17	2.7	4,160	6,350	10,510	43.1

放射線科の現況（放射線治療科）

1. スタッフ

特命院長 西山 謹司
医 長 豊福 隆将

2. 診療内容

当科ではがんの放射線治療を担当している。治療対象は脳腫瘍、頭頸部がん、肺がん、乳がん、食道がん、直腸がんなどの消化管がん、肝がん、膵臓がんなどの消化器がん、前立腺がん、膀胱がんなどの泌尿器がん、子宮頸がんなどの婦人科がん、悪性リンパ腫などの造血器腫瘍などほとんどすべてのがんにわたっている。また、骨転移の疼痛緩和などの緩和照射、良性疾患であるケロイドの発生予防の照射も行っている。

平成 28 年 3 月からは照射装置（リニアック）が更新され、強度変調放射線治療（IMRT：対象疾患は前立腺がん、頭頸部がん、肺がん、脳腫瘍など）、体幹部定位照射（SBRT：対象疾患は早期肺がん、転移性肺がん、肝がん、転移性肝がんなど）なども可能となっている。

3. 診療体制

- 1) 初診外来：月曜日の午前・午後（西山謹司特命院長）
木曜日の午前・午後（豊福隆将医長）
院内だけではなく、院外の初診患者も当科で直接受け付けている。
- 2) 放射線治療中、治療後の患者の診察：放射線治療後の患者
火曜日の午前・午後（西山謹司特命院長）
水曜日の午前・午後（豊福隆将医長）
- 3) 院外からの放射線治療についての電話の問合せにも応じている。
- 4) 入院診療：通院が困難な患者に対し、当科入院にて放射線治療を行っている。

4. 診療実績

代表的な新患症例

（単位：件）

乳がん	101	消化管がん（食道がん・直腸がんなど）	30
前立腺がん	68	肝・胆・膵がん	16
肺がん	64	造血器腫瘍（悪性リンパ腫など）	6

平成 30 年度の新患者数は 302 人であり、主な疾患は上記のとおりである。この中で近隣の主要病院から放射線治療科に直接紹介された患者は 40 人（13%）あった。

照射件数は 7,486 件であり、その中で強度変調放射線治療（IMRT）は 5,187 件（69.3%）を占める。IMRTの主な対象疾患は前立腺がん 54 件、肺がん 47 件などであった。体幹部定位

照射（S B R T）は肺がん 21 件、肝がん 8 件の合計 29 件行った。

新入院患者数は平成 30 年度 14 人となっている。

歯科口腔外科の現況

1. スタッフ

部 長 濱口 裕弘
副 医 長 西村 奈穂
嘱託医師 鈴木 真央（平成 31. 2. 28 退職）
歯科衛生士 永岡 照美、山本 かおり

2. 診療内容

歯科口腔外科では外来診療ならびに入院診療を行っている。診療は、歯肉の切開や骨の削除を必要とする埋伏歯の抜歯はもとより腫瘍や嚢胞・外傷・感染症をはじめとする顎口腔疾患の治療を行っている。また、心臓疾患などの基礎疾患を有する患者の抜歯や歯科処置は院内各科との連携をとりながら行い、病院歯科として地域医療に貢献できるよう取り組んでいる。なお、当科での診療は、基本的には一般のかかりつけ歯科医院からの紹介により口腔外科を主体とした臨床を行っており、う蝕や歯周病・歯牙欠損による補綴などの一般歯科治療は入院患者のみを対象としている。平成 25 年度から外科系の手術前後の口腔ケア（周術期口腔ケア）を行っている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：午前は初診、再診患者の診察を行い、午後は外来手術を行っている。
外来手術は埋伏歯抜歯術が半数以上を占めている。その他、のう胞摘出術、腫瘍摘出術、インプラント植立術なども行っている。
- 2) 入院診療：ベッド数は 5 床であり、手術は毎週金曜日に行っている。

4. 診療実績

外来初診患者数	2,981 人
新入院患者数	171 人
紹介率	52.2%
外来手術件数	1,209 件
入院手術件数	153 件
全身麻酔症例	87 件

前年度に比較して初診患者数は 2,900 を越え右肩上がりで増加した。入院手術件数は減少したが売り上げは前年とあまり変わっていない。入院件数も減少しているが化学療法などの症例が増えたためと考えられる。全身麻酔手術件数も 87 例と減少しているが外来手術件数はあまり変わっていない。紹介率はほぼ 50% で、これは周術期口腔ケアの患者が増えた影響と考えられる。

入院ではベッド数は定床 5 に対して 3.2、平均在院日数約 5.8 日で稼動していた。入院手術は例年の如く抜歯術と顎骨のう胞摘出術が多数を占めていた。その他、顎骨骨折、悪性腫瘍手術を行った。悪性腫瘍手術では腫瘍の切除は 24 例と減少した。今年度は遊離皮弁再建を行わなかった。

代表的な入院手術件数 (単位：件)		代表的な外来手術件数 (単位：件)	
のう胞摘出術	37	歯根のう胞摘出術・歯根端切除術	44
消炎術（含：腐骨除去）	8	口腔内消炎手術	12
抜歯術	62	口唇粘液のう胞摘出術	10
骨折手術	12	創傷処理口腔内外縫合術	11
顎下腺摘出術（含む唾石）	2	埋伏歯抜歯術	608
顎変形症手術	1	難抜歯術	134
歯肉癌手術	12		
舌癌手術	4		
その他の口腔癌手術	4		
全頸部郭清術	4		

外来では埋伏歯抜歯が手術件数の半数以上を占め、ついで難抜歯術・のう胞摘出術・歯根端切除術など歯牙関連疾患の手術がほとんどで、これは例年の傾向と同様であった。埋伏歯抜歯が減って難抜歯が増加した。

5. 教育活動

本年度も引き続き大阪大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修プログラム A（複合型）に参加し歯科研修医を受け入れている。今年度も研修医を受け入れた。

行岡学園、大阪歯科学院専門学校・大阪歯科大学衛生士学科の歯科衛生士実習を受け入れており、今年度も実習を行った。

病理診断科の現況

1. スタッフ

部 長 竹田 雅司
嘱託医師 明里 知美
応援医師 眞能 正幸、笹平 智則、田原 紳一郎
係 長 政岡 佳久（臨床検査技師）、福田 文美（臨床検査技師）
係長以下臨床検査技師 5 名

2. 診療内容

病理診断科では、病理専門医 1 名と病理専修医 1 名、技師 5 名が緊密な協力体制をとって手術・生検標本の病理組織診断と細胞診、病理解剖を行っている。さらに、大阪医療センター、大阪大学、奈良医科大学より病理専門医の応援を得て、迅速・正確な病理診断・細胞診断ができるような体制を構築している。当院はがん診療連携拠点病院でもあり、腫瘍の診断・治療が診療の大きな柱で悪性腫瘍か良性病変かの病理診断が非常に大きなウエイトを占めている。有効ながん治療を行うために、良悪の判定のみならず、悪性度判断や治療に対するコンパニオン診断など、必要に応じて院内での免疫組織化学染色や外注検査による遺伝子学的検索も行い、最終診断とともに臨床に対して付加的な情報提供を行っている。がん手術の現場においては、術中迅速組織診・細胞診をおこない、およそ 20 分で術中病理検索が可能な体制をとっている。平成 30 年度は組織診・細胞診件数は 6,000 件を超えており、中でも術中迅速組織診の件数が多い。件数は横ばいながら、少ない病理医・病理技師、限られた検査機器での対応は厳しい状況となっている。しかし全員の協力、臨床各科の協力により対応している。日常業務とともに病理専修医の教育も必要であるが、専修医の能力が上がるにつれ業務の効率は徐々に良くなってきている。技師とともに診断の質を保ちがん治療に有益な病理診断報告を常に心がけ業務にあたっている。平成 23 年初めより開始した乳癌・胃癌のHER2 遺伝子増幅検査は順調に稼働している。

診断困難症例については他院病理医へのコンサルテーションや病理学会コンサルテーションシステムも活用している。細胞診についても、液状細胞診を導入し細胞検査士と細胞診専門医の両者の協力、および随時臨床医との検討も行い、できるだけ正確な情報を臨床に与えることができるように心がけている。

通常の診療に加え、乳腺外科医、放射線診断医、放射線治療医、細胞検査士、超音波検査士、乳癌専門看護師と共に乳腺カンファレンスを週 1 回、婦人科医、放射線診断医、細胞検査士と共に婦人科臨床・病理についてのカンファレンスを月 1 回行っている。さらに、剖検例については全例に対し臨床病理検討会（CPC）を施行、多数の職員の参加を得て今年度は 8 回開催した。

3. 診療体制

病理組織診・術中迅速組織診・細胞診・病理解剖のいずれも月曜日から金曜日の毎日、受付を行い、対応している。生検組織診については、おおむね2から3日、手術標本については約6週間以内に最終診断ができるような体制をとっている。細胞診に関しては、およそ1週間で結果報告をしている。

4. 診療実績

	件数(件)	標本枚数(枚)
病理組織診	6,489	27,466
術中迅速組織診(内数)	419	1,212
免疫組織染色	1,364	—
細胞診	6,478	9,983
病理解剖	6	—

病理診断業務は昨年度と比較して、手術室の空きがほとんどない状況を反映して、組織診術中迅速組織診件数はほぼ変わりのない数となった。しかし、術中迅速組織診は年間400件を超えており、臨床各科の診療実態を反映していると思われる。免疫組織化学染色は治療上必要なコンパニオン診断の必要性もあり、増加傾向となっている。病理解剖は6件で、CPCは8回行うことができた。病院規模に比べ病理検査件数は多く、病院の活発な診療実績を反映している。

5. 教育活動

竹田雅司部長は、大阪市立大学医学部の非常勤講師として、医学部の3回生に乳癌の病理についての講義を年1回行っている。

集中治療部の現況

1. スタッフ

部 長 池田 嘉一（平成 31. 3. 31 退職）

2. 診療内容

当院 I C U は外科系患者、循環器をはじめとした内科系患者、救急患者、小児患者の重症例の受け入れを行っている General I C U の特徴がある。

【主要疾患】

胸部外科術後患者、腹部外科術後患者、脳神経外科術後患者、重篤な合併症を有する外科系術後患者の集中治療を行っている。また敗血症患者、心筋梗塞患者、心不全、重症肺炎などの内科系疾患の集中治療、小児重症患者にも対応している。

【主要検査】

血液ガス分析、電解質乳酸分析、循環動態モニター、各種エコー（経食道エコーはなし）、HD、CHDF

3. 診療体制

I C U 担当医師が交代制で 365 日 24 時間常駐し、臨床工学士 1 名が対応できる体制をとっている。

主治医、各チーム医療スタッフと看護師 19 名（呼吸ケア認定看護師 8 名、透析技術認定士 3 名）が、迅速に連携して、常に最善の集中治療とケアを遂行できるようにしている。

ベッドは 6 床で運営しており、毎朝 8 時 30 分から集中治療室患者のカンファレンスを主治医とともにやっている。

4. 診療実績

平成 30 年度 I C U 延患者数は 1,767 人であった。7 日以内の入床が 74.9% 以上、8-14 日の入床は 11.5%、14 日超入床は 13.6% であった。人工呼吸施行患者は 129 人、血液浄化（HD、CHDF、PE、PMX）施行患者は 35 人であった。

救急診療科の現況

1. スタッフ

部 長 馬場 貴仁
看護係長 蓬郷 千里
看護係長以下看護師 4 名

2. 診療内容

当科では 24 時間 365 日、断らない救急を目指している。そのためには空きベッドの確保が大切であり、地域医療機関との連携強化を図っている。また、正確な診断よりも正確なトリアージが行えるようシステム作りを行っている。入院すべきであった患者を帰し予後の悪化につながることの無いよう、オーバートリアージをある程度許容できる体制を目指している。

3. 診療体制

日勤時間帯は月曜午後、水曜午前の時間帯を除き、馬場貴仁部長及び臨床研修医、専攻医が協力して救急診療を行っている。月曜午後、水曜午前の時間帯は専攻医が輪番で診療を行っています。専門性を要する場合は各科と連携しながら診療にあたっている。日勤時間帯は全科受け入れが可能であり、夜間休日にもオンコール体制によってそれに準ずる診療を行っている。

その他、夜間休日は患者様のみならず他の病院や警察などからの問い合わせにも対応している。

4. 診療実績

平成 30 年度の救急取扱延患者数は 22,815 人（前年度 21,699 人）、うち搬送患者数 4,664 人（前年度 4,026 人）、うち入院患者数は 2,876 人（前年度 2,631 人）であった。

5. 教育活動

救急外来は臨床研修医にとって on the job training の場としての役割も大きく、1 年目の臨床研修医は 2 か月間の救急ローテーションが必修となっている。また、毎週木曜日 7 時 30 分から早朝カンファレンスを行い、1 年目、2 年目の臨床研修医を対象に実際の症例検討を実施している。

その他、BLS、ACLS の院内講習も救急診療科看護師が主として担当している。

中央手術部の現況

1. スタッフ

部 長 上水流 雅人（兼泌尿器科医長）

看護師長 松川 麻由美

看護師長以下看護師 24 名、看護補助者 1 名

2. 活動状況

平成 30 年度の総手術件数は 4,699 件となり、昨年より 365 件増加している。全身麻酔による手術件数も 3,215 件で、大手術も増加している。今後も手術件数が増加すると現在の 7 室の手術室では数年のうちに地域の手術需要に対応できなくなる可能性が高く、手術室増設の準備を始めている。全麻患者に対する術前後の病棟訪問も従来通り継続しており、術中のみならず、周術期の身体的および精神的ケアに寄与している。手術部看護師はこれまで同様、患者・部位・術式を術前に担当医および麻酔科医と厳重に確認し、ミス予防を図っている。手術看護認定看護師の認定資格を取得した看護師もあり、技術の向上に努めている。

以上、患者が安心して快適に手術治療を受けられるようにスタッフ一同努力している。

3. 診療実績

手術件数の推移

（単位：件）

平成 28 年度	4,076
平成 29 年度	4,334
平成 30 年度	4,699

手術件数及び麻酔項目

（単位：件）

手術件数	4,699
全身麻酔	3,215
脊椎麻酔	566

通院治療センターの現況

1. スタッフ

医 長 井出 義人（兼外科部長）（平成 31. 3. 31 退職）
看護係長 柚木原 和子（平成 31. 3. 31 退職）
看護係長以下看護師 7 名

2. 診療内容

がんに対する主な治療法としては、「手術療法」、「放射線治療」、「薬物療法」があり、がんの種類や進行度に応じてこれらの治療法が単独あるいは併用で適切に選択され、安全に実施される必要がある。近年、化学療法で用いられる薬剤として「抗がん剤」「ホルモン剤」「分子標的治療薬」「免疫チェックポイント阻害剤」など種類も増え、その効果も期待できるようになり、化学療法の果たす役割も大きくなっている。薬物療法を効果的にしかも安全に使用するためには、使用する薬剤の特性を理解し、有害事象に適切に対応し実施する必要がある。通院治療センターでは、種々の癌腫に対する薬物治療が外来で安全に行われ、患者のQOLが保たれるような治療環境を整備するように心掛けている。平成 27 年 6 月 8 日より本館 4 階へ移転し、9 床から 16 床へ増床となり、より快適な治療環境を提供できるようになった。

3. 診療実績

平成 30 年度の化学療法総数は 5,061 件と過去最高となった。化学療法前オリエンテーションを通院治療センターでは積極的に行っているが、平成 30 年度は新規患者 291 例に対し、98.3%に対し施行できている。今後、すべての患者に提供できるよう、化学療法担当医師への協力をお願いしている。

4. 教育活動

化学療法に対する知識の共有・啓蒙活動として、院内セミナーを定期的に実施している。平成 30 年度はアピアランスケアに関する院内講習会を年 2 回（6 月と 11 月）に開催した。また「大腸がんとその治療について」というテーマでの市民公開講座を平成 30 年度 9 月 15 日に開催した。学会・研究会での発表では、「アピアランスの導入から現在までの振り返り」（日本臨床腫瘍学会：島田敏江主任看護師、ほか）、「男性患者中心のアピアランス講座-男性独自の心理も踏まえた対応を考える。」（関西がんチーム医療研究会：島田敏江主任看護師、ほか）、「男性患者中心のアピアランス講座～男性薬剤師からの視点」（日本癌治療学会：佐藤美代子看護部科長、ほか）の発表を行った。アピアランスケアは島田敏江主任看護師を中心として他院に先駆けて積極的に取り組んでおり、啓蒙活動を含め今後も重点的に進めていく予定である。

◆診療科別 外来化学療法・ホルモン療法延べ人数

(単位：人)

	30 年									31 年			年度計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
外 科	49	45	46	44	56	39	50	52	63	57	62	68	631
消化器外科(大腸)	86	97	88	79	96	76	93	76	69	84	67	56	967
呼 吸 器 外 科	31	37	41	33	37	43	41	52	42	49	52	50	508
乳 腺 外 科	96	104	88	108	98	102	115	124	125	138	118	112	1,328
消 化 器 内 科	18	21	19	19	18	13	15	18	16	19	18	18	212
血 液 内 科	50	62	61	55	73	44	52	54	71	57	58	49	686
泌 尿 器 科	33	37	36	37	40	34	43	42	42	43	45	46	478
産 婦 人 科	25	20	14	19	20	14	22	17	17	13	14	22	217
口 腔 外 科	0	0	0	1	2	4	6	6	4	4	4	3	34
化学療法計	388	423	393	395	440	369	437	441	449	464	438	424	5,061
乳 腺 外 科	19	25	18	18	26	20	28	31	30	24	23	23	285
泌 尿 器 科	114	83	102	111	103	101	113	94	125	111	89	110	1,256
ホルモン療法計	133	108	120	129	129	121	141	125	155	135	112	133	1,541
総数	521	531	513	524	569	490	578	566	604	599	550	557	6,602

内視鏡センターの現況

1. スタッフ

医 長 榊原 充（兼消化器内科部長）
応援医師 中瀬 栄之、巽 理、滋野 聡
看護係長 藤原 美智代
看護係長以下看護師 5 名

2. 診療内容

- 1) 上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、小腸ダブルバルーン内視鏡検査
⇒うちNB I 拡大内視鏡検査、経鼻内視鏡検査（上部消化管）も適宜施行。
- 2) 内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）、超音波内視鏡検査（EUS・IDUS）
- 3) 粘膜下腫瘍、膵腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診検査（EUS-FNA）
- 4) 吐血時などの緊急内視鏡検査、引き続きに行う内視鏡的止血術
⇒EVL、高周波凝固止血など
- 5) 早期胃癌などに対する、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）
- 6) 胃、大腸腫瘍に対する、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、ポリープ切除術（polypectomy）
- 7) 静脈瘤に対する、内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）、内視鏡的硬化療法（EIS）
- 8) 総胆管結石に対する、内視鏡的乳頭切開術（EST）、内視鏡的乳頭拡張術（EPBD）
- 9) 胆、膵など悪性腫瘍による閉塞性黄疸に対する、内視鏡的胆道ドレナージ（EBD）
- 10) 誤嚥、胃内圧改善のための、胃瘻造設術（PEG）
- 11) 異物誤飲に対する、内視鏡的異物除去術（特にPTP包装）
- 12) 経鼻内視鏡を使用したイレウス管挿入、大腸内視鏡を使用した経肛門的イレウス管挿入
- 13) 食道アカラシアや術後狭窄に対する、内視鏡的消化管拡張術
- 14) 気管支鏡検査

など主に内視鏡を使用し行う検査、治療全般。

また他に以下のような透視装置・超音波を使用した処置も行っている。

- ・PTCD（経皮的胆道ドレナージ）
- ・PTAD（経皮的肝膿瘍ドレナージ）
- ・肝嚢胞穿刺

3. 診療体制

主に月曜日から金曜日の午前を主に検査手技、午後より主に治療的手技を行っている。また、夜間緊急内視鏡も適宜行っている。

4. 診療実績

検 査 件 数

(単位：件)

上部消化管内視鏡	3,066
下部消化管内視鏡	2,232
透視合計	268
E I S / E R C P	191
P T C D / P T A D / P T G B D	17
イレウス管／大腸ステント	35
気管支鏡検査	25

5. 教育活動

- ・適宜、初期研修医向けの勉強会を行った。上部・下部内視鏡トレーニングモデルを用いている。
- ・消化器内視鏡専門医指導施設として J E D (Japan Endoscopy Database) システムの導入が決定されている。(J E D への登録実績をもって専攻医の経験実績登録と見なされる。)
- ・3年目4年目レジデントを対象に肝穿刺治療トレーニングモデル(オリンパスより期間限定無償貸与)を用いた肝穿刺講習会を行った。

糖尿病センターの現況

1. スタッフ

部 長 木戸 里佳（兼内科医長）
医 長 上田 高志（兼内科医長）、久保 典代（兼内科医長）、
辻 真由美（兼内科医長）（平成 31. 3. 31 退職）
副 医 長 金丸 洋蔵（兼内科副医長）
応援医師 正田 英雄
看護係長 奥田 清美
看護係長以下看護師 3 名
医師事務作業補助者 1 名

2. 診療内容

1 階の糖尿病センターで、糖尿病専門外来を行っている。糖尿病専門医の他に、糖尿病センター専属の看護師、管理栄養士、医師事務作業補助者がスタッフとして常駐し、多職種から成る『糖尿病診療チーム』を構成して、糖尿病診療を行っている。平成 27 年 9 月からは、限定的ではあるがチームに臨床心理士も加わり、より多面的に糖尿病患者の指導を行うべく工夫を重ねている。また早期腎症以上の腎臓合併症を有する患者を対象に、透析予防を目的として、毎回受診時に、看護師による問診・療養指導、管理栄養士による個別の食事指導を行っている（糖尿病透析予防指導）。透析予防指導対象外の患者についても、必要に応じて、療養指導、栄養指導、薬剤指導など個別の指導を随時行っている。循環器内科、腎臓内科など他科との連携も積極的に行い、集学的治療を目指している。患者毎に胸部 X 線、心電図をはじめ、心臓・腹部・頸動脈の超音波検査などを定期予定検査として実施し、糖尿病患者に多くみられる大血管障害（動脈硬化）や悪性疾患の早期診断・治療にも取り組んでいる。合併症の進行した患者の足切断につながる足壊疽などの予防を目的に、看護師による足および神経障害のチェックを含めたフットケアも定期的実施している。下肢血流評価も実施し、必要に応じて循環器内科医および形成外科医と積極的な連携を図っている。

平成 25 年度から 1 型糖尿病あるいは妊婦をおもな対象とするインスリンポンプの導入を開始し、持続血糖モニター（CGM）も導入した。近年、個人用の CGM と連動する新たなインスリンポンプ（SAP）が登場し、現在当院でもインスリンポンプ療法は SAP が主流になっている。さらに、新しいタイプの血糖測定器（FGM）が保険適用となり、当院でも導入し運用を開始した。インスリンポンプ治療の対象となる患者には積極的に導入を勧め、チームでの管理・指導を継続して行っている。またインスリンポンプ導入症例を主な対象者として、カーボカウント法の指導も行っている。このようにより専門的診療を積極的に取り入れ、他のメディカルスタッフとともによりよい糖尿病診療、とくにチーム医療の実践に取り組んでいる。糖尿病治療においては自己管理が非常に重要であり、とくに糖尿病教育に重点を置き、教育入院も積極的に行っている。

地域連携および地域の糖尿病診療のレベル向上を目的に、他の医療機関で糖尿病診療に携わる

医療スタッフとの勉強会を定期的を開催するなど、地域医療への貢献にも、糖尿病診療チームとして積極的に取り組んでいる。

3. 診療体制

外来診療：月曜日から金曜日の毎日、予約制の専門外来を行っている。初診外来は、月曜日、水曜日、木曜日、金曜日の午前に予約制で診療している。平成 27 年 1 月から地域の医療機関より新規に患者をご紹介頂く際に使用できる新たな連絡票の運用を開始し、ご要望に対してより適切な対応を行うことで、さらなる地域連携の活性化を目指している。療養指導、フットケア、個別食事指導、服薬指導は、必要に応じて随時行っている。

4. 診療実績

外来延患者数は 8,054 人であり、そのうち糖尿病透析予防指導管理料を算定した延患者は 1,390 人、糖尿病合併症管理料を算定した延患者は 287 人、在宅療養指導料を算定した延患者は 1,229 人、在宅自己注射導入期加算を算定した延患者は 422 人であった。糖尿病教育入院患者数は 166 人であった。8 月を除く毎月第 3 木曜日（13 時から）に、医師・薬剤師・管理栄養士など糖尿病診療チームスタッフによる糖尿病教室を開催しており、当院糖尿病患者会（いちょう会）会員をはじめ多くの一般市民に参加頂いている。延参加者数は 298 人、月平均 27.1 人であった。

5. 教育活動

臨床研修医 4 名に対して、入院患者を中心にした診療の研修を行った。また大阪大学医学部の学生 5 名（5 回生）の臨床実習を受け入れ、5 日間実施した。

健診センターの現況

1. スタッフ

特任部長 山本 俊明

看護師 1名

2. 診療内容

健診の主な業務として、

- 1) 特定健診、大腸がん検診、乳がん検診
- 2) 企業健診、就職・受験時健診、海外渡航時などの健診
- 3) 公害検診、被爆者検診
- 4) 人間ドック、脳ドック
- 5) 予防接種（インフルエンザなど）を行っている。

人間ドックの受診希望者数はほぼ一定している。全受診者数ほぼ前年と変わらない。

3. 診療体制

月曜日から金曜日の午前中に特定健診・一般健診、午後に予約検診・予防接種を行っている。

半日人間ドックを週2回（月曜日・水曜日）、脳ドックを月2回（火曜日）行っている。

4. 診療実績

（単位：件）

	30 年									31 年			年度計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
特 定 健 診	6	79	67	56	34	58	95	94	56	41	101	145	832
一 般 健 診	33	51	17	26	23	22	45	30	19	25	41	82	414
人 間 ド ッ ク	32	43	42	47	42	39	71	71	42	41	40	42	558
脳 ド ッ ク	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	7
脳MRI／MRA	10	15	14	15	13	10	15	7	9	10	6	13	137
乳 が ん 検 診	130	106	157	137	92	132	169	103	145	107	124	175	1,577
子 宮 が ん 検 診	55	62	61	40	62	54	75	59	45	48	40	50	651
公 害 検 診	54	39	34	37	38	31	26	32	18	23	27	33	392
大 腸 が ん 検 診	8	10	18	14	11	10	17	25	6	4	16	18	157
企 業 健 診	0	8	0	0	0	9	0	13	0	10	29	5	74
被 爆 者 検 診	0	48	0	0	0	0	57	0	13	50	0	0	168
職 員 健 診	31	0	8	2	3	4	10	6	0	2	3	3	53
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	37	862	163	37	0	0	1,062
肺炎球菌ワクチン	3	6	2	20	5	8	11	9	11	10	9	7	101
B型肝炎ワクチン	0	0	17	17	6	0	0	0	0	16	0	0	50
計	363	472	434	411	324	377	628	1,311	527	387	437	575	6,252

中央検査部の現況

1. スタッフ

医 長 服部 英喜（兼血液内科部長）

技 師 長 浅岡 伸光

技師長以下臨床検査技師 23 名（市職員 9 名、市嘱託職員 5 名、P F I 協力企業職員 9 名）

2. 診療内容

◆検体検査

検体検査室では、生化学検査、血液・凝固学検査、一部の免疫学検査、尿一般検査、輸血検査の 5 分野について院内検査項目として 365 日 24 時間の緊急検査体制を実現し、常に迅速かつ正確な検査結果の報告を心掛けている。また、染色体検査や遺伝子検査などの高精度な特殊検査についても臨床医のニーズに合わせ、外注検査項目として幅広い検査分野の委託を可能にしている。

◆細菌検査

細菌検査室では、一般細菌の塗抹検査、培養・同定検査、薬剤感受性検査、抗酸菌の塗抹検査を実施している。また、検査業務に加え、院内感染情報を集計・解析し情報提供することで院内感染の防止に積極的に貢献している。

◆生理検査

生理検査室では、心電図検査、脳波検査、呼吸機能検査、血圧脈波検査、自律神経検査、超音波検査を行っている。心電図や呼吸機能検査などの予約のない検査では、待ち時間が長くないよう、スタッフ間の連携を保ち効率よく検査が進むように努めている。

超音波検査では、約 7 名の技師（超音波検査士 5 名、血管診療技師 4 名）で検査を行っている。検査項目は心臓、血管（頸動脈、腎腹部血管、末梢動脈、末梢静脈、シャント、血管内皮機能）、腹部、甲状腺、乳腺、表在・整形外科領域と多岐にわたる。基本予約制であるが、近年の緊急依頼の増加にも柔軟に対応している。また、病診連携では地域医療連携室を通した院外の超音波検査を随時受け入れている。

3. 教育活動

細菌検査室では、臨床研修医オリエンテーションにてグラム染色手技の指導などを行い、リンクナースに対して細菌検査についての講義を行っている。

超音波検査室では、臨床研修医に対する超音波検査の講義や技術指導を積極的に行い、中河内地区における勉強会も積極的に開催し、院外の医師や技師との交流を深めている。また、部内カンファレンスを定期的に行い、検査の幅広い知識や技術向上に努めている。

◆検体検査

(単位：件)

	30 年																		31 年						年度計
	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月		
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	合計
血液ガス	148	210	118	182	132	196	103	221	92	217	105	179	88	172	132	202	124	188	93	212	80	165	128	178	3,665
尿 検 査	648	2,197	736	2,537	653	2,412	682	2,371	674	2,511	542	2,122	714	2,573	710	2,544	678	2,709	746	4,079	670	2,803	716	2,736	39,763
糞便等検査	20	122	22	136	21	118	20	117	14	96	15	102	30	140	16	152	17	142	19	107	23	136	21	142	1,748
血液学検査	2,732	4,929	2,951	5,308	2,928	5,201	2,920	5,405	2,865	5,706	2,487	4,669	2,911	5,626	2,870	5,354	2,702	5,151	2,697	5,605	2,527	5,170	2,721	5,447	96,882
凝 固 検 査	583	1,033	623	1,106	624	1,096	640	1,143	559	1,234	472	924	637	1,256	685	1,131	638	1,127	677	1,227	626	1,114	724	1,222	21,101
生化学(Ⅰ)	2,813	4,966	3,082	5,438	3,003	5,288	3,004	5,471	2,979	5,784	2,556	4,743	3,029	5,703	2,973	5,453	2,794	5,257	2,795	5,699	2,633	5,206	2,867	5,502	99,038
生Ⅱ内分泌	279	823	239	865	233	889	248	882	251	925	182	768	266	943	233	919	217	899	244	942	252	884	257	1,006	13,646
生Ⅱ甲状腺	52	325	55	341	61	362	65	376	55	402	51	348	46	405	68	405	37	403	52	405	65	419	54	479	5,331
生Ⅱ腫瘍	132	1,505	146	1,568	130	1,491	160	1,577	140	1,548	121	1,435	141	1,717	161	1,642	117	1,536	164	1,712	128	1,555	147	1,602	20,575
免疫学検査	63	210	71	219	52	211	56	228	50	260	40	189	56	191	58	228	44	192	39	232	38	200	36	242	3,205
感染症検査	111	705	133	799	104	779	116	821	115	830	101	648	131	852	113	841	93	748	103	825	89	726	111	828	10,722
肝 炎 検 査	96	837	102	934	94	896	97	917	103	930	93	758	112	1,022	96	939	91	837	88	945	91	829	106	949	11,962
自 己 抗 体	44	207	61	229	55	215	52	196	49	240	41	201	62	215	65	247	33	223	40	225	22	216	52	255	3,245
アレルギー	14	86	10	82	18	82	12	83	11	100	10	85	5	69	12	66	9	57	8	77	8	69	8	123	1,104
微生物検査	43	112	51	136	36	113	56	153	40	169	30	122	58	162	46	197	31	144	45	156	36	114	34	122	2,206
病 理 検 査	5	12	8	20	3	14	7	14	4	17	4	15	2	21	6	12	7	17	4	14	4	10	3	16	239
負 荷 検 査	4	6	6	7	6	15	5	21	7	18	4	21	12	12	4	14	2	9	2	13	8	15	8	13	232
薬 物 検 査	33	33	23	36	31	34	41	56	19	58	31	25	35	29	25	31	16	43	18	25	21	31	22	41	757
輸 血 検 査	73	443	78	545	79	499	67	489	80	516	54	383	84	524	75	478	73	428	64	492	75	440	104	516	6,659
細胞機能	25	30	18	38	12	40	31	39	15	45	10	43	20	54	22	47	18	32	21	54	11	47	23	45	740
そ の 他	42	338	34	326	39	332	35	349	40	333	26	290	42	368	38	287	36	367	26	296	30	285	25	417	4,401
総 件 数	7,960	19,129	8,567	20,852	8,314	20,283	8,417	20,929	8,162	21,939	6,975	18,070	8,481	22,054	8,408	21,189	7,777	20,509	7,945	23,342	7,437	20,434	8,167	21,881	347,221

◆細菌検査

(単位：件)

	30 年																		31 年						年度計
	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月		
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	合計
一 般 細 菌 塗 抹	343	242	355	274	396	281	337	304	350	278	349	225	385	294	359	244	386	259	351	246	270	225	284	215	7,252
呼 吸 器 系 培 養	87	52	94	53	99	53	66	59	81	54	76	35	81	70	72	57	74	49	60	49	39	42	51	45	1,498
消 化 器 系 培 養	23	15	27	18	24	23	36	15	29	13	21	18	29	15	36	18	39	20	25	14	37	18	29	12	554
泌尿・生殖器系培養	32	122	45	143	37	144	46	143	41	157	41	101	60	130	56	121	66	108	48	108	22	102	29	110	2,012
血液・穿刺液系培養	158	96	157	113	181	104	169	125	165	103	160	96	174	102	161	77	173	102	185	97	143	92	145	92	3,170
その他の材料の培養	48	29	43	21	59	25	25	27	40	24	54	19	44	39	42	35	38	26	39	28	29	21	32	19	806
一般細菌嫌気培養	252	166	235	189	283	170	246	205	263	183	273	150	287	204	264	150	271	169	281	173	208	155	231	151	5,159
培養検査総件数	600	480	601	537	683	519	588	574	619	534	625	419	675	560	631	458	661	474	638	469	478	430	517	429	13,199
一般細菌感受性検査	346	245	359	276	402	282	343	307	357	282	353	239	388	313	369	257	392	268	361	265	275	235	286	227	7,427
感受性 1 菌種	57	59	54	73	70	66	89	62	46	78	65	55	81	82	80	72	66	76	68	73	48	70	46	60	1,596
感受性 2 菌種	19	11	14	13	18	12	19	22	27	11	13	12	18	13	15	14	19	9	12	13	19	8	15	8	354
感受性 3菌種以上	8	4	8	8	6	9	8	6	11	3	21	3	10	7	7	6	7	1	10	3	12	3	12	3	176

	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	合計
抗 酸 菌 塗 抹	29	15	19	16	25	11	27	20	35	27	17	10	33	28	20	22	36	24	31	17	25	22	30	18	557
結 核 菌 群 P C R	23	9	14	9	17	7	20	13	24	13	12	3	25	17	11	13	29	14	25	13	16	15	23	8	373
抗 酸 菌 P C R	11	7	12	8	16	3	11	12	22	12	8	3	21	11	8	9	20	12	22	9	9	12	19	6	283
抗酸菌液体培養	15	8	9	5	15	4	10	9	16	7	9	1	13	12	6	8	25	5	19	12	6	8	16	12	250
抗酸菌固体培養	13	8	9	10	8	8	18	11	18	16	8	9	18	16	11	14	11	18	12	5	16	15	14	6	292
抗酸菌同定検査	0	0	0	1	1	0	0	1	1	4	0	1	0	0	1	0	0	5	0	1	0	0	0	2	18
抗酸菌感受性検査	0	1	0	1	1	0	0	1	1	3	0	1	0	1	1	0	0	5	0	1	0	0	0	2	19

◆生理検査

(単位：件)

		30 年																31 年						年度計		
		4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月		11 月		12 月		1 月		2 月			3 月	
		入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	合計
心電図		147	839	168	1,049	141	923	156	972	166	972	129	772	161	1,100	164	1,035	154	900	137	974	158	1,024	160	1,112	13,513
負荷心電図		0	16	0	9	1	14	0	7	0	6	0	2	0	10	0	5	0	5	0	9	0	6	0	7	97
トレッドミル		0	16	0	15	0	14	0	16	0	16	1	14	0	13	1	14	0	10	0	11	0	11	0	9	161
ホルター心電図		0	78	7	79	2	72	5	67	3	71	5	57	1	75	2	76	6	65	1	67	3	71	0	70	883
自律神経機能検査(CVRP)		20	45	14	52	14	48	16	45	21	42	6	39	17	36	15	37	11	30	8	38	11	39	16	43	663
血圧脈波検査		68	152	55	150	46	125	47	118	42	136	44	104	63	113	51	129	46	94	34	114	38	113	43	108	2,033
携帯型心電図		8	5	2	5	0	5	20	306	0	4	0	7	0	9	0	6	0	5	0	3	0	6	0	5	396
24 時間血圧測定		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	3	1	1	0	1	0	0	0	1	0	2	12
皮膚灌流圧(SPP)		0	9	1	4	3	5	1	7	3	6	1	6	4	5	1	2	4	2	3	4	4	0	4	1	80
簡易PSG検査		0	0	0	0	1	0	0	6	0	0	0	1	1	0	2	2	0	0	1	1	0	0	3	1	19
肺機能		13	290	13	319	19	300	0	2	26	308	16	236	24	288	19	292	8	237	9	278	15	277	20	297	3,306
呼気一酸化炭素濃度測定		0	5	0	2	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	2	0	2	0	0	0	1	18
脳波		4	35	5	20	3	20	2	31	2	49	3	31	8	21	3	31	5	29	4	34	1	35	1	40	417
心エコー	心臓エコー	92	384	111	433	97	410	105	404	107	447	89	333	104	420	101	403	125	379	104	408	110	364	108	421	6,059
	経食道エコー	15	1	16	0	18	0	18	1	18	0	8	1	17	1	14	2	8	6	11	1	9	1	12	1	179
腹部エコー		77	350	95	418	81	424	92	409	70	453	45	375	89	477	73	475	52	410	70	408	59	384	64	419	5,869
その他	頸部血管エコー	30	53	23	59	21	54	26	40	16	51	21	43	34	41	22	59	12	39	15	30	20	43	20	44	816
	末梢静脈エコー	7	27	15	40	15	41	18	39	18	37	12	28	17	48	16	37	15	36	16	27	9	25	10	37	590
	末梢動脈エコー	11	48	9	35	7	35	7	36	10	31	11	24	17	36	9	41	16	32	6	28	7	24	17	22	519
	血管内皮機能検査(FIM)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	腎・腹部血管エコー	3	5	1	6	3	4	1	6	0	6	1	7	3	8	4	2	1	8	1	3	2	4	1	7	87
	甲状腺エコー	2	54	3	58	0	59	2	58	2	60	1	46	1	59	1	62	0	54	0	56	2	50	0	52	682
	乳腺エコー	0	42	0	43	0	41	0	47	0	52	0	28	0	53	0	49	0	38	0	52	0	54	1	66	566
	体表エコー	4	27	3	42	5	32	1	30	4	41	5	37	7	38	6	50	7	54	3	47	4	55	7	55	564
整形エコー		0	16	0	18	0	14	2	19	2	13	0	14	1	14	2	17	1	10	4	9	0	8	1	8	173

MEセンターの現況

1. スタッフ

センター医長 渡部 徹也（兼循環器内科部長）
臨床工学技士 長山 俊明、永山 幸樹、宮崎 甲司郎
PFI協力企業職員 5名

2. 業務内容

- 1) 臨床部門：高度な医療技術の進歩に伴い、ME機器の複雑多様化が進む中、それらの操作を行っている。臨床での医師をはじめとした、スタッフと医療機器を、円滑に結びつける医療工学の境界面を、簡便でより安全性の高いものになっている。中核病院としての機能を維持し、安全で良質な医療を提供している。多様性と専門性を両立し、患者、医療従事者にとって不可欠な存在となっている。激変する医療に対応できる柔軟な思考の醸成を行っている。
- 2) 機器管理部門：医療機器の中央管理体制をとり、機器の効率的利用と同時に、保守点検・整備・管理業務を担う事で、必要な時に・必要な機器を・必要な部門に、高い安全性をもって供給し、医療機器のライフサイクルコスト・デッドタイムの短縮を図っている。

3. 業務体制

- 1) 臨床部門：臨床工学技士3名にて、心臓カテーテル検査、集中治療室、透析室、手術室などにて業務を行っている。夜間・休日・緊急時にはオンコール体制をとっている。
- 2) 機器管理部門：PFI協力企業職員（臨床工学技士4名、業務スタッフ1名）にて機器管理、運営を行っている。夜間・休日・緊急時にはオンコール体制をとっている。

4. 業務実績

◆平成30年度 機器修理件数集計

(単位：件)

部署	外注修理	ME修理	合計	部署	外注修理	ME修理	合計
5 階 西	23	67	90	中央手術部	186	126	312
5 階 東	31	55	86	MEセンター	3	6	9
6 階 西	23	25	48	外 来	137	121	258
6 階 東	25	81	106	救 急 外 来	10	50	60
7 階 西	31	108	139	中央検査部	35	13	48
7 階 東	20	64	84	通院治療センター	4	17	21
8 階 西	17	51	68	内視鏡センター	51	26	77
8 階 東	21	95	116	放 射 線 科	136	45	181
I C U	17	26	43	薬 剤 部	42	7	49
N I C U	22	29	51	そ の 他	75	61	136

◆人工呼吸器

(単位：件)

部署	患者数	件数	部署	患者数	件数
5 階 西	0	0	8 階 西	3	11
5 階 東	5	104	8 階 東	4	51
6 階 西	3	22	I C U	129	704
6 階 東	0	0	N I C U	3	10
7 階 西	18	271	救急外来	4	4
7 階 東	2	4			

◆ペースメーカー

(単位：件)

新規埋め込件数	36
電池交換件数	7

◆カテーテル検査

(単位：件)

C A G 件 数	701	心 筋 生 検	701
待機のP C I 件数	294	右心カテーテル検査	48
緊急P C I 件数	82	上肢P T A 件数	52
E P S 件 数	43	下肢P T A 件数	178
A B L 件 数	216	腹部P T A 件数	8
(C r y o 件数)	49	I V C フィルタ件数	22
(H o t 件数)	2	総 件 数	1,605

◆補助循環

(単位：件)

	患者数	件数
I A B P	36	93
P C P S	0	0

◆血液浄化

(単位：件)

	患者数	件数
H D (7 東)	88	450
H D (I C U)	13	21
C H D F	10	84
P E	1	1
D H P	0	0
S P P	0	0
P B S C T	0	0
L C A P	0	0
G C A P	1	9
C A R T	16	17

◆平成 30 年度 機器定期点検件数集計（日常点検は除く）

（単位：件）

機 種 名	部 署	点検 件数	点 検 者	機 種 名	部 署	点検 件数	点 検 者
麻 酔 器	手 術 室	13	ME/メーカー	造影剤注入装置（アンギオ）	放 射 線 科	3	メーカー
人 工 呼 吸 器	各 部 署	36	ME	マンモグラフィー装置	放 射 線 科	2	メーカー
搬 送 用 呼 吸 器	5 西、ICU、NICU	2	ME/メーカー	アンギオ撮影装置	放 射 線 科	6	メーカー
体外式ペースメーカー	アンギオ室	4	ME/メーカー	上部消化管 X 線テレビ装置	放 射 線 科	1	メーカー
P C P S	アンギオ室	1	メーカー	内視鏡用 X 線テレビ装置	放 射 線 科	2	メーカー
I A B P	アンギオ室	1	メーカー	一 般 X 線 撮 影 装 置	放 射 線 科	3	メーカー
保 育 器	5 西、6 西、NICU	10	ME	移動型 X 線撮影装置	放 射 線 科	4	メーカー
インファントウォーマー	5 西、手術室、NICU	7	ME	D R シ ス テ ム 一 式	放 射 線 科	1	メーカー
搬 送 用 保 育 器	5 西、NICU	2	ME	全身骨密度測定装置	放 射 線 科	1	メーカー
除 細 動 器	各 部 署	22	ME	移動型 X 線透視装置	放 射 線 科	1	メーカー
心 電 図	各 部 署	11	ME	外科用 X 線透視装置	放 射 線 科	1	メーカー
セントラルモニター	各 部 署	24	ME	基 準 線 量 計	放 射 線 科	2	メーカー
電 気 メ ス	各 部 署	24	ME/メーカー	結 石 破 砕 装 置	放 射 線 科	2	メーカー
マルチカラーレーザー	眼 科 外 来	1	メーカー	調剤支援システム（薬袋プリンタ）	薬 剤 部	2	メーカー
Y A G レ ー ザ ー	眼 科 外 来	1	メーカー	全 自 動 錠 剤 分 包 機	薬 剤 部	2	メーカー
C O 2 レ ー ザ ー	耳鼻咽喉科外来	1	メーカー	全 自 動 散 薬 分 包 機	薬 剤 部	1	メーカー
輸 液 ポ ン プ	各 部 署	126	ME	全 自 動 散 薬 分 包 ロ ボ ッ ト	薬 剤 部	1	メーカー
シ リ ン ジ ポ ン プ	各 部 署	118	ME	注射薬自動払出システム	薬 剤 部	1	メーカー
無 菌 操 作 用 装 置	7 西	2	ME/メーカー	薬 液 滅 菌 装 置	薬 剤 部	1	メーカー
低 圧 持 続 吸 引 器	各 部 署	9	ME	卓 上 型 滅 菌 装 置	手 術 室	1	メーカー
人 工 透 析 装 置	7 東、ICU	6	メーカー	安 全 キ ャ ビ ネ ッ ト	薬剤部、細菌検査	2	メーカー
R O 水 製 造 装 置 (透 析)	7 東、ICU、薬剤部	3	メーカー	全 自 動 採 血 管 基 準 装 置	検 査 部	1	メーカー
自 動 精 算 機	医 事 課	4	ME	P A C S	放 射 線 科	1	メーカー
自動再来受付システム	医 事 課	3	ME	歯 科 デ ン タ ル 撮 影 装 置	歯科口腔外科外来	1	メーカー
リライトカードリーダー	低 圧 課、救 急 外 来、地 域 医 療 連 携 室	7	ME	歯 科 用 断 層 パ ノ ラ マ 撮 影 装 置	放 射 線 科	1	メーカー
診 察 券 発 行 機	低 圧 課、救 急 外 来、地 域 医 療 連 携 室	3	ME	サ ー ベ イ メ ー タ ー	R I 室	3	メーカー
リ ニ ア ッ ク	放 射 線 科	4	メーカー	ポ ケ ッ ト 線 量 計	R I 室	3	メーカー
C T (80 列 マ ル チ ス ラ イ ス)	放 射 線 科	4	メーカー	ナ ビ ゲ ー シ ョ ン シ ス テ ム	手 術 室	2	メーカー
位 置 決 め C T	放 射 線 科	2	メーカー	G P S シ ス テ ム	手 術 室	1	メーカー
R I (P E T 対 応)	放 射 線 科	3	メーカー	メ イ フ ィ ー ル ド 頭 部 固 定 装 置	手 術 室	2	メーカー
M R I (イ ン テ ラ)	放 射 線 科	1	メーカー	排 ガ ス 装 置	中央材料室	2	メーカー
M R I (ア チ ー バ)	放 射 線 科	2	メーカー	血 液 成 分 分 離 装 置	7 西	1	メーカー
造影剤注入装置（CT）	放 射 線 科	1	メーカー	製 氷 機	各病棟、ICU	18	メーカー
造影剤注入装置（位置決めCT）	放 射 線 科	1	メーカー				
造影剤注入装置（MRI 7チハ）	放 射 線 科	1	メーカー	合 計		536	

◆平成 30 年度 機器貸出件数集計

（単位：件）

	輸液 ポンプ	シリンジ ポンプ	ベッドサイ ドモニタ	自己血 回収装置	人工 呼吸器	低圧持続 吸引器	合 計		輸液 ポンプ	シリンジ ポンプ	ベッドサイ ドモニタ	自己血 回収装置	人工 呼吸器	低圧持続 吸引器	合 計
5 階 西	10	3	0	0	0	3	16	NICU	1	16	7	0	19	0	43
5 階 東	16	18	10	0	3	2	49	中央手術室	0	14	0	0	0	1	15
6 階 西	22	19	0	0	2	0	43	外 来	0	0	1	5	0	0	6
6 階 東	9	3	11	0	1	2	26	救急外来	1	2	0	0	6	0	9
7 階 西	34	28	19	0	1	1	83	通院治療センター	7	0	0	0	0	0	7
7 階 東	50	25	0	0	0	3	78	内視鏡センター	0	3	0	0	0	0	3
8 階 西	20	7	2	0	0	9	38	放射線科	3	5	0	0	1	0	9
8 階 東	20	7	16	0	1	16	60								
I C U	13	42	1	0	183	3	242	合 計	206	192	67	5	217	40	727

緩和ケアセンターの現況

1. スタッフ

部 長 蔵 昌宏(兼麻酔科医長)
応援医師 江川 功、大橋 順子(精神症状担当)、
義間 友佳子(身体症状担当)
看護係長 小林 啓子(緩和ケア認定看護師)、本多 紀子(緩和ケア認定看護師)

2. 診療内容

当院は平成 27 年 4 月から、地域がん診療連携拠点病院として、がん対策基本法ならびに第 2 期がん対策基本計画に準じた緩和ケアを提供できるよう診療体制の整備を進めている。

平成 30 年度の緩和ケアセンター所属スタッフは、主科のある院内紹介患者に対し、併診による緩和ケア提供を行い支援することを目的とした診療業務を担当した。

3. 診療体制

- ・がん看護専門外来(緩和ケア) 随時 (担当: 小林啓子看護係長・本多紀子主任看護師)
- ・身体症状緩和外来(院内紹介のみ) 水曜日 (担当: 義間友佳子医師)
- ・精神症状緩和外来(入院患者のみ) 火曜日・水曜日 (担当: 大橋順子医師・江川功医師)

4. 診療実績

緩和ケア認定看護師による緩和看護外来診療延患者数は 71 人、リンパ浮腫外来診療延患者数は 102 人、がん患者指導管理料算定件数(Ⅰ、Ⅱ)は計 416 件であった。医師による緩和ケア外来診療延患者数は、身体症状が 36 人、精神症状が 122 人であった。

5. 教育活動など

1) 院内外教育活動

P E A C E 緩和ケア研修会主催 1 回、院内緩和ケア研修会、緩和ケアリンクナース委員会勉強会、臨床研修医オリエンテーション、レジデントレクチャー、看護師ステップ 3・4 教育講義など、院内の知識と技術の向上のための勉強会に積極的に参画している。

中河内緩和ケアカンファレンス、なにわ緩和ケアカンファレンスなどの緩和ケア関連研修会への開催協力・発表・参加を精力的に行い、知識と技術の向上や啓蒙に努めている。

2) 体制整備

地域における緩和ケア提供体制や連携の整備については、地域がん診療連携拠点病院運営委員会や中河内がん診療ネットワーク協議会などで、関連部門が一体となり協議している。

3) 今後の展望

基本的な緩和ケアの提供体制は概ね整備できたと思われるが、来年度以後は、より専門的かつ質の高い緩和ケアを提供できるように、人員の確保や組織体制の改変をめざしていきたい。

栄養科の現況

1. スタッフ

係長 黒田 昇平（管理栄養士）

係長以下管理栄養士 5 名、P F I 協力企業職員 40 名

2. 業務内容

1) 病院給食業務

治療の一環として食事をとらせ、食事を通して疾病の改善に努めることを目標に食事提供を実施している。適時適温給食の実施、選択食の実施、行事食の導入により、美味しく食事をしていただくための努力をしている。

2) 栄養指導業務

食生活などの改善を目的とし、個々の疾病と生活習慣に合わせた個人栄養指導と、「糖尿病食事療法のための食品交換表」を用いて、糖尿病食事療法について理解して頂くことを目的とした集団栄養指導を実施している。

糖尿病センターにおけるチーム医療として、糖尿病透析予防指導管理の食事療養について個人栄養指導を実施している。

3) 栄養管理業務

栄養管理計画書の作成とN S T（栄養管理チーム）および緩和ケアチームへの参加により、入院中の栄養管理を行っている。チーム医療の一環として多職種による栄養管理が行われているなかで、食事など管理栄養士が担うべき側面から栄養管理活動を実施している。

3. 業務体制

病院給食に関しては、P F I 事業契約に基づいて運営されている。定例の栄養科会議や栄養士会議などを行うことにより、病院職員とS P C及びP F I 協力企業職員が一丸となり、病院給食業務が遂行されている。

個人栄養指導に関しては、火曜日・木曜日の午前3枠（9時から・9時45分から・10時30分から）と、月曜日・火曜日・金曜日の午後3枠（13時から・13時45分から・14時30分から）の栄養指導予約枠を設けている。また、固定の予約枠以外に要請があれば臨時に予約枠を設定している。

集団栄養指導に関しては、毎週木曜日の13時30分から定員10名枠の栄養指導予約枠を設けている。集団栄養指導については、糖尿病食事療法を対象とした指導内容となっている。

糖尿病センターにおける個人栄養指導業務に関しては、糖尿病センターの診療日時に合わせて、管理栄養士1名常駐体制で行っている。水曜日と金曜日の午前に関しては、初診・再診の2診体制の為、管理栄養士2名体制で栄養指導業務を行っている。

毎週水曜日の午後にN S T（栄養管理チーム）回診など、栄養管理に関する業務を行っている。

必要時には、他の曜日にも栄養管理活動が行われている。

4. 業務実績

栄養指導実施状況全体については、昨年度実績数より 217 件の増加であった。糖尿病センター（表区分：センター）を除く栄養指導室などでの栄養指導実施状況についても、昨年度実績数より 208 件の増加であった。栄養指導実施状況の内訳においては、糖尿病・消化管術後・その他・糖尿病センター（表区分：センター）の指導件数が昨年度より増加し、腎臓病・脂質異常症の指導件数が昨年度より減少した。糖尿病センターにおける栄養指導は、糖尿病透析予防指導管理に基づいた糖尿病および糖尿病腎症に対する栄養指導を行っている。

給食業務実施状況については、昨年度実績数を上回り 61 食の増加であった。一般食と特別食の比率については、62:38 と昨年度より一般食の比率が増加し、特別食の比率が減少した。各食種に対する食数の比率に関しては、特別食（加算・非加算）が減少し、他の食種が増加した。当院の特別食（加算）比率は 30.9%と全体の 3 割程度となっている。特別食（加算）実施状況においては、糖尿病食・腎臓病食・肝臓病食・心臓病食が特別食（加算）実施食数全体の 8 割以上を占めている。

5. 各種業務状況

◆給食業務状況

区 分		食数(食)	比率(%)
食 種	普 通 食	112,665	40.5%
	軟 食 等	60,167	21.7%
	特別食(加算)	85,732	30.9%
	特別食(非加算)	19,246	6.9%
	合 計	277,810	100.0%
1 日 平 均		761	—
1 回 平 均		254	—
一般食の比率(%)		—	62
特別食の比率(%)		—	38

◆特別食（加算）実施状況

区 分		食数(食)	比率(%)
食 種	糖 尿 病 食	33,262	38.8%
	腎 臓 病 食	10,276	12.0%
	肝 臓 病 食	6,292	7.3%
	心 臓 病 食	20,518	23.9%
	脾 臓 病 食	3,446	4.0%
	潰 瘍 食	3,850	4.5%
	術 後 食	3,328	3.9%
	そ の 他	4,760	5.6%
	合 計	85,732	100.0%
	1 日 平 均	235	—
	1 回 平 均	78	—

◆栄養指導実施状況

(単位：人)

区 分	
糖 尿 病	919
腎 臓 病	66
消化管術後	65
脂質異常症	8
そ の 他	350
センター	1,399
合 計	2,807

薬剤部の現況

1. スタッフ

部 長 山崎 肇（兼診療局次長・臨床研究センター長）

部長補佐 長谷 圭悟、中谷 成美

部長以下薬剤師 23 名

2. 業務内容

平成 30 年度は正職員 21 名、嘱託職員薬剤師 1 名、臨時的任用職員薬剤師 1 名の総勢薬剤師 23 名で業務を行った。病棟薬剤業務は 7 病棟にて薬剤師の病棟常駐を行うとともに、平成 29 年 12 月からは I C U にも薬剤師を配置し、薬物治療の質や医療安全の向上、さらに医師などの負担軽減にも貢献した。また、市立病院と八尾市内の医療機関（医院や診療所の「かかりつけ医」や歯科医院、薬局）をネットワークで接続し、患者の同意のもと市立病院で受けた検査や画像などの診療情報を、八尾市内の医療機関で閲覧することを可能にする「病院診療所薬局連携システム」も充実を図っている。また通院治療センターにもがん薬物療法認定薬剤師を配置し、外来化学療法での安全で適正な使用に貢献している。さらに平成 30 年 10 月からは薬剤師を入退院支援センターに配置し、手術前の中止薬剤の確認を行っている。

1) 調剤業務

調剤業務の安全性向上及び調剤業務の効率化・省力化を目的とし、オーダーリングシステム情報を利用したシステムにて入院処方せんおよび院内処方せん、時間外救急時の院内処方せんの調剤業務を行っている。各種調剤支援システムも取り入れ、迅速かつ安全な業務を行っているほか、ヒューマンエラーを減らす工夫を継続的に行うことで、より高い安全性を確保している。また平成 30 年 1 月からは薬剤師法第 25 条の 2（情報の提供及び指導）の対応として外来処方箋フォーマット変更を行い、指導の徹底や、八尾市薬剤師会からの要望事項である退院時処方でのお薬手帳シールの添付も開始しており、患者に正確で安全な薬物療法を提供している。

2) 薬剤管理指導業務・病棟薬剤業務

平成 25 年 8 月からの病棟薬剤業務実施加算の算定開始に伴い、今年度も I C U 含む 8 病棟に専任薬剤師を継続的に配置し、入院患者への適正な医薬品の供給を基本に、持参薬確認、服薬説明、医師や看護師等への医薬品情報提供、病棟配置薬の管理、チーム医療への参画など医薬品に関わる業務を各病棟で推進した。また糖尿病教育入院において、薬剤師が行っていた入院時の初回面談と退院時指導に加え、薬物療法の個別指導についても患者指導を引き続き行っている。

3) 医薬品情報管理業務

①院内：年 6 回開催される薬事委員会事務局としての業務を行っており、院内採用医薬品の適正化に向けて資料の作成や院内調整を行った。あわせて、医薬品情報の発信源として医師、薬剤師、看護師をはじめとした院内スタッフからの問い合わせや相談に対応した。また、国の施策である後発医薬品使用促進のため、引き続き院内採用医薬品の後発医薬品への切り替えを推進し、年間を通した後発医薬品の使用割合は、90%を達成できた。

②院外：地域保険薬局に対しては、疑義照会、病診薬連携システム、服薬情報提供書（トレーニングレポート）を介して連携し、外来患者に対する薬物療法の適正化に努めた。また平成 30 年 5 月からは、「院外処方箋における疑義照会簡素化プロトコル」の運用を開始し、保険薬局における患者への薬学的ケアの充実と処方医師への負担軽減

を図った。

③教育：教育分野では、大阪大学薬学研究科課題解決型高度医療人材養成プログラム「地域チーム医療を担う薬剤師養成プログラム」に「八尾ユニット」として継続的に参加し、病院・薬局実務実習期間内での学生によるトライアル研修・実習を実施した。

4) 医薬品管理業務

院内採用医薬品の後発医薬品への切り替えに伴い、先発医薬品から後発医薬品への切り替えを順次行い、院内での医薬品の供給に滞りが出ないように管理を行っている。

医薬品の中で、特に法的に規制のある医薬品である毒薬、向精神薬、麻薬については施錠された金庫・保管庫に保管し、厳重に管理している。

それ以外の医薬品も定期的に薬剤部とSPC、SPDが情報の共有を行い、効率的な医薬品の使用動向について検討するとともに使用量と医事データとの突合、不一致原因の追究を実施している。また昨年度に引き続き使用期限が切迫した医薬品の使用促進を図ることで不良在庫の軽減も行った。

5) 注射薬調製・製剤業務

電子カルテレジメン機能を利用して、がん化学療法のプロトコール管理と抗がん剤調製を行っている。更に、閉鎖式調製器具を導入し、抗がん剤調製時及び投与時の安全性向上に寄与している。また、院内製剤として市販されていない製剤への対応も行っている。八尾っ子おしごと体験事業では模擬注射調製を行った。

6) TDM業務

バンコマイシン塩酸塩、アルベカシン硫酸塩及びテイコプラニン点滴静注用の投与設計件数は193件であった（昨年度169件）。また、これらの薬剤における初期投与量設計件数は122件であった（昨年度117件）。投与設計件数、初期投与量設計件数はともに増加を認め、昨年度と同様、TDM業務は院内での抗菌薬の適正使用に貢献したと考える。

	初期投与量設計件数（件）	投与設計件数（件）
バンコマイシン塩酸塩	118	186
アルベカシン硫酸塩	0	0
テイコプラニン点滴静注用	4	7

7) 通院治療センター業務

平成26年4月より通院治療センターへ薬剤師を週2回、半日配置し抗がん剤の説明、相談応需、がん化学療法オリエンテーションなどの業務を行っていたが、平成27年11月より常駐を開始した。それに伴い12月より「がん患者指導管理料3」の算定を開始した。

平成30年度は通院治療センターにて712件の介入と142件のオリエンテーションに関わった。

3. 研究・研修活動

1) 院内研修

医薬品安全講習会

・麻薬の管理と当院での事故事例について 平成31年2月7日

薬剤部 山崎 肇

部内勉強会（週1回）

2) 院外研修

医療安全倫理・モラル研修会 2018 (医療安全管理研修会) — 医療安全倫理・モラル教育の改善方法 —

医療事故調査教育セミナー2018 「医療事故調査の基本」

平成 30 年度日本病院薬剤師会 医薬品安全管理責任者等講習会

平成 30 年度全国自治体病院協議会薬剤管理研修会

第 18 回 C R C と臨床試験のあり方を考える会議 2018 in 富山

第 51 回日本薬剤師会学術大会 金沢

第 12 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2018 浜松

第 57 回全国自治体病院学会 福島

全国自治体病院協議会 平成 30 年度 薬剤部会研修会 神戸

第 20 回日本医療マネジメント学会学術総会 札幌

平成 30 年度「医療安全に関するシンポジウム」 大阪

第 16 回認定更新者用講習会 (2018 年度) 近畿 大阪

日本薬学会第 139 年会 (千葉)

第 56 回日本癌治療学会学術集会 横浜

第 61 回 日本糖尿病学会年次学術集会 東京

第 12 回日本緩和医療薬学会年会および日本緩和医療薬学会 第 19 回 教育セミナー 東京

第 23 回日本緩和医療学会学術大会 神戸

医療薬学フォーラム 2018/第 26 回クリニカルファーマシーシンポジウム 東京

平成 30 年度感染制御専門薬剤師講習会 東京会場

2018 年度日本緩和医療薬学会 教育研修委員会主催 P E O P L E プログラム 兵庫

第 13 回 大阪 N S T 研究会 & 第 50 回大阪病院機能向上研究会 大阪

全国都市立病院薬局長協議会 役員会及び第 60 回 総会・講演会

平成 30 年度全国都市立病院薬局長協議会・研修会 神戸

第 11 回日本在宅薬学会学術大会 大阪

第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会 神戸

平成 30 年度 医療安全管理者養成研修会〈管理コース〉プログラム 東京

平成 30 年度 医療安全管理者養成研修会〈実践コース〉プログラム 東京

平成 30 年度 医療安全管理者養成研修会〈専門コース〉プログラム 大阪

第 40 回日本病院薬剤師会近畿学術大会 奈良

第 28 回日本医療薬学会年会 神戸

平成 30 年度がん専門薬剤師集中教育講座-東京会場

平成 30 年度がん専門薬剤師集中教育講座-福岡会場

第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会 東京

第 34 回日本環境感染学会総会・学術集会 神戸

日本病院薬剤師会 平成 30 年度感染制御専門薬剤師講習会 (東京会場<第 2 回目>)

平成 30 年度 日本病院薬剤師会医療情報システム講習会 東京

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2019 札幌

日本ホスピタルアライアンス医薬品分野委員会 東京

大阪府病院薬剤師会 第 47 回 新入局薬剤師研修会

4. 薬学部学生実務実習（11 週間実習）の受入

- 1) 平成 30 年 5 月 7 日から平成 30 年 7 月 29 日
大阪大谷大学（1 名）、大阪薬科大学（1 名）、近畿大学（2 名）
- 2) 平成 30 年 11 月 5 日から平成 31 年 2 月 3 日
京都薬科大学（1 名）、近畿大学（2 名）、同志社女子大学（1 名）

5. 薬剤部統計

(ア) 採用医薬品数（平成 31 年 3 月現在）

(単位：薬品数)

	先発品	後発品	後発率 (%)	総 数
院 内 採 用 医 薬 品 数	814	314	27.8%	1,128
患者限定院内採用薬	194	7	3.5%	201
院 外 採 用 医 薬 品 数	459	15	3.2%	474
患者限定院外採用薬	76	1	1.3%	77
合 計	1,543	337	17.9%	1,880
一般名処方加算件数				160

(イ) 外来処方せん枚数

(単位：件数)

	総 計				院内処方				院外処方				DI 疑義 照会件数	院外処方 発行率 (%)
	実患者 数	処方箋 枚数	件数	剤数	実患者 数	処方箋 枚数	件数	剤数	実患者 数	処方箋 枚数	件数	剤数		
4 月	6,205	8,854	15,267	21,878	800	821	1,433	1,832	5,427	8,033	13,834	20,046	186	90.7%
5 月	6,512	9,416	16,033	23,076	864	903	1,586	2,028	5,674	8,513	14,447	21,048	129	90.4%
6 月	6,335	9,187	15,664	22,641	795	809	1,380	1,776	5,563	8,378	14,284	20,865	143	91.2%
7 月	6,390	9,251	15,452	22,365	895	924	1,502	1,925	5,515	8,327	13,950	20,440	132	90.0%
8 月	7,016	10,250	17,129	24,606	918	947	1,542	1,955	6,128	9,303	15,587	22,651	152	90.8%
9 月	5,873	8,376	14,213	20,470	879	904	1,525	2,016	5,016	7,472	12,688	18,454	125	89.2%
10 月	6,641	9,924	16,862	24,295	678	699	1,192	1,533	5,991	9,225	15,670	22,762	156	93.0%
11 月	6,505	9,560	16,312	23,512	783	801	1,379	1,816	5,747	8,759	14,933	21,696	143	91.6%
12 月	6,954	9,962	16,856	24,353	1,246	1,283	2,329	2,927	5,731	8,679	14,527	21,426	133	87.1%
1 月	8,124	11,409	19,469	27,316	2,288	2,379	4,302	5,112	5,867	9,030	15,167	22,204	318	79.1%
2 月	6,376	9,279	15,482	21,955	1,015	1,046	1,887	2,341	5,384	8,233	13,595	19,614	228	88.7%
3 月	6,682	9,824	16,219	23,442	934	960	1,650	2,126	5,772	8,864	14,569	21,316	213	90.2%
合 計	79,613	115,292	194,958	279,909	12,095	12,476	21,707	27,387	67,815	102,816	173,251	252,522	2,058	89.2%

(ウ) 入院処方せん枚数

(単位：枚数)

		30 年									31 年			総計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
処方 区 分 別	定 期	187	194	214	220	204	211	237	213	184	260	268	210	2,602
	定期つなぎ	44	51	73	90	40	43	46	47	70	72	56	103	735
	臨 時	3,062	3,207	2,905	2,911	3,114	2,792	3,130	2,954	2,735	2,615	2,540	2,656	34,621
	緊 急	1,337	1,367	1,380	1,459	1,473	1,439	1,472	1,518	1,427	1,435	1,323	1,453	17,083
	退 院	779	810	794	796	903	731	789	814	836	685	728	803	9,468
合 計	枚 数	5,409	5,629	5,366	5,476	5,734	5,216	5,674	5,546	5,252	5,067	4,945	5,230	64,544
	件 数	8,650	8,899	8,455	8,727	9,107	8,316	8,912	8,703	8,279	8,329	7,807	8,117	102,301
	剤 数	59,761	62,296	56,832	61,154	63,962	57,575	60,315	59,639	61,804	58,032	56,210	58,461	716,041

(エ) 外来注射件数

(単位：オーダ数)

		30 年									31 年			総計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
区 分 別	予 約 注 射	305	232	260	284	304	286	410	361	357	347	426	432	4,004
	通院治療センター	171	185	167	159	177	143	164	147	156	169	150	163	1,951
	抗がん剤注射	2,547	2,477	2,937	2,415	2,788	2,557	2,537	2,540	2,446	2,670	2,497	2,727	31,138
	実施済注射	1,078	1,185	1,123	1,307	1,350	1,071	1,244	1,079	1,154	1,153	1,050	1,167	13,961
	当 日 注 射	507	495	641	627	453	328	368	336	352	280	257	333	4,977
合 計		4,608	4,574	5,128	4,792	5,072	4,385	4,723	4,463	4,465	4,619	4,380	4,822	56,031

(オ) 入院注射件数

(単位：オーダ数)

		30 年									31 年			総計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
処方 区 分 別	定期注射	16,503	17,586	17,832	18,923	20,024	16,443	19,926	18,775	19,652	18,094	17,473	19,381	220,612
	緊急注射	4,411	4,587	4,702	4,698	5,364	3,951	5,117	4,401	4,499	5,217	4,157	5,669	56,773
	臨時注射	5,626	6,358	6,005	5,981	7,312	5,630	5,961	6,413	6,010	6,556	5,441	6,317	73,610
	抗がん剤注射	861	926	783	741	1,076	821	683	783	764	1,024	945	912	10,319
	実施済注射	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	4
合 計		27,401	29,459	29,322	30,343	33,776	26,845	31,688	30,372	30,925	30,891	28,016	32,280	361,318

(カ) 高カロリー輸液製剤調製件数

(単位：算定件数)

		30 年									31 年			総計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
入 院	内 科	54	38	91	60	26	10	26	47	59	87	52	47	597
	消化器内科	20	0	14	34	29	27	39	13	4	37	25	38	280
	循環器内科	70	46	27	71	9	10	40	4	25	56	4	12	374
	外 科	39	19	46	2	2	6	4	13	15	24	35	54	259
	形成外科	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	泌尿器科	19	7	10	6	28	11	0	0	5	15	0	9	110
	耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	17	19	0	0	0	0	0	36
合 計		215	110	188	173	94	81	128	77	108	219	116	160	1,669

(キ) がん化学療法無菌調製件数

(単位：算定件数)

		30 年									31 年			総計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
外 来	内 科	50	61	61	53	74	42	50	49	74	51	58	46	669
	消 化 器 内 科	12	16	13	13	11	7	11	10	10	13	15	13	144
	循 環 器 内 科	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	外 科	242	263	243	243	276	248	286	282	280	304	280	264	3,211
	産 婦 人 科	21	18	14	19	20	14	21	17	17	13	14	22	210
	泌 尿 器 科	12	17	16	16	16	10	17	17	17	18	20	19	195
	放 射 線 科	4	3	4	5	0	0	0	4	2	3	6	4	35
	歯科口腔外科	0	0	0	1	2	4	6	6	4	4	4	3	34
入 院	内 科	79	46	34	33	21	43	40	56	43	44	49	41	529
	消 化 器 内 科	7	3	1	2	0	5	2	1		6	3		30
	循 環 器 内 科	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	3
	外 科	63	79	63	61	63	58	58	57	44	60	76	91	773
	小 児 科	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	4
	脳 神 経 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3
	産 婦 人 科	3	3	4	5	2	6	2	2	6	5	1	1	40
	泌 尿 器 科	5	9	5	8	3	9	8	12	6	9	7	13	94
	歯科口腔外科	2	6	7	2	1	2	1	0	0	0	0	0	21
合 計		500	524	465	463	490	451	503	514	504	530	534	519	5,997

(ク) 院内製剤数量

品 名	数 量	品 名	数 量
1 %フラジール軟膏	20,000 g	ブロー氏液	350 mL
1 0 %硝酸銀液	160 mL	ボアラ軟膏+ヘパリン用クリーム (1 : 1)	3,600 g
3 %酢酸水	4,500 mL	マンドル氏液	250 mL
A I M用 2 %酢酸液	75 mL	ルゴール氏液 (内視鏡)	2,500 mL
CMCアズノール軟膏	60 g	院方ルゴール	1,500 mL
CMC亜鉛華単軟膏	510 g	柿煎	60,000 mL
G - 1 軟膏	10,880 g	含嗽用アロプリノール液	5,500 mL
Mohs 軟膏	0 g	鼓膜麻酔液	12 mL
アズノール・クリダマシン軟膏	550 g	白色ワセリン+ヘパリン用クリーム (1 : 1)	12,960 g
アンテベート軟膏+ヘパリン用クリーム(1:1)	8,400 g	滅菌 2 %ピオクタニン液	640 mL
ウリナスタチン膣坐薬	280 個	滅菌オリーブ油	9,000 mL
バンコマイシン点眼液	100 mL	滅菌墨汁	130 mL

(ケ) 薬剤管理指導業務件数

(単位：算定件数)

科 名	30 年									31 年			總計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
内 科	101	90	76	97	77	60	106	67	62	61	50	59	906
血 液 内 科	62	81	56	60	78	65	67	72	49	52	45	49	736
消 化 器 内 科	122	166	136	155	129	110	135	133	107	131	118	111	1,553
循 環 器 内 科	157	204	172	182	186	162	203	180	191	139	182	170	2,128
外 科	194	231	233	235	254	205	208	221	199	224	233	214	2,651
乳 腺 外 科	25	34	36	42	34	34	48	39	36	38	43	31	440
腦 神 經 外 科	25	19	16	13	19	6	19	16	20	21	24	14	212
整 形 外 科	85	74	72	71	78	74	99	93	81	63	80	93	963
形 成 外 科	29	31	13	22	38	22	27	40	29	26	31	32	340
産 婦 人 科	133	143	138	146	161	122	158	145	127	106	108	128	1,615
小 児 科	77	95	88	79	90	77	72	51	64	47	52	60	852
耳 鼻 科	103	106	111	103	138	89	104	73	84	95	93	110	1,209
泌 尿 器 科	77	78	74	79	85	70	104	92	87	102	90	95	1,033
皮 膚 科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	4
放 射 線 治 療 科	3	1	1	1	0	0	2	3	1	1	4	3	20
歯 科 口 腔 外 科	16	27	20	16	24	15	13	18	16	8	16	21	210
救 急 診 療 科	0	2	12	18	5	5	14	4	6	4	5	2	77
合 計	1,209	1,382	1,254	1,319	1,396	1,117	1,379	1,247	1,159	1,118	1,174	1,195	14,949

(コ) 病棟薬剤業務実施加算件数

(単位：算定件数)

	30 年									31 年			総計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
病棟薬剤業務実施加算	2,001	2,058	1,987	2,135	2,148	1,944	2,150	2,047	1,956	2,034	1,929	2,043	24,432

D P C 係数のため出来高請求に置き換えた場合としての値

(サ) 製剤別血液及び血液成分製剤の使用本数

(単位：本)

		A-	A+	AB-	AB+	B-	B+	O-	O+	計	前年度
自 己 血	1 単位	0	1	0	0	0	1	0	0	2	3
	2 単位	0	12	0	1	2	3	0	19	37	41
濃厚赤血球 (MAP) (全て白血球除製剤)	1 単位	0	2	0	0	0	0	0	0	2	22
	2 単位	7	666	0	149	0	375	0	408	1,605	1,548
新鮮凍結血漿 (FFP)	1 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2 単位	0	68	0	18	0	52	0	47	185	231
	4 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
濃厚血小板 (PC) (HLA 適合製剤を含む) (白血球除製剤を含む)	総単位	10	2,110	0	300	0	1,425	10	1,000	4,855	4,905
	2 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10 単位	1	195	0	25	0	122	1	76	420	428
	15 単位	0	8	0	2	0	11	0	12	33	31
	20 単位	0	2	0	1	0	2	0	3	8	8
人 全 血	1 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※ 1 単位＝200ml 献血由来相当分

※ 集計対象日は輸血実施入力日

(シ) 薬効別医薬品使用状況

項目	割合	分類番号	主な薬効分類	割合
1 神経系及び感覚器官用医薬品	1.86%	11	中枢神経系用薬	1.49%
		12	末梢神経系用薬	0.34%
		13	感覚器官用薬	0.04%
2 個々の器官系用医薬品	11.91%	21	循環器官用薬	1.29%
		22	呼吸器官用薬	0.30%
		23	消化器官用薬	2.11%
		24	ホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）	7.60%
		25	泌尿生殖器官及び肛門用薬	0.14%
		26	外皮用薬	0.40%
		27	歯科口腔用薬	0.04%
		29	その他の個々の器官系用医薬品	0.03%
3 代謝性医薬品	9.71%	31	ビタミン剤	0.06%
		32	滋養強壮薬	0.82%
		33	血液・体液用薬	4.87%
		34	人工透析用薬	0.08%
		39	その他の代謝性医薬品	3.88%
4 組織細胞機能用医薬品	55.49%	42	腫瘍用薬	52.96%
		43	放射性医薬品	2.49%
		44	アレルギー用薬	0.04%
5 生薬および漢方処方に基づく医薬品	0.03%	51	生薬	0.00%
		52	漢方製剤	0.03%
6 病原生物に対する医薬品	17.17%	61	抗生物質製剤	2.24%
		62	化学療法剤	3.12%
		63	生物学的製剤	11.79%
		64	寄生動物用薬	0.01%
7 治療を主目的としない医薬品	2.77%	71	調剤用薬	0.05%
		72	診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）	2.46%
		73	公衆衛生用薬	0.01%
		79	その他の治療を主目的としない医薬品	0.24%
8 麻薬	0.97%	81	アルカロイド系麻薬（天然麻薬）	0.26%
		82	非アルカロイド系麻薬	0.71%
9 その他	0.08%	99	その他	0.08%

(ス) 科別血液及び血液成分製剤の使用本数

(単位：本)

科	区分	自己血	MAP	FFP	PC	HLAPC	人全血	WRC	計	前年度
内科		0	1,914	90	4,490	0	0	2	6,496	6,705
一般内科		0	122	4	55	0	0	0	181	132
血液内科		0	972	26	4,225	0	0	2	5,225	5,152
消化器内科		0	606	32	40	0	0	0	678	761
循環器内科		0	214	28	170	0	0	0	412	660
腫瘍内科		0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科		0	430	156	245	0	0	0	831	749
一般外科		0	274	120	110	0	0	0	504	580
呼吸器外科		0	116	36	135	0	0	0	287	169
乳腺外科		0	40	0	0	0	0	0	40	0
脳神経外科		0	12	20	10	0	0	0	42	30
整形外科		4	114	6	0	0	0	0	124	121
形成外科		0	40	0	10	0	0	0	50	64
産婦人科		58	120	80	30	0	0	0	288	386
小児科		0	0	0	0	0	0	0	0	4
眼科		0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科		0	2	0	0	0	0	0	2	6
泌尿器科		12	334	24	70	0	0	4	444	272
皮膚科		0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科		0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科		0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科		0	8	0	0	0	0	0	8	0
歯科口腔外科		2	0		0	0	0	0	2	8
救急診療科		0	226	0	20	0	0	0	246	223
合計		76	3,630	532	5,120	0	0	6	9,364	8,568

※1単位＝200ml 献血由来相当分で、上記本数は1単位分の本数

※集計対象日は検査依頼日（輸血予定日）

(セ) 通院治療センター業務件数

	平成28年度			平成29年度			平成30年度		
	オリエンテーション 件数	通院治療 センター 指導件数	がん患者 指導管理料 Ⅲ	オリエンテーション 件数	通院治療 センター 指導件数	がん患者 指導管理料 Ⅲ	オリエンテーション 件数	通院治療 センター 指導件数	がん患者 指導管理料 Ⅲ
4月	14	64	6	14	65	7	14	62	5
5月	11	66	6	13	57	3	9	67	3
6月	8	63	2	10	63	8	9	62	6
7月	14	41	3	11	47	3	10	55	2
8月	15	35	4	10	65	5	17	57	7
9月	13	37	3	4	45	2	7	45	3
10月	12	41	4	6	55	2	19	54	6
11月	14	62	3	6	56	5	16	69	4
12月	19	53	7	11	56	5	11	55	4
1月	11	52	6	8	59	5	9	67	4
2月	5	60	2	12	63	5	11	62	4
3月	9	52	2	12	69	2	10	57	3
合計	145	626	48	117	700	52	142	712	51
月平均	12.1	52.2	4.0	9.8	58.3	4.3	11.8	59.3	4.3

臨床研究センターの現況

1. スタッフ

センター長 山崎 肇（兼診療局次長・薬剤部長）

センター長補佐 香川 雅一（薬剤師）

センター長以下薬剤師 2 名、看護師 1 名

2. 業務内容

臨床研究センターでは、治験・調査および臨床研究のすべてを区別せず、一体化した運営を図り、多くの試験・調査に携わることによって、各診療科の医師や院内スタッフとの連携をさらに密にし、円滑な試験の運営を目指している。

平成 30 年度は、従来の院内審査の対応だけでなく、外部臨床研究審査委員会へ審査委託を行う手続き業務への対応等事務手続きが複雑化したことが特徴的な年度であった。

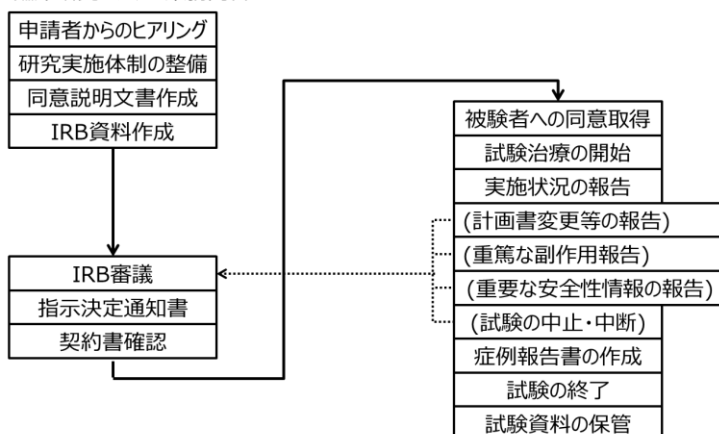
特に、臨床研究法に基づき本来全国統一となるはずの認定臨床研究審査委員会への審査依頼等が統一されていない、また研究グループ事務局毎において対応が異なるなど混乱した状況となった。

今後、院内における特定臨床研究実施は、研究者同士の連携だけでなく、事務担当者間の連携が重要になること、また実施から文書保管に至るまでを一任できるミニマムな実施体制を院内に構築することが必要であり、このためにも被験者保護を含めた実施体制に精通し評価・確認できるメンバーの継続的な確保が急務であると考えている。

3. 業務体制

当センターでの業務は、臨床研究審査委員会事務局業務、治験・臨床研究事務局業務、クリニカルリサーチコーディネーター（データマネージャー含む）業務に大別される。

臨床研究センター業務内容



被験者適格性のチェックと登録、検査結果のモニタリングによる開始及び
休止規準の確認、被験者ケア・相談業務、被験者スケジュールの管理、
有害事象の評価・報告、CRF作成補助、有害事象発生時の対応、
IRBへの報告書作成補助、被験者データの収集とフォローアップ(クエリー
対応)、検体採取体制構築と結果への対応、臨床研究チームの責任
医師が保管すべき必須文書の管理補助

4. 業務実績

臨床研究審査委員会業務（フルサポート）

研究区分	審議内容	平成 30 年度
臨床研究	《試験の実施の妥当性・科学性》	11
	《安全性情報に伴う試験実施の継続》	1
	《迅速審査 実施計画書等の軽微な変更に伴う試験実施の継続》	55
	《迅速審査 実施計画書の妥当性・科学性》	26
	《特定臨床研究への乗り換え》	19
	《学会発表・論文公表申請》	28
開発治験	《試験の実施の妥当性・科学性》	1
	《安全性情報に伴う試験実施の継続》	1
	《迅速審査 実施計画書等の軽微な変更に伴う試験実施の継続》	1
製造販売後調査	《調査実施の妥当性・科学性》	15
	《副作用報告》	3
	《実施要綱等の軽微な変更に伴う調査実施の継続》	11
未承認医薬品等 院内製剤 新規医療技術等	《未承認薬・院内製剤・新規医療技術の実施の倫理性》	0

治験・臨床研究事務局業務

診療科	対象疾患	介入/観察	件数
形成外科	皮膚付属器悪性腫瘍	観察	1
脳神経外科	グリオーマ	観察	1
	データベース研究事業	観察	1
	未破裂大型近位部内頸動脈瘤	観察	1
耳鼻咽喉科	扁桃摘出	観察	1
	菌性上顎洞炎	介入	1
口腔外科	口腔がん	観察	1
呼吸器外科	低肺機能肺癌	観察	1
小児科	BRCA1/2遺伝子の未確定変異	観察	1
	川崎病	観察	1
	小児アレルギー	観察	3
	血液凝固異常症	観察	2
	小児慢性疾患	観察	1
	髄膜炎/脳炎	観察	1
新生児集中治療部	乳幼児突然死	観察	1
産婦人科	周産期ネットワーク	観察	1
循環器内科	データベース研究事業	観察	2
	ST上昇型急性心筋梗塞	観察	1
	カテーテルアブレーション	観察	2
	心不全	観察	2
	不整脈疾患	観察	1
	心房細動	介入	1
	心房細動	観察	1
	非弁膜症性心房細動	観察	1
	閉塞性動脈硬化症	観察	2
診療科	対象疾患	介入/観察	件数
消化器内科	B型肝炎	観察	2
	C型慢性肝炎	観察	9
	胃がん	観察	1
	肝細胞がん	観察	2
	自己免疫性肝疾患	観察	2
	炎症性腸疾患	観察	3
	原発性小腸癌	観察	1
	大腸腫瘍	観察	1
	非アルコール性脂肪性肝炎	観察	1
外科	GIST	観察	1
	胃がん	介入	14
	胃がん	観察	11
	下部消化管手術	観察	1
	下部消化管穿孔手術	介入	1
	肝細胞癌	観察	1
	食道がん	介入	2
	大腸がん	介入	11
	大腸がん	観察	4
	データベース研究	観察	1
	腹腔鏡下肝切除	介入	1
	腹腔鏡下肝切除	観察	1
	腹部外科手術	介入	1
	肝胆脾外科手術	介入	1
	高齢者消化器癌	介入	1
	腹腔鏡下胆嚢摘出	介入	1
乳腺外科	乳がん	介入	14
	乳がん	観察	8

クリニカルリサーチコーディネーター(データマネージャー含む)業務

試験名	実施症例数	登録症例数	サポート内容(CRC)
POTENT	16	16	被験者適格性のチェックと登録, 同意説明補助, 検査結果のモニタリングによる開始及び休止規準の確認, 被験者ケア・相談業務, 被験者スケジュールの管理, 有害事象の評価・報告, CRF作成補助, 有害事象発生時の対応, IRBへの報告書作成補助, 被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応), 検体採取体制構築と結果への対応, 臨床研究チームの責任医師が保管すべき必須文書の管理補助
KBCSG-1213	7	7	
KBCSG-TR-1315	13	13	
KBC-SG1402	7	7	
SPOT-TRIAL	12	12	
BSI研究	3	3	
HORSE-BC	1	1	
ABROAD	1	1	
JBCRG-M05	1	1	
JBCRG-M06	3	3	
JBCRG-M07	1	1	
QSGSG1201	1	1	
JFMC-46	1	1	
JFMC-47	1	1	
JACCRO GC-07	18	18	
OCUU-CRPC(イクスタンジ)	18	18	
C-Cubed	3	3	被験者適格性のチェックと登録, 同意説明補助, CRF作成補助, 被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応)
Cancer-VTE	40	44	
ANAFIE Registry	30	30	
Nab-Paxlitaxel観察	29	29	
FN研究	45	45	CRF作成補助, 被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応)
J-START	727	727	
STAR-ReGISTry	2	2	
NY-ESO1抗体研究	64	64	CRF作成補助, 被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応), 検体採取体制構築と結果への対応, 採血スケジュール管理, 採血管準備, 検体回収
胃癌術前ステロイドRCT	17	17	
JACCRO-GC08	4	4	
DCV ASV(OLF研究)	15	25	検体採取体制構築と結果への対応, 採血スケジュール管理, 採血管準備, 検体回収
SOF RBV臨床研究	26	35	
SOF LDV臨床研究	31	40	
PTV OBV臨床研究	10	11	
IFN-Free臨床研究	4	4	
肝細胞癌前向き観察研究	1	1	
タニター/キニスト BRAF v600E無償	8	8	
JACCRO GC-07 AR2	18	18	

調査名	実施症例数	登録症例数	サポート内容(CRC)
ダニアルゲン(小児)	20	20	CRF作成補助, 被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応)
ラムシルマブ(胃癌)	4	4	
キイトルーダ(肺癌)	5	5	
タグリソ(肺癌)	2	5	
ジカディア(肺癌)	1	1	
ジャカビ(骨髄線維症)	2	2	
イグザレルト(SPAF)	1	5	
イグザレルト(PE/DVT)	9	9	
エリキュース(VTE・長期使用)	1	2	
リクシアナ(静脈血栓塞栓症)	2	5	
リクシアナ(AF)	12	20	
エフィエント(虚血性心疾患)	27	35	
ブラザキサ(非弁膜症性心房細動)	10	10	
セララ(慢性心不全)	15	15	
テセントリク(肺癌)	7	7	

5. 教育活動

薬剤部で受け入れている薬学部学生実務実習（11 週間実習）の学生に対して、治験・臨床研究に関する意義、流れ、被験薬管理、被験者からの同意取得などについて 2.5 日のスケジュールで、講義およびロールプレイを行っている。

【薬学部学生実務実習（11 週間実習）】

近畿大学 2 名，大阪薬科大学 2 名	平成 30 年 5 月 7 日から 平成 30 年 7 月 29 日
近畿大学 2 名，同志社女子大学 1 名，京都薬科大学 1 名	平成 30 年 11 月 5 日から 平成 31 年 2 月 3 日

【研修参加】

第 53 回「GCP Basic Training セミナー」大阪地区	平成 30 年 5 月 26 日	大阪
第 4 回倫理審査委員会を考える！ ～臨床研究法で倫理審査はどう変わる？～	平成 30 年 6 月 16 日	東京
平成 30 年度「阪大モニタリング講習」基本習得	平成 30 年 7 月 12 日	大阪
平成 30 年度「阪大モニタリング講習」専門習得	平成 30 年 9 月 11 日	大阪
平成 30 年度「阪大モニタリング講習」更新講習	平成 30 年 11 月 27 日	大阪
第 9 回 JBCRG 学術集会	平成 30 年 11 月 4 日	東京
J-START「2018 年度全国会議」	平成 31 年 1 月 18 日	東京
平成 30 年度治験推進地域連絡会議	平成 31 年 2 月 23 日	大阪
第 11 回日本癌治療学会データマネージャー教育集会	平成 30 年 8 月 18 日 平成 30 年 8 月 19 日	大阪
平成 30 年度 医薬品・医療機器等 GCP/GPSP 研修会	平成 30 年 11 月 22 日	大阪
第 22 回臨床研究・治験事務局セミナー2018	平成 30 年 11 月 3 日	東京
第 40 回日本病院薬剤師会近畿学術大会	平成 31 年 1 月 19 日 平成 31 年 1 月 20 日	奈良
日本臨床試験学会 第 10 回学術集会総会	平成 31 年 1 月 25 日 平成 31 年 1 月 26 日	東京

地域医療連携室の現況

1. スタッフ

室 長 田村 茂行（兼副院長）

看護師長 佐藤 美代子（兼看護部科長）、尾山 明美

看護師長以下看護師 5 名

係 長 大和 裕香（医療ソーシャルワーカー）、北村 尚洋（医療ソーシャルワーカー）

医療ソーシャルワーカー 西 麻弥、妹尾 繁美、三宅 優香（他 2 名）

臨床心理士 陶山 由季子、新田 遼平（平成 31. 3. 31 退職）、五島 大（平成 31. 3. 31 退職）

P F I 協力企業職員常勤 5 名、非常勤 3 名、広報担当者 2 名

2. 診療内容

1) 地域医療連携室

①広報・地域連携調整業務

広報誌の編集・発行や地域医療機関への訪問。地域医師会との連絡調整など。

ア)「やさしいえがお」：患者や一般向けのミニ広報誌。（平成 16 年 7 月から月 1 回発行）

900 部発行。

内 容 病院の基本理念

病気や治療についてのわかりやすい話、病院からのお知らせ、
院内各科の紹介、かかりつけ医の推奨、紹介・逆紹介の説明、
医療・福祉関連情報

配布場所 院内 外来・病棟

院外 市役所・図書館・出張所・八尾市調剤薬局など

市役所イントラネットの電子書庫および病院ホームページに掲載

イ)「地域医療連携室だより」：医療機関向けの広報誌。（平成 17 年 2 月に第 1 号発行）

900 部発行。

内 容 診療体制の他に講座やイベント、地域連携システムなどの情報提供を 2 か月
に 1 回作成し、地域医療機関に送付。診療時間予定表については、毎月送付
している。また、登録医に対しては、医薬品情報管理室発行の『D r u g
I n f o m a t i o n N e w s』を毎月送付している。

配 布 八尾市と登録医を中心とする周辺地域の医療機関および、大阪府下公立病
院・大学病院・奈良県の連携医療機関。

ウ)「地域医療連携室 診療のご案内」：年 1 回改定（平成 16 年 10 月初版作成）

内 容 各科医師の専門分野や当院で可能な検査の説明を、写真を用いて掲載した
広報誌。毎年更新している。

活用状況 医療機関訪問ツールとして活用し、当院への紹介がスムーズに行われるよう
にしている。訪問時は医療機関の意見、要望を伺い、また当院の状況の説明

を行い、より良い医療連携を目指し活動している。平成 30 年度は 1,000 部発行。(過去平成 29 年度は発行せず・平成 28 年度は 1,000 部)

②前方支援、後方支援業務および相談業務

看護師の専門性を活かした看護相談と共に医療ソーシャルワーカーによる医療相談を充実させ、外来および入院患者や家族の様々な相談に対応している。

またニーズに沿った転院や退院の支援を目指し、高齢社会にも対応した保健・医療・福祉サービスの支援を行っている。退院後も在宅支援業者や他の医療機関とも連携し適切な療養が継続できるようにしている。

③連携事務業務

紹介患者の予約受付と窓口対応を一体として行っている。事前予約受付（診察・各種検査）については、午前 8 時 30 分から午後 8 時（夜診のある医療機関対応）までの受入れ体制をとっている。また、FAX は 365 日 24 時間稼働しており、FAX による時間内の予約依頼への返信は、原則 15 分程度としている（繁忙期においては 30 分程度）。入院対応においても当日中に予約票を返信している。

事前予約依頼は平均 49 件／日程度ある。事前予約は当院において最優先で診療される。待ち時間が少なく専門医の診察が受けられるように配慮している。

当日受付の紹介患者来院数は平均 71 人／日となっている。また、逆紹介の患者数は平均 85 人／日となっている。

2) がん相談支援センター

がんに関する病状、治療、薬剤、医療ケア、日常生活における看護や介護、食事、医療費、仕事、精神的不安などのあらゆる疑問や悩み事、心配事に対する相談窓口として、平成 20 年 2 月より活動を開始している。対象者は当院受診の有無を問わず、がん患者、家族、知人、医療関係者など様々な方から相談を受けている。その他、がんに関する情報提供やイベント、セミナーのお知らせなど、情報発信の場所としても機能している。

①相談業務

相談については予約制になっており、電話または直接来院で受け付けている。まず医療ソーシャルワーカー・臨床心理士などの支援相談員が受け、相談内容を確認。院内の各専門スタッフ（各種専門相談員）と連携をとり、相談にあたっている。必要に応じて地域の関係機関とも連携をとり、地域のがん相談の窓口としての役割を担っている。相談の費用は無料。セカンドオピニオンや外来患者の継続的な心理カウンセリングは有料となっている。

その他、院内の緩和ケアチームの一員として活動し、院内の各専門職としてがん相談以外の相談業務も行っている。

②情報提供・啓蒙活動

- ・外来待合付近やがん相談支援センター横に各がんについてなどの小冊子の設置。その他インフォメーションコーナーにて医療講演やイベントの紹介などを掲示した。1 階の図書コーナーでは、がんに関する本やDVDを設置。閲覧いただき、希望の方には貸し出しも行った。
- ・がん患者やご家族などを対象とした「がん相談支援センターミニ勉強会」を計 4 回開催した。

5 月「アピアランスケア（外見的ケア）～自分らしくキラキラ輝きませんか～」

9 月「がん治療中のイライラ対処法」

11 月「アピアランスケア（外見的ケア）～自分らしくキラキラ輝きませんか～」

3 月「がん治療中のストレスの和らげ方について」

講義終了後に意見交換等の時間を設け、参加者同士の交流の場の役割も担っている。少人数制で開催することによって、意見交換しやすいようにしている。他院の患者や他機関の方の参加もあり、地域の方が気軽に参加できる会となっている。

- ・入院、通院中の患者さんご家族を対象に、患者サロンきらきら「若ごぼうの会」を開催した。毎月第 4 金曜日 13：00 から 14：00 となっており、予約なく参加できる。
- ・2 月には中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会シンポジウムを東大阪市にて開催。中河内地区のがん診療拠点病院と協働し、『がん相談コーナー』を設け、情報提供およびがん相談を行った。
- ・その他、病院ホームページ、市立病院公開講座、八尾市政だより、地方の情報誌などにて、がん相談支援センターの紹介。地域のがん相談窓口として PR を行った。

③がん診療地域連携クリティカルパス

5 大がん（肝臓がん・肺がん・乳がん・胃がん・大腸がん）地域連携クリティカルパスを実施した。

連携医療機関としては八尾市を中心に、近隣の大阪市、東大阪市、柏原市が多いものの、大阪府下および他府県とも連携をしている。

④大阪府がん診療拠点病院 各部会への参加

大阪府がん診療連携協議会、相談支援センター部会、地域連携クリティカルパス部会・運営部会、中河内ネットワーク協議会へ参加。大阪府認定のがん診療連携拠点の役割を担えるよう、各拠点病院と連携をとり、大阪府全体の質の向上を目指している。

3. 診療実績

1) 地域医療連携室

①紹介率・逆紹介率の状況

近隣医療機関、介護施設などと連携を積極的に行い、地域の先生方に信頼され、患者に満足・安心して医療を受けて頂けるようにしている。地域医療支援病院の承認後、さらに八尾市医師会を始め、地域の医療機関、関係者の連携強化を図り、紹介率が平成 27 年度 52.9%、平成 28 年度 57.5%、平成 29 年度 58.6%、平成 30 年度 53.0%となっている。逆紹介率では平成 27 年度 74.0%、平成 28 年度 83.6%、平成 29 年度 85.2%、平成 30 年度 75.2%とそれぞれ地域医療支援病院の承認要件をクリアしている。当院が果たすべき医療機能をすすめた成果である。今後も地域の急性期医療を担う中核病院として、医療連携をさらに強固なものとするべく改革していく。

②登録医制度の開始

平成 23 年度に八尾市立病院登録医制度を開始した。中河内 2 次医療圏においては 338 施設・412 名の先生にご登録いただいている。（内訳 八尾市：252 施設・314 名、柏原市：31 施設・37 名、東大阪市：54 施設・61 名）。医療圏外においても 124 施設・148 名の登録をいただいた。全体として、461 施設・560 名の登録となっている。

各病床に設けた開放型病床は 68 床あり、登録医からの入院依頼に迅速に対応できる体制を整え

た。医療機器の共同利用においては、1,666 件の利用があった（上位内訳 CT：693 件、MRI：559 件、内視鏡：110 件）。また、平成 27 年 7 月に、登録医の医療機関情報案内ツールとして、メディマップ（タブレット）とサイネージ（案内モニター）を導入し、さらなる連携強化に努めている。

2) がん相談支援センター

◆がん相談件数

	30 年度												合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
入院	69	126	148	117	177	146	170	159	146	134	100	123	1,615
外来	29	42	39	48	34	51	49	54	53	47	48	39	533
院外	5	6	10	7	16	6	19	5	5	4	5	7	95
合計	103	174	197	172	227	203	238	218	204	185	153	169	2,243
内新規	41	62	67	56	70	50	59	60	57	52	47	52	673

◆がん相談内容



※がん相談内容（相談内容は複数にまたがるため、主となる相談内容のみをカウント）
（数値は%）

◆がん地域連携クリティカルパス件数

年度		肝臓	肺	乳腺	胃	大腸	合計
23～29	新規	15	15	643	17	39	729
	中止	2	2	16	3	4	27
	終了	0	0	0	2	4	6
	運用	13	13	627	12	31	696
30	新規	0	1	168	36	4	209
	中止	0	1	7	0	0	8
	終了	0	0	0	4	3	7
	運用	0	0	161	32	1	194
23～30	運用中	13	13	788	44	32	890

※ 中止は、状態悪化などの理由から中止となった件数。

終了は、各がん地域連携クリティカルパスの期間を終え終了となった件数。

運用は、平成 31 年 3 月 31 日現在運用中の件数。

3) 心理相談実績

当院ではがん相談に加え、がん疾患以外の心理相談にも幅広く対応している。平成 27 年度は従来の緩和ケアチーム回診に加え、IC 同席、糖尿病外来、NICU、通院治療センターへの心理介入など活動の幅を広げてメンタルケアの充実を図っている。

平成 30 年度は、新規依頼 510 人（がん疾患 360 人、がん疾患以外 150 人）、延面接件数 2,376 件（がん疾患 1,324 件、がん疾患以外 1,052 件）を担当した。対応内容の内訳としては、心理面接 956 件、自費面接 713 件、がん相談 24 件、IC 同席・行動観察 377 件、通院治療センター初回面接 224 件、心理検査（発達検査、神経心理検査）92 件であった。

当院に精神科はないが、入院患者は、精神科医（週 2 回 応援医師勤務）と連携して、外来患者の心理カウンセリングでは、必要に応じて地域の心療内科、精神科医と連携して援助にあたっている。

◆心理相談件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
心理面接※1	26	62	76	81	139	73	104	105	84	79	61	66	956
自費面接※2	51	58	55	49	60	57	61	71	55	62	68	56	713
がん相談	3	7	0	1	0	0	1	2	0	3	1	6	24
行動観察・IC 同席	28	68	37	35	46	23	27	18	16	33	30	16	377
通院治療センター	-	-	8	20	21	14	25	31	24	22	27	32	224
心理検査	7	5	10	11	7	7	10	8	6	6	10	5	92
総 件 数	115	200	186	197	273	174	228	235	185	205	197	181	2,376

※1 心理面接とは、入院患者相談、外来無償相談、スタッフ相談件数を示す。

※2 自費面接とは、外来心理カウンセリング（3,240 円／1 回 50 分）の件数を示す。

4. 体制強化

地域医療連携室の総合的な体制強化として、これまでの患者サポート機能に加えて、今年度より『がん相談支援センター・入退院支援センター（仮運用開始）』を併設した。紹介患者（逆紹介）の窓口機能にとどまらず、がん患者や入院から退院までをトータルで支援できる体制を構築していく。

診療情報管理室の現況

1. スタッフ

室 長 福井 弘幸（兼副院長）

P F I 協力企業職員 6 名（うち診療情報管理士4名）

2. 業務内容

- 1) 院内がん登録（院内がん登録全国集計・全国がん登録にデータ提出）、予後調査
- 2) 退院サマリ受取管理、同意書等受取管理
- 3) 診療録監査の実施
- 4) D P C 様式 1 の作成
- 5) 病院臨床指標などの統計データの作成
- 6) 大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システム（O R I O N）への登録

院内がん登録を行い、院内がん登録全国集計・全国がん登録 2017 年症例として 1,249 件のデータを提出した。また、医師との情報共有のために、2016 年症例の提出データを基に 5 大癌に関する分析を行い、結果を H I M n e w s で配布した。大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システム（O R I O N）への登録を行った（全登録数 4,649 件、うち搬送困難症例 580 件）。その他、病院臨床指標データ抽出、病院統計の作成を随時行っている。

3. 退院患者統計

①対象患者

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日の期間に退院（転院）した患者

②集計方法

- ・集計に必要な情報は、退院時要約及び入院カルテより抽出
- ・1 退院を 1 件として集計
- ・疾病分類は、「疾病、傷害および死因統計分類提要 I C D - 10（2013 年版）準拠」を使用

③統計

- ・I C D - 10 国際疾病分類統計別退院患者数
- ・診療科別 上位 3 疾病退院患者数
- ・診療科別・男女別・I C D - 10 国際疾病分類統計別退院患者数
- ・年齢別・男女別・I C D - 10 国際疾病分類統計別退院患者数
- ・悪性新生物患者数（部位別・男女別）
- ・大分類別・男女別・国際疾病分類統計（死亡統計）
- ・年齢別・診療科別・国際疾病分類統計（死亡統計）①対象患者

◆国政疾病分類統計/退院患者数					(単位：人)	
章	ICD-10分類	分 類	退院患者		総計	
			退院	死亡		
I	A00-B99	感染症および寄生虫症	282	4	286	
II	C00-D48	新生物	2,784	185	2,969	
III	D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	74	2	76	
IV	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	316	3	319	
V	F00-F99	精神および行動の障害	11	0	11	
VI	G00-G99	神経系の疾患	148	1	149	
VII	H00-H59	眼および附属器の疾患	33	0	33	
VIII	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	200	0	200	
IX	I00-I99	循環器系の疾患	1,710	30	1,740	
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	1,210	18	1,228	
X I	K00-K93	消化器系の疾患	1,306	17	1,323	
X II	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	103	0	103	
X III	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	403	1	404	
X IV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	648	6	654	
X V	O00-099	妊娠、分娩および産褥	899	0	899	
X VI	P00-P99	周産期に発生した病態	187	0	187	
X VII	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	47	0	47	
X VIII	R00-R99	症状、症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	71	0	71	
X IX	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	832	1	833	
X X	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因 および保険サービスの利用	1	0	1	
総計			11,265	268	11,533	

◆診療科別 上位3位疾病退院患者数				(単位：人)			
診療科	ICD-10	病 名	合計	診療科	ICD-10	病 名	合計
全科	080	単胎自然分娩	526	形成外科	I83	下肢の静脈瘤	45
	I20	狭心症	483		S68	手首および手の外傷性切断	44
	C34	気管支および肺の悪性新生物	393		H02	眼瞼のその他の障害	28
内科	E11	インスリン非依存型糖尿病	169	産婦人科	080	単胎自然分娩	526
	I63	脳梗塞	58		D25	子宮平滑筋腫	75
	J18	肺炎、病原体不詳	26		034	既知の母体骨盤臓器の異常又はその疑いのための母体ケア	74
血液内科	D46	骨髄異形成症候群	37	小児科	T78	有害作用、他に分類されないもの	291
	C90	多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	27		J18	肺炎、病原体不詳	129
	C83	びまん性非ホジキンリンパ腫	23		J20	急性気管枝炎	126
消化器内科	C22	肝および肝内胆管の悪性新生物	99	耳鼻咽喉科	J35	扁桃およびアデノイドの慢性疾患	127
	C16	胃の悪性新生物	78		J03	急性扁桃炎	86
	K80	胆石症	68		H91	その他の難聴	83
循環器内科	I20	狭心症	481	泌尿器科	C61	前立腺の悪性新生物	199
	I25	慢性虚血性心疾患	229		C67	膀胱の悪性新生物	167
	I50	心不全	191		N20	腎結石および尿管結石	133
外科	C34	気管支および肺の悪性新生物	385	皮膚科	B02	帯状疱疹	2
	C18	結腸の悪性新生物	175		L03	蜂巣炎	1
	K80	胆石症	127				
乳腺外科	C50	乳房の悪性新生物	291	麻酔科			
	D48	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物	25				
	N63	乳房の詳細不明の塊	6				
脳神経外科	S06	頭蓋内損傷	23	放射線科	C79	その他の部位の続発性悪性新生物	7
	C79	その他の部位の続発性悪性新生物	12		C34	気管支および肺の悪性新生物	2
	I63	脳梗塞	17		C77	リンパ節の続発性および部位不明の悪性新生物	5
整形外科	M17	膝関節症	94	歯科口腔外科	K01	埋伏歯	33
	S83	膝の関節および靱帯の脱臼、捻挫およびストレイン	63		K04	歯髄および根尖部歯周組織の疾患	27
	S72	大腿骨骨折	63		K07	歯顎顔面（先天）異常	20

◆診療科別/男女別 国際疾病分類統計

章	ICD-10分類	分 類	内科		血液内科		消化器内科		循環器内科		外科		乳腺外科		脳神経外科	
			男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
I	A00-B99	感染症および寄生虫症	21	12	5	6	32	17	6	3	8	11	0	0	0	0
II	C00-D48	新生物	4	7	106	68	233	150	3	2	776	324	2	320	13	15
III	D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	1	0	8	16	1	6	4	1	5	0	0	1	0	0
IV	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	116	101	2	0	3	8	4	9	7	4	0	1	0	0
V	F00-F99	精神および行動の障害	2	2	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1
VI	G00-G99	神経系の疾患	7	6	3	0	1	0	0	1	4	5	0	0	6	6
VII	H00-H59	眼および付属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
VIII	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	0	0	0	0	0	1	0	0	3	7	0	0	0	0
IX	I00-I99	循環器系の疾患	44	28	0	0	10	2	968	518	7	5	0	1	43	26
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	51	37	18	11	34	23	45	39	43	16	0	0	1	0
X I	K00-K93	消化器系の疾患	13	11	0	2	333	265	5	5	297	214	0	0	0	1
X II	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	6	3	0	2	1	3	4	4	4	0	0	1	0	0
X III	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	3	3	1	2	0	4	2	1	5	2	0	0	0	0
X IV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	5	17	2	8	2	17	19	16	2	7	0	6	0	0
X V	000-099	妊娠、分娩および産褥	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
X VI	P00-P99	周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
X VII	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
X VIII	R00-R99	症状、症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1	2	0	0	2	2	0	1	3	2	0	0	0	0
X IX	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	7	5	2	1	4	9	7	4	16	11	0	0	19	12
X X	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因 および保険サービスの利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総 計			281	238	147	116	656	507	1,067	605	1,183	608	2	330	82	62

◆年齢別/男女別 国際疾病分類統計

章	ICD-10分類	分 類	6歳未満		6歳未満合計	6歳以上10歳未満		10歳以上16歳未満合計	10歳以上16歳未満		16歳以上20歳未満合計	16歳以上20歳未満		20歳代	
			男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		
I	A00-B99	感染症および寄生虫症	56	50	106	8	7	15	8	11	19	2	7	9	13
II	C00-D48	新生物	2	2	4	0	2	2	1	2	3	3	4	7	24
III	D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	3	2	5	3	5	8	3	1	4	0	0	1	2
IV	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	15	4	19	7	7	14	15	10	25	0	1	1	1
V	F00-F99	精神および行動の障害	1	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
VI	G00-G99	神経系の疾患	20	15	35	3	5	8	1	1	2	1	2	3	4
VII	H00-H59	眼および付属器の疾患	1	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
VIII	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	8	4	12	10	2	12	9	3	12	3	3	6	4
IX	I00-I99	循環器系の疾患	1	2	3	1	0	1	1	2	3	1	1	2	4
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	282	235	517	39	26	65	20	17	37	20	8	28	43
X I	K00-K93	消化器系の疾患	6	9	15	7	5	12	17	16	33	13	12	25	22
X II	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	15	9	24	4	2	6	5	4	9	2	0	2	0
X III	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	31	22	53	3	2	5	4	10	14	1	1	2	2
X IV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	23	15	38	1	4	5	7	1	8	4	3	7	17
X V	000-099	妊娠、分娩および産褥	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	13	13	306
X VI	P00-P99	周産期に発生した病態	100	85	185	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
X VII	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	19	12	31	1	1	2	2	1	3	1	1	2	3
X VIII	R00-R99	症状、症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	27	20	47	4	1	5	2	1	3	0	0	1	0
X IX	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	168	92	260	27	17	44	20	10	30	18	11	29	8
X X	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因 および保険サービスの利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総 計			779	580	1,359	118	87	205	115	91	206	69	67	136	455

(単位：人)

整形外科		形成外科		産婦人科		小児科		泌尿器科		皮膚科		耳鼻咽喉科		麻酔科		放射線科		歯科口腔外科		総計	男性 総計	男性 比率	女性 総計	女性 比率
男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性					
0	1	0	0	0	6	72	67	1	0	1	1	5	10	0	0	0	0	0	1	286	151	52.80%	135	47.20%
2	1	32	46	0	263	0	0	417	73	0	0	31	35	0	0	4	10	17	15	2,969	1,640	55.24%	1,329	44.76%
0	0	0	0	0	9	9	8	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	76	35	46.05%	41	53.95%
1	0	2	0	0	1	37	21	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	319	174	54.55%	145	45.45%
0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	5	45.45%	6	54.55%
4	4	0	0	0	0	12	14	0	0	0	0	39	37	0	0	0	0	0	0	149	76	51.01%	73	48.99%
0	0	7	22	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	33	9	27.27%	24	72.73%
0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	97	88	0	0	0	0	0	0	200	103	51.50%	97	48.50%
0	0	26	48	0	2	2	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,740	1,104	63.45%	636	36.55%
0	0	0	1	0	2	263	245	1	0	0	0	255	141	0	0	0	0	0	2	1,228	711	57.90%	517	42.10%
0	0	1	0	0	2	13	18	2	2	0	0	9	6	0	0	0	0	48	76	1,323	721	54.50%	602	45.50%
0	2	15	10	0	5	22	12	1	0	0	1	2	3	0	0	0	0	1	1	103	56	54.37%	47	45.63%
133	179	1	1	0	1	34	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	404	179	44.31%	225	55.69%
2	0	1	0	0	141	26	20	238	125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	654	297	45.41%	357	54.59%
0	0	0	0	0	894	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	899	1	0.11%	898	100%
0	0	0	0	0	2	100	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	187	100	53.48%	87	46.52%
0	0	2	4	0	1	16	8	3	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	0	47	27	57.45%	20	42.55%
0	0	0	0	0	1	33	22	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	71	39	54.93%	32	45.07%
148	155	88	16	0	6	188	108	2	4	0	0	8	3	0	0	0	0	9	1	833	498	59.78%	335	40.22%
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	1	1	100.00%	0	0%
291	342	175	148	0	1,336	833	668	677	206	1	2	452	331	0	0	4	10	76	97	11,533	5,927	51.39%	5,606	48.61%

(単位：人)

20歳代 合計	30歳代		30歳代 合計	40歳代		40歳代 合計	50歳代		50歳代 合計	60歳代		60歳代 合計	70歳代		70歳代 合計	80歳代		80歳代 合計	90歳以上		90歳以上 合計	総計
	男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性			女性		
19	7	3	10	6	6	12	6	5	11	15	6	21	20	12	32	16	13	29	1	2	3	286
25	11	58	69	43	186	229	117	187	304	391	258	649	735	385	1,120	323	198	521	13	23	36	2,969
3	0	4	4	1	5	6	0	6	6	2	3	5	17	5	22	5	7	12	0	1	1	76
3	4	7	11	21	17	38	20	14	34	30	29	59	41	26	67	18	25	43	1	4	5	319
1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	2	5	0	0	0	11
11	1	3	4	5	1	6	9	8	17	7	9	16	16	17	33	5	8	13	1	0	1	149
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	4	7	11	3	12	15	0	0	0	33
8	7	6	13	11	3	14	15	14	29	12	24	36	16	26	42	8	8	16	0	0	0	200
7	11	10	21	61	16	77	120	46	166	242	97	339	442	269	711	196	149	345	25	40	65	1,740
94	34	18	52	43	21	64	30	22	52	38	23	61	67	37	104	70	47	117	17	20	37	1,228
42	38	32	70	75	59	134	77	64	141	117	102	219	219	146	365	125	116	241	7	19	26	1,323
6	4	1	5	3	3	6	3	2	5	5	15	20	6	3	9	2	6	8	1	2	3	103
7	6	3	9	5	13	18	20	20	40	33	41	74	55	69	124	16	40	56	0	2	2	404
25	16	40	56	27	74	101	33	37	70	38	38	76	86	55	141	47	62	109	7	11	18	654
306	0	518	518	0	61	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	899
1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	187
4	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	2	0	2	0	0	0	47
1	0	0	0	0	1	2	1	1	2	0	0	0	1	2	3	2	5	7	0	1	1	71
62	29	12	41	51	17	68	36	22	58	27	36	63	35	45	80	32	51	83	1	14	15	833
0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
625	168	716	884	354	484	838	489	448	937	958	685	1,643	1,760	1,105	2,865	873	749	1,622	74	139	213	11,533

◆悪性新生物患者数（部位別/男女別）

（単位：人）

中分類	中分類部位	男 性		女 性		合 計		総計
		退院	死亡	退院	死亡	退院	死亡	
口唇、口腔および咽頭	C02 舌のその他および部位不明	3	0	1	0	4	0	4
	C03 歯肉	6	0	5	1	11	1	12
	C05 口蓋	1	0	0	0	1	0	1
	C06 その他および部位不明の口腔	0	0	2	0	2	0	2
	C10 中咽頭	1	0	0	0	1	0	1
	C11 耳く上咽頭	0	0	1	0	1	0	1
	C13 下咽頭	1	0	1	0	2	0	2
合 計		12	0	10	1	22	1	23
消化器	C15 食道	94	5	8	2	102	7	109
	C16 胃	132	8	47	6	179	14	193
	C17 小腸	4	0	0	0	4	0	4
	C18 結腸	131	7	96	5	227	12	239
	C19 直腸S状結腸移行部	3	1	0	0	3	1	4
	C20 直腸	62	10	22	6	84	16	100
	C21 肛門および肛門管	7	0	6	0	13	0	13
	C22 肝および肝内胆管	112	9	39	5	151	14	165
	C23 胆のう＜囊＞	3	1	11	3	14	4	18
	C24 その他および部位不明の胆道	12	3	9	4	21	7	28
合 計		33	6	27	10	60	16	76
合 計		593	50	265	41	858	91	949
呼吸器および胸腔内臓器	C31 副鼻腔	2	0	0	0	2	0	2
	C32 喉頭	1	0	0	0	1	0	1
	C34 気管支および肺	275	17	90	11	365	28	393
	C37 胸腺	2	0	0	0	2	0	2
合 計		280	17	90	11	370	28	398
骨および関節軟骨	C41 その他及び部位不明の骨及関節軟骨	1	0	0	0	1	0	1
合 計		1	0	0	0	1	0	1
皮膚	C43 皮膚	1	0	0	0	1	0	1
	C44 皮膚のその他	10	0	4	0	14	0	14
合 計		11	0	4	0	15	0	15
中皮および軟部組織	C45 中皮腫	7	0	3	1	10	1	11
	C48 後腹膜および腹膜	1	0	8	1	9	1	10
合 計		8	0	11	2	19	2	21
乳房	C50 乳房	1	0	309	10	310	10	320
合 計		1	0	309	10	310	10	320
女性生殖器	C51 外陰（部）	1	0	0	0	1	0	1
	C53 子宮頸（部）	0	0	12	0	12	0	12
	C54 子宮体部	0	0	56	1	56	1	57
	C55 子宮	0	0	0	1	0	1	1
	C56 卵巣	0	0	33	2	33	2	35
	C57 その他および部位不明の女性生殖器	0	0	7	1	7	1	8
合 計		1	0	108	5	109	5	114
男性生殖器	C61 前立腺	195	5	0	0	195	5	200
	C62 精巣＜睾丸＞	2	0	0	0	2	0	2
合 計		197	5	0	0	197	5	202
尿路	C64 腎盂を除く腎	24	2	8	0	32	2	34
	C65 腎盂	13	1	10	0	23	1	24
	C66 尿管	12	0	6	1	18	1	19
	C67 膀胱	122	3	42	0	164	3	167
	C68 その他及び部位不明の尿路	1	0	0	0	1	0	1
合 計		172	6	66	1	238	7	245
眼、脳および中枢神経その他の部位	C71 脳	0	0	2	0	2	0	2
合 計		0	0	2	0	2	0	2
甲状腺およびその他の内分泌腺	C73 甲状腺	3	0	6	0	9	0	9
合 計		3	0	6	0	9	0	9
部位不明確、続発部位および部位不明	C77 リンパ節の続発性および部位不明	11	1	5	0	16	1	17
	C78 呼吸器および消化器の続発性	33	4	34	2	67	6	73
	C79 その他の部位の続発性	24	2	16	0	40	2	42
	C80 部位が明示されていない悪性新生物	4	1	2	0	6	1	7
合 計		72	8	57	2	129	10	139
リンパ組織、造血組織および関連組織	C81 ホジキン病	3	0	1	0	4	0	4
	C82 ろ胞性〔結節性〕非ホジキンリンパ腫	3	1	7	0	10	1	11
	C83 びまん性非ホジキンリンパ腫	10	3	10	0	20	3	23
	C84 末梢性および皮膚T細胞リンパ腫	1	1	0	0	1	1	2
	C85 非ホジキンリンパ腫のその他および部位不明の型	13	0	12	4	25	4	29
	C88 悪性免疫増殖性疾患	2	0	1	0	3	0	3
	C90 多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	10	2	14	1	24	3	27
	C91 リンパ性白血病	9	1	3	0	12	1	13
	C92 骨髄性白血病	8	8	1	2	9	10	19
	C93 単球性白血病	7	0	0	0	7	0	7
合 計		2	0	1	0	3	0	3
合 計		68	16	50	7	118	23	141
上皮内新生物	D06 子宮頸（部）の上皮内癌	0	0	5	0	5	0	5
	D09 その他及び部位不明の上皮内癌	1	0	0	0	1	0	1
合 計		1	0	5	0	6	0	6
総 計		1,420	102	983	80	2,403	182	2,585

◆大分類別/診療科別 国際疾病分類統計（死亡統計）

(単位：人)

章	分類	分類 コード	ICD-10	内科		血液内科		消化器内科		循環器内科		外科		乳腺外科		脳神経外科		整形外科		産婦人科		小児科		泌尿器科		耳鼻咽喉科		放射線科		歯科口腔外科		総計		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
I	感染症および 寄生虫症	A00-B99	A0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
			A4	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
II	新生物	C00-D48	C0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
			C1	0	1	0	0	4	3	0	0	17	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	
			C2	1	1	0	0	14	15	0	1	14	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57	
			C3	0	0	0	0	0	0	1	1	16	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	
			C4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
			C5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	7	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	
			C6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	1	0	0	0	0	0	12		
			C7	0	0	1	0	0	0	0	0	4	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	9	
			C8	0	0	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	
			C9	0	0	11	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	
			D4	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
III	血液および造血器の疾患な らびに免疫機構の障害	D50-D89	D6	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
IV	内分泌、栄養お よび代謝疾患	E00-E90	E1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
			E8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2		
VI	神経系の疾患	G00-G99	G9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
IX	循環器系の疾 患	I00-I99	I2	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
			I3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
			I4	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
			I5	0	0	0	0	0	1	6	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
			I6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
			I8	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
X	呼吸器系の疾 患	J00-J99	J1	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
			J3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
			J4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			J6	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
			J8	2	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
			J9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
X I	消化器系の疾 患	K00-K93	K2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
			K5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
			K6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			K7	0	0	0	0	4	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
			K8	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
			K9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
X III	筋骨格系および結合組 織の疾患	M00-M99	M7	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
X IV	腎尿路生殖系系の疾患	N00-N99	N1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6	
X IX	損傷、中毒およびその 他の外因の影響	S00-T98	S7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
診療科別/男女別合計				10	6	19	12	27	25	14	15	57	43	0	7	4	1	1	1	0	5	1	0	13	2	0	1	1	0	1	2	268		
総計				16		31		52		29		100		7		5		2		5		1		15		1		1		3				

◆年齢別/診療科別 国際疾病分類統計（死亡統計）

(単位：人)

年代別	内科		血液内科		消化器内科		循環器内科		外科		乳腺外科		脳神経外科		整形外科		産婦人科		小児科		泌尿器科		耳鼻咽喉科		放射線科		歯科口腔外科		総計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
6歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
30歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
40歳代	0	0	0	0	1	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
50歳代	0	1	1	0	2	2	0	1	3	4	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
60歳代	0	0	2	2	2	3	1	0	8	8	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	29
70歳代	4	1	9	5	10	10	5	3	25	18	0	1	1	0	0	0	0	3	0	0	5	0	0	0	0	0	0	1	1	102
80歳代	4	4	7	3	10	10	7	4	18	8	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	7	1	0	1	1	0	0	1	89	
90歳以上	2	0	0	2	2	0	1	7	0	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	20
診療科別/男女別合計	10	6	19	12	27	25	14	15	57	43	0	7	4	1	1	1	0	5	1	0	13	2	0	1	1	0	1	2		268
総 計	16		31		52		29		100		7		5		2		5		1		15		1		1		3			

医療安全管理室の現況

1. スタッフ

室 長	池本 慎一（兼診療局次長・泌尿器科部長）
医療安全管理者	山中 トモエ（兼看護部次長・医療安全管理室看護師長）
薬 剤 師	中谷 成美（兼薬剤部長補佐）
看 護 師	安田 幸代（兼5階西病棟看護師長）、上岡 いずみ（兼集中治療部係長）
事 務 職	吉田 正雄（企画運営課長補佐）

2. 活動内容

医療安全全体統括のため、医療安全管理室内の会議を定期的に行い、以下のとおり医療安全に関する活動に取り組んだ。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ①インシデント事例報告の収集・分析・評価 | ⑥医療事故のサポート |
| ②アクシデント報告の収集・分析・評価 | ⑦セーフティマネージャーの統括・指導 |
| ③医療事故防止対策の具体的内容の検討 | ⑧医療安全推進部院内ラウンド |
| ④委員会決定事項の伝達 | ⑨患者サポート相談窓口の充実 |
| ⑤医療事故防止の教育・啓発 | ⑩教育活動への参加 |

3. 活動実績

1) インシデント/アクシデントの分析

インシデント/アクシデントについては、医療安全管理委員会（毎月第2月曜日開催）や医療安全推進部会（毎月第4月曜日開催）を通じ情報の提供・改善内容の周知を図っている。

- ①月報（インシデント・アクシデントの集計や傾向） ②研修会の内容報告
③インシデント事例から

- | | | |
|--------------|---------------|-------------|
| ・転倒・転落に対する対策 | ・口頭指示受け時の対応対策 | ・患者誤認に対する対策 |
| ・針刺し事故防止対策 | ・誤薬防止対策 | |

2) 医療安全推進部会による院内ラウンドとラウンド後のカンファレンス実施

6月から2月（第4月曜日／月）医療安全に必要な項目（注射点滴手順チェック、麻薬の取扱い、環境、物品・薬剤、器械・器材、基準遵守状況）を院内ラウンドによりチェックし改善対応策を検討するとともに、改善方針の院内周知を図った。

3) 所属別セーフティカンファレンスの実施（1回以上／月）

院内で発生したインシデントを分析し、発生所属においてセーフティカンファレンスを行い、改善を図るとともに再発防止に努めた。

4) 周術期血栓対策部会の活動

- ①周術期血栓対策部会（6回／年）を開催し血栓予防対策に関する周知を図った。

5) 教育・研修の実施

①臨床研修医および新規採用者・中途採用者（看護師）・看護補助者・医療事務作業補助者・実施指導者を対象にセーフティ研修を実施した。

②学研ナースングサポート（eラーニング）を活用し、医療安全関連テーマの視聴学習を啓蒙し看護師の安全に対する意識向上を図った。

③全職員を対象とした医療安全講演会（3回／年 補正研修 各2回／年）

年間計画を策定し、様々な視点から、安全な医療への意識向上を目的に研修を実施した。

テーマ・医療機関における虐待に対する気づきと関わり方（受講率 80.8%）

・麻薬の管理と当院での事故事例について（受講率 74.5%）

・精神科リエゾンチームによるせん妄対策（受講率 74.1%）

※年間平均受講率は76.4%であり、平成29年度と比較すると2.1%減少した。

全部署での受講率の向上に向けての取り組みが今後の課題である。

6) 医療事故防止対策標語の設定（12回発行）

7) 院内医療安全情報の発行（6号発行）とインシデント発生によりトピックス情報を発信し注意喚起を図った。

8) 中河内医療安全対策協議会を立ち上げ、他施設との医療安全対策に係る取り組みの相互チェックを実施した。

・1-1 連携

評価施設（八尾市立病院） — 受審施設（医真会八尾総合病院）

評価施設（宝持会池田病院） — 受審施設（八尾市立病院）

・1-2 連携

評価施設（八尾市立病院） — 受審施設（桜希会東朋八尾病院）

取り組み実施後のアンケート調査では、評価施設・受審施設共に相互チェックを行って、「良かった」、「改善活動に繋がった」との意見が多かった。

9) 大阪府看護協会府東支部医療安全管理者交流会への参加（4回/年）と研修会の実施

平成30年12月7日18時から20時に八尾市立病院北館5階会議室にて、大阪市立大学医療安全管理学 准教授 山口（中上）悦子先生を講師に迎え「チーム医療とコミュニケーション」をテーマに医療安全講演会を開催した。府東支部内の医療施設などより看護師やコメディカル、事務職を含む64人の参加があった。講演後のアンケート結果では、良かったという意見が多くあり、医療安全におけるコミュニケーションの重要性が理解できたこと、コミュニケーションを図るにはお互いを尊重することが大切であり職場環境の整備に取り組みたいとの感想もあった。医療安全にはコミュニケーションが重要であり、安全に対する意識向上を図ることができた。

感染対策管理室の現況

1. スタッフ

室 長 児玉 憲（兼特命院長）
感染管理者 甲斐 幸代（兼看護師長室看護師長・感染対策管理室看護係長）
薬 剤 師 長谷川 和恵
臨床検査技師 西野 多江子

2. 活動内容

医療関連感染を防止し、アウトブレイクの発生時には、すみやかに対応し、感染対策防止に努めている。

- 1) 抗菌薬適正使用
 - ①ME PMの適正使用
 - ②広域抗菌薬の長期投与の把握
- 2) 手指消毒剤の使用
 - ①毎月の手指消毒剤の使用量の把握
- 3) 環境ラウンド
- 4) アウトブレイク 0 を目指して
 - ①毎月の耐性菌などの検出の把握
- 5) 感染対策地域加算連携

3. 活動実績

- 1) 抗菌薬の適正使用
 - ①ME PMの適正使用：平成 28 年度 11 月から毎週火曜日に全科のME PM使用患者を把握し、テンプレートを作成し、入院経過から、抗菌薬の適正使用について検討を行った。テンプレートに検討内容を記載し、抗菌薬の変更など提案した。
平成 30 年 4 月からはA S T（抗菌薬適正使用支援）チームとして活動し、延べ 226 件の介入を施行している。
 - ②広域抗菌薬の 14 日間以上の使用を把握
長期投与症例を把握し、抗菌薬の適正使用に関する提案をした。テンプレートにて提案内容を記入し、平成 30 年度は、A S T チームとして、延べ 82 件の介入を施行している。
 - ③無菌検体の感染制御内科医師の介入
無菌検体の陽性者の介入を平成 29 年度 7 月から開始し、グラム染色で陽性の場合と、菌名の結果が出た場合と、2 回の介入を施行した。平成 30 年度は、延べ 442 件の介入を施行している。
- 2) 手指衛生の徹底
平成 30 年度は、1 患者 1 入院あたりの使用回数を、3.0 回として活動した。1 部門では、手

指消毒の個人携帯を開始。手指衛生の回数も徐々に増加し、目標も1患者1入院あたりの回数が3.4回と目標を達成することができた。

3) 環境ラウンドの強化

平成28年4月から、4職種による院内ラウンドを開始し、水回りを中心に、チェックリストを用いて評価。評価は、各部署へフィードバックした。平成29年4月からは、フィードバックも写真で悪い箇所を指摘し、写真にて評価。平成30年度は、徐々にではあるが、指摘項目も少なくなっている。

4) アウトブレイク0を目指して

日々の耐性菌の検出状況を把握して、各部署でアウトブレイクしていないか判断し、平成29年度は、耐性菌によるアウトブレイクを起こすことはなかった。平成30年度も引き続き、アウトブレイク0を目指して活動をした。

5) 感染対策地域加算

平成30年度は、加算1・2連携のカンファレンスを8回開催した。ラウンドも施行し、加算2の施設を1施設を施行した。毎月の加算1・2連携の施設では、耐性菌の検出状況や抗菌薬の使用状況を報告した。

看護部の現況

看護部の現況

看護部理念

1. 患者家族の価値観やニーズを尊重し、満足していただける心ある看護を提供します。
2. 高度な医療に伴った質の高い看護を提供します。
3. 健全な病院経営の一端を担います。

平成 30 年度看護部目標

1. 計画的な人材育成と看護の質向上に努め、看護実践に役立てる。
2. 看護の標準化に向け業務改善に取り組み、安全な医療と看護を提供する。
3. 看護の視点と経営の視点で病院経営に貢献する。
4. 接遇教育を充実し、品格のある人材を育成する。

看護体制

平成 30 年度は常勤看護職員 327 名と非常勤看護職員 53 名の合計 380 名でスタートした。平成 30 年度の看護師の離職率は新卒で 4.76%看護師全体では 6.45%と全国平均より低く定着率もよいが、健全な看護体制を堅持するには計画的な人員確保は今後も重要である。

人材育成の面では、新採用者は各病棟に 2～3 名配属し、プリセプター、実地指導者、教育担当者を中心に全員で育成するスタンスが定着してきた。また、指導の進捗状況は教育委員会で共有し部署間での差異がでない計画的な指導に取り組んだ。専門分野の資格取得については、助産実践能力（CLOCMiP）を 3 名が取得し 10 名となった。認定看護師や専門的な分野での資格取得を主体的に目指すスタッフが増えている。その専門性を地域でも発揮し地域全体の看護の質向上に貢献したいと考える。

災害看護に関しては、平成 30 年 7 月豪雨に 2 名の災害支援ナースを派遣した。現在の災害支援ナース登録数は 25 名で、訓練等も定期的に行っている。しかし、常に災害を意識して行動できているとは言い難く、業務継続計画（BCP）等マニュアルの見直しやアクションカードの作成などより具体的な対策が必要である。

経営の視点では適正なベッドコントロールを行い、病床稼働率向上に努めた。ベッドコントロールには、入院前からの退院を見据えた支援が不可欠で、今年度は入退院支援センターで 897 名に対応できた。今後も、対象患者の拡大に取り組み患者・家族の不安の軽減と退院後の療養支援へのスムーズな移行を図り早期からの退院支援を継続したい。さらに業務の効率化を図り病棟看護師の負担軽減を図ることが安全な医療の提供にもつながると考える。

当院は 24 時間 365 日断らない救急を目指し、救急搬送の受け入れ数が昨年の 4,026 名から 4,664 名と増加した。こうした救急対応を拡充する中で安全な医療・看護を提供するためには診療局や事務局、SPC などの多職種と連携を強化し実績データの分析などにより、業務改善につなげることが重要と考える。今後も安全な療養環境を整え患者と職員の満足度を向上させる取り組みを強化し急性期病院としての役割を果し患者が求める医療・看護サービスの提供に努めたい。

1. 看護部委員会活動状況

委 員 会 名	目 的
業 務 委 員 会	看護部理念に基づき、患者・家族が安心できる看護を提供するために、看護業務が安全かつ効果的に遂行できるように、看護の標準化と質の向上を図る。
教 育 委 員 会	看護部理念に基づき、看護職員の資質の向上を図り、専門職業人として質の高い看護が提供できる看護師を育成する。
接 遇 委 員 会	接遇マナーの向上を図り、質の高い看護を提供する。
臨 床 指 導 者 会	看護部の看護に対する理念や考え・技術を土台とし、実習病院として対象の生活場面を通して疾病および健康への援助を学習させると共に、社会に貢献し得る看護師を育成する。
研究推進委員会	看護研究の取り組みを推進し、研究課程の実践を通し、看護の専門性を高め看護実践に活かす。
倫 理 委 員 会	看護部において人としての倫理が守られ、患者の権利を尊重した看護活動ができる体制の整備を図る。

業務委員会

安全で質の高い看護業務の標準化を図るため、看護基準・手順の整備と看護補助者業務の見直しを行った。看護手順は、医療安全管理委員会とインシデント情報を共有し、手順の内容を検証しながら、今年度は、注射・点滴に関する手順を重点的に見直し修正した。輸血療法に関しては、輸血の準備、実施、輸血中と輸血後の観察までを3段階に分け作成し直したことで、各段階での確認、観察、注意事項が分かりやすくなった。新規手順の作成10項目、改訂を6項目行った。

看護補助者業務においては、各部署の業務内容の見直しを行うと共に日常生活に関わる業務手順に沿ってチェックリストを作成したので次年度指導に活用していきたい。

2年ぶりに看護師、看護補助者の業務量調査を行った。今年度は、業務量だけではなく、各部署の時間ごとの業務内容の比較を行い時間帯による繁忙度が可視化できた。前回の業務量調査結果と同様に「記録」と「看護師間の報告・申し継ぎ」が上位を占めており、時間外勤務においても同様の結果であるためタイムリーな記録の意識づけと申し送り方法や内容の見直しが課題となった。看護師の業務負担を軽減するためには、助勤体制や看護補助者と協働し、効果的・効率的に看護が提供できるよう業務改善に取り組んでいきたい。

教育委員会

専門職業人としての知識・技術・態度の習得を目標として、一人ひとりが看護実践能力を高めることができるようラダー別研修を29項目開催し441名受講した。担当ごとに研修計画書作成および研修修了後のアンケートを参考とし改善に努めている。いつでもどこでも学べる環境づくりの一貫として導入しているeラーニングは各部署が効果的に取り入れており、特に新人看護師の学習支援に活用されていた。

また今年度は平成28年度からスタートした「がん看護ベーシックコース」の第2回を開催した。年間9回におよぶ研修の中で、受講生は基本的な知識の再確認と共に自身が経験してきた困難事

例や日々の看護ケアについて振り返る機会となり、受講前に比べ積極的にがん患者への関わり、カンファレンスでの発言、専門家への情報提供など行動変容が起こっている。

昨年に引き続き地域の訪問看護ステーション対象研修や研修協力など看護部教育委員会として地域の看護師と共に看護の質向上に取り組む事ができた。今後も教育体制、計画の評価を適切に行いより良い人材に努めたい。

接遇委員会

接遇委員会は、接遇マナーの向上を図り、質の高い看護を提供することを目的に取り組み活動した。接遇マナーの実践力を高めるために、接遇目標を設定し、マナー向上にむけてスタッフ全員で取り組んだ結果、目標達成度は総合的に毎月 85%を超えた。

八尾市立病院看護師基本スタイルを徹底するために、接遇強化月間の設定、院内チェックラウンドを実施した。院内全体で 10 月を接遇強化月間とし、ポスター掲示による啓蒙活動を実施し意識向上に努めた。6 月は、看護師スタイルの徹底を図るため、身だしなみチェックを行い 10 月は、身だしなみチェックに加えて接遇マナーに関するチェックを行い、基本遵守されていない時は、現場での指導を行った。

接遇に関する啓蒙活動への取り組みを計画し、実践的な理解ができるように勉強会の開催と接遇便りの発信を行った。学研ナースिंगの Web 研修を活用した結果、看護部の接遇研修参加率は 92%を達成した。接遇マナーに関する題材で毎月の委員会時間内で勉強会を開催し各部署への伝達を行った。また、接遇場面でのアドバイスを兼ねた接遇便りを発信することにより接遇マナー向上への意識付けを行った。

臨床指導者会

学生の臨床実習の受け入れは昨年度より 1 校増え、13 校であった。年間受け入れ延人数は 3,812 人で、昨年より 518 人増となった。教育の動向の変化に対応し、各部署では実習指導者講習会修了者を配置し実習環境の充実を図っている。また、実習指導者講習会修了者による伝達講習を行い、学校の教育制度や学生の関わり方について知識の向上を図った。

学生がそれぞれ受け持ち患者を通して学びが得られるよう実習担当教員と共に指導に当たり、お互いに意見交換を行ったことで学生にたくさんの気づきを与え、全員が実習を終了することができた。各学校の実習担当教員からスタッフの指導が行き届いているとの評価があり、当院で実習を受けた学生 2 名が就職を希望し入職するという実績も得られた。院外活動としては、3 校の就職説明会に参加した。

各部署で実習する学生の成長が理解できるよう、委員会では学生の到達度等について次の実習へつなげられるように報告会を開催している。今後も情報共有すると共に学生に対して具体的に良いアプローチができているか評価まで行っていきたい。

研究推進委員会

今年度は、研究過程の実践を通して看護の専門性を高めると共に看護実践に活かし、看護の質向上を目的に看護研究に取り組んだ。平成 30 年 12 月に卒後 3 年目の看護師が初めて研究に取り組み 6 題の発表を行った。また、院内研究に 6 部署が取り組み平成 31 年 3 月に発表会を開催し、109 名の看護師が参加した。今年度も、がん看護認定看護師や感染認定看護師が専門性に特化した

学会や研究会で発表し、昨年度より 3 題多い 14 題を院外で発表することができた。看護研究における知識習得のため卒後 2 年目の看護師を対象に研修会を開催し 14 名が参加した。また、学研ナーシングサポートの視聴を推奨し、看護計画書作成から倫理審査・論文作成の過程において部署全体で取り組み、研究過程の実践を通して看護の質向上のための取り組みができた。今後も研究の成果を看護実践で活かし看護の質向上につなげていきたい。

倫理委員会

今年度は、17 題の看護研究において倫理的配慮がなされているか審議した。倫理的感性を高めるために新人研修、ステップ研修で倫理研修を行った。研修内で事例検討も実施し倫理に関する知識と倫理について考える大切さを再確認できた。ナーシングサポート視聴による研修も行い 21 名の参加があった。倫理カンファレンスに関しては、身体拘束カンファレンスは、各病棟において実施できており、委員会にて事例検討も 8 回実施した。症例を通して日々の業務に倫理的側面を思考することができたと評価する。今後も引き続き、倫理カンファレンス実践に取り組みスタッフひとり一人の倫理的感性を高め看護の質向上に繋げて行きたい。

2. 認定看護師の活動報告

分野	皮膚・排泄ケア	認定看護師 横山 敬子
実践	創傷・褥瘡管理時に壊死組織のデブリーメント及び陰圧閉鎖療法など特定行為実施し早期褥瘡対策ができ、各科医師よりチーム医療連携を図ることが多くなってきた。褥瘡管理については、高齢者の入院稼働率が上昇傾向にあり、有病率は 0.9→1.24%/年と持ち込み褥瘡が多くなった。推定褥瘡発生率は 0.47→0.43%/年と件数は昨年と変化はみられない。しかし、褥瘡発生問題を明確にし、個々の予防対策を伝えることでスタッフも煩雑な業務の中ではあるが深達度は浅い褥瘡での報告が増え、深い褥瘡の院内発生がなくなった（StageⅠ：3→9件・Ⅱ：9→16件・Ⅲ8→4件・Ⅳ：3→0件）。病棟でカンファレンスを繰り返し、褥瘡を作らないという意識や責任が感じられ、予防対策が深まり個々にあった患者対策をすることでⅣ度を0人にし、Ⅲ度を半減につなげることができた。自己研鑽目的で在宅研修に参加し在宅環境の現状の理解を深める実践に役立てることができた。患者を取り巻く周囲の環境を理解する必要があると考え、訪問看護師と訪問看護実習を行い、退院支援や入院期間短縮に向けての働きかけが実践できた。在宅への同行訪問も実現化し6回/年ではあるが、ケア指導も行うことができ、自身の在宅の環境の理解を深める学びの場となった。	
指導	・「褥瘡新人・中堅研修、ｽｹﾈｱ・MDR P U講習」4回/年 講師 ・「第12回 大阪府在宅褥瘡セミナー」講師 ・NST 専門療法実地修練研修で褥瘡管理講習 講師 ・中河内看看連携総会 訪問看護師相互研修 看護専門外来実習の6名受け入れ 看護専門外来での見学実習を受け入れ、顔の見える連携に努め、オストミー・失禁・創傷（褥瘡および難治性創傷）院外訪問看護師に向けて指導。 ・術前ストーマサイトマーキングは指導のもと、講習会受講修了者は毎年徐々に増加している（ストーマ認定士を2名育成）。 大黒HCSストーマケア講習会講師 ダンサックスストーマケアセミナー講師「在宅を見据えた装具選択について・症例検討」 ・第2回八尾 足を学ぶ会「当院でのフットケアの関わり」講師 糖尿病療養指導士とフットケア療養士・形成外科医・糖尿病専門医とともに講習会を開催院内では難治性創傷外来で、チーム医療し、病棟スタッフへは主体性を持ち患者と関わり看護介入ができるようまずは実践・継続ケアができるよう指導した。 ・市民公開講座 「手足の浮腫み・四肢リンパ浮腫に関するお話」 講習会 講師 ・第2回在宅医療講習会「みんなで考える医療と介護・在宅での褥瘡管理とストーマケア」講師	
相談	今年はWOCN10年目、特定2年目で、患者、家族、医師や訪問看護師からの相談件数も増え、WOC各種それぞれの依頼がある。より具体的にアドバイスができるよう日々努めている。コンサルテーション形式に各スタッフが考え自主的に行動できるように配慮しながら、ともに対策および評価も行うように努めた。	

分野	乳がん看護 認定看護師 吉野 知子
実践	緩和ケア専従看護師としてがん患者だけでなく非がん患者への対応を行った。疼痛コントロールが必要な患者や治療に悩んでいる患者へ患者や家族の意向を確認しながらその人らしく過ごすための支援を行った。特に緩和ケアチームとして多職種連携のメリットを生かし、多方面からの患者へのアプローチと必要な部署への橋渡しを意識して対応した。チーム介入件数は、123 名であった。 第 140 回 阪神乳腺疾患談話会 「当院におけるアピアランスケアの実際」 第 33 回 日本がん看護学会学術集会「がん看護実践能力の向上を目指した緩和ケア研修に対する所属長の評価」 市民医療公開講座 座談会 アドバイザー 中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会シンポジウム パネルディスカッション司会
指導	看護師へ緩和ケア研修（がん看護ベーシックコース）を全 10 回シリーズで開催した。ステップⅢ研修で意思決定支援の講義を担当した。 緩和ケア専従看護師として病棟カンファレンスへ参加した際には、スタッフの抱えている困難を確認し、助言を行った。
相談	緩和ケアチームへ介入依頼がある患者の多くは、人生の最終段階にある。そのような状況にある患者や家族の思い（病気、残った時間の過ごし方など）をどうやって確認したらよいかとの相談が多かった。状況を確認し、相談した看護師がどのように対応してなぜ困っているのかを確認し、相談した看護師が実践できるようにサポートした。また、その後の結果についても必ず確認を行った。

分野	救急看護 認定看護師 松川 麻由美
実践	中央手術部師長として救急看護に携わり、あらゆる状況で救命処置ができるように指導実践してきた。危機的な状況の家族に対し介入した。また体験学習に来ている中学生や高校生に B L S を体験してもらい一般市民に向けての B L S 普及活動を行った。 八尾市教育員会の依頼で養護職員を対象に応急処置の研修などを行った。看護協会災害支援ナースに登録し、西日本豪雨の際に倉敷の避難所で災害支援を行った。
指導	病棟や外来で発生する急変症例を想定し、シミュレーション形式の研修を年間通じて 6 回施行した。
相談	教育委員会と協働し、新規採用職員の B L S 研修や、大阪府医師会 A C L S 大阪の協力のもとで院内研修の立案に賛同した。

分野	手術看護 認定看護師 青木 ひとみ
実践	手術看護学会、手術医学会、褥瘡学会、環境感染学会などに参加し、手術を受ける患者の看護に関する最新の知識と技術を習得し、年間約 50 件の手術介助（外回り、器械出し）を行い、手術看護を提供した。

	術中褥瘡予防への取り組みとして手術ベッドの更新に伴い、マットレスの選定などに携わった。また、特殊体位による術中褥瘡発生0を目指し、ポリウレタンフォームの選定を行った。 近年、ラテックスアレルギー症候群患者が増え、安全な手術が提供できるようラテックスアレルギー対策のための物品調整、スタッフの指導を行った。
指導	新人看護師のローテーション研修で20名の指導に携わった。 手術室配属看護師4名の指導および手術実践においてスタッフへ指導した。
相談	新人指導者へのコンサルテーションを行った。 術前不安を訴える患者の対応、相談依頼に対応した。

分野	緩和ケア（外来）	認定看護師 本多 紀子
実践	外来（放射線・化学療法を受ける患者）での対象患者に対して、医師の病状説明への同席や苦痛のスクリーニングを行いカウンセリングなどを行った。（がん患者指導管理料Ⅰ：8件、Ⅱ：18件） 婦人科・泌尿器科で手術を行った患者に対してのリンパ浮腫外来実施（婦人科：13件、泌尿器科6件） リンパ浮腫患者に対し弾性着衣の指導などの外来実施（婦人科：62件、泌尿器科：10件、他科：4件）。形成外科受診のリンパ管吻合術前後のリンパ浮腫外来については76件	
指導	外来での疼痛やリンパ浮腫で困っているスタッフに対し、患者への指導方法や今後の対応について指導を行った。 リンクナースとの連携を図った。	
相談	苦痛を訴える患者さんへの対応や家族ケアについて相談依頼に対応した。	

分野	緩和ケア（病棟）	認定看護師 小林 啓子
実践	放射線治療を受ける患者の診察に同席し、医師の説明後に治療目的や副作用などが把握されているか、また納得して治療を受ける準備が出来るように治療選択場面での意思決定支援を行った。患者自身のわからない内容を確認し少しでも不安感が軽減できるように努めた。診療室での緊張感や気持ちの表出が出来るように擁護し、わからない事や困ったことがあればいつでも相談できることや、また苦痛のスクリーニングで苦痛症状が高い患者には症状緩和について多職種との連携し迅速に対応を行った。	
指導	院内の看護師対象の緩和ケア研修会で事例展開のセッションを他の認定看護師と一緒に参加をした。患者役・家族役・看護師役を疑似体験することで、がん患者の看護について気づきや振り返ることが出来るようにディスカッションする方法で行った。	
相談	気軽に相談できる様に心掛けた。内容としては、疼痛に関することや、薬の使い方、オピオイドに関することであった。また精神症状としては、不安、せん妄、不穏時の対応であった。	

分野	感染管理 認定看護師 甲斐 幸代
実践	今年度は、手指消毒剤を変更し、手指衛生の目標回数を 3.0 回として活動。しかし、なかなか回数が増えず、回数が少なく、耐性菌の検出が目立った病棟は個人携帯の手指消毒剤を 1 病棟開始した。個人携帯の開始から、耐性菌の検出も減少したことから、来年度に向けて、個人携帯を他の手指衛生が少ない部署へも広げていく。 また、今年度手指衛生の設置場所も検討し、使用しにくい場所に設置していたものを部屋の入口の手すりを利用し、ラックに手指消毒剤を入れて設置場所とした。入口の手すりのため、患者さんの歩行時に危険などないか、1 病棟で 1 か月ほど検証し、特に問題がなかった為、全部の部屋の前の手指消毒剤の設置場所の変更を行った結果、以前より、ラウンド時の使用量の確認では、使用量の増加が確認できた。
指導	今年度は、麻疹の流行もあり、麻疹の疑い患者さんの来院時の対応で、救急外来等での対応等で指導を行う機会が多かった。抗体の有無が分からない職員には、N95 マスク使用での対応の確認を行った。 また、耐性菌の検出が多かった部署への手洗いの徹底や、手荒れのあるスタッフへの手袋の着用の指導を施行した。
相談	手荒れのひどいスタッフへの相談で、手袋の着用および、手袋だけでなく、手袋の下に着用する綿の手袋の着用を検討。SPDセンターのいろいろな種類を取り寄せて、手に合うものを探して、手に刺激の少ないものを使用してもらうようにした。

分野	がん化学療法看護（外来） 認定看護師 津江 かおる
実践	がん化学療法薬を投与する際、治療を受けられる方に対して副作用の出現時期を予測しながら、セルフケアができるようにより具体的に支援した。 カンファレンスを通してスタッフと情報共有しながら、症状マネジメントを継続して行った。
指導	スタッフ間で情報共有しながら、日々の実践を通してセルフケア支援が出来るように働きかけた。
相談	病棟・他部門スタッフより、投与時の血液逆流の確認方法や漏出のアセスメントおよび、留置針入れ替えの判断について相談を受け対応した。 抗がん剤投与時に注意事項や観察のポイントについての相談が多く、その都度対応した。

分野	糖尿病看護 認定看護師 平山 美紀
実践	医師と外来・病棟看護師が参加する、糖尿病療養指導に関する症例検討会を毎週開催し、医師と外来と病棟看護師間の連携強化と情報共有を行っている。 院外では、第 23 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会での学会発表や、大阪糖尿病協会顧問看護師会 糖尿病看護研究会での講師やその他 5 つの講師、岡山県立大学糖尿病看護スキルアップ講座での座長を務めた。院内では、看護師・薬剤師を対象とした勉

	強会の企画と講演を合わせて4回実施した。 心理・社会・身体面から包括的にアセスメントし、問題解決の為の療養支援の実践と、多職種協働で作成した糖尿病のしおりを改善し、活用することで療養指導の充実を図った。
指導	糖尿病に関する知識向上の為に、病棟CDEと協働し看護師教育を実施した。医師・薬剤師・医療安全担当看護師と共同し、院内コメディカルへの教育として、低血糖やカーボカウント、フットケアなど糖尿病に関する勉強会を4回開催した。 地域施設のCDEJ看護師間の連携強化と療養支援知識と技術向上の為に、八尾地区看護師達を中心とした糖尿病勉強会「やお糖尿病看護スキルアップセミナー」にて、八尾地区の糖尿病療養指導に携わるコメディカルへ、療養指導知識と技術向上を目的としたセミナーを開催した。
相談	糖尿病看護実践を通して、役割モデルを示し看護職者への指導を実施し、血糖測定とインスリン自己注射指導、療養指導、フットケアに関する相談を受けた。相談者へ、必要時参考資料を提供し、今後一人で療養指導が出来るような対応を行っている。

分野	栄養サポートチーム	専従看護師 中谷 摩利子
実践	栄養療法を要する症例の抽出強化を実践した。Alb3.0 mg/dl以下の症例、がん化学療法施行症例、口腔外科領域症例を主に栄養アプローチを行い、必要な関連部署との連携、調整を行った。NSTサポート加算件数865件（昨年度584件）新規介入件数205件（昨年度128件）と昨年度を上回る結果となった。演題発表は、関西がんチーム医療研究会で1題、日本静脈経腸栄養学会で1題行った。 院内の教育委員会と協働しラダーⅠ、ラダーⅢの講習を担当した。日本静脈経腸栄養学会認定資格「NST専門療法士」の教育実習の受け入れにて講義を担当した。	
指導	在宅腸瘻栄養管理を実践可能なものにするため、病棟看護師へ協働して指導を行いスタッフが共通した指導を行うための指導ツールを作成した。また、半固形栄養剤経管栄養管理指導料の加算取得に繋げるため、リンクナースと協働して指導ツールの作成を行った。	
相談	個々に応じた症例の栄養療法を通じたクリニカルクエストに対して迅速に対応した。	

3. 院外活動状況

項 目	内 容	関 係 職 員
OGCS	産婦人科総合援助システム委員会	高井美保 1 名派遣 (4 回/年開催)
カンファレンス	特定妊婦支援会議	助産師 (1 名/12 回/年)
救護	八尾市少年軟式野球大会	9 名
	八尾市こども会親善フットボール大会	5 名
	大阪マラソン 救護	2 名
災害派遣	平成 30 年 7 月豪雨	松川麻由美・吉井孝子
救護	八尾シティーコンサート	青木美加子・近藤純代
看護相談	8/8 月分『出前講座』応急手当に関する知識・技能	松川麻由美
講師派遣	和歌山県「がん治療における患者支援を考える」	吉野知子
	北海道「がん治療における患者支援を考える」	吉野知子
	八尾地区糖尿病連携会	平山美紀
	第 4 回糖尿病看護研究会	平山美紀
	第二回八尾糖尿病スキルアップセミナー	平山美紀
	大阪糖尿病患者教育担当者研修会	平山美紀
	オストメイトの QOL を上げる地域看護師向けの研修会	横山敬子
	大阪 QOL 相談会	横山敬子
	市民医療公開講座	佐藤美代子
	市民医療公開講座	吉野知子
	市民医療公開講座	島田敏江
	大阪府看護協会平成 30 年 7 月豪雨での活動報告	吉井孝子
	がん医療公開講座パネルディスカッション司会	吉野知子
	大阪府看護協会災害支援ナース研修	山田智子
	大阪府助産師会勤務部会・助産師職能委員会共催	安田幸代
	第 12 回大阪府在宅褥瘡セミナー	横山敬子
	2018 年度居宅サービス部会研修会	甲斐幸代
	在宅ケアを見据えた装具選択についてのセミナー	横山敬子
	日本看護協会神戸研修センター災害研修会	千種保子
施設見学	ラオス人民共和国 Mahosot Hospital (副看護部長) 手術室・ICU の施設見学及び看護管理に実際の見学	千種保子
	医真会八尾総合病院 (皮膚・排泄ケア認定看護師) 褥瘡ハイリスク加算の管理の実際と算定に向けての準備支援	横山敬子

就職説明会	大阪府医師会看護専門学校就職説明会	青木美加子・井澤初美
	太成学院大学就職説明会	青木美加子・井澤初美
	森ノ宮学園就職説明会	青木美加子・井澤初美
その他	「仕事調べ」龍華小学校生 7名 インタビュー対応	山田智子
	キャリア教育 智弁学園奈良 3名 仕事人インタビュー対応	吉井孝子
	MDOSカンファレンス世話人会	平山美紀
	大阪糖尿病協会顧問看護師委員会委員	平山美紀
	第18回大阪糖尿病患者教育担当者研修会（ODES）	平山美紀
	第6回大阪府看護学会世話人	青木美加子
	アピアランスケア勉強会	島田敏江
	白鳳短期大学保護者会報告 後輩への一言	青木友里
	第4回MDOSカンファレンス 研究会ファシリテーター	平山美紀
	H30年度近畿地区助産師職能合同研修会（分娩ケア）支援	安田幸代
	H31年度近畿地区助産師職能合同研修会（災害）	安田幸代
	災害支援ナース指導者育成研修コーディネーター	山田智子
	大阪府看護協会 防災・災害看護委員会	山田智子
	大阪府看護協会 抄録選考委員会	佐藤美代子
	大阪府看護協会 選挙管理委員会	柏山康江
	大阪府看護協会 学会委員会	青木美加子
	大阪糖尿病協会顧問看護師委員会	柏山康江
	大阪がん化学療法看護認定看護師研究会役員 「皮下埋め込み式ポート」のパンフレット改定への取り組み	島田敏江
	認定看護管理者会 近畿ブロック役員	千種保子
	大阪府看護協会 府東支部役員	安田幸代
	大阪府看護協会 府東支部役員	柏山康江

4. 体験学習受け入れ

- 1) 高校生 8名 (1日)
- 2) 中学生 50名 (2日)
- 3) 小学生 20名 (2日)

高校生と中学生にはBLSを体験学習に組み込み毎年好評である。

事務局の現況

事務局企画運営課の現況

1. スタッフ

事務局長 植野 茂明
次 長 菱井 義則、朴井 晃（兼企画運営課長）
参 事 小枝 伸行
課長補佐 丸谷 泰寛（兼企業出納員）、葛原 秀明、宮田 克爾、吉田 正雄（嘱託員）
係 長 植村 佳子、高草 恒平、大和 篤史、中田 亮太
職 員 14 名

2. 業務内容

事務局企画運営課は3つの係で病院事務業務を行っている。各係の業務内容は以下のとおり。

1) 企画運営係

病院事業の企画運営および事業計画に関する業務、P F I 事業に関する業務、医療法その他関係法令に基づく諸手続きに関する業務、医療事故および医事紛争ならびに医事業務の総括に関する業務、医療情報開示に関する業務、総合医療情報システムの総括に関する業務、施設の管理の総括に関する業務、公印の管理および文書事務に関する業務、調査・統計に関する業務、その他病院の庶務に関する業務

2) 経理係

病院事業の経営分析および財政計画に関する業務、予算・決算および出納検査等企業会計に関する業務、資金計画に関する業務、資産および物品等の会計事務の検査および指導連絡に関する業務、収入および支出の審査に関する業務、現金出納その他会計事務に係る企業出納員所管事務の補助に関する業務、その他病院の経理に関する業務

3) 人事係

職員の人事および給与に関する業務、職員の服務・研修および福利厚生に関する業務、労働組合との連絡に関する業務、臨床研修に関する業務

3. 主な事務事業

平成30年度の主な事業として以下のことを行った。

- ・八尾市立病院経営計画（Ver.Ⅲ）に基づく経営健全の取り組み
- ・病院・診療所・薬局連携ネットワークシステムの運用と利用対象職種の拡大調整
- ・第2期P F I 事業導入支援事業者と事業者募集に向けた検討
- ・第2期P F I 事業者選定
- ・国の地域がん診療連携拠点病院としてのがん診療体制の充実
- ・緊急メール配信訓練（10月）・トリアージ訓練（10月）、消防総合訓練（2月）
- ・診療報酬改定対応の要件整備
- ・機能評価期中確認の対応
- ・院内クリニカルパスの整備

- ・研修医対象の合同説明会へ参加
- ・採用試験の実施
- ・辞令交付式の実施
- ・職員健康診断の実施
- ・中河内地域感染防止対策協議会の運営
- ・がん教育事業の実施
- ・中河内保健医療協議会へ参加
- ・中河内脳卒中等地域連携クリティカルパス連絡会へ参加
- ・全国自治体病院協議会医療の質事業へ参加
- ・市立病院出前講座の開催
- ・在宅医療講習会の開催
- ・大阪大学広域ネットワーク事業

4. 会議

- ・大阪府公立病院協議会理事・理事病院事務（局）長合同会議
- ・全国病院事業管理者・事務責任者会議
- ・全国公立病院連盟総会・事務長会
- ・大阪府がん診療連携協議会 緩和ケア部会
- ・全国自治体病院協議会事務長部会幹事会
- ・中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会
- ・八尾保健所地域職域連携推進連絡会議糖尿病重症化予防事業へ参加
- ・病院PFI連絡協議会
- ・全国自治体病院協議会近畿・東海地方会議
- ・電子カルテユーザー会
- ・全国公立病院連盟 近畿・中国・四国支部総会
- ・地域医療ネットワーク研究会総会
- ・地域医療支援委員会
- ・医療情報システム研究会
- ・八尾地域薬業連携協議会
- ・八尾市病院事務長会
- ・八尾市医療介護連携協議会
- ・八尾・柏原糖尿病重症化予防事業
- ・八尾市医薬品適正使用推進会議

5. 研修

- ・全国自治体病院協議会事務長部会研修会
- ・大阪府公立病院ベンチマーク勉強会
- ・三府県公立病院事務（局）長合同研修会
- ・大阪府がん教育研修会
- ・大阪府公立病院協議会研修会
- ・医療情報学連合大会
- ・クリニカルパス研修会
- ・診療報酬改定セミナー
- ・マッセOSAKA研修
- ・大阪府災害医療研修
- ・管理職研修
- ・中堅職員研修
- ・メンタルヘルス研修会
- ・大阪労働局セミナー
- ・危機管理研修会
- ・日本経営協会研修会
- ・病院経営管理士講習会
- ・衛生工学衛生管理者講習会

P F I 事業の現況

八尾医療PFI株式会社（SPC）の現況

1. スタッフ

代表取締役	門井 洋二（兼ゼネラルマネージャー）		
ゼネラルマネージャー補佐	橋本 将延		
メディカルサポートマネージャー	山本 恵郎	メディカルサポートマネージャー	廣瀬 淳
メディカルサポートマネージャー	大坪 久美子	ITマネージャー	竹内 良平
ITマネージャー補佐	藤 闘将	ファシリティマネージャー	四ツ井 敦
財務マネージャー	木元 陽子	常勤監査役	古東 文夫
他職員 1 名			

2. 事業内容

八尾市立病院の維持管理・運営事業をPFI方式で運営している。事業内容は以下のとおり。

- 1) 病院施設等の一部整備業務、専らSPC業務の用途となる設備などの整備業務
病院施設・設備の一部整備に対する改善提案業務
- 2) 建設・設備維持管理（ファシリティ・マネジメント）業務
設備管理、外構施設保守管理、警備、環境衛生管理、植栽管理
- 3) 病院運営業務（医療法に基づく政令8業務）
検体検査、滅菌消毒、食事の提供、医療機器の保守点検、医療ガスの供給設備の保守点検、洗濯、清掃
- 4) その他病院運営業務
医療事務、物品管理・物流管理（SPD）、医療機器類の整備・管理、医療機器類の更新、総合医療情報システムの運営・保守管理、利便施設運営管理（食堂、売店など）、一般管理（経営改善提案含む）、廃棄物処理関連、その他（危機管理、健診センター、電話交換、図書室運営、会議室管理、院内保育、その他サービス）

3. 事業総括・実績

平成30年度は第1期事業の最終年度であり、「病院の一部署・一職員として機能する」「八尾市立病院経営計画の達成」「各企業において提供業務の品質管理を定着させ継続実施する」「自主的な改善活動」を基本方針とする事業運用を行った。

- 1) 病院の一部署・一職員として機能する
毎月開催のSPC全体会議等を通じてPFI事業者全体に方針の浸透を図るとともに、病院運営会議内容の報告を通じ病院の一員として必要な情報の共有に努めた。ロビーコンサートや市民ギャラリー等、地域住民との交流イベントの企画・運営や、病院イベントにも積極的に参画した。また、年度末に実施される病院長ヒアリングにおいては、日程調整・統計データの提示・議事録の作成等、運営を支援した。
- 2) 八尾市立病院経営計画（平成30年度からの3か年計画）の達成
市立病院の運営パートナーとして経営計画の達成はSPCの課題でもあり、PFI事業者が関与する項目について、積極的・自主的な取り組みを行った。主な取り組みは以下に記述する。

① 地域の医療機関との連携の強化

地域医療支援病院の紹介・逆紹介率の基準を維持するために、地域医療機関向けの情報誌の発行や、地域医療連携室の広報担当者による訪問活動に積極的に取り組んだ。地域医療機関への訪問件数は年間 2,808 件となり、紹介率 50%以上、逆紹介率 70%以上の地域医療支援病院の要件の維持に貢献した。

② 情報提供

毎月患者向け広報誌を作成し院内配置するとともに、市政だより平成 31 年 1 月号と 3 月号に「市立病院だより」を掲載し病院機能・診療体制のアピールに努めた。

③ 危機事象への対応

10 月実施の大規模災害発生を想定したトリアージ訓練をサポートした。また、2 月実施の消防訓練（地震総合訓練）については企画・シナリオ作成等、防火管理者をサポートした。

④ ネットワークづくりと情報提供

地域住民を対象とした公開講座の開催を支援（年間 6 回開催）。

⑤ 医療安全対策

医療安全管理委員会の一員として、医療安全マニュアルの改訂版の発行や院内セーフティラウンドへの参画等、安全な業務提供の実践に努めた。

⑥ 患者満足度の向上

患者アンケートを 12 月に実施した。結果は接遇改善委員会に報告し、改善策等を検討したうえで、院内掲示とホームページへの掲載を行った。また、8 月と 2 月には食事アンケートも実施し、栄養委員会に結果報告を行ったうえで、院内掲示を行った。

⑦ 収益性の向上

4 月の診療報酬改定に伴うシミュレーション等を実施し、適切な診療報酬の算定、施設基準の届出等に対応した。幹部会議及び運営会議では医事統計報告を行い、病院運営状況について医事統計指標の面からの現状把握と課題の共有化に努めた。また、毎月 DPC・コーディング委員会においてベンチマークデータ等を活用した増収提案等を積極的に行った。

⑧ 診療材料の適正管理

診療材料費削減活動、共同購入の推進を通じ、診療材料費の適正管理に努めた。削減に関する活動結果については毎月開催の診療材料検討委員会で報告した。

⑨ 医療機器の整備更新

新病院開院時に整備した大型医療機器が更新時期を迎え、平成 30 年度はMR I（3 テスラ）、手術用顕微鏡、病理診断システム、ファイリングシステム等の更新を行った。

3) 各企業において提供業務の品質管理を定着させ継続実施する

現場スタッフだけでは解決しない問題、見過ごしがちな課題の発見・改善と、年度計画の進捗確認を含め、協力企業による品質管理を重要視している。そのため、担当マネージャーと協力企業担当者、現場責任者で定例会を開催し、都度課題の確認・検討を行っている。

4) 自主的な改善活動

インセンティブでの業務表彰制度を念頭に、各業務における年度計画策定・実行・評価の PDCA サイクルの遂行に努めた。TQM活動についても積極的に取り組み、PFI 事業者から多くのチームが参画した。また、PFI 事業ベストパートナーズアワードにおいては優秀 3 業務のプレゼンテーションによる個別業務の院内アピールを行った。

経 営 状 況

1. 収益費用明細書（税抜）

（1）収益の部

（単位：円）

款	項	目	節	金 額	備 考
病院事業収益				14,449,806,398	
	医 業 収 益			13,155,587,001	
		入 院 収 益		8,583,976,036	
			入 院 収 益	8,583,976,036	
		外 来 収 益		3,941,827,626	
			外 来 収 益	3,941,827,626	
		そ の 他 医 業 収 益		629,783,339	
			室 料 差 額 収 益	184,964,690	
			公衆衛生活動収益	14,712,080	
			医 療 相 談 収 益	126,678,854	
			一 般 会 計 負 担 金	257,322,000	
			そ の 他 医 業 収 益	46,105,715	
	医 業 外 収 益			1,250,068,648	
		受取利息及び配当金		8,780,860	
			預 金 利 息	8,780,860	
		他 会 計 補 助 金		100,317,000	
			一 般 会 計 補 助 金	100,317,000	
		他 会 計 負 担 金		467,767,000	
			一 般 会 計 負 担 金	467,767,000	
		補 助 金		6,183,000	
			国 庫 補 助 金	5,301,000	
			府 補 助 金	882,000	
		長期前受金戻入		586,470,216	
			長期前受金戻入	586,470,216	
		その他医業外収益		80,550,572	
			不用品売却収益	26,998	
			その他医業外収益	80,523,574	
	特 別 利 益			44,150,749	
		過年度損益修正益		44,150,749	
			過年度損益修正益	44,150,749	

(2) 費用の部

(単位：円)

款	項	目	節	金 額	備 考
病院事業費用	医 業 費 用			14,350,217,130	
				13,531,836,992	
		給 与 費		6,535,081,673	
			給 料	1,920,894,723	
			手 当	2,086,499,583	
			賃 金	249,895,865	
			報 酬	732,158,673	
			法 定 福 利 費	836,505,829	
			退 職 給 付 費	305,418,000	
			賞 与 引 当 金 繰 入 額	339,517,000	
			法 定 福 利 費	64,192,000	
			引 当 金 繰 入 額		
		材 料 費		3,496,578,805	
			薬 品 費	2,029,567,642	
			診 療 材 料 費	1,467,011,163	
		経 費		2,259,867,696	
			厚 生 福 利 費	10,243,297	
			報 償 費	1,267,768	
			旅 費 交 通 費	999,731	
			消 耗 品 費	595,995	
			光 熱 水 費	262,644,572	
			燃 料 費	178,817	
			食 料 費	153,329	
			印 刷 製 本 費	15,619,236	
			修 繕 費	47,930	
			保 険 料	22,099,091	
			賃 借 料	16,804,344	
			委 託 料	1,894,658,598	
			通 信 運 搬 費	4,624,334	
			諸 会 費	2,321,586	
			手 数 料	17,200,457	
			負 担 金	3,401,777	
			交 際 費	28,519	
			貸 倒 引 当 金 繰 入 額	5,119,357	
			雑 費	1,858,958	
		減 価 償 却 費		1,152,798,660	
			建 物 減 価 償 却 費	258,143,705	
			建 物 附 帯 設 備		
			減 価 償 却 費	438,494,072	
			構 築 物 減 価 償 却 費	18,693,998	
		資 産 減 耗 費	器 械 備 品 減 価 償 却 費	437,466,885	
				46,235,506	
			た な 卸 資 産 減 耗 費	5,768,908	
		研 究 研 修 費	固 定 資 産 除 却 費	40,466,598	
				41,274,652	
			研 究 材 料 費	2,507,894	
			謝 金	55,555	
			図 書 費	8,895,192	
			旅 費	17,667,350	
			研 究 雑 費	12,148,661	
	医 業 外 費 用			790,509,309	
		支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費		226,007,173	
			企 業 債 利 息	226,007,173	
		長 期 前 払 消 費 税 償 却		54,495,696	
			長 期 前 払 消 費 税 償 却	54,495,696	
		雑 支 出		510,006,440	
			雑 費	510,006,440	(消費税雑支出計上分)
	特 別 損 失			27,870,829	
		過 年 度 損 益 修 正 損		27,870,829	
			過 年 度 損 益 修 正 損	27,870,829	

2. 資本的収入及び支出明細書（税抜）

（1）資本的収入の部

（単位：円）

款	項	目	節	金 額	備 考
資本的収入	企 業 債			1,025,748,000	
				430,000,000	
		企 業 債		430,000,000	
			企 業 債	430,000,000	
	負 担 金			590,748,000	
		他 会 計 負 担 金		590,748,000	
			一 般 会 計 負 担 金	590,748,000	
	補 助 金			5,000,000	
		そ の 他 補 助 金		5,000,000	
			そ の 他 補 助 金	5,000,000	

（2）資本的支出の部

（単位：円）

款	項	目	節	金 額	備 考
資本的支出	建 設 改 良 費			1,832,924,140	
				754,020,486	
		資 産 購 入 費		619,657,486	
			器 械 備 品	619,657,486	
		工 事 費		134,363,000	
			工 事 請 負 費	134,363,000	
	企 業 債 償 還 金			1,078,903,654	
		企 業 債 償 還 金		1,078,903,654	
			企 業 債 償 還 金	1,078,903,654	

3. 比較貸借対照表（税抜）

（単位：円）

項 目		平成 31 年 3 月 31 日	平成 30 年 3 月 31 日	増 減
有 形 固 定 資 産	土 地	14,448,307,565	14,887,552,337	△ 439,244,772
	償 却 資 産	3,465,722,244	3,465,722,244	0
	減 価 償 却 累 計 額	24,755,798,486	24,711,427,369	44,371,117
		△ 13,773,213,165	△ 13,289,597,276	△ 483,615,889
	無 形 固 定 資 産	141,800	141,800	0
	投 資 そ の 他 の 資 産	247,759,165	302,254,861	△ 54,495,696
	流 動 資 産	7,309,335,561	7,131,647,710	177,687,851
	現 金 預 金	5,095,210,320	4,936,357,836	158,852,484
	未 収 金	2,133,834,114	2,132,060,086	1,774,028
	貯 蔵 品	70,266,377	54,321,617	15,944,760
	前 払 費 用	10,024,750	8,908,171	1,116,579
資 産 合 計		22,005,544,091	22,321,596,708	△ 316,052,617
固 定 負 債	企 業 債	13,738,806,671	14,401,561,766	△ 662,755,095
	引 当 金	12,345,511,751	13,159,273,326	△ 813,761,575
	そ の 他 固 定 負 債	1,286,691,609	1,128,895,172	157,796,437
		106,603,311	113,393,268	△ 6,789,957
	流 動 負 債	3,727,285,885	3,489,450,459	237,835,426
	企 業 債	1,243,761,575	1,078,903,654	164,857,921
	未 払 金	1,894,341,561	1,992,325,320	△ 97,983,759
	引 当 金	544,952,367	370,036,000	174,916,367
	そ の 他 流 動 負 債	44,230,382	48,185,485	△ 3,955,103
	繰 上 収 入 益	823,708,910	814,431,126	9,277,784
長 期 前 受 金 収 益 化 累 計 額	長 期 前 受 金	3,699,372,078	3,103,624,078	595,748,000
		△ 2,875,663,168	△ 2,289,192,952	△ 586,470,216
	資 本	2,497,285,457	2,497,285,457	0
	剰 余 金	1,218,457,168	1,118,867,900	99,589,268
	資 本 剰 余 金	18,025,000	18,025,000	0
	利 益 剰 余 金	1,200,432,168	1,100,842,900	99,589,268
	前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金	1,041,842,900	916,447,229	125,395,671
	減 債 積 立 金	59,000,000	52,000,000	7,000,000
	当 年 度 純 利 益	99,589,268	132,395,671	△ 32,806,403
負 債 資 本 合 計		22,005,544,091	22,321,596,708	△ 316,052,617

4. 経営・財務分析表

項 目	算 式	30年度	29年度
病 床 利 用 率	$\frac{\text{年延入院患者数 (127,264 人)}}{\text{年延病床数 (138,700 床)}} \times 100$	91.8 %	89.9 %
平 均 在 院 日 数	$\frac{\text{年延在院患者数 (115,731 人)}}{\{ (\text{新入院数 11,553 人}) + (\text{退院数 11,533 人}) \} \times 1/2}$	10.0 日	10.1 日
紹 介 率	$\frac{\text{紹 介 患 者 数 (12,162 人)}}{(\text{初診患者数 36,958 人}) - (\text{初診救急搬入患者数 2,872 人}) - (\text{初診休日夜間患者数 11,149 人})} \times 100$	53.0 %	58.6 %
逆 紹 介 率	$\frac{\text{逆 紹 介 患 者 数 (17,257 人)}}{(\text{初診患者数 36,958 人}) - (\text{初診救急搬入患者数 2,872 人}) - (\text{初診休日夜間患者数 11,149 人})} \times 100$	75.2 %	85.2 %
患者1人1日当り 診 療 収 入	入 院 $\frac{\text{入 院 収 益 (8,583,976 千円)}}{\text{年延入院患者数 (127,264 人)}}$	67,450 円	67,437 円
	外 来 $\frac{\text{外 来 収 益 (3,941,828 千円)}}{\text{年延外来患者数 (207,980 人)}}$	18,953 円	17,468 円
医 業 収 支 比 率	$\frac{\text{医 業 収 益 (13,155,587 千円)}}{\text{医 業 費 用 (13,531,837 千円)}} \times 100$	97.2 %	97.7 %
医業収益に対する 給 与 費 の 割 合	$\frac{\text{給 与 費 (6,535,082 千円)}}{\text{医 業 収 益 (13,155,587 千円)}} \times 100$	49.7 %	49.4 %
医業収益に対する 材 料 費 の 割 合	$\frac{\text{材 料 費 (3,496,579 千円)}}{\text{医 業 収 益 (13,155,587 千円)}} \times 100$	26.6 %	25.9 %
経 常 収 支 比 率	$\frac{\text{経 常 収 益 (14,405,655 千円)}}{\text{経 常 費 用 (14,322,346 千円)}} \times 100$	100.6 %	101.1 %
経常収益に対する 繰 入 金 の 割 合	$\frac{\text{経 常 収 益 に 係 る 一 般 会 計 繰 入 金 (825,406 千円)}}{\text{経 常 収 益 (14,405,655 千円)}} \times 100$	5.7 %	6.1 %
企業債元利償還額 対料金収入比率	$\frac{\text{企業債元利償還額 (1,304,911 千円)}}{\text{入 院 ・ 外 来 収 益 (12,525,804 千円)}} \times 100$	10.4 %	10.3 %
不 良 債 務 比 率	$\frac{\{ \text{流動負債 (3,727,286 千円)} - \text{企業債 (1,243,762 千円)} \} - \{ \text{流動資産 (7,309,336 千円)} - \text{翌年度繰越財源 (0 千円)} \}}{\text{医 業 収 益 (13,155,587 千円)}} \times 100$	- %	- %
流 動 比 率	$\frac{\text{流 動 資 産 (7,309,336 千円)}}{\text{流 動 負 債 (3,727,286 千円)}} \times 100$	196.1 %	204.4 %

業 務 状 況

1. 患者状況

(1) 外来患者数

◆診療科別外来患者数

	①29年度	②30年度	差異②－①	対前年増減率
内 科	20,289人	22,463人	2,174人	10.72%
血 液 内 科	4,228人	4,245人	17人	0.40%
消 化 器 内 科	16,175人	15,385人	△ 790人	△4.88%
循 環 器 内 科	8,397人	9,006人	609人	7.25%
外 科	15,066人	15,145人	79人	0.52%
乳 腺 外 科	9,589人	6,848人	△ 2,741人	△28.58%
脳 神 経 外 科	3,178人	4,291人	1,113人	35.02%
整 形 外 科	8,589人	10,185人	1,596人	18.58%
形 成 外 科	8,752人	8,307人	△ 445人	△5.08%
産 婦 人 科	20,821人	19,630人	△ 1,191人	△5.72%
小 児 科	21,706人	22,422人	716人	3.30%
眼 科	742人	706人	△ 36人	△4.85%
耳 鼻 咽 喉 科	14,321人	13,744人	△ 577人	△4.03%
泌 尿 器 科	17,049人	17,394人	345人	2.02%
皮 膚 科	2,943人	3,222人	279人	9.48%
リハビリテーション科	1,403人	1,407人	4人	0.29%
麻 酔 科	2,367人	1,451人	△ 916人	△38.7%
放 射 線 科	9,376人	9,150人	△ 226人	△2.41%
歯 科 口 腔 外 科	9,057人	9,581人	524人	5.79%
救 急 診 療 科	11,471人	13,398人	1,927人	16.80%
合 計	205,519人	207,980人	2,461人	1.20%

※救急診療科については、救急外来で対応した患者を表記している。

(2) 入院患者数

◆診療科別入院患者数

	①29年度	②30年度	差異②－①	対前年増減率
内 科	9,031人	8,593人	△ 438人	△4.85%
血 液 内 科	9,020人	7,404人	△ 1,616人	△17.92%
消 化 器 内 科	15,034人	15,022人	△ 12人	△0.08%
循 環 器 内 科	15,719人	16,477人	758人	4.82%
外 科	22,407人	25,767人	3,360人	15.00%
乳 腺 外 科	2,986人	3,563人	577人	19.32%
脳 神 経 外 科	2,299人	2,670人	371人	16.14%
整 形 外 科	9,480人	12,157人	2,677人	28.24%
形 成 外 科	3,621人	2,866人	△ 755人	△20.85%
産 婦 人 科	10,726人	9,897人	△ 829人	△7.73%
小 児 科	8,958人	8,373人	△ 585人	△6.53%
耳 鼻 咽 喉 科	6,556人	6,125人	△ 431人	△ 6.57%
泌 尿 器 科	6,357人	6,846人	489人	7.69%
皮 膚 科	46人	28人	△ 18人	△39.13%
麻 酔 科	4人	0人	△ 4人	皆減
放 射 線 科	693人	303人	△ 390人	△56.28%
歯 科 口 腔 外 科	1,794人	1,173人	△ 621人	△34.62%
合 計	124,731人	127,264人	2,533人	2.03%

◆1日平均外来患者数（対前年度比較）

	①29年度	②30年度	差異②－①	増減率
4-3月累計実績	842.3 人	852.4 人	10.1 人	1.2%

◆初診外来患者数

	①29年度	②30年度	差異②－①	増減率
4-3月累計実績	36,229 人	36,958 人	729 人	2.0%

◆1日平均初診外来患者数

	①29年度	②30年度	差異②－①	増減率
4-3月累計実績	148.5 人	151.5 人	3.0 人	2.0%

◆初診率（初診外来患者数÷外来患者数）

	①29年度	②30年度	差異②－①
4-3月累計実績	17.6 %	17.8 %	0.2 %

◆病棟別 病床利用率

（単位：％）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
5階東	99.5	94.7	100.4	100.4	99.2	96.9	96.4	99.2	93.4	92.3	97.7	97.2	97.3
5階西	73.7	72.6	84.9	79.4	82.5	81.2	77.3	85.0	75.4	67.4	80.3	76.0	77.9
6階東	99.9	98.0	100.9	105.6	101.4	97.0	98.6	101.9	95.3	93.0	100.6	101.2	99.4
6階西	66.3	75.7	80.1	71.1	68.6	70.2	63.3	68.0	67.0	59.1	70.3	73.8	69.4
NICU	76.7	54.3	83.3	9.1	46.8	72.2	59.1	70.6	61.3	28.5	29.2	36.6	52.2
7階東	95.0	93.9	95.4	97.6	100.1	95.8	97.9	98.5	90.5	90.3	98.1	95.8	95.7
7階西	96.5	96.6	99.9	99.1	97.0	98.1	97.7	99.5	93.0	92.0	98.1	96.8	97.0
8階東	95.9	96.5	100.2	99.6	100.2	96.7	96.8	100.5	96.1	94.4	97.1	98.2	97.7
8階西	97.7	98.9	98.4	101.8	101.6	98.7	98.2	101.7	90.6	92.7	99.6	99.0	98.2
I C U	82.2	82.8	78.9	69.9	77.4	67.2	78.5	83.3	87.6	82.3	89.9	88.7	80.7
合計	91.3	90.0	94.2	92.6	94.2	92.4	91.6	95.1	88.5	85.8	93.0	92.6	91.8

(3) 外来・入院別、診療科別、月別患者数

区分	科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
外来	内 科	人 1,761	人 1,816	人 1,819	人 1,909	人 2,069	人 1,704	人 1,940
	血 液 内 科	336	329	385	322	402	300	375
	消化器内科	1,220	1,313	1,322	1,242	1,307	1,110	1,485
	循環器内科	746	775	785	734	799	612	841
	外 科	1,166	1,257	1,222	1,179	1,274	1,152	1,379
	乳 腺 外 科	594	565	553	561	565	495	620
	脳神経外科	357	400	384	363	339	308	398
	整 形 外 科	805	864	856	796	949	748	927
	形 成 外 科	628	786	715	730	806	572	747
	産 婦 人 科	1,587	1,714	1,653	1,696	1,835	1,490	1,769
	小 児 科	1,659	1,765	1,851	1,875	2,048	1,698	1,740
	眼 科	60	57	65	56	81	45	77
	耳鼻咽喉科	1,085	1,130	1,156	1,243	1,239	951	1,165
	泌 尿 器 科	1,474	1,433	1,442	1,483	1,487	1,291	1,557
	皮 膚 科	281	301	269	285	322	252	288
	リハビリテーション科	119	108	109	121	103	74	97
	麻 酔 科	166	148	118	111	131	85	162
	放 射 線 科	721	825	834	851	865	728	826
	歯科口腔外科	741	829	798	813	879	691	836
	救急診療科	821	977	877	1,186	1,137	936	935
	合 計	16,327	17,392	17,213	17,556	18,637	15,242	18,164
入院	内 科	人 859	人 817	人 658	人 902	人 759	人 693	人 841
	血 液 内 科	737	804	554	667	582	699	541
	消化器内科	1,235	1,353	1,310	1,330	1,390	1,127	1,335
	循環器内科	1,211	1,343	1,441	1,351	1,207	1,309	1,336
	外 科	1,887	1,991	2,142	2,176	2,285	2,119	2,013
	乳 腺 外 科	233	212	269	328	327	310	320
	脳神経外科	258	162	206	180	228	187	224
	整 形 外 科	930	854	988	1,080	1,017	1,024	1,196
	形 成 外 科	296	256	159	186	361	220	167
	産 婦 人 科	794	773	897	924	927	877	828
	小 児 科	748	801	858	657	684	758	705
	耳鼻咽喉科	516	470	543	501	688	566	517
	泌 尿 器 科	516	566	560	534	561	551	664
	皮 膚 科	0	0	0	0	0	9	0
	放 射 線 科	85	30	5	21	0	0	11
	歯科口腔外科	98	174	148	75	84	81	95
	合 計	10,403	10,606	10,738	10,912	11,100	10,530	10,793

診療日数＝ 244 日(内科・血液内科・消化器内科・循環器内科・外科・乳腺外科・脳神経外科・整形外科)
(形成外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・麻酔科・放射線科・歯科口腔外科)

区分	科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入院	内 科	人 859	人 817	人 658	人 902	人 759	人 693	人 841
	血 液 内 科	737	804	554	667	582	699	541
	消化器内科	1,235	1,353	1,310	1,330	1,390	1,127	1,335
	循環器内科	1,211	1,343	1,441	1,351	1,207	1,309	1,336
	外 科	1,887	1,991	2,142	2,176	2,285	2,119	2,013
	乳 腺 外 科	233	212	269	328	327	310	320
	脳神経外科	258	162	206	180	228	187	224
	整 形 外 科	930	854	988	1,080	1,017	1,024	1,196
	形 成 外 科	296	256	159	186	361	220	167
	産 婦 人 科	794	773	897	924	927	877	828
	小 児 科	748	801	858	657	684	758	705
	耳鼻咽喉科	516	470	543	501	688	566	517
	泌 尿 器 科	516	566	560	534	561	551	664
	皮 膚 科	0	0	0	0	0	9	0
	放 射 線 科	85	30	5	21	0	0	11
	歯科口腔外科	98	174	148	75	84	81	95
	合 計	10,403	10,606	10,738	10,912	11,100	10,530	10,793

11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
					延患者数	1日平均患者数
人	人	人	人	人	人	人
1,942	1,821	1,915	1,813	1,954	22,463	92.1
350	393	352	347	354	4,245	17.4
1,390	1,213	1,252	1,257	1,274	15,385	63.1
747	770	765	680	752	9,006	36.9
1,312	1,203	1,344	1,345	1,312	15,145	62.1
626	587	572	546	564	6,848	28.1
360	334	332	350	366	4,291	17.6
889	862	772	776	941	10,185	41.7
734	685	610	601	693	8,307	34.0
1,651	1,551	1,543	1,506	1,635	19,630	80.5
1,682	1,938	2,280	1,802	2,084	22,422	91.9
57	46	51	55	56	706	2.9
1,106	1,166	1,173	1,080	1,250	13,744	56.3
1,501	1,472	1,441	1,351	1,462	17,394	71.3
267	214	234	233	276	3,222	13.2
127	112	144	138	155	1,407	27.6
118	103	98	105	106	1,451	5.9
752	723	705	640	680	9,150	37.5
866	772	713	783	860	9,581	39.3
972	1,309	2,196	1,047	1,005	13,398	36.7
17,449	17,274	18,492	16,455	17,779	207,980	852.4

365 日(救急診療科) 51日(リハビリテーション科)

※1日平均患者数の合計欄は、延患者数を
244日で除した数値を表記している。

11月	12月	1月	2月	3月	合 計		
					延患者数	1日平均患者数	平均在院日数
人	人	人	人	人	人	人	日
572	576	738	536	642	8,593	23.5	12.1
621	545	621	478	555	7,404	20.3	29.3
1,388	1,025	1,290	1,161	1,078	15,022	41.2	12.9
1,363	1,662	1,334	1,407	1,513	16,477	45.1	9.0
2,244	2,241	2,168	2,199	2,302	25,767	70.6	13.2
328	338	257	351	290	3,563	9.8	9.8
202	220	282	210	311	2,670	7.3	17.7
1,117	867	908	1,057	1,119	12,157	33.3	18.3
295	239	155	216	316	2,866	7.9	7.8
873	811	666	730	797	9,897	27.1	6.4
723	735	538	566	600	8,373	22.9	4.6
365	446	484	424	605	6,125	16.8	6.9
635	617	619	484	539	6,846	18.8	6.8
0	0	0	0	19	28	0.1	8.3
50	8	7	33	53	303	0.8	20.6
70	93	43	45	167	1,173	3.2	5.8
10,846	10,423	10,110	9,897	10,906	127,264	348.7	10.0

年間日数＝ 365 日

(4) 地域別患者数

◆外来患者数

年 度 地 域		29年度		30年度		対前年度増減	
		延患 者数	構成 比率	延患 者数	構成 比率	増減 数	増減 比率
		人	%	人	%	人	%
八尾市	本 庁 地 区	24,273	11.8	24,188	11.6	△ 85	△ 0.4
	龍 華 地 区	33,813	16.4	33,624	16.2	△ 189	△ 0.6
	久宝寺地区	8,861	4.3	9,226	4.4	365	4.1
	西 郡 地 区	2,186	1.1	2,184	1.1	△ 2	△ 0.1
	大 正 地 区	11,037	5.4	11,352	5.5	315	2.9
	山 本 地 区	18,534	9.0	18,850	9.1	316	1.7
	竹 湊 地 区	4,677	2.3	4,840	2.3	163	3.5
	南高安地区	4,939	2.4	5,014	2.4	75	1.5
	高 安 地 区	3,207	1.6	3,388	1.6	181	5.6
	曙 川 地 区	11,398	5.5	11,312	5.4	△ 86	△ 0.8
	志 紀 地 区	11,953	5.8	12,080	5.8	127	1.1
	(小 計)	134,878	65.6	136,058	65.4	1,180	0.9
大阪市	平 野 区	32,498	15.8	33,530	16.1	1,032	3.2
	他 の 大 阪 市	4,372	2.1	4,503	2.2	131	3.0
	(小 計)	36,870	17.9	38,033	18.3	1,163	3.2
府下市町村	柏 原 市	8,920	4.3	9,560	4.6	640	7.2
	藤 井 寺 市	2,661	1.3	2,671	1.3	10	0.4
	東 大 阪 市	11,818	5.8	11,795	5.7	△ 23	△ 0.2
	松 原 市	815	0.4	791	0.4	△ 24	△ 2.9
	羽 曳 野 市	1,590	0.8	1,398	0.7	△ 192	△ 12.1
	富 田 林 市	248	0.1	236	0.1	△ 12	△ 4.8
	堺 市	936	0.5	944	0.5	8	0.9
	府下その他	2,475	1.2	2,180	1.0	△ 295	△ 11.9
	(小 計)	29,463	14.4	29,575	14.3	112	0.4
他府県	奈 良 県	2,391	1.1	2,355	1.1	△ 36	△ 1.5
	和 歌 山 県	198	0.1	170	0.1	△ 28	△ 14.1
	兵 庫 県	570	0.3	669	0.3	99	17.4
	その他府県	1,149	0.6	1,120	0.5	△ 29	△ 2.5
	(小 計)	4,308	2.1	4,314	2.0	6	0.1
合 計		205,519	100.0	207,980	100.0	2,461	1.2

◆入院患者数

年 度 地 域		29年度		30年度		対前年度増減	
		延患 者数	構成 比率	延患 者数	構成 比率	増減 数	増減 比率
		人	%	人	%	人	%
八尾市	本 庁 地 区	14,477	11.6	14,655	11.5	178	1.2
	龍 華 地 区	18,576	15.0	20,342	16.0	1,766	9.5
	久宝寺地区	5,407	4.3	6,344	5.0	937	17.3
	西 郡 地 区	1,592	1.3	1,530	1.2	△ 62	△ 3.9
	大 正 地 区	6,507	5.2	6,916	5.4	409	6.3
	山 本 地 区	11,342	9.1	10,391	8.2	△ 951	△ 8.4
	竹 湊 地 区	3,177	2.5	3,048	2.4	△ 129	△ 4.1
	南高安地区	2,081	1.7	2,602	2.0	521	25.0
	高 安 地 区	1,894	1.5	1,776	1.4	△ 118	△ 6.2
	曙 川 地 区	7,168	5.7	6,735	5.3	△ 433	△ 6.0
	志 紀 地 区	7,292	5.8	7,124	5.6	△ 168	△ 2.3
	(小 計)	79,513	63.7	81,463	64.0	1,950	2.5
大阪市	平 野 区	22,272	17.8	22,128	17.4	△ 144	△ 0.6
	他 の 大 阪 市	2,818	2.3	2,889	2.3	71	2.5
	(小 計)	25,090	20.1	25,017	19.7	△ 73	△ 0.3
府下市町村	柏 原 市	4,139	3.3	5,647	4.4	1,508	36.4
	藤 井 寺 市	1,430	1.2	1,116	0.9	△ 314	△ 22.0
	東 大 阪 市	7,232	5.8	8,121	6.4	889	12.3
	松 原 市	650	0.5	415	0.3	△ 235	△ 36.2
	羽 曳 野 市	851	0.7	634	0.5	△ 217	△ 25.5
	富 田 林 市	232	0.2	217	0.2	△ 15	△ 6.5
	堺 市	1,117	0.9	813	0.6	△ 304	△ 27.2
	府下その他	1,610	1.3	1,244	1.0	△ 366	△ 22.7
	(小 計)	17,261	13.9	18,207	14.3	946	5.5
他府県	奈 良 県	1,284	1.0	1,098	0.8	△ 186	△ 14.5
	和 歌 山 県	126	0.1	80	0.1	△ 46	△ 36.5
	兵 庫 県	399	0.3	359	0.3	△ 40	△ 10.0
	その他府県	1,058	0.9	1,040	0.8	△ 18	△ 1.7
	(小 計)	2,867	2.3	2,577	2.0	△ 290	△ 10.1
合 計		124,731	100.0	127,264	100.0	2,533	2.0

(5) 診療科別救急取扱患者数

(単位：人)

		30年										31年			合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
内科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	2	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	2	8
		平日	2	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	6
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内入院)	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
血液内科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	0	1	0	1	1	1	1	0	2	0	2	1	10
		平日	0	1	0	1	1	1	1	0	1	0	2	0	8
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		(内搬送患者)	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	5
		(内入院)	0	1	0	1	0	1	1	0	2	0	1	1	8
消化器内科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	1	4	2	1	3	1	2	0	1	2	0	2	19
		平日	1	4	2	1	3	1	2	0	1	2	0	0	17
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		(内搬送患者)	0	3	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	8
		(内入院)	1	4	2	1	2	1	2	0	1	2	0	1	17
循環器内科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	12	16	9	5	10	9	17	14	10	8	14	15	139
		平日	12	16	9	5	10	9	16	14	10	8	14	0	123
		時間外	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15
		(内搬送患者)	5	5	7	1	6	3	7	6	5	2	3	4	54
		(内入院)	7	9	7	3	4	6	12	8	6	4	7	9	82
腫瘍内科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	6	8	10	1	6	4	5	5	8	6	5	6	70
		平日	4	6	9	1	6	3	5	5	6	4	5	0	54
		時間外	2	2	1	0	0	1	0	0	0	2	0	1	9
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
		(内搬送患者)	1	1	3	0	2	2	0	1	3	2	1	2	18
		(内入院)	4	5	6	1	5	3	2	5	3	2	5	3	44
乳腺外科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	1	0	1	0	0	1	1	0	4	1	0	0	9
		平日	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	3
		時間外	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
脳神経外科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	1	0	1	0	0	0	1	1	1	3	3	1	12
		平日	1	0	1	0	0	0	1	1	1	3	3	0	11
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		(内搬送患者)	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	5
整形外科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	14	13	11	14	15	19	13	14	23	4	7	25	172
		平日	7	5	4	4	6	4	3	1	5	1	2	18	60
		時間外	0	0	2	1	0	2	2	2	2	0	0	1	12
		休日	7	7	4	9	8	13	8	11	16	3	5	0	91
		深夜	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6	9
		(内搬送患者)	8	6	6	7	9	8	4	3	6	1	4	8	70
		(内入院)	3	4	3	3	6	3	5	1	3	0	2	5	38
形成外科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	8	9	20	18	10	5	13	13	7	8	14	12	137
		平日	7	7	11	11	7	5	8	12	5	6	11	1	91
		時間外	0	0	4	3	1	0	5	1	2	1	2	0	19
		休日	0	2	5	4	2	0	0	0	0	1	1	0	15
		深夜	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	12
		(内搬送患者)	5	7	8	8	8	4	7	8	6	6	12	9	88
		(内入院)	4	4	5	8	4	2	2	5	4	2	7	7	54
産婦人科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	71	80	68	67	73	89	64	74	75	67	68	75	871
		平日	4	7	2	4	7	5	7	8	3	5	5	8	65
		時間外	32	25	23	22	22	31	23	23	22	21	18	21	283
		休日	12	17	8	9	13	17	5	8	18	13	12	44	176
		深夜	23	31	35	32	31	36	29	35	32	28	33	2	347
		(内搬送患者)	3	1	3	3	6	4	5	4	2	6	6	2	45
		(内入院)	39	51	47	44	44	59	44	48	41	38	44	51	550

			30年										31年			合計
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
小児科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	477	488	522	564	488	552	401	385	662	971	550	586	6,646	
		平日	59	45	38	68	87	52	56	57	72	70	63	30	697	
		時間外	279	231	316	295	199	309	220	185	263	483	301	310	3,391	
		休日	33	67	22	33	66	32	22	44	145	182	44	200	890	
		深夜	106	145	146	168	136	159	103	99	182	236	142	46	1,668	
		(内搬送患者)	52	40	49	71	42	44	34	46	49	94	48	40	609	
		(内入院)	38	33	27	31	18	42	40	27	40	44	37	27	404	
眼科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
耳鼻咽喉科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	24	14	36	30	28	30	30	12	30	35	32	31	332	
		平日	0	0	1	1	1	1	2	0	0	2	2	16	26	
		時間外	9	7	19	12	7	16	12	4	15	14	15	15	145	
		休日	15	7	16	17	20	13	16	8	15	19	15	0	161	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内搬送患者)	0	0	0	1	1	1	2	0	0	2	2	0	9	
		(内入院)	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
泌尿器科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	1	2	2	1	1	0	1	1	2	3	0	2	16	
		平日	0	0	1	1	0	0	1	1	2	3	0	0	9	
		時間外	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	4	
		休日	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
		(内搬送患者)	0	0	1	1	0	0	1	1	2	3	0	1	10	
		(内入院)	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	1	5	
皮膚科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻酔科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
放射線科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
歯科口腔外科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	6	4	4	3	5	5	0	4	5	2	1	1	40	
		平日	1	1	3	1	0	0	0	3	2	1	1	0	13	
		時間外	3	0	1	2	2	5	0	0	0	1	0	1	15	
		休日	2	3	0	0	3	0	0	1	3	0	0	0	12	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内搬送患者)	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	1	0	5	
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
救急診療科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	893	1,065	950	1,271	1,231	1,019	1,011	1,052	1,394	2,280	1,092	1,076	14,334	
		平日	177	239	272	326	331	237	308	309	298	346	247	210	3,300	
		時間外	305	277	326	390	371	288	328	285	340	572	393	378	4,253	
		休日	248	316	149	286	242	300	180	244	492	944	251	210	3,862	
		深夜	163	233	203	269	287	194	195	214	264	418	201	278	2,919	
		(内搬送患者)	211	267	282	425	382	277	310	273	366	412	270	264	3,739	
		(内入院)	122	133	133	173	164	125	141	124	161	150	110	127	1,663	
合計	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	1,517	1,704	1,636	1,976	1,871	1,735	1,561	1,577	2,224	3,390	1,789	1,835	22,815	
		平日	275	331	353	424	459	319	412	413	407	451	356	283	4,483	
		時間外	632	542	694	725	603	652	591	500	644	1,094	729	729	8,135	
		休日	317	421	204	358	354	375	231	316	695	1,163	328	454	5,216	
		深夜	293	410	385	469	455	389	327	348	478	682	376	369	4,981	
		(内搬送患者)	286	331	360	519	456	345	371	343	444	530	348	331	4,664	
		(内入院)	219	244	231	266	248	242	252	219	264	244	215	232	2,876	

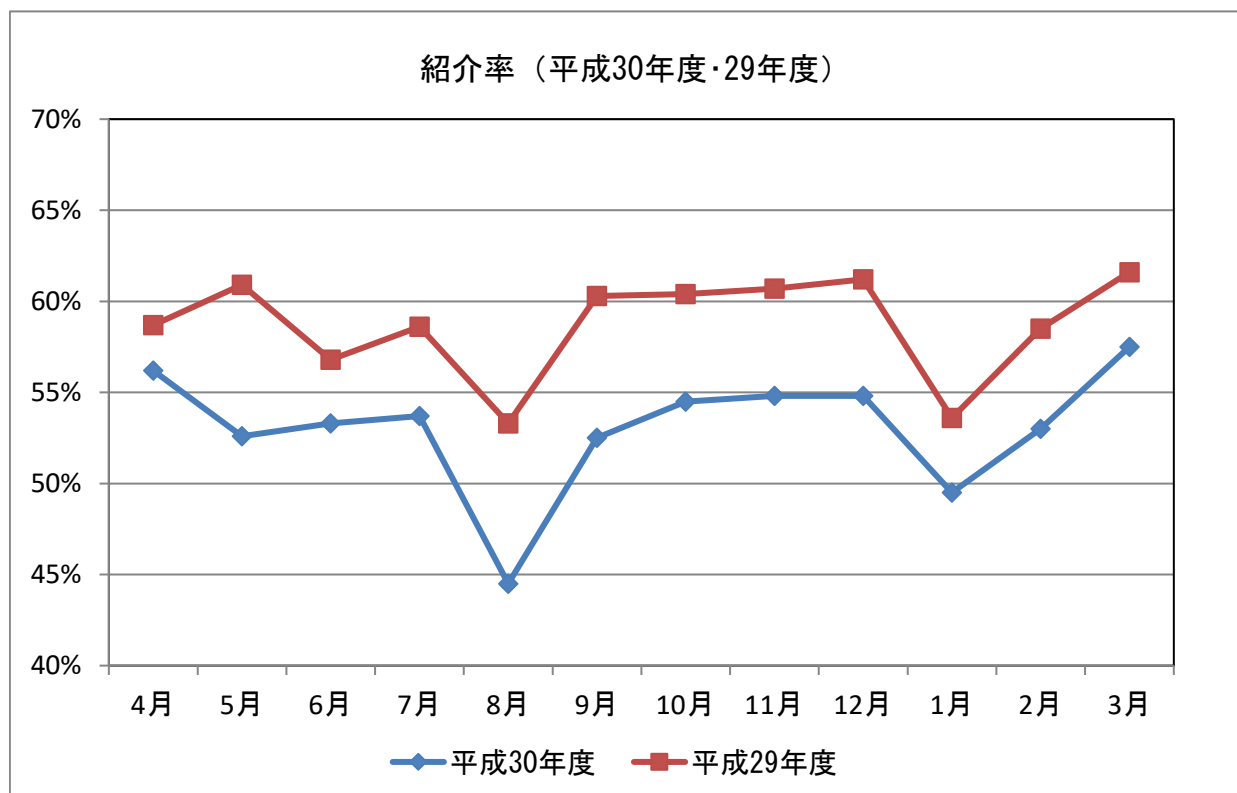
(6) 紹介率

◆紹介率算出式

$$\frac{\text{初診紹介患者数}}{\text{初診患者数} - \text{初診救急搬送患者数} - \text{初診休日夜間救急患者数}} \times 100$$

◆紹介率実績推移

	初診患者数(人)	初診紹介患者数(人)	初診救急搬送患者数(人)	初診休日夜間救急患者数(人)	紹介率
30年 4 月	2,791	1,048	177	751	56.2%
5 月	3,045	1,063	185	842	52.6%
6 月	2,920	1,038	230	745	53.3%
7 月	3,206	1,041	361	909	53.7%
8 月	3,340	1,009	270	807	44.5%
9 月	2,593	827	204	814	52.5%
10月	2,932	1,126	226	640	54.5%
11月	2,764	1,030	204	681	54.8%
12月	3,093	925	272	1,134	54.8%
31年 1 月	4,189	920	325	2,008	49.5%
2 月	2,923	950	211	922	53.0%
3 月	3,162	1,185	207	896	57.5%
年度計	36,958	12,162	2,872	11,149	53.0%



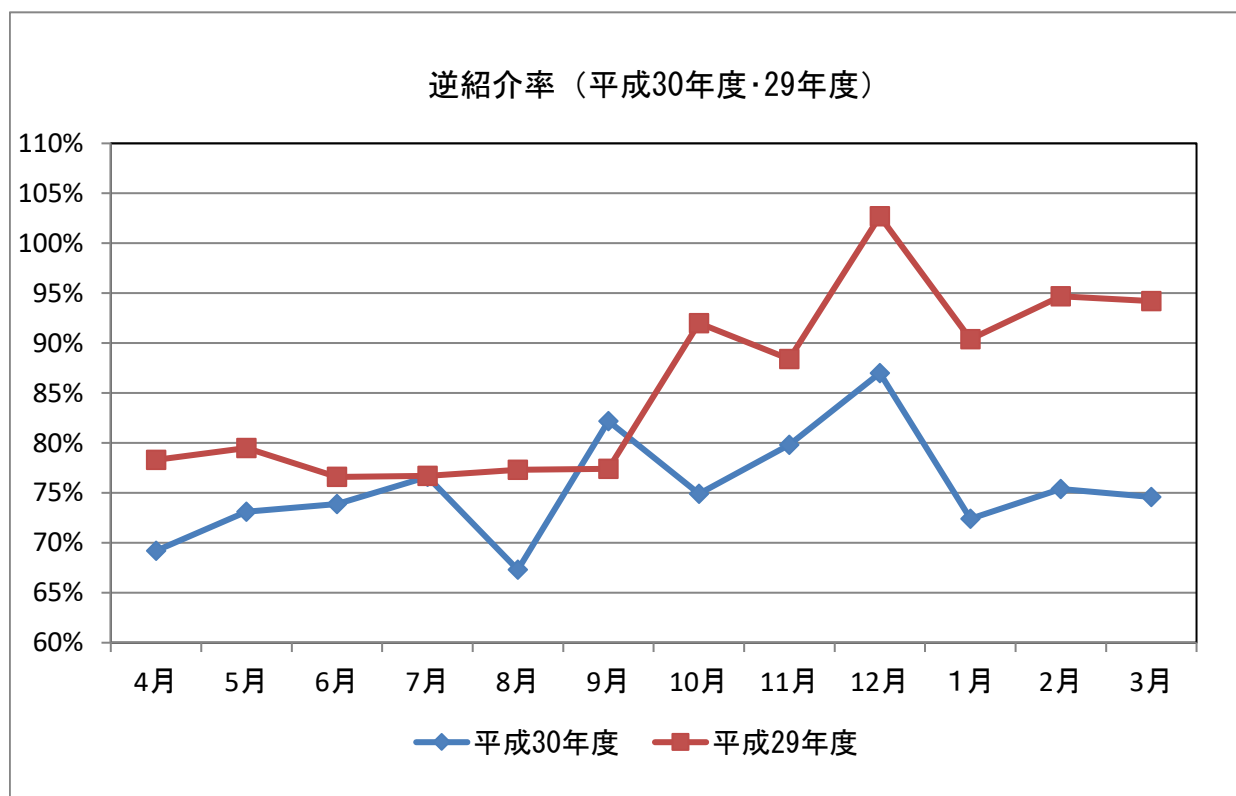
(7) 逆紹介率

◆逆紹介率算出式

$$\frac{\text{診療情報提供書算定患者数}}{\text{初診患者数} - \text{初診救急搬送患者数} - \text{初診休日夜間救急患者数}} \times 100$$

◆逆紹介率実績推移

	初診患者数(人)	診療情報提供料 算定患者数(人)	初診救急搬送 患者数(人)	初診休日夜間救急 患者数(人)	逆紹介率
30年 4 月	2,791	1,291	177	751	69.2%
5 月	3,045	1,476	185	842	73.1%
6 月	2,920	1,438	230	745	73.9%
7 月	3,206	1,484	361	909	76.6%
8 月	3,340	1,524	270	807	67.3%
9 月	2,593	1,295	204	814	82.2%
10月	2,932	1,549	226	640	74.9%
11月	2,764	1,500	204	681	79.8%
12月	3,093	1,469	272	1,134	87.0%
31年 1 月	4,189	1,344	325	2,008	72.4%
2 月	2,923	1,350	211	922	75.4%
3 月	3,162	1,537	207	896	74.6%
年度計	36,958	17,257	2,872	11,149	75.2%



(8) 逆紹介時の診療科別月別診療情報提供数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	147	152	131	203	176	152	165	168	171	140	147	185	1,937
血 液 内 科	18	14	9	14	12	14	10	17	15	15	12	18	168
消 化 器 内 科	159	159	161	162	181	122	186	176	171	127	140	145	1,889
循 環 器 内 科	135	157	134	189	157	119	169	152	159	106	134	132	1,743
外 科	105	139	152	111	156	143	152	180	145	139	166	138	1,726
乳 腺 外 科	59	45	46	36	45	46	55	48	44	46	37	53	560
脳 神 経 外 科	45	52	42	49	34	26	38	43	36	50	50	41	506
整 形 外 科	87	96	113	105	117	95	132	114	109	93	91	125	1,277
形 成 外 科	19	27	21	10	28	17	6	26	24	35	23	25	261
産 婦 人 科	14	26	8	20	21	22	21	16	22	19	23	17	229
小 児 科	151	169	200	174	147	172	169	159	176	201	163	225	2,106
眼 科	12	10	19	15	15	15	13	10	6	13	10	10	148
耳 鼻 咽 喉 科	117	169	158	131	176	142	162	129	146	130	111	166	1,737
泌 尿 器 科	38	56	42	48	38	42	52	39	35	48	41	60	539
皮 膚 科	11	7	0	7	16	8	5	11	6	10	9	7	97
麻 酔 科	10	8	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	22
放 射 線 科	5	10	6	9	5	6	5	6	11	6	6	5	80
歯科口腔外科	141	138	159	144	162	113	158	155	142	124	146	145	1,727
救 急 診 療 科	18	42	36	55	38	41	51	51	51	42	41	39	505
合 計	1,291	1,476	1,438	1,484	1,524	1,295	1,549	1,500	1,469	1,344	1,350	1,537	17,257

2. 診療収益状況（税抜）

（1）医業収益（外来）

◆診療科別 外来収益・患者数・単価（4-3月累計）

	外来収益 (円)	占有率 (%)	患者数 (人)	占有率 (%)	1人1日 単価(円)
内 科	342,474,383	8.7	22,463	10.8	15,246
血 液 内 科	282,583,899	7.2	4,245	2.0	66,569
消化器内科	240,774,224	6.1	15,385	7.4	15,650
循環器内科	133,669,990	3.4	9,006	4.3	14,842
外 科	775,608,081	19.6	15,145	7.3	51,212
乳 腺 外 科	375,867,231	9.5	6,848	3.3	54,887
脳神経外科	51,832,909	1.3	4,291	2.1	12,079
整 形 外 科	92,739,788	2.4	10,185	4.9	9,106
形 成 外 科	55,442,463	1.4	8,307	4.0	6,674
産 婦 人 科	124,456,420	3.2	19,630	9.4	6,340
小 児 科	450,950,862	11.4	22,422	10.8	20,112
眼 科	3,564,674	0.1	706	0.3	5,049
耳鼻咽喉科	111,729,456	2.8	13,744	6.6	8,129
泌 尿 器 科	327,628,204	8.3	17,394	8.4	18,836
皮 膚 科	11,119,837	0.3	3,222	1.6	3,451
リハビリテーション科	6,746,849	0.2	1,407	0.7	4,795
麻 酔 科	3,224,317	0.1	1,451	0.7	2,222
放 射 線 科	256,073,019	6.5	9,150	4.4	27,986
歯科口腔外科	97,717,400	2.5	9,581	4.6	10,199
救急診療科	197,623,620	5.0	13,398	6.4	14,750
合 計	3,941,827,626	100.0	207,980	100.0	18,953

（2）医業収益（入院）

◆診療科別 入院収益・患者数・単価（4-3月累計）

	入院収益 (円)	占有率 (%)	患者数 (人)	占有率 (%)	1人1日 単価(円)
内 科	387,603,816	4.5	8,593	6.8	45,107
血 液 内 科	359,878,247	4.2	7,404	5.8	48,606
消化器内科	664,825,978	7.7	15,022	11.8	44,257
循環器内科	1,643,213,319	19.0	16,477	12.9	99,728
外 科	1,793,830,400	20.8	25,767	20.2	69,617
乳 腺 外 科	251,146,874	2.9	3,563	2.8	70,487
脳神経外科	189,910,393	2.2	2,670	2.1	71,127
整 形 外 科	789,588,122	9.1	12,157	9.6	64,949
形 成 外 科	274,226,159	3.2	2,866	2.3	95,683
産 婦 人 科	742,996,705	8.7	9,897	7.8	75,073
小 児 科	551,661,627	6.4	8,373	6.6	65,886
耳鼻咽喉科	387,147,445	4.5	6,125	4.8	63,208
泌 尿 器 科	459,999,932	5.4	6,846	5.4	67,193
皮 膚 科	997,749	0.0	28	0.0	35,634
放 射 線 科	18,155,411	0.2	303	0.2	59,919
歯科口腔外科	68,793,859	0.8	1,173	0.9	58,648
合 計	8,583,976,036	100.0	127,264	100.0	67,450

◆外来収益（対前年度比較）

（単位：円）

	①29年度	②30年度	差異(②-①)	増減率
4-3月累計実績	3,589,916,672	3,941,827,626	351,910,954	9.8%

◆入院収益（対前年度比較）

（単位：円）

	①29年度	②30年度	差異(②-①)	増減率
4-3月累計実績	8,411,544,024	8,583,976,036	172,432,012	2.0%

◆外来患者数（対前年度比較）

（単位：人）

	①29年度	②30年度	差異(②-①)	増減率
4-3月累計実績	205,519	207,980	2,461	1.2%

◆入院患者数（対前年度比較）

（単位：人）

	①29年度	②30年度	差異(②-①)	増減率
4-3月累計実績	124,731	127,264	2,533	2.0%

◆外来1日1人単価（対前年度比較）

（単位：円）

	①29年度	②30年度	差異(②-①)	増減率
4-3月累計実績	17,468	18,953	1,485	8.5%

◆入院1日1人単価（対前年度比較）

（単位：円）

	①29年度	②30年度	差異(②-①)	増減率
4-3月累計実績	67,437	67,450	13	0.0%

3. TQM活動

◆目 的

当院では、平成 21 年度より TQM活動を実施しており、今回で 10 回目となる。過去に行われた TQM活動の中で、現在でも各部署で継続され定着化している内容や、各部署へ水平展開が行われている内容も少なからずあり、病院運営に役立っている。

今年度の TQMチームはコラボレーションを前提とした内容が多く、また P F I 事業者の企業から多数のチームが参加した。

◆発表チーム

	チーム名	発表テーマ
1	看護部チームM	その持参薬対応 神ってる？！
2	洗濯（トーカイ）	ハンガーラックの白衣整理
3	滅菌消毒（鴻池メディカル）	作業環境管理による品質向上
4	看護部チームT	スムーズな入院案内を目指して
5	薬 剤 部	退院時薬剤指導を効率的におこなおう！！
6	院内保育ルーム（ヒューマンライフケア）	子どもの安全を考えた保育ルームづくり
7	売店（ミツウロコプロビジョンズ）	TQM 大いなる助走その後 そして感動のフィナーレ
8	薬剤部・通院治療センター・SPD合同	「正確・迅速・丁寧に」～搬送機を含む院内搬送業務について～
9	診療情報管理室（ニチイ学館）	カルテの知らない世界 Part 2
10	看護部チームQ	認知症患者の院内デイクア

◆活動状況

- 【平成 30 年 7 月 25 日】 TQM活動計画書の提出
- 【平成 30 年 11 月 14 日】 TQM活動中間報告の提出
- 【平成 31 年 2 月 12 日】 TQM活動最終報告の提出
- 【平成 31 年 2 月 19 日】 TQM活動発表会を開催

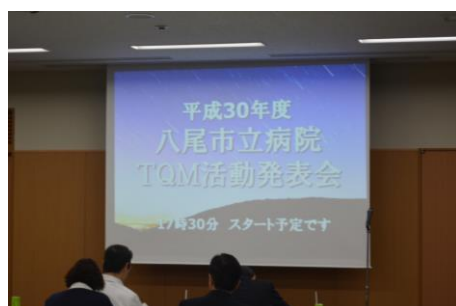
今回の平成 30 年度 TQM活動発表会では、

最 優 秀 賞： 診療情報管理室（ニチイ学館）

優 秀 賞： 院内保育ルーム（ヒューマンライフケア）

病院長特別賞： 看護部チームQ

がそれぞれ受賞した。



TQM活動発表会



最優秀賞： 診療情報管理室
（ニチイ学館）



優秀賞： 院内保育ルーム
（ヒューマンライフケア）



病院長特別賞： 看護部チームQ

4. チーム医療活動

◆目 的

現在の医療は多くの職種が関わりながら進めるチーム医療が重要となっており、当院としては、チーム医療の推進を要としてとらえ、推進を図ってきた。その取り組みは最新の医療環境では重要であり、積極的に取り組むことにより、医療の質の向上、さらには経営の改善にもつながると考えている。

◆推進チーム

八尾市立病院チーム医療推進委員会（委員長：田村茂行副院長）がチーム医療の推進を図り、平成 30 年度は 9 チームにて活動を行った。

- ・抗菌薬適正使用支援チーム (AST) ・糖尿病診療チーム ・栄養管理チーム (NST)
- ・院内感染防止対策チーム (ICT) ・周術期血栓対策部会 ・緩和ケアチーム
- ・褥瘡対策チーム ・呼吸器ケアチーム ・化学療法部会

◆活動状況

【平成 30 年 6 月 20 日】 平成 30 年度の各チームの活動の目標設定について報告があった。

【平成 30 年 10 月 23 日】 各チームが設定した目標に対する活動状況の確認を行った。

【平成 31 年 3 月 19 日】 平成 30 年度チーム医療発表会を開催した。

3 月 19 日チーム医療発表会はチーム医療推進委員会委員長の田村茂行副院長のあいさつに始まり、17 時 30 分から 19 時 10 分まで各チームとも熱心な発表が行われた。

チーム名	主な取り組み結果
抗菌薬適正使用支援チーム (AST)	介入結果、MEPM の 1 日の投与量は横ばいであるが、投与日数の短縮により使用量は減少した。周術期予防抗菌薬の適正使用では 248 の周術期パスに登録。
院内感染防止対策チーム (ICT)	手指衛生の徹底 [1 患者 1 入院あたりの手指衛生回数] 2017 年度 1.07 回、2018 年度 1.9 回、2018 年度目標値 3.0 回→実績 3.44 回・・・達成。病棟別では 3 病棟未達。
褥瘡対策チーム	褥瘡推定発生率 0.25%、褥瘡新規発生 Stage I-IV 29 件、入院時褥瘡保有者数 60 名、褥瘡院内発生平均介入期間 17 日 (目標 20 日)、褥瘡有病率 1.06%。具体的対策①チームで患者管理②マニュアル改訂③褥瘡患者の地域連携 (H30 年度 6 件)
糖尿病診療チーム	糖尿病透析予防指導管理料 1,175 件 (目標 1,500 件)、在宅療養指導料 1,038 件 (目標 1,000 件)、糖尿病合併症管理料 267 件 (目標 300 件)、自己注射指導件数 35 件 (目標 45 件)、薬剤管理指導料 2,253 件 (目標 300 件)。対策①勉強会②学会発表③八尾市保健所との連携④診療所・薬局との連携強化。
周術期血栓対策部会	対策①周術期血栓対策意識の共有②周術期血栓対策およびマニュアルの周知。静脈エコ一件数と DVT 検出件数 174 件中 32 件 (検出率 18%)。術前 VTE リスク評価表使用患者数 3,122 人中、術前最高リスク患者数 174 人、DVT 検出件数 32 件。
呼吸器ケアチーム	病棟ラウンド人数：27 名 (目標 20 名)、ラウンド延回数：68 回 (目標 55 回)、院内研修会：6 回。課題①メンバー参加の日程調整②学会等参加で再診の情報収集。
栄養管理チーム (NST)	NST 介入件数：796 件 (目標 600 件)、新規介入件数：205 件 (目標 150 件)、全職員対象 NST 研修：実施 1 回 (目標 1 回)、関西がんチーム医療研究会：1 演題 (目標 1 演題)、学会発表：3 演題 (目標 2 演題)。
緩和ケアチーム	緩和ケアチーム介入 (直接 113 回 (目標 110 回)、間接 72 回 (目標 20 回))、臨床心理士介入件数：258 件 (目標 170 件)、悲がん患者の苦痛スクリーニング：5 件 (目標 5 件)、緩和・症例カンファレンス参加件数 112 件 (目標 70 件)、薬剤管理指導料 (麻薬)：457 件 (目標 600 件)、院内研修会：3 回 (目標 4 回)、学会発表：3 演題 (目標 4 演題)。
化学療法部会	外来化学療法件数：5,059 件 (目標 4,800 件以上)、オリエンテーション実施率：97% (目標 98%)、がん患者指導管理料 1：205 件 (目標 200 件)、管理料 2：220 件 (目標 400 件)、管理料 3：53 件 (目標 80 件)、院内研修会：2 回 (目標 3 回以上)、学会発表数：3 題 (目標 3 題以上)。

5. 大規模災害発生時のトリアージ・応急救護訓練

平成 30 年 10 月 4 日（木）17 時 30 分より、『大規模災害発生時のトリアージ・応急救護訓練』を、八尾市立病院 1 F まちなかステーション付近および 2 F 外来受付前で実施した。大規模災害が発生した時を想定し、防災マニュアルに記載されている救急医療体制についての基本的な流れを実践の中で確認した。そして、職員の招集から災害対策本部、トリアージセンターや応急救護所の設置、開設に必要な物資・備品の準備、被災患者への対応などについて、課題を確認した。



災害対策本部

すべての設置が確認され、被災患者役の受け入れを始めると、各部署の動きが激しくなり、スタッフ全員が本番さながらの緊張感で訓練に取り組んでいた。2 F 災害対策本部では、各部署から適宜報告があり、伝えられた情報をホワイトボードに記録し、被災患者の対応経過を確認した。



患者搬送



軽症者応急救護所



中症者応急救護所



トリアージセンター



重症者応急救護所

6. 消防総合訓練

平成 31 年 2 月 22 日（金）、地震発生後に 8 階西病棟洗濯室から火災発生という設定で、消防総合訓練を実施した。

初期消火の対応から、連絡系統・避難経路などの確認および迅速な患者の避難誘導を行った。看護師の適切な対応により、患者は無事に避難することができた。

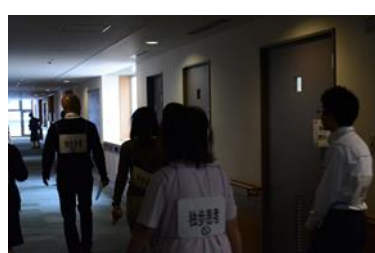
屋外では消防署員の方から消火器の取り扱い方法を教えていただいた。放水訓練では訓練用水消火器を使った初期消火訓練を行った。火災を想定した的を狙って初期消火訓練を行い、火災への意識を高めることができた。



放水による初期消火



消火栓による初期消火



患者の避難誘導



7. 八尾市立病院公開講座

八尾市立病院公開講座は平成 18 年から開催しており、平成 25 年からは、『看護師による健康相談』、平成 26 年からは、『薬剤師によるお薬相談』も同時開催している。



公開講座



看護師による健康相談



薬剤師によるお薬相談

	開催日	テーマ	演題・講師	開催場所	参加人数
第 53 回	平成 30 年 5 月 19 日	整形外科「この頃、手はしびれるし、膝も痛いし、歩きにくくなってきたなあ年のせい？ 病気？」	1. 手の痛み、しびれについて 整形外科医長 岡本 道雄 2. 気をつけたい四肢のしびれ ～靱帯骨化症を中心に～ 整形外科（脊椎外科部長） 立石 耕介 3. ひざ関節の痛みを解消する新しい手術治療 -ひざ関節の機能温存を考える- 整形外科医長 山田 裕三	市役所	106 名
第 54 回	平成 30 年 6 月 23 日	形成外科・看護部 手足のむくみ？ ～ 四肢リンパ浮腫に関するお話	1. 当院におけるリンパ浮腫外来の現状 （上肢編）乳がん看護認定看護師 吉野 知子 （下肢編）特定行為研修修了看護師・創傷管理皮膚・排泄ケア認定看護師 横山 敬子 2. 四肢リンパ浮腫に対する外科的治療 形成外科医長 三宅 ヨシカズ	院内	51 名
第 55 回	平成 30 年 7 月 28 日	心臓の病気について ～症状からその治療へ	[竹淵コミュニティセンター 改装記念] 1. 心臓の病気について ～症状からその治療へ 病院長 星田 四朗	竹淵コミュニティセンター	45 名
第 56 回	平成 30 年 10 月 21 日	Take!ABI in YAO 2018 足の血圧でわかる脳や心筋梗塞の危険度	1. Take!ABI の目的、検査の重要性 松尾クリニック理事長 松尾 汎 2. 動脈硬化予防のための食事 栄養科係長 黒田 昇平 3. 末梢動脈疾患の治療について 循環器内科医長 篠田 幸紀 ※ご報告 ポリオ撲滅への活動報告 八尾中央ロータリークラブ 福家 宏	院内	65 名
第 57 回	平成 30 年 12 月 15 日	知っておきたい 胃がんの知識	1. ピロリ菌と胃がん 消化器内科医長 小倉 智志 2. 早期胃がんにおける内視鏡治療 消化器内科副医長 瀬川 朋未 3. 胃がんの手術 消化器外科部長 遠藤 俊治 4. 胃がんに対する化学療法の進歩 副院長 田村 茂行	ブリズムホール レセプション ホール	70 名
第 58 回	平成 31 年 3 月 9 日	ジェネリック 医薬品を知ろう	[保健所と共催にて開催] 八尾市保健所保健企画課 勝木 茜 八尾市立病院主任技師 小川 充恵 大阪府薬剤師会理事 篠原 裕子 元 N T T 西日本大阪病院薬剤部長 但馬 重俊	院内	約 50 名

8. 八尾地域医療合同研究会

『八尾地域医療合同研究会』は平成 22 年度に発足し、八尾市と近隣の柏原市、東大阪市、大阪
市平野区などの医師・医療関係者を対象に年 2 回開催している。

第 17 回八尾地域医療合同研究会



平成 30 年 4 月 21 日（土）、ホテルモントレ
グラスミア大阪の 21 階会議室『スノーベリー』
において、『第 17 回八尾地域医療合同研究会』を
開催した。参加者は 127 名であった。



開会の辞
八尾市立病院
総長 佐々木 洋

特別講演『肺癌治療の最新情報』



演者
独立行政法人国立病院機構
刀根山病院
病院長 奥村 明之進

今回の特別講演には、独立行政法人国立病院機構
刀根山病院の病院長に就任された奥村 明之進 先
生をお招きし、兒玉 憲 特命院長を座長として『肺
癌治療の最新情報』という演題で、講演していただ
いた。講演は日本における肺がん治療の歴史から始
まり、現在の肺がん手術の動向などについて話され
た後、最近の肺がん治療について、ご自身が行った
手術の映像や海外で行われた手術の映像など、貴重
な資料を参照しながら解説された。



座長
八尾市立病院
特命院長 兒玉 憲

八尾市立病院 医師の講演

3 名の医師が講演を行い、田村 茂行 副院長を座長として、最初に話題提供として三宅 ヨ
シカズ 形成外科医長が『四肢リンパ浮腫に対する外科手術』という演題で、次は橋本 安司 消
化器外科医長が担当し、『肝胆膵疾患の外科治療』について講演した。最後の講演では座長が
変り、福井 弘幸 副院長が務め、榊原 充 消化器内科部長が『内科的肝癌治療のリノベーショ
ン：最新のラジオ波治療から免疫チェックポイント阻害剤まで』という演題で講演した。講演
の最後には質問コーナーが設けられ、それぞれの講演内容に関する質問に解答した。講演が全
て終わり、最後に当院の星田 四朗 病院長が閉会の辞として、来場者の皆さまにお礼を申し上
げた。



閉会の辞
八尾市立病院
病院長
星田 四朗



座長
八尾市立病院
副院長
田村 茂行



演者
八尾市立病院
形成外科 医長
三宅 ヨシカズ



演者
八尾市立病院
消化器外科 医長
橋本 安司



座長
八尾市立病院
副院長
福井 弘幸



演者
八尾市立病院
消化器内科 部長
榊原 充

第18回八尾地域医療合同研究会



平成30年10月27日(土) ヒルトン大阪 3階会議室『京都の間』にて、第18回『八尾地域医療合同研究会』を開催した。参加者は87名であった。



開会の辞
総長
佐々木 洋

一般講演「当院糖尿病センターにおける透析予防指導の取り組み」



八尾市立病院
糖尿病センター 部長
木戸 里佳

前半は、福井 弘幸 副院長が座長を務めた。糖尿病センター 木戸 里佳 部長が八尾市立病院の糖尿病センターでは医師・看護師・管理栄養士・医療秘書などの各職種がチームを組み、糖尿病透析予防指導を行っていることを説明し、その取り組みにより、腎症病期の進行を遅らせた例などを発表するとともに、発症時からの患者教育の必要性についても話した。



座長
八尾市立病院
副院長
福井 弘幸

一般講演「アジアの外科事情」



八尾市立病院
消化器外科 部長
遠藤 俊治

次に、遠藤 俊治 消化器外科部長が講演した。初めに日本の高齢者胃がんの治療方針について、高齢者の胃がん発生率の統計データなどを使って紹介し、治療を慎重に行っていることを話した。

次に、参加している「ジャパン・ハート」でのボランティア医療活動について、TVで放送されたインタビュー映像も交えて話した。日本との医療現場環境の差、日本ではあまりない手術症例の多さについて、医療活動の中で感じたことを話した。

特別講演「DES 植え込み患者の消化管出血予防対策」

研究会の後半は、座長を八尾市立病院 星田 四朗 病院長が務め、特別講演として福岡山王病院 循環器センター長 国際福祉大学 横井 宏佳 教授をお招きし、講演はDES（薬剤溶出性ステント）を使用した際に発生する問題点などを、教授自身が統計したデータや海外で提示されているデータなどを用いて解説された。DAPT（抗血小板薬2剤併用療法）についても話され、心筋梗塞を抑えるメリットと、長期使用による出血リスクの増加について



福岡山王病院
循環器センター長
国際福祉大学 教授
横井 宏佳



座長
八尾市立病院
病院長
星田 四朗



閉会の辞
八尾市立病院
特命院長
兒玉 憲

でも話された。講演後、星田 四朗 病院長が特別講演の感想を述べ、最後に閉会にあたり、八尾市立病院 兒玉 憲 特命院長が挨拶した。

9. 業績集

(1)刊行論文、著書

題名	著者	巻号、雑誌名、ページ、発行年
Differences in amiodarone efficacy in relation to ejection fraction and basal rhythm in patients with implantable cardioverter defibrillators.	Watanabe T, Inoue K, Kashiwase K, Mine T, Hirooka K, Shutta R, Mizuno H, Okuyama Y, Sakata Y, Nanto S; SATISFACTION Investigators.	J Electrocardiol 51(6):1111-1115, 2018 (doi: 10.1016/j.jelectrocard.2018.10.083. Epub 2018 Oct 8)
Sex-related differences in left ventricular diastolic function and arterial elastance during admission in patients with heart failure with preserved ejection fraction: The PURSUIT HFpEF study.	Hoshida S, Watanabe T, Shinoda Y, Ikeoka K, Minamisaka T, Fukuoka H, Inui H, Ueno K, Suna S, Nakatani D, Hikoso S, Yamada T, Yasumura Y, Fuji H, Sakata Y; PURSUIT HFpEF Investigators.	Clin Cardiol 2018 41(12):1529-1536 (doi: 10.1002/clc.23073)
Continuous ST-Monitoring Function of Implantable Cardioverter Defibrillator Detects Silent Ischemia in Patients With Coronary Artery Disease.	Watanabe T, Hirooka K, Furukawa Y, Yabuki M, Hirata A, Kashiwase K, Shutta R, Mine T, Mizuno H, Tanaka T, Doi T, Yoshida A, Okuyama Y, Nanto S.	J Am Heart Assoc 7(13):1-9 (pii:009332.doi:10.1161/JAHA.118.009332)
Transient manifestation of left ventricular diastolic dysfunction following ablation in patients with paroxysmal atrial fibrillation.	Minamisaka T, Watanabe T, Shinoda Y, Ikeoka K, Fukuoka H, Inui H, Ueno K, Inoue S, Mine K, Hoshida S.	Clin Cardiol 41(7):978-984, 2018 (doi: 10.1002/clc.22990)
Pathophysiological Significance of Velocity-Based Microvascular Resistance at Maximal Hyperemia in Peripheral Artery Disease.	Ikeoka K, Hoshida S, Watanabe T, Shinoda Y, Minamisaka T, Fukuoka H, Inui H, Ueno K, Sakata Y.	J Atheroscler Thromb 25(11):1128-1136, 2018 (doi: 10.5551/jat.43117)
Endovascular therapy for subclavian artery stenosis due to stent strut protrusion with high-resolution angiography and three-dimensional optical frequency domain imaging	Ikeoka K1, Okayama K2, Watanabe T1, Nanto S3, Sakata Y2, Hoshida S1.	J Cardiol Cases 18(6):181-184, 2018 (doi: 10.1016)
Refractory Vascular Wall Healing after Paclitaxel-Coated Nitinol Stent Implantation in the Femoropopliteal Artery: A High-Resolution Angiographic Assessment.	Ikeoka K, Okayama K, Watanabe T, Nanto S, Sakata Y, Hoshida S.	Ann Vasc Dis. 2018 Sep 25;11(3):373-376. doi: 10.3400/avd.cr.18-00061
Randomized, Open-Label Phase II Study Comparing Capecitabine-Cisplatin Every 3 Weeks with S-1-Cisplatin Every 5 Weeks in Chemotherapy-Naïve Patients with HER2-Negative Advanced Gastric Cancer: OGS1105, HERBIS-4A Trial.	Kawakami H, Takeno A, Endo S, Makari Y, Kawada J, Taniguchi H, Tamura S, Sugimoto N, Kimura Y, Tamura T, Fujitani K, Sakai D, Shimokawa T, Kurokawa Y, Satoh T.	Oncologist 23(12):1411-1412, e141-e147, 2018
Prognostic factors for cytology-positive gastric cancer.	Endo S, Ikenaga M, Ohta K, Ueda M, Tsuda Y, Kato R, Itakura H, Matsuyama J, Nishikawa K, Yamada T.	Surg Today 49(1):56-64, 2019
Trastuzumab With S-1 Plus Cisplatin in HER2-positive Advanced Gastric Cancer Without Measurable Lesions: OGS1202.	Endo S, Kurokawa Y, Gamoh M, Kimura Y, Matsuyama J, Taniguchi H, Takeno A, Kawabata R, Kawada J, Masuzawa T, Yamamoto K, Kobayashi K, Sakai D, Shimokawa T, Satoh T.	Anticancer Res 39(2):1059-1065, 2019
大腸癌腹膜播種巣に対する外科的切除の検討	内藤 敦、村田幸平、賀川義規、河合賢二、阪本卓也、稲留遵一、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、益澤 徹、竹野 淳、柄川千代美、武田 裕、加藤健志、田村茂行	癌と化学療法 45(13):2360-2362, 2018
胃切除9年後に孤立性肺転移を切除した胃癌の1例	遠藤俊治、山田晃正、尾田一之、早川正宣、宮崎 知、池永雅一、足立真一、太田勝也、中島慎介、上田正射、津田雄二郎、西川和宏、千原 剛、山内 周	日本消化器外科学会雑誌 51(5):342-349, 2018
特定非営利活動法人ジャパンハートで経験した、カンボジア王国での医療活動	遠藤俊治、長谷川彩未、吉岡春奈、吉岡秀人	国際臨床医学会雑誌 2(1):52-55, 2018
化学療法後胃切除を行い10年無再発生存中の胃癌同時性多発肝転移の1例	遠藤俊治、岡 義雄、池永雅一、太田勝也、上田正射、山内 周、山田晃正	日本臨床外科学会雑誌 79(8):1688-1693, 2018
新知見を知って看護力もUP！先生！ホントのところ教えて下さい！医師は何を思う？看護師に何を求める？医療従事者不足地域での手術活動	遠藤俊治	OPE nursing 33(11):1120-1122, 2018
胃癌同時性多発肝転移に対し集学的治療を行い長期無再発生存中の1例	遠藤俊治、岡 義雄、池永雅一、太田勝也、上田正射、津田雄二郎、加藤 亮、板倉弘明、山内 周、山田晃正	日本外科系連合学会雑誌 43(6):1042-1047, 2018
22年前の直腸DST吻合部に発生した直腸癌の1例	廣瀬 創、井出義人、空谷友香子、竹田雅司、今村宏輝、橋本安司、永井健一、松山 仁、久保田 勝、田村茂行、佐々木 洋	癌と化学療法 45(13):1800-1802, 2018
多発性骨盤部後腹膜神経鞘腫の1例	今村宏輝、井出義人、空谷友香子、竹田雅司、田村茂行、佐々木 洋	日本臨床外科学会雑誌 79(8):1772-1776, 2018
Concurrent combination of irradiation and immune checkpoint inhibitor for recurrent pleomorphic carcinoma of the lung	Kodama K, Maniwa T, Kimura Y, Yagi Y, Yamamoto Y, Ohkawa T, Takeda M, Kishima H, Koh G, Toyohuku T.	Int Cancer Conf J 7(2):43-47, 2018
Fulminant onset of insulin-dependent diabetes with positive anti-GAD antibody titers during treatment with nivolumab in a patient with NSCLC	Matsuura N, Koh G, Konishi C, Minamino S, Takahara Y, Harada H, Kodama K, Emoto M.	Cancer Immunol Immunother 67(9):1417-1424, 2018
Long-term follow-up in a patient with segmentectomy for lung cancer developed in the segment with displaced left B1+2 bronchus	Yamato H, Kodama K, Yamamoto Y, Yagi Y, Momozane T, Kimura Y, Takeda M, Maniwa T.	Surgical Case Reports 1(3), 2018 DOI:10.31487/j.scr.2018.03.022
Upfront surgery in patients with clinical skip N2 lung cancer based on results of modern radiological examination	Maniwa T, Shintani Y, Okami J, Kadota Y, Takeuchi Y, Takami K, Yokouchi H, Kurokawa E, Sakamaki Y, Shiono H, Iwasaki T, Nishioka K, Kodama K, Okumura M.	J Thorac Dis 10(12):6828-6837, 2018
A phase II, multicenter, single-arm trial of eribulin as first- or second-line chemotherapy for HER2-negative advanced or metastatic breast cancer: evaluation of efficacy, safety, and patient-reported outcomes.	Kimura K, Iwamoto M, Tanaka S, Yamamoto D, Yoshidome K, Ogura H, Terasawa R, Matsunami N, Takahashi Y, Nitta T, Fujioka H, Kawaguchi K, Uchiyama K, Morimoto T, Fujioka H, Kawaguchi K, Uchiyama K.	Cancer Chemother Pharmacol 81(5):923-933, 2018

題名	著者	巻号、雑誌名、ページ、発行年
A multicenter phase II trial of neoadjuvant letrozole plus low dose cyclophosphamide in postmenopausal patients with estrogen receptor-positive breast cancer (JBCRG-07): therapeutic efficacy and clinical implications of circulating endothelial cells.	Takayuki Ueno,Norikazu Masuda,Shunji Kamigaki, Takashi Morimoto,Futoshi Akiyama,Masafumi Kurosumi, Hitoshi Tsuda,Yoshiki Mikami,Sunao Tanaka,Satoshi Morita and Masakazu Toi.	Cancer Med 7(6):2442-2451,2018
Neoadjuvant endocrine therapy with exemestane followed by response-guided combination therapy with low-dose cyclophosphamide in postmenopausal patients with estrogen receptor-positive breast cancer: A multicenter, open-label, phase II study	Nobuaki Sato,Norikazu Masuda,Takashi Morimoto, Takayuki Ueno,Chizuko Kanbayashi,Koji Kaneko, Hiroyuki Yasojima,Shigehira Saji,Hironobu Sasano, Satoshi Morita,Shinji Ohno,Masakazu Toi.	Cancer Med :7(7) 3044-56,2018
Bi-weekly eribulin therapy for metastatic breast cancer: a multicenter phase II prospective study (JUST-STUDY).	Ohtani S,Nakayama T,Yoshinami T,Watanabe KI,Hara F, Sagara Y,Kawaguchi H,Higaki K,Matsunami N,Hasegawa Y, Takahashi M,Mizutani M,Morimoto T,Sato M,Itoh M, Morita S, Masuda N.	Breast Cancer 2018 Jul;25(4):438-446
Significance of baseline neutrophil-to-lymphocyte ratio for progression-free survival of patients with HER2-positive breast cancer treated with trastuzumab emtansine	Imamura M,Morimoto T,Egawa C,Fukui R,Bun A,Ozawa H, Miyagawa Y,Fujimoto Y,Higuchi T,Miyoshi Y.	Sci Rep 9(1):1811,2019
Differential involvement of autophagy and apoptosis in response to chemoendocrine and endocrine therapy in breast cancer	Ueno T,Masuda N,Kamigaki S,Morimoto T,Saji S, Imoto S, Sasano H,Toi M.	Int J Mol Sci 20(4):E984,2019
High levels of serum CA15-3 and residual invasive tumor size are associated with poor prognosis for breast cancer patients with non-pathological complete response after neoadjuvant chemotherapy.	Fujimoto Y,Higuchi T,Nishimukai A,Miyagawa Y,Kira A, Ozawa H,Bun A,Imamura M,Miyoshi Y.	J Surg Oncol 118(1):228-237,2018
Significant Association Between Low Baseline Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio and Improved Progression-free Survival of Patients With Locally Advanced or Metastatic Breast Cancer Treated With Eribulin But Not With Nab-Paclitaxel.	Miyagawa Y,Araki K,Bun A,Ozawa H,Fujimoto Y,Higuchi T, Nishimukai A,Kira A,Imamura M,Takatsuka Y,Miyoshi Y.	Clin Breast Cancer 18(5):400-409,2018
頰椎前方固定術の周術期看護ノート	立石耕介	整形外科看護 23 1-3,2018
腰椎術後に隣接椎間高位での血腫形成により麻痺をきたした一例	立石耕介、黒田昌之	日本脊髄障害医学会誌 31 188-189,2018
Patellar instability can be classified into four types based on patellar movement with knee flexion: a three-dimensional computer model analysis	Yamada Y, Toritsuka Y, Nakamura N, Yoshikawa H, Shino K.	Journal of International Sports Arthroscopy Knee orthopaedic Society 3 2018
小児の足趾溶骨性病変に対してランゲルハンス細胞組織球症を疑った2例	島田俊樹、山田修太郎、立石耕介、上田孝文	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 61 431-432,2018
頬部アポクリン腺癌の1例	仲野雅之、三宅ヨシカズ、松岡祐貴、楠本健司	日本形成外科学会誌 38(4):197-202,2018
長母指伸筋腱欠損に対してPAT付き外腹斜筋腱膜移植にて伸展機能を再建した1例	松岡祐貴、三宅ヨシカズ、仲野雅之、楠本健司	日本創傷外科学会誌 10(1):13-16.2019
全腹腔鏡下子宮全摘術 (TLH) の導入 単一術者が施行した80例についての検討から	佐々木高綱、棚瀬康仁、松浦美幸、山田弘次、吉澤順子、水田裕久、山田嘉彦	産科と婦人科 85(4):478-483,2018
腹腔鏡下に手術施行した嚢胞性子宮腺筋症の2例	佐々木高綱、松浦美幸、山田弘次、吉澤順子、水田裕久、山田嘉彦	臨床婦人科産科 72(6):617-622,2018
付属器腫瘍と誤認した腹膜偽粘液腫の1例	山田弘次、佐々木高綱、中野和俊、松浦美幸、吉澤順子、水田裕久、山田嘉彦、竹田雅司	産科と婦人科 85(10):1263-1266,2018
A case of moderate haemophilia A with inhibitor, carrying the p.R1800H mutation,complicated with juvenile idiopathic arthraitis	Kondo Y,Shida Y,Ishikawa T,Yada K,Takeyama M, Shima M,Nogami K	Hamophilia 25(1):e51-e54,2019
特集 医薬 ICT 連携一成功の要諦を学ぶ: 病院視座からの病・診・薬連携推進のための条件	小枝伸行	月刊新医療 4月号:2019
個人情報保護法の改正に伴う薬剤師の医療情報の取り扱いに関する調査・研究	池田和之、青柳吉博、岡橋孝侍、黒田知宏、小枝伸行、関谷泰明、高田敦史	日本病院薬剤師会雑誌 54(10):1197-1202,2018
Impact of Comorbidities on Survival in Gastric, Colorectal, and Lung Cancer Patients	Toshitaka Morishima, Yoshifumi Matsumoto, Nobuyuki Koeda,Hiroko Shimada, Tsutomu Maruhama, Daisaku Matsuki, Kayo Nakata, Yuri Ito,Takahiro Tabuchi, and Isao Miyashiro	J Epidemiol.Mar 5;29(3):110-115,2019
PFI事業におけるVFMの事後評価法について～八尾市立病院のPFI事業の事例から～	朴井 晃	近畿都市学会会報 202:11-12,2018
公営企業フラッシュ 市民に信頼され、市民に誇れる公立病院 ～「高度で良質な医療」と「品格のある病院運営」の実践～	事務局企画運営課	公営企業 2月号:97-98,2019

(2)学会発表

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
急速な右下肢麻痺を呈した多発神経根炎の1例	青原大介、大江洋介、清水雅之、渡瀬晴人、立石耕介、久保典代、有田都史香、福盛達也、武田景敏	第221回日本内科学会近畿地方会 2018/9/22 大阪市
治療後再燃を来したスエヒロタケによるアレルギー性気管支肺真菌症の1例	山田佳奈、福盛達也、大江洋介、亀井克彦	第223回日本内科学会近畿地方会 2019/3/2 京都市
不明熱を呈し診断に難渋した粟粒結核、結核性髄膜炎の1例	中島安佐海	日本内科学会 第221回近畿地方会 2018/9/22 大阪市
治療後再燃をきたしたスエヒロタケによるアレルギー性気管支肺真菌症の1例	山田加奈	日本内科学会 第223回近畿地方会 2019/3/2 京都市
マルチポーラRFAと新たな3つの工夫がもたらす治療成績の向上	榊原 充	第91回日本超音波医学会総会 2018/6/9 神戸市
平行穿刺アタッチメントや2+1法を用いたバイポーラRFAによる治療成績:モノポーラRFAとの比較	榊原 充	第54回日本肝臓学会総会 2018/6/15 大阪市
腹腔鏡下胆嚢摘出術後のクリップ迷入による総胆管結石の一例	李恵利佳	第95回日本消化器内視鏡学会総会 2018/5/10 東京都
イレウスにて発症した特発性腸間膜静脈硬化症の1例	長岡達朗	日本消化器病学会近畿支部例会 2019/2/23 京都市
Drug Stress Plus Mild Exercise Stress is Useful for Reducing Streak Artifacts in Myocardial Perfusion SPECT.	篠田幸紀	第83回日本循環器病学会学術集会 2019/3/29-31 横浜市
TAVI後に発症した感染性心内膜炎の一例	南坂朋子	第126回日本循環器学会近畿地方会 2018/11/24 大阪市
Clinical course of patients with complete response by chemoradiotherapy for locally advanced esophageal cancer	Tamura S, Matsuyama J, Nagai K, Imamura H, Yagi Y, Mokutani Y, Hashimoto Y, Hirose H, Kubota M, Fukushima Y, Sasaki Y.	The 16th world congress of the International Society for Diseases of the Esophagus, 2018/9/16-19 Vienna
Clinical significance of jejunostomy catheter feeding after esophagectomy	Matsuyama J, Tamura S, Nagai K, Imamura H, Yagi Y, Mokutani Y, Hirose H, Ide Y, Kubota M, Ikenaga M, Yamada T, Sasaki Y.	The 16th world congress of the International Society for Diseases of the Esophagus, 2018/9/16-19 Vienna
特別発言 安全な肝実質切離手術手技	佐々木 洋	第80回日本臨床外科学会総会 2018/11/22-24 東京都
胃切除後障害に対する対策 胃切除後の体重減少に対するパンクレリパーゼ製剤の効果 ランダム化第II相試験	田村茂行、谷口博一、村上剛平、竹野 淳、松山 仁、永井健一、益澤 徹、武田 裕、村田剛平	第118回日本外科学会定期学術集会 2018/4/5-7 東京都
胃粘膜下異所性胃腺のある胃に発生した早期胃癌の1切除例	田村茂行、永井健一、松山 仁、八木悠理子、今村宏輝、空谷友香子、橋本安司、廣瀬 創、井出義人、久保田 勝、福島幸男、佐々木 洋	第40回日本癌局所療法研究会 2018/6/15 東京都
術後補助療法早期再発例と進行再発癌二次治療例との生存成績に違いはあるか? TRICS試験探索的検討	西川和宏、室谷健太、藤谷和正、稲垣 均、赤丸祐介、徳永伸也、高木正和、田村茂行、杉本直俊、重松 忠、吉川貴己、石畝 亨、中村将人、森田智規、円谷 彰、坂本純一、辻仲利政	第118回日本外科学会定期学術集会 2018/4/5-7 東京都
切除可能食道癌に対する術前化学療法としてのDCFとACF療法の多施設共同ランダム化比較試験	山崎 誠、安田卓司、矢野雅彦、平尾素宏、小林研二、藤谷和正、田村茂行、木村 豊、宮田博志、本告正明、白石 治、牧野知紀、佐藤太郎、森 正樹、土岐祐一郎	第118回日本外科学会定期学術集会 2018/4/5-7 東京都
大腸癌肝転移に対する腹腔鏡下肝切除の短期および長期成績	桂 宜輝、武田 裕、大村仁昭、阪本卓也、河合賢二、稲留遵一、村上剛平、内藤 敦、賀川義規、益澤 徹、竹野 淳、柄川千代美、加藤健志、田村茂行、村田幸平	第118回日本外科学会定期学術集会 2018/4/5-7 東京都
当院の肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除術と手術部位感染(SSI)に関する検討	桂 宜輝、武田 裕、大村仁昭、阪本卓也、河合賢二、村上剛平、内藤 敦、賀川義規、益澤 徹、竹野 淳、加藤健志、田村茂行、村田幸平	第104回日本消化器病学会総会 2018/4/19-21 東京都
高齢の肝癌患者における腹腔鏡下肝切除の安全性に関する検討	阪本卓也、武田 裕、大村仁昭、桂 宜輝、河合賢二、村上剛平、内藤 敦、賀川義規、益澤 徹、竹野 淳、加藤健志、田村茂行、村田幸平	第104回日本消化器病学会総会 2018/4/19-21 東京都
食道癌術後の良性狭窄に対しQOL改善目的の手術を施行した一例	野瀬陽平、竹野 淳、南 亨介、田村茂行、村上剛平、益澤 徹、大村仁昭、賀川義規、武田 裕、村田幸平	第72回日本食道学会学術集会 2018/6/28-29 宇都宮市
胃癌術後早期の成分栄養剤(エレンタール)による栄養介入の長期的効果に関する検討	岸健太郎、今村博司、西川和宏、井上健太郎、松山 仁、赤丸祐介、田村茂行、川端良平、柳本喜智、大森 健、菅野仁士、山田岳史、内田英二、下川敏雄、木村 豊	第80回日本臨床外科学会総会 2018/11/22-24 東京都
胃癌術前化学療法の組織学的効果判定は予後と相關するか	遠藤俊治、足立真一、池永雅一、太田勝也、中島慎介、上田正射、津田雄二郎、高山碩俊、板倉弘明、知念良直、西川和宏、山田晃正	第118回日本外科学会定期学術集会 2018/4/5-7 東京都
胃癌術前化学療法を行い切除した症例の治療効果判定に関する検討	遠藤俊治、池永雅一、足立真一、太田勝也、中島慎介、上田正射、津田雄二郎、高山碩俊、板倉弘明、知念良直、西川和宏、山田晃正	第104回日本消化器病学会総会 2018/4/19-21 東京都
当院における大動脈周囲リンパ節転移胃癌に対する術前化学療法	遠藤俊治、池永雅一、太田勝也、中島慎介、上田正射、津田雄二郎、板倉弘明、松山 仁、西川和宏、山田晃正	第43回日本外科系連合学会学術集会 2018/6/21-23 東京都
治療に難渋したupside down stomachを伴う食道裂孔ヘルニアの1例	遠藤俊治、池永雅一、足立真一、太田勝也、中島慎介、上田正射、津田雄二郎、高山碩俊、板倉弘明、山田晃正	第72回日本食道学会学術集会 2018/6/28-29 宇都宮市
術前化学療法後に腹部大動脈周囲リンパ節郭清を伴う胃切除を行った症例の検討	遠藤俊治、池永雅一、太田勝也、中島慎介、上田正射、津田雄二郎、高山碩俊、板倉弘明、知念良直、山田晃正	第73回日本消化器外科学会総会 2018/7/11-13 鹿児島市
胃癌術前化学療法症例の予後因子	遠藤俊治、加藤 亮、池永雅一、太田勝也、中島慎介、上田正射、津田雄二郎、板倉弘明、知念良直、堺 貴彬、佐藤 豪、西川和宏、松山 仁、田村茂行、山田晃正	第56回日本癌治療学会学術集会 2018/10/18-20 横浜市

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
CY1胃癌の予後因子	遠藤俊治、池永雅一、太田勝也、中島慎介、上田正射、津田雄二郎、板倉弘明、知念良直、松山 仁、西川和宏、山田晃正	第16回日本消化器外科学会大会 2018/11/1-4 神戸市
当院におけるステージIV胃癌に対するconversion surgery	遠藤俊治、池永雅一、太田勝也、中島慎介、上田正射、津田雄二郎、家出清継、加藤 亮、板倉弘明、知念良直、堺 貴彬、佐藤 豪、松山 仁、西川和宏、山田晃正	第80回日本臨床外科学会総会 2018/11/22-24 東京都
腹腔鏡下穿孔部閉鎖後に二期的胃切除術を行った胃癌穿孔の4例	遠藤俊治、池永雅一、太田勝也、中島慎介、上田正射、津田雄二郎、加藤 亮、板倉弘明、山田晃正	第31回日本内視鏡外科学会総会 2018/12/6-8 福岡市
ラオス人民民主共和国での医療経験	遠藤俊治	第3回国際臨床医学会 2018/12/8 東京都
cSS/SE N1-3 M0胃癌に対するperi CapeOxの有効性確認試験-第II相試験-(OGSG1601)	遠藤俊治、寺澤哲志、松山 仁、川端良平、後藤昌弘、李 相雄、栗栖義賢、黒川幸典、下川敏雄、坂井大介、加藤健志、藤谷和正、佐藤太郎	第91回日本胃癌学会総会 2019/2/27-3/1 沼津市
食道癌術後胃管肺塞にヒストアクリル注入が有効であった1例	遠藤俊治、足立真一、田村茂行、木戸上真也、山田晃正、池永雅一、太田勝也、上田正射、井出義人、廣瀬 創、橋本安司、岸本朋也、李谷友香子、今村宏樹、指月海地、米田直樹、佐々木 洋	第55回日本腹部救急医学会総会 2019/3/7-8 仙台市
食道癌手術における栄養用腸瘻造設の有用性	松山 仁、田村茂行、木戸上真也、今村宏輝、指月海地、米田直樹、李谷友香子、岸本朋也、橋本安司、廣瀬 創、井出義人、佐々木 洋	第72回日本食道学会学術集会 2018/6/28-29 宇都宮市
再造設を見据えた食道癌・胃癌手術における栄養用腸瘻造設法	松山 仁、田村茂行、今村宏輝、八木悠理子、橋本安司、李谷友香子、永井健一、廣瀬 創、井出義人、久保田勝、兒玉 憲、佐々木 洋	第55回日本外科代謝栄養学会学術集会 2018/7/5-7 大阪市
術前経口補水療法の段階的導入～5年間の取り組み～	松山 仁、今村宏輝、橋本安司、李谷友香子、永井健一、廣瀬 創、井出義人、久保田勝、田村茂行、佐々木 洋	第73回日本消化器外科学会総会 2018/7/11-13 鹿児島市
食道癌に対する化学放射線療法(CRT)後の食道ステント留置について	松山 仁、田村茂行、木戸上真也、今村宏輝、指月海地、米田直樹、李谷友香子、岸本朋也、橋本安司、廣瀬 創、井出義人、佐々木 洋	第56回日本癌治療学会学術集会 2018/10/18-20 横浜市
食道癌術後12年間継続する難治性吻合部狭窄に対する胸骨柄部分切除術	松山 仁、田村茂行、木戸上真也、米田直樹、今村宏輝、指月海地、八木悠理子、李谷友香子、岸本朋也、橋本安司、廣瀬 創、井出義人、池永雅一、山田晃正、佐々木 洋	第80回日本臨床外科学会総会 2018/11/22-24 東京都
腹腔鏡下噴門側胃切除術における自動吻合器を用いた観音聞き法による食道残胃吻合の経験	松山 仁、木戸上真也、李谷友香子、岸本朋也、橋本安司、廣瀬 創、井出義人、田村茂行	第31回日本内視鏡外科学会総会 2018/12/6-8 福岡市
再発鼠径ヘルニアに対するTAPP法の検討	井出義人、橋本安司	第16回日本ヘルニア学会学術集会 2018/6/29-30 札幌市
Stage III結腸癌に対する術後補助化学療法としてのXELOX療法の有効性・安全性の検討(Phase II)中間解析	井出義人、團野克樹、大西 直、赤松大樹、畑 泰司、松田 宙、水島恒和、根津理一郎、土岐祐一郎、森 正樹	第73回日本消化器外科学会総会 2018/7/11-13 鹿児島市
切除可能進行直腸癌に対するNACの現状と問題点	井出義人、李谷友香子、廣瀬 創、今村宏輝、指月海地、米田直樹、木戸上真也、岸本朋也、橋本安司、松山 仁、田村茂行、佐々木 洋	第73回日本大腸肛門病学会学術集会 2018/11/9-10 東京都
他臓器浸潤を伴う大腸癌に対する腹腔鏡下手術の実践と問題点	井出義人、李谷友香子、廣瀬 創、今村宏輝、指月海地、米田直樹、木戸上真也、岸本朋也、橋本安司、遠藤俊治、田村茂行、佐々木 洋	第80回日本臨床外科学会総会 2018/11/22-24 東京都
下行結腸癌に対する腹腔鏡手術の定型化	井出義人、李谷友香子、廣瀬 創、木戸上真也、岸本朋也、橋本安司、松山 仁、田村茂行	第31回日本内視鏡外科学会総会 2018/12/6-8 福岡市
当院の再発進行胃癌におけるラムシルマブ、パクリタキセル併用療法の効果の検討	永井健一、松山 仁、李谷友香子、橋本安司、廣瀬 創、井出義人、久保田 勝、福島幸男、田村茂行、佐々木 洋	第73回日本消化器外科学会総会 2018/7/11-13 鹿児島市
女性の単径部ヘルニアに対する腹腔鏡下単径ヘルニア修復術(TAPP法)に関する検討	橋本安司、井出義人、今村宏輝、八木悠理子、李谷由香子、永井健一、廣瀬 創、松山 仁、久保田 勝、福島幸男、田村茂行 佐々木 洋	第16回日本ヘルニア学会学術集会 2018/6/29-30 札幌市
大腸癌肝転移における肝切除後の再発リスク因子に関する検討	橋本安司、佐々木 洋、久保田 勝、今村宏樹、李谷友香子、廣瀬 創、永井健一、井出義人、松山 仁、田村茂行	第73回日本消化器外科学会総会 2018/7/11-13 鹿児島市
重症急性胆のう炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の治療成績	橋本安司、岸本朋也、木戸上真也、李谷友香子、廣瀬 創、井出義人、松山 仁、田村茂行	第31回日本内視鏡外科学会総会 2018/12/6-8 福岡市
肝腫瘍として発見された限局性 悪性腹膜中皮腫の1例	岸本朋也、橋本安司、今村宏輝、米田直樹、木戸上真也、李谷友香子、廣瀬 創、井手義人、遠藤俊治、田村茂行、竹田雅司、佐々木 洋	第80回日本臨床外科学会総会 2018/11/22-24 東京都
急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術におけるDifficulty Scoreの意義の検討	岸本朋也、橋本安司、今村宏輝、米田直樹、木戸上真也、李谷友香子、廣瀬 創、井手義人、遠藤俊治、田村茂行、佐々木 洋	第31回日本内視鏡外科学会総会 2018/12/6-8 福岡市
食道癌in silico解析によるスプラインソーム経路の臨床病理学的意義の検討	木戸上真也、山崎 誠、田中晃司、宮崎康弘、牧野知紀、高橋 剛、黒川幸典、中島清一、森 正樹、土岐祐一郎	第73回日本消化器外科学会総会 2018/7/11-13 鹿児島市
当院の高齢者胃癌におけるRamucirumab+Paclitaxel併用療法の安全性と有効性	木戸上真也、田村茂行、遠藤俊治、今村宏輝、米田直樹、李谷友香子、岸本朋也、橋本安司、廣瀬 創、井出義人、佐々木 洋	第91回日本胃癌学会総会 2019/2/27-3/1 沼津市
胃癌に対するPaclitaxel+Ramucirumab併用療法中に胃穿孔を発症した一例	木戸上真也、田村茂行、遠藤俊治、今村宏樹、米田直樹、李谷友香子、岸本朋也、橋本安司、廣瀬 創、井出義人、佐々木 洋	第55回日本腹部救急医学会総会 2019/3/7-8 仙台市
食道癌に対し化学放射線療法により完全奏効が得られた18例の調査	今村宏輝、松山 仁、橋本安司、廣瀬 創、永井健一、井出義人、久保田勝、福島幸男、田村茂行、佐々木 洋	第72回日本食道学会学術集会 2018/6/28-29 宇都宮市
cT4b(SI)胃癌に対する胃全摘+多臓器合併切除術の治療成績	今村宏輝、松山 仁、橋本安司、廣瀬 創、永井健一、井出義人、久保田勝、福島幸男、田村茂行、佐々木 洋	第73回日本消化器外科学会総会 2018/7/11-13 鹿児島市
肺高血圧症を契機に診断され急速な転機をたどった胃癌の1例	今村宏輝、松山 仁、田村茂行、指月海地、米田直樹、木戸上真也、岸本朋也、橋本安司、廣瀬 創、井出義人、佐々木 洋	第80回日本臨床外科学会総会 2018/11/22-24 東京都

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
StageⅣ進行胃癌に対して治療を行い長期予後を得た2例の検討	今村宏樹、田村茂行、木戸上真也、遠藤俊治、李谷友香子、岸本朋也、橋本安司、廣瀬 創、井出義人、佐々木 洋	第91回日本胃癌学会総会 2019/2/27-3/1 沼津市
慢性B型肝炎に発生した肝臓に孤立するIgG4産生形質細胞腫の一例	米田直樹、橋本安司、岸本朋也、佐々木洋、竹田雅司、今村宏輝、木戸上真也、李谷友香子、井出義人、松山 仁、田村茂行	第80回日本臨床外科学会総会 2018/11/22-24 東京都
回腸とS状結腸が陥頓壊死をきたした高齢者の回腸間膜裂孔ヘルニアの一例	米田直樹、廣瀬 創、井出義人、李谷友香子、竹田雅司、今村宏樹、指月海地、木戸上真也、橋本安司、岸本朋也、遠藤俊治、田村茂行、佐々木 洋	第55回日本腹部救急医学会総会 2019/3/7-8 仙台市
神経線維腫症1型にGISTを合併し対照的な経過をたどった2例	指月海地、廣瀬 創、井出義人、今村宏輝、米田直樹、木戸上真也、李谷友香子、岸本朋也、橋本安司、遠藤俊治、田村茂行、佐々木 洋	第80回日本臨床外科学会総会 2018/11/22-24 東京都
腸管壊死が疑われた門脈ガス血症を伴うイレウスの1例	小野充嗣、橋本安司、花岡 希、松島央和、木戸上真也、李谷友香子、岸本朋也、廣瀬 創、井出義人、遠藤俊治、田村茂行、佐々木 洋	第55回日本腹部救急医学会総会 2019/3/7-8 仙台市
幽門側胃切除後の既往がある食餌性イレウスの一例	花岡 希、松島央和、小野充嗣、八木悠理子、峯健太郎、福岡秀忠、馬場貴仁、遠藤俊治、田村茂行、福井弘幸	第55回日本腹部救急医学会総会 2019/3/7-8 仙台市
魚骨によるS状結腸穿孔をきたした1例	松島央和、馬場貴仁、花岡 希、小野充嗣、峯健太郎、今村宏樹、長岡達朗、廣瀬 創、遠藤俊治、田村茂行	第55回日本腹部救急医学会総会 2019/3/7-8 仙台市
臨床病気N2 III期非小細胞癌肺癌に対するupfront surgery ― 多施設共同後ろ向き研究―	馬庭知弘、新谷 康、岡見次郎、門田嘉久、竹内幸康、高見康二、横内秀起、黒川英司、神崎 隆、坂巻 靖、塩田裕之、岩崎輝夫、西岡清訓、兒玉 憲、奥村明之進	第35回日本呼吸器外科学会定期学術集会 2018/5/16-18 千葉市
手術により肺性肥大性骨関節症 (PHO) の著明な症状改善を認めたc-stage IIIB肺腺癌の一例	八木悠理子、木村幸男、桃實 徹、竹田雅司、馬庭知弘、兒玉 憲	第61回関西胸部外科学会学術集会 2018/6/21-22 名古屋市
高悪性後胎児型肺腺癌の一例	八木悠理子、桃實 徹、木村幸男、兒玉 憲、竹田雅司	第109回日本肺癌学会関西支部学術集会 2019/2/23 大阪市
乳癌nab-paclitaxel 使用症例における末梢神経障害の調査研究(最終報告)	森本 卓、吉留克英、下 登志朗、安野佳奈、綱島 亮、松並展輝、森島宏隆、小田直文、梁 壽男、塚本文音、西田幸弘、島田真由美、有働みどり、香川雅一	第26回日本乳癌学会 2018/5/16-18 京都市
Phase II trial of Eribulin/S-1 combination therapy for advanced/recurrent breast cancer	鶴谷純司、岩朝 勤、水野 豊、小島康幸、高島 勉、松並展輝、森本 卓、山村 順、大谷彰一郎、田辺裕子、渡邊論美、加藤了實、高野利美、菰池佳史、中川和彦	第26回日本乳癌学会 2018/5/16-18 京都市
転移・再発乳癌における抗HER2薬の治療効果における末梢血リンパ球数、好中球リンパ球比の意義の検討	今村美智子、文 亜也子、尾澤宏美、樋口智子、藤本由希枝、吉良亜矢子、西向有沙、宮川義仁、村瀬慶子、荒木和浩、森本 卓、高塚雄一、三好康雄	第26回日本乳癌学会 2018/5/16-18 京都市
HER2陰性進行・再発乳癌におけるエリ布林1st/2nd line第2相臨床研究。-QOL に対する影響	木村光誠、田中 覚、岩本充彦、山本大悟、吉留克英、小倉廣之、寺沢理沙、松並展輝、新田敏勝、森本 卓、藤岡大也、川口佳奈子、冨永 智、高島祐子、内山和久	第26回日本乳癌学会 2018/5/16-18 京都市
Pure-HER2乳癌に対する術前化学療法-De-escalatedtherapy に向けて	田中 覚、岩本充彦、松並展輝、野田 諭、小林稔弘、川口佳奈子、新田敏勝、佐藤七子、森本 卓、甬喜本憲弘	第26回日本乳癌学会 2018/5/16-18 京都市
FDG-PETにおけるSUVmax値の予後因子の意義は乳癌局所における免疫環境によって異なる	樋口智子、藤本由希枝、渡邊隆弘、飛田 陽、西向有沙、柳井亜矢子、宮川義仁、尾澤宏美、文 亜也子、村瀬慶子、今村美智子、荒木和浩、高塚雄一、北島一宏、三好康雄	第26回日本乳癌学会 2018/5/16-18 京都市
転移・再発乳癌の転移部位と原発巣におけるSUVmax値の検討	文 亜也子、樋口智子、藤本由希枝、西向有沙、吉良亜矢子、宮川義仁、村瀬慶子、今村美智子、荒木和浩、高塚雄一、北島一宏、三好康雄	第26回日本乳癌学会 2018/5/16-18 京都市
乳癌のサブタイプ別の好中球・リンパ球比の予後因子としての意義の検討	尾澤宏美、藤本由希枝、樋口智子、西向有沙、吉良亜矢子、宮川義仁、文 亜也子、村瀬慶子、今村美智子、荒木和浩、高塚雄一、三好康雄	第26回日本乳癌学会 2018/5/16-18 京都市
術前化学療法における腫瘍浸潤リンパ球とFDG-PET検査のSUVmax値に基づく病理学的完全奏効予測能の検討	井上奈都子、渡邊隆弘、飛田 陽、樋口智子、藤本由希枝、西向有沙、吉良亜矢子、宮川義仁、尾澤宏美、文 亜也子、村瀬慶子、今村美智子、荒木和浩、高塚雄一、北島一宏、三好康雄	第26回日本乳癌学会 2018/5/16-18 京都市
新規バイオマーカーの臨床応用、予後予測因子・治療効果予測因子 進行・再発乳癌におけるエリ布林の効果と好中球リンパ球比の検討	宮川義仁、荒木和浩、尾澤宏美、藤本由希枝、樋口智子、西向有沙、吉良亜矢子、文 亜也子、村瀬慶子、今村美智子、高塚雄一、三好康雄	第26回日本乳癌学会 2018/5/16-18 京都市
HER2陽性再発・転移乳癌の治療戦略 末梢血リンパ球数は抗HER2療法を行う際のHER2陽性進行乳癌の効果予測因子となりえるか	荒木和浩、伊藤良則、深田一平、小林 心、高橋俊二、大野真司、宮川義仁、今村美智子、村瀬慶子、吉良亜矢子、西向有沙、樋口智子、尾澤宏美、藤本由希枝、文 亜也子、高塚雄一、稲留 遼一、柄川千代美、諏訪裕文、三好康雄	第26回日本乳癌学会 2018/5/16-18 京都市
腫瘍免疫:基礎から臨床へ 乳癌における腫瘍浸潤リンパ球と好中球・リンパ球比の予後因子としての意義のサブタイプ別検討	藤本由希枝、渡邊隆弘、飛田 陽、樋口智子、西向有沙、吉良亜矢子、宮川義仁、尾澤宏美、文 亜也子、村瀬慶子、今村美智子、荒木和浩、高塚雄一、三好康雄	第26回日本乳癌学会 2018/5/16-18 京都市
Significance of baseline neutrophil-to-lymphocyte ratio for progression-free survival of patients with HER2-positive locally advanced and metastatic breast cancers treated with trastuzumab emtansin.	Michiko Imamura,Yasuo Miyoshi,Ayako Bun,Hiromi Ozawa, Tomoko Higuchi,Yukie Fujimoto,Ayako Kira, Arisa Nishimukai,Yoshimasa Miyagawa,Keiko Murase, Kazuhiro Araki,Takashi Morimoto,Chiyoimi Egawa, Yuichi Takatsuka.	ASCO 1-5 Jun 2018 Chicago USA
A phase II, multicenter, single-arm trial of eribulin as first or second line chemotherapy for HER2-negative advanced or metastatic breast cancer: Evaluation of efficacy, safety, and patient-reported outcomes.	Mitsuhiko Iwamoto, Kosei Kimura, Satoru Tanaka, Daigo Yamamoto, Katsuhide Yoshidome, Hiroyuki Ogura, Risa Terasawa, Nobuki Matsunami, Yuko Takahashi, Toshikatsu Nitta, Takashi Morimoto, Hiroya Fujioka, Kanako Kawaguchi, Kazuhisa Uchiyama.	ASCO 1-5 Jun 2018 Chicago USA
Re-administration of Docetaxel for relapse after Pertuzumab and Trastuzumab maintenance therapy	T Morimoto, K Takamoto, A Nishimukai.	ESSO 10-12 Oct. 2018 Budapest Hungary

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
Clinical efficacy of eribulin as first- or second-line treatment for patients with recurrent HER2-negative breast cancer: a phase II randomized study (JBCRG-19).	Ken-ichi Watanabe, Kenjiro Aogi, Masahiro Kitada, Takafumi Sangai, Shoichiro Ohtani, Tomoyuki Aruga, Hidetoshi Kawaguchi, Tomomi Fujisawa, Shigeto Maeda, Takashi Morimoto, Satoshi Morita, Norikazu Masuda, Masakazu Toi, Shinji Ohno .	ESMO 19-23 Oct 2018 Munich Germany
Evaluation of the safety of neoadjuvant endocrine therapy with exemestane followed by response-guided combination therapy with docetaxel and cyclophosphamide in postmenopausal patients with estrogen receptor-positive breast cancer (JBCRG-11TC)	Koji Kaneko, Nobuaki Sato, Hiroyuki Yasojima, Norikazu Masuda, Takashi Morimoto, Takayuki Ueno, Chizuko Kanbayashi, Shigehira Saji, Hironobu Sasano, Satoshi Morita, Shinji Ohno, Masakazu Toi.	日本癌治療学会 (56) 2018/10/18-20 横浜市
Neoadjuvant endocrine therapy with exemestane followed by response-guided combination therapy with docetaxel and cyclophosphamide in postmenopausal patients with estrogen receptor-positive breast cancer	Hiroyuki Yasojima, Nobuaki Sato, Norikazu Masuda, Takashi Morimoto, Takayuki Ueno, Chizuko Kanbayashi, Koji Kaneko, Shigehira Saji, Hironobu Sasano, Satoshi Morita, Shinji Ohno, Masakazu Toi.	SABCS 4-8 Dec 2018 San Antonio USA
Significance of baseline neutrophil-to-lymphocyte ratio for progression-free survival of patients with HER2-positive locally advanced and metastatic breast cancer treated with trastuzumab emtansine	Inamura M, Morimoto T, Egawa C, Miyagawa Y, Miyoshi Y.	SABCS 4-8 Dec 2018 San Antonio USA
頸部放射線治療治療後の頸動脈狭窄に対して血栓内膜剥離術を施行した2症例	都築 貴、有田都史香	STROKE2019 第48回日本脳卒中の外科学会学術集会 2019/3/23 横浜市
頸動脈内膜剥離術後再狭窄症例の組織検討	有田都史香、都築 貴	STROKE2019 第48回日本脳卒中の外科学会学術集会 2019/3/21 横浜市
頸部放射線治療治療後の頸動脈狭窄に対して血栓内膜剥離術を施行した2症例	都築 貴、有田都史香	日本脳神経外科学会第77回学術総会 2018/10/11 仙台市
Clinical outcomes after the medial open-wedge high tibial osteotomy in patients with severe cartilage damage in patellofemoral joint	Yamada Y, Mkitsuoka T, Nakamura N	Korea Japan Knee Osteotomy Symposium 2018/5 仁川
靱帯の走行に沿ってZip Tightを挿入し固定した遠位前脛腓間靱帯損傷の検討	岡本道雄	第44回日本骨折治療学会 2018/7/6-7 岡山市
反復性膝蓋骨脱臼膝における膝蓋骨トラッキングと凸状滑車の範囲との関連	山田裕三、三岡智規	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) 2018/6/14-16 福岡市
膝蓋大腿関節の重度軟骨損傷はmedial open wedge HTOの術後臨床成績に影響を与えるか？	山田裕三、三岡智規	第7回 日本 Knee Osteotomy フォーラム 2018/7/7-8 札幌市
頸椎前方固定術後に隣接椎間のヘルニアを繰り返した一例	立石耕介、山田修太郎	第53回日本脊髄障害医学会 2018/11/22-23 名古屋市
後頭骨-頸椎後方固定術後の嚥下障害により再固定術を要した1例	山田修太郎、立石耕介	第53回日本脊髄障害医学会 2018/11/22-23 名古屋市
歯突起後方偽腫瘍に対して手術加療を行った1例	小西克侑、山田修太郎、立石耕介、岡本道雄、山田裕三	第131回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 2018/10/5-6 倉敷市
手指4本のデグロビング損傷に対して再接着術を施行した1例	松岡祐貴、三宅ヨシカズ、仲野雅之、楠本健司	第10回日本創傷外科学会 2018/7/6 さいたま市
下肢手術周術期における下肢血流評価の重要性	三宅ヨシカズ、仲野雅之、松岡祐貴、楠本健司	第10回日本下肢救済・足病学会 2018/7/13 札幌市
葉状腫瘍に対する乳房インプラントを用いた再建	木原雅志、三宅ヨシカズ、仲野雅之、松岡祐貴、楠本健司	第24回日本形成外科手術手技学会 2019/2/23 横浜市
当科での婦人10:14科手術症例に対する術前経口補水療法の検討	山田弘次、松浦美幸、重光愛子、佐々木高綱、吉澤順子、水田裕久、山田嘉彦	第70回日本産科婦人科学会学術講演会 2018/5/13 仙台市
腹腔鏡下に加療した嚢胞性腺筋症の2症例	松浦美幸、佐々木高綱、山田弘次、重光愛子、吉澤順子、水田裕久、山田嘉彦	第70回日本産科婦人科学会学術講演会 2018/5/13 仙台市
当院における高年妊娠の周産期予後に関する検討	重光愛子、山田弘次、松浦美幸、佐々木高綱、吉澤順子、水田裕久、山田嘉彦	第70回日本産科婦人科学会学術講演会 2018/5/13 仙台市
右付属器膿瘍と判別困難であった稀少部位子宮内膜症による虫垂穿孔の1例	吉澤順子、山田弘次、松浦美幸、重光愛子、佐々木高綱、水田裕久、山田嘉彦	第138回近畿産科婦人科学会総会 2018/6/10 大阪市
当院における予定帝王切開術に対する術前経口補水療法の検討	重光愛子、水田裕久、山田嘉彦	第54回日本周産期・新生児医学会学術集会 2018/7/9 東京都
粘膜下筋腫に対するLMにおける縫合法の工夫	森岡佐知子、佐々木高綱	第31回日本内視鏡外科学会総会 2018/12/7 福岡市
TLHの導入。単一術者が施行した144例についての検討から。	佐々木高綱、森岡佐知子	第31回日本内視鏡外科学会総会 2018/12/7 福岡市
技術認定医取得後の現状とこれから	森岡佐知子	第58回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2018/8/3 松江市
標準化ダニアレゲンエキスを急速皮下免疫療法における閾値検査の意義、増量法、疼痛緩和の検討	濱田匡章、田中一郎	第67回日本アレルギー学会 2018/6/22-24 千葉市
当院における常位胎盤早期剥離の後方視的検討	近藤由佳、道之前八重、中野智巳、井崎和史、藪本 仁美、桐村章大、山田嘉彦、水田裕久、重光愛子、能村賀子、塚元 麻、長谷川真理、西川宏樹	第54回日本周産期・新生児医学会学術集会 2018/7/8-10 東京都
ダニアレゲン免疫療法の導入・増量期、維持期における季節的影響の検討	濱田匡章、田中一郎	第55回日本小児アレルギー学会 2018/10/20-21 岡山市
妊娠初期の母体梅毒血清反応が陰性であった先天梅毒の1例	桐村章大、道之前八重、角谷哲基、山口侑加、吉川侑子、芳田龍太、近藤由佳、白 潤夏、能村賀子、濱田匡章、井崎和史、上田 卓、中野智巳、田中一郎	第127回日本小児科学会奈良地方会 2018/10/27 奈良市

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
ふりかけに含まれる「こしあん」でアレルギー症状を呈した花豆アレルギーの1例	濱田匡章、佐藤奈由、中村政志、下條尚志、小島 淳、青木祐治、矢上晶子、近藤康人、松永佳世子、田中一郎	第32回近畿小児科学会 2019/3/17 京都市
対側の三叉神経領域に帯状疱疹を併発したハント症候群の1例	川島貴之	第80回耳鼻咽喉科臨床学会 2018/6/29 横浜市
弛緩部型真珠腫の聴力に関する検討	川島貴之	第28回日本耳科学会総会 2018/10/4 大阪市
外耳道腫瘍として発見された顎関節 ガングリオン症例	日尾祥子	第28回日本耳科学会総会 2018/10/4 大阪市
方向交代性上行性眼振を示す患者の中核性病変を眼振の観察のみで正確に診断する方法	真貝佳代子	第77回日本めまい平衡医学会総会 2018/11/29 山口市
小児の蝶形骨洞原発乳頭腫症例	野之口由華	日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会 2109/3/1 大阪市
八尾市立病院泌尿器科における13年間の手術統計	上水流雅人、山本匠真、村尾昌輝、町田裕一、池本慎一	第106回日本泌尿器科学会総会 2018/4/19 京都市
急激な転帰をたどった前立腺肉腫の一例	町田裕一、山本匠真、村尾昌輝、上水流雅人、池本慎一、内田潤次、仲谷達也	第106回日本泌尿器科学会総会 2018/4/21 京都市
精巣原発悪性リンパ腫の一例	山本匠真、村尾昌輝、町田裕一、上水流雅人、池本慎一	第238回日本泌尿器科学会関西地方会 2018/5/11 大阪市
当院における精巣原発悪性リンパ腫症例の検討	山本匠真、村尾昌輝、町田裕一、上水流雅人、池本慎一、内田潤次、仲谷達也	第68回日本泌尿器科学会中部総会 2018/10/6 名古屋
腎静脈腫瘍塞栓を伴う腎癌におけるハンドアシスト併用腹腔鏡下腎摘除術の有用性	町田裕一、山本匠真、村尾昌輝、上水流雅人、池本慎一	第33回日本泌尿器科内視鏡学会総会 2018/11/28 仙台市
前立腺癌、膀胱癌、多発性骨髄腫の3重複癌の1例	山本匠真、村尾昌輝、町田裕一、上水流雅人、池本慎一	第240回日本泌尿器科学会関西地方会 2019/2/16 奈良市
SPECT/CT定量解析ソフトを用いた定量値の濃度直線性及び撮像距離による変化の検討	隅田 茂、岩崎 浩	第34回日本診療放射線技師学術大会 2018/9/22 下関市
放射線技師が行う肝臓解析の技術や方法	柏木謙吾、佐々木 洋、橋本安司	第13回肝臓治療シミュレーション(ナビゲーション)研究会 2018/9/29 東京都
Urethrogram combined CT-MRI image fusion to determine apex in IMRT for localized prostatic cancer	西山謹司	ESTRO 37, April 20-24, 2018, Barcelona, Spain
難治性大量胸水で入院し、剖検にて多発性骨髄腫の胸膜および全身浸潤と判明した一例	明里知美、西岡陽介、中井千晶、吉田康之	第107回日本病理学会総会 2018/6/22 札幌市
若年男性に発生したCutaneous ciliated cystの一例	中井千晶、明里知美、西岡陽介、吉田康之	第107回日本病理学会総会 2018/6/22 札幌市
術中細胞診と組織診で組織型判断が異なった肺癌症例	福田文美、政岡佳久、三瀬浩二、宮崎一人、楠部真也、明里知美、竹田雅司	第57回日本臨床細胞学会秋期大会 2018/11/17 横浜市
胸腔洗浄液細胞診陽性となった小型肺癌症例	宮崎一人、政岡佳久、福田文美、三瀬浩二、楠部真也、木村幸男、兒玉 憲、竹田雅司	第57回日本臨床細胞学会秋期大会 2018/11/17 横浜市
魚骨によるS状結腸穿孔をきたした1例	松島央和	第55回日本腹部救急医学会総会 2019/3/7 仙台市
当院における糖尿病腎症透析予防指導管理の有用性についての検討	上田高志	第61回日本糖尿病学会年次学術集会 2018/5/26 東京
妊娠糖尿病患者における母児合併症の予測因子の検討	久保典代	第61回日本糖尿病学会年次学術集会 2018/5/26 東京
整形外科術前症例における深部静脈血栓症例の特徴	細井亮二	第58回日臨技近畿支部医学検査学会 2018/12/1-2 奈良市
集中治療室における注射薬配合変化表の更新	小川充恵、植田真理、岩崎綾子、村上裕美、藤島陽子、長谷圭悟、近藤純代、山崎 肇	医療薬学フォーラム2018 第26回クリニカルファーマシーシンポジウム 2018/6/23-24 東京都
EHR及びFAXによる服薬情報提供書の運用における比較検討	小川充恵、植田真理、井上麻衣、山崎 肇、小枝伸行	第28回日本医療薬学会年会 2018/11/23-25 神戸市
八尾市における保険薬局と基幹病院の病薬連携	池松千佳、小川充恵、小枝伸行、大里恭章、篠原裕子、豊口雅子、中野道雄	第51回日本薬剤師会学術大会 2018/9/23-24 金沢市
「地域チーム医療を担う薬剤師の養成プログラム」薬薬学連携地域医療実務実習(八尾モデル)ーエビベン教室への薬実習生の参画ー	竹村美穂、篠原裕子、奥村隆司、中野道雄、小川充恵、小枝伸行、山崎 肇、大里恭章、小竹 武、村岡未彩、西野隆雄、平田收正	第28回日本医療薬学会年会 2018/11/23-25 神戸市
「八尾市立病院におけるTQM(Total Quality Management)活動の評価と今後の課題」	長谷圭悟	第20回日本医療マネジメント学会学術総会 2018/6/9 札幌市
「男性患者中心のアピアランスケア講座 ～男性薬剤師からの視点～」	佐藤浩二	第56回日本癌治療学会学術集会 2018/10/18-20 横浜市
「八尾市立病院における「医療の改善活動」の変革について」	長谷圭悟	第57回全国自治体病院学会 2018/10/19 郡山市
「スタッフの防災意識変化の調査ー手術室独自の震災マニュアルの作成を試みてー」	山本佳世	日本手術看護学会第5回近畿地区大会 2018/7/14 大津市
「NICU震災時における意識向上への取り組み」	木村直美	第49回日本看護学会急性期看護学術集会 2018/9/7～8 別府市
「患者・家族の希望に沿った退院支援への取り組みー退院支援シートの見直しを検討してー」	峠 真里奈	第57回全国自治体病院学会 2018/10/18～19 郡山市
「せん妄ケアに対する看護師の意識改革ーアセスメントスケールを活用してー」	野見達哉	大阪府看護学会 2018/10/18～19 大阪市
小児喘息発作時の統一した評価を行うための取り組みーMPIスコアを用いてー	川崎実幸	大阪府看護学会 2018/10/18～19 大阪市

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
食道がん術後における腸瘻を用いた在宅栄養管理への取り組み	中谷摩利子	第34回日本静脈経腸栄養学会 2018/12/8 東京都
当院における早産児の胃食道逆流に対する増粘ミルクの効果	木村直美	第34回日本静脈経腸栄養学会 2018/12/8 東京都
がん看護実践能力の向上を目指した緩和ケア研修に対する所属長の評価	吉野知子	第33回日本がん看護学会学術集会 2018/2/14～15 福岡市
術後せん妄時の看護師のせん妄ケアに対する実態調査-せん妄アセスメントツールを導入して-	糸川まや	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会 2018/3/2大阪市
ICTチームでの環境ラウンドの取り組み	甲斐幸代	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会 2018/3/2大阪市
当院における地域医療連携システムの運用事例に関する報告	小枝伸行、田中一郎、星田四朗、佐々木 洋	第 12 回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会 2019/03/01 大阪市
地域医療連携におけるICT活用の意義と展望～高齢者薬物療法の個別最適化を目指して～ 八尾市における ICT を利用した地域医療連携	小枝伸行(シンポジスト)	第2回日本老年薬学会学術大会 2018/5/12 東京都
八尾市立病院におけるがん教育への取り組み	小枝伸行、高草恒平、朴井 晃、植野茂明、佐々木 洋	第 23 回関西がんチーム医療研究会 2018/9/21 大阪市
がん診療連携拠点病院におけるがん教育への取り組み	高草恒平、朴井晃、小枝伸行、宮田克爾、中田亮太、山本佳司、植野茂明	第57回全国自治体病院学会 2018/10/16 郡山市
八尾市立病院における第1期PFIの総括について～VFMの視点から～	朴井晃、川中紀子、高草恒平、中田亮太、宮田克爾、小枝伸行、菱井義則	第57回全国自治体病院学会 2018/10/17 郡山市
個人情報保護法の改正に伴う薬剤師の医療情報の取り扱いに関する調査・研究	池田和之、青柳吉博、岡橋孝侍、黒田知宏、小枝伸行、関谷泰明、高田敦史	平成30年度日本病院薬剤師会病院薬局協議会学術フォーラム 2018/11/20 神戸市
「地域チーム医療を担う薬剤師の養成プログラム」薬学連携地域医療実務実習(八尾モデル)ーエビベン教室への薬実習生の参画ー	竹村美穂、篠原裕子、奥村隆司、中野道雄、小川充恵、小枝伸行、山崎 肇、大里恭章、小竹 武、村岡未彩、西野隆雄、平回収正	第28回日本医療薬学会年会 2018/11/24 神戸市
がん患者における高齢者機能評価と生命予後ーDPCデータと大阪府がん登録データをリンケージした多施設研究ー	森島敏隆、佐藤 亮、中田佳世、松本吉史、小枝伸行、島田裕子、丸濱 勉、松木大作、宮代 勲	第22回日本医療情報学会春季学術大会 2018/6/20 新潟市
がん診断後の就労状況を医療保険で観察 大阪府がん登録と多施設DPCデータからの知見	森島敏隆、佐藤 亮、中田佳世、松本吉史、小枝伸行、島田裕子、丸濱 勉、松木大作、宮代 勲	第56回日本癌治療学会学術集会 2018/10/18-20 横浜市

(3)研究会発表

演題名	発表者	研究会名、日時、会場(都市)
猫の手	福盛達也	TENoG 2018/8/5 大阪市
内科的肝癌治療のリノベーション	榊原 充	八尾地域医療合同研究会 2018/4/21 大阪市
肝細胞癌ラジオ波治療の工夫と進歩	榊原 充	ORF 2018/5/26 大阪市
マルチボーラRFAの適応病変:原理から想定し、結果から考える	榊原 充	第6回バイボーラRFA研究会 2018/6/15 大阪市
HCV消滅前夜の肝癌治療	榊原 充	第3回中河内肝炎病診連携講演会 2018/9/13 大阪市
当院における肝膿瘍:治癒までの期間に関連する因子の検討	岡本正幸	平成30年度大阪大学消化器内科レジデント成果発表会 2018/10/6 大阪大学
当院での超音波的脂肪肝の現状	李恵利佳	平成30年度大阪大学消化器内科レジデント成果発表会 2018/10/6 大阪大学
腹腔鏡下胆嚢摘出術後のクリップ迷入による総胆管結石の一例	李恵利佳	第32回中河内消化器病研究会 2019/2/23 八尾市立病院
下肢だけではなく深部静脈血栓症	植野啓介	第8回中河内・平野循環器病診連携の会 2018/7/7 大阪市
少し変わったDVT 3例	福岡秀忠	VTE治療を考える会 2018/12/20 大阪市
カンボジアでの医療ボランティア参加経験	遠藤俊治	第37回びわ湖国際医療フォーラム 2018/7/28 大津市
噴門胃切除術における自動吻合器を用いた観音開き法による食道残胃吻合の経験	松山 仁、田村茂行、永井健一、今村宏輝、八木悠理子、橋本安司、空谷友香子、廣瀬 創、井出義人、久保田 勝、福島幸男、兒玉 憲、佐々木 洋	第40回日本癌局所療法研究会 2018/6/15 東京都
22年前の直腸DST吻合部に発生した直腸癌の1例	井出義人、廣瀬 創、空谷友香子、今村宏輝、橋本安司、永井健一、松山 仁、久保田 勝、田村茂行、佐々木 洋	第40回日本癌局所療法研究会 2018/6/15 東京都
下部直腸SM癌(pT1a)局所切除4年後に側方リンパ節再発をきたした1例	井出義人、空谷友香子、廣瀬 創、今村宏輝、八木悠理子、橋本安司、永井健一、松山 仁、久保田 勝、福島幸男、田村茂行、竹田雅司、佐々木 洋	第40回日本癌局所療法研究会 2018/6/15 東京都
当院における下部直腸(Rb)SM癌のリンパ節転移と再発形式	井出義人、空谷友香子、廣瀬 創、今村宏輝、指月海地、米田直樹、木戸上真也、岸本朋也、橋本安司、松山 仁、田村茂行、竹田雅司、佐々木 洋	第89回大腸癌研究会 2018/7/6 新潟市
病態に応じた最適治療の選択により長期生存が得られた切除不能肝細胞癌の一例	橋本安司、佐々木 洋、岸本朋也	第53回近畿肝癌談話会 2018/8/18 大阪市
食道神経内分泌癌と扁平上皮癌の混在した腫瘍に対する治療経験	今村宏輝、遠藤俊治、木戸上真也、田村茂行	第32回中河内消化器病研究会 2019/2/23 八尾市

演題名	発表者	研究会名、日時、会場(都市)
神経線維腫症1型にGISTを合併した2例	指月海地、廣瀬 創、井出義人、今村宏輝、米田直樹、木戸上真也、空谷友香子、岸本朋也、橋本安司、遠藤俊治、田村茂行、佐々木 洋	第625回大阪外科集談会 2018/9/15 大阪市
腸管壊死が疑われた門脈ガス血症を伴うイレウスの1例	小野充嗣、橋本安司、木戸上真也、空谷友香子、岸本朋也、馬場貴仁、廣瀬 創、井出義人、遠藤俊治、田村茂行、佐々木 洋	第32回中河内消化器病研究会 2019/2/23 八尾市
複合的な要因による眼周囲症状に対して複数回の眼瞼周囲手術をしたが、いまだ患者の要望に応えられていない症例	三宅ヨシカズ	第59回KC会 2018/6/16 大阪市
八尾市立病院 形成外科 開設10周年	三宅ヨシカズ	第14回関西医科大学形成外科学講座集談会 2018/6/2 大阪市
低年齢化と多彩な症状を呈する花粉食物アレルギー症候群 ～Birch Mix皮下免疫療法の治療経験～	濱田匡章	第36回大阪食物アレルギー懇話会 2018/5/12 大阪市
5歳未満を対象とした標準化ダニ皮下免疫療法の治療経過の検討	濱田匡章	第81回臨床アレルギー研究会(関西) 2018/7/14 大阪市
アレルギー免疫療法(舌下・皮下)を導入、継続する上で大切なこと ～実臨床の経験を踏まえた症例提示～	濱田匡章	第19回京阪神小児・成人アレルギーフォーラム 2018/7/21 大阪市
標準化ダニアレルギーエキスを皮下免疫療法における増量法、気象変動の検討	濱田匡章、田中一郎	第82回臨床アレルギー研究会(関西) 2018/11/24 大阪市
妊娠初期の母体梅毒血清反応が陰性であった先天梅毒の1例	桐村章大	第60回中河内小児科談話会 2018/12/8 大阪市
難治性・反復性喘鳴を繰り返す3歳男児の診断・治療について	白 潤夏、濱田匡章、田中一郎	第56回大阪小児呼吸器談話会 2019/3/23 大阪市
S状結腸癌術後フォロー中に急速増大した膀胱肉腫の一例	山本匠真、村尾昌輝、町田裕一、上水流雅人、池本慎一	第48回大阪泌尿器画像診断研究会 2018/7/7 大阪市
当院における腹腔鏡下腎部分切除術 合併症について	町田裕一、山本匠真、村尾昌輝、上水流雅人、池本慎一	第44回大阪泌尿器手術手技研究会 2018/10/27 大阪市
当院の前立腺癌治療	山本匠真、村尾昌輝、町田裕一、上水流雅人、池本慎一	第44回大阪泌尿器手術手技研究会 2018/10/27 大阪市
Hilar tumorにおける腹腔鏡下腎部分切除術	町田裕一、山本匠真、村尾昌輝、上水流雅人、池本慎一	RCCセミナー 2019/2/22 大阪市
子宮体癌術後に発症した尿管腔膿に対し、腹腔鏡下膀胱尿管新吻合術を施行した2例	町田裕一、山本匠真、村尾昌輝、上水流雅人、池本慎一	第45回大阪泌尿器手術手技研究会 2019/3/9 大阪市
発表症例病理解説	竹田雅司	乳癌 Triple Assessment 研究会 2018/10/27 守口市
当院における糖尿病腎症透析予防指導管理の有用性についての検討	上田高志	第12回大阪糖尿病臨床カンファレンス 2018/5/12 大阪市
川崎病を超音波で診る	浅岡伸光	第200回OSAKA心エコー研究会講演会 2018/6/28 大阪市
周術期静脈血栓症予防に対する 八尾市立病院の取り組み	寺西ふみ子	京都循環器検査研究会 2018/12/21 京都市
当院における周術期血栓対策の現状と課題	寺西ふみ子	大阪血管エコー研究会 2019/2/22 大阪市
大腸癌患者におけるメンタルサポートの実際	陶山由季子	中河内大腸癌研究会 2018/6/1 大阪市
「男性患者中心のアピアランスケア講座 -男性独自の心理も踏まえた対応を考える-」	島田敏江	第23回関西がんチーム医療研究会 2018/9/22 大阪市
食道がん術後の腸瘻栄養管理継続に向けた患者指導への取り組み	中谷摩利子	第23回関西がんチーム医療研究会 2018/9/22 大阪市
急性心筋梗塞の再発予防への取り組み -退院指導を実施して-	安川里美	平成30年度大阪府看護協会府東支部研究発表会 2019/2/22 東大阪市
当院での放射線治療専従看護師による患者支援への取り組み	勝野真由美	第24回関西がんチーム医療研究会 2019/3/16 大阪市
子育て世代の産婦人科がん患者とその家族への支援	柴村綾香	第24回関西がんチーム医療研究会 2019/3/16 大阪市

(4)講演

演題名	発表者	講演会名、日時、会場(都市)
ニボルマブにより約10か月再寛解維持が可能であった再発難治性ホジキンリンパ腫	服部英喜	Hodgkin's lymphoma Immuno-Oncology Seminar 2019/01/17大阪市
ピロリ菌と胃癌	小倉智志	八尾市立病院公開講座 2018/12/15 八尾市文化会館ブリズムホール
早期胃癌に対するESD	瀬川朋未	八尾市立病院公開講座 2018/12/15 八尾市文化会館ブリズムホール
高齢者における血圧管理と抗凝固療法について	渡部徹也	第8回中河内・平野循環器病診療連携の会 2018/7/7 大阪市
当院における抗凝固療法の実態	渡部徹也	第8回中河内・平野循環器病診療連携の会 2018/7/7 大阪市
胃がんの化学療法	田村茂行	第57回八尾市立病院公開講座 2018/12/15 八尾市立病院

演題名	発表者	講演会名、日時、会場(都市)
アジアの外科事情	遠藤俊治	第18回八尾地域医療合同研究会 2018/10/27 大阪市
胃がんの手術	遠藤俊治	第57回八尾市立病院公開講座 2018/12/15 八尾市立病院
サブタイプ別の乳がん治療	森本 卓	八尾薬剤師会講演会 2018/5/27 八尾市生涯学習センター
再発乳がんにおいて肝転移がCRになった症例に関して	森本 卓	第7回EKB研究会 2018/6/14 梅田スカイビル
膝周囲骨切り術(around the knee osteotomy)私のこだわり	山田裕三	第6回関西Knee Osteotomy研究会 2018/10/28 大阪市
変形性膝関節症の手術のタイミングー関節温存治療を考えるー	山田雄三	八尾整形外科懇話会 2018/4/23 大阪市
特発性脊髄硬膜外血腫 ～病態と臨床経過～	立石耕介	八尾整形外科懇話会 2018/4/23 大阪市
母指CM関節症	岡本道雄	八尾整形外科懇話会 2018/4/23 大阪市
PAT(perifascial areolar tissue)移植の生着率を上げるには？いろいろな再建手術における水平方向の血管網を持った組織の応用方法	三宅ヨシカズ	第61回日本形成外科学会総会シンポジウム 2018/4/13 福岡市
四肢リンパ浮腫に対する外科的治療	三宅ヨシカズ	第17回八尾地域医療合同研究会 2018/4/21 大阪市
手足のむくみ ～四肢リンパ浮腫の外科的治療～	三宅ヨシカズ	公開講座 2018/6/23 八尾市立病院
糖尿病足病変の治療について	仲野雅之	第2回八尾 足を学ぶ会 2018/12/1 八尾市
外耳道腫瘍として発見された顎関節ガングリオン症例	野之口由華	八尾耳鼻咽喉科医会研修会 2019/2/9 八尾市
小児の蝶形骨洞原発乳頭腫症例	野之口由華	八尾耳鼻咽喉科医会研修会 2019/2/9 八尾市
当科における最近の診療の進歩	川島貴之	八尾耳鼻咽喉科医会研修会 2019/2/9 八尾市
当院における救急医療体制の現状とこれからの展望	馬場貴仁	八尾市医師会学術講演会 2018/12/1 八尾市文化会館プリズムホール
当院糖尿病センターにおける透析予防指導の取り組み	木戸里佳	第18回八尾地域医療合同研究会 2018/10/27 大阪市
糖尿病のチーム医療	木戸里佳	大阪東成区薬剤師会研修会 2019/3/9 大阪市
血管エコーハンズオン講師	寺西ふみ子	The Echo Live2018 2018/5/26-27 大阪市
腎動脈エコー講義・実技講師	寺西ふみ子	第18回神戸血管エコーセミナー 2018/7/14 神戸市
下肢静脈実技講師	細井亮二	第18回神戸血管エコーセミナー 2018/7/14 神戸市
これだけは押さえておきたい 膝腫瘍の鑑別所見	寺西ふみ子	大臨技第8回腹部エコー実技研修会 2018/7/15 大阪市
心エコー血管エコー実技講師	寺西ふみ子	CVIT2018 2018/8/4 神戸市
血管エコー講演・実技講師	寺西ふみ子	大臨技第9回血管エコー実技研修会 2018/8/5 大阪市
血管エコー講演・実技講師	細井亮二	大臨技第9回血管エコー実技研修会 2018/8/5 大阪市
腹部エコーステップ2 胆嚢・脾臓編	寺西ふみ子	大臨技実践腹部エコー 2018/8/10 大阪市
腹部エコーステップ3 消化管・急性腹症編	寺西ふみ子	大臨技実践腹部エコー 2018/8/24 大阪市
心エコー実技講師	寺西ふみ子	瀬戸内エコーセミナー 018/9/1-2 神戸市
心エコー講演・実技講師	寺西ふみ子	大臨技第15回心エコー実技研修会 2018/10/7-8 大阪市
心エコー講演・実技講師	細井亮二	大臨技第15回心エコー実技研修会 2018/10/7-8 大阪市
ケースアーカイブ 大動脈疾患、ハンズオン実技講師	寺西ふみ子	エコー淡路2018 2018/11/17-18 淡路市
グレーゾーンに迫る！血管エコー症例カンファレンス & エコー要点ライブ	寺西ふみ子	第11回心血管エコーライブハンズオンセッション2019 2019/3/3 大阪市
下肢動脈エコー実技講師	細井亮二	第11回心血管エコーライブハンズオンセッション 2019 2019/3/3 大阪市
腹部エコー実技講師	寺西ふみ子	阪神肝胆膵エコーハンズオンセミナー 2019/3/23 西宮市
がん治療中のイライラ対処法～アンガーマネジメントを学びましょう～	五島 大	第31回がん相談支援センター ミニ勉強会 2018/9/12 八尾市立病院
がん治療中のストレスの和らげ方について	新田遼平	第33回がん相談支援センター ミニ勉強会 2019/3/14 八尾市立病院

演題名	発表者	講演会名、日時、会場(都市)
動脈硬化予防のための食事	黒田昇平	公開講座 Take ABI 2018 in 八尾 2018/10/21 八尾市立病院
食事バランスと減塩の工夫	黒田昇平	八尾市食生活改善推進員養成講座 2019/3/1 八尾市保健センター
病院薬剤部におけるトレーニングレポートの活用	小川充恵	第9回 八尾薬業連携協議会研修会 2018/7/21 ホテルモントレ グラスミア大阪
八尾市立病院における実務実習の実際 ～八尾地域での連携実習～	小川充恵	平成30年度 第1回チーム医療推進研修会 (大阪府病院薬剤師会) 2018/7/24 あべのメディックス
病薬連携による高齢者薬物療法の実践	小川充恵	高齢者薬物療法を考える会 for Pharmacist (第一三共) 2018/10/27 ホテルモントレ グラスミア大阪
八尾市立病院におけるDI業務を中心とした病薬連携 の取り組み	小川充恵	第38回HPC研究会 (田辺三菱) 2018/10/27 広島市
八尾市立病院におけるジェネリック医薬品の使用状況	小川充恵	八尾市民公開講座(八尾市保健所と共催) 2019/3/9 北館5階大会議室
「より良い経口抗がん剤治療」	佐藤浩二	八尾地域 病院・薬局連携フォーラム 2018/12/1 スイスホテル南海大阪
『八尾市立病院の現状と現在の取り組みについて』	山崎 肇	【第8回】大阪府下市立病院薬剤部長会 2018/12/7 マイドーム大阪
年会長特別企画2「病院薬剤師から薬局薬剤師に繋 げる退院時共同服薬指導の取り組み ～緩和ケアに おける効果的な引継ぎの実践と今後の展望～」	長谷圭悟 (シンボジスト)	第12回日本緩和医療学会年會 2018/5/26 東京都
「クリニカルパス内の後発薬品への切り替えについて」	佐藤浩二	第2回八尾市立病院パス大会 2019/3/12 北館5階大会議室
血糖値から患者さんを知ろう！	平山美紀	第4回糖尿病看護研究会 2018/8/25大阪市
地域、在宅での感染対策 ～今の季節をどう乗り切りますか～	甲斐幸代	居宅サービス訪問看護グループ研修会 2018/12/22八尾市
在宅ケアを見据えた装具選択	横山敬子	ダンサックシンブルケアセミナー2019in東大 阪 2019/2/9東大阪市
被災地への職員派遣等における看護管理者の役割 ～西日本豪雨災害への看護職の派遣から～	千種保子	日本看護協会神戸研修センター研修 2018/2/13神戸市
八尾市における病院を中心とした連携の取り組み	小枝伸行	なのみの会400回記念講演会 2019/02/10 八尾市
八尾市における病診薬連携	小枝伸行	ひたちなか・糖尿病薬業連携勉強会 2018/11/9 茨木市
医療変革期に求められる病院薬剤部門のあり方～激 動の時代を乗り切る薬剤師を目指して～	小枝伸行	ファイザー病院薬剤師サミット 2018 2018/10/20 東京都
八尾市における医療情報連携の取り組み～がん・緩 和医療・糖尿病を中心に～	小枝伸行	平成30年度第4回泉大津支部研修会 2018/8/24 大阪市
薬剤師がかかわる医療情報とは	小枝伸行	大阪府薬剤師会「未来を担う薬剤師フォー ラム 2018」 2018/5/18 大阪市

(5)院内研修会

セッション名	司会・座長	研修会名、日時、会場(都市)
頭痛・意識障害	大江洋介	H30年研修医講座 2018/10/18 1階103会議室
結核について	福盛達也、服部英樹	院内感染対策講演会 2019/3/7 北館5階会議室
消化管緊急内視鏡	瀬川朋未	研修医勉強会 2018/9/20 1階103会議室
看護部:フィジカルアセスメント消化器	榊原 充	看護師勉強会 2019/2/26 1階101会議室
上部消化管	瀬川朋未	8階東病棟看護師レクチャー
下部消化管	小倉智志	8階東病棟看護師レクチャー
肝胆膵	木津 崇	8階東病棟看護師レクチャー
第95回院内CPC	司 会 副院長 福井 弘幸 症例提示 循環器内科 峯 健太郎 病理解説 病理診断科 竹田 雅司	2018/5/2 101会議室
第96回院内CPC	司 会 副院長 福井 弘幸 症例提示 消化器内科 長岡 達朗 病理解説 病理診断科 明里 知美 竹田 雅司	2018/6/6 101会議室
第97回院内CPC	司 会 副院長 福井 弘幸 症例提示 循環器内科 南坂 朋子 病理解説 病理診断科 明里 知美 竹田 雅司	2018/7/4 101会議室

セッション名	司会・座長	研修会名、日時、会場(都市)
第98回院内CPC	司 会 副院長 福井 弘幸 症例提示 循環器内科 植野 啓介 病理解説 病理診断科 明里 知美 竹田 雅司	2018/9/5 101会議室
第99回院内CPC	司 会 副院長 福井 弘幸 症例提示 循環器内科 峯 健太郎 病理解説 病理診断科 明里 知美 竹田 雅司	2018/10/3 101会議室
第100回院内CPC	司 会 副院長 福井 弘幸 症例提示 救急診療科 山浦 大輝 病理解説 病理診断科 青原 大介 明里 知美 竹田 雅司	2018/12/5 101会議室
第101回院内CPC	司 会 副院長 福井 弘幸 症例提示 救急診療科 矢野 恵理奈 病理解説 病理診断科 馬場 貴仁 中島 安紗海 明里 知美 竹田 雅司	2019/2/6 101会議室
第102回院内CPC	司 会 副院長 福井 弘幸 症例提示 救急診療科 川端 将生 病理解説 病理診断科 馬場 貴仁 浅井 裕志 明里 知美 竹田 雅司	2019/3/6 101会議室
救急診療の心得	馬場貴仁	臨床研修医レクチャー 2018/5/17 1階103会議室
救急診療の心得(看護師向け)	馬場貴仁	看護師勉強会 2018/6/28 1階103会議室
カーボカウント	金丸洋蔵	院内勉強会(5階東病棟) 2018/11/22 5階東病棟
「褥瘡・下肢血流障害とエコー」 ～検査の必要性和検査結果の見方、臨床の役立て方 を学ぶ～	浅岡伸光	褥瘡セミナー 2018/7/18 1階101会議室
院内研修 心臓超音波検査の基礎とハンズオン	浅岡伸光	臨床研修医超音波研修 2018/4/14 超音波検査室
院内研修 心臓超音波検査の基礎とハンズオン	寺西ふみ子	臨床研修医超音波研修 2018/4/14 超音波検査室
院内研修 心臓超音波検査の基礎とハンズオン	細井亮二	臨床研修医超音波研修 2018/4/14 超音波検査室
院内研修 腹部超音波検査の基礎とハンズオン	寺西ふみ子	臨床研修医超音波研修 2018/4/17 超音波検査室
院内研修 腹部超音波検査の基礎とハンズオン	細井亮二	臨床研修医超音波研修 2018/4/17 超音波検査室
院内研修 腹部超音波検査の基礎とハンズオン	駒 美佳子	臨床研修医超音波研修 2018/4/17 超音波検査室

(6)学会等司会・座長

セッション名	司会・座長	学会名等、日時、会場(都市)
感染症1	福盛達也	日本内科学会 第221回近畿地方会 2018/9/22 大阪市
中河内動脈硬化研究会 総合司会	星田四朗	中河内動脈硬化研究会 2018/10/20 八尾市
抗凝固	渡部徹也	第83回日本循環器病学会学術集会 2019/3/31 横浜市
学部学生・メディカルスタッフ・ 初期研修医セッション7:肝臓	佐々木 洋	第73回日本消化器外科学会総会 2018/7/11-13 鹿児島市
総合特別企画04 医療安全Up-to-Date	佐々木 洋	第80回日本臨床外科学会総会 2018/11/22-24 東京都
食道胃接合部癌1	田村茂行	第72回日本食道学会学術集会 2018/6/28-29 宇都宮市
合併症2	田村茂行	第91回日本胃癌学会総会 2019/2/27-3/1 沼津市
一般示説 胃:良性2	遠藤俊治	第80回日本臨床外科学会総会 2018/11/22-24 東京都
合成抗がん物質 Synthetic anticancer compounds	岸本朋也	第77回日本癌学会学術総会 2018/9/27-29 大阪市
バイオ医薬品の製造技術について	森本 卓	Breast Cancer Forum 2018/5/30 ホテルグランヴィア大阪
若年者乳癌	森本 卓	第140回阪神乳腺疾患談話会 2018/9/7 ホテルグランヴィア大阪
HER2陽性乳癌の治療戦略	森本 卓	Breast Cancer Forum 2018/12/20 帝国ホテル
褥瘡の処置	三宅ヨシカズ	第11回大阪在宅褥瘡セミナー 2019/1/20 八尾市立病院
大阪産婦人科医会 平成30年度第1回研修会	山田嘉彦	大阪産婦人科医会 2018/9/8 大阪市

セッション名	司会・座長	学会名等、日時、会場(都市)
一般演題	中野智巳	第60回中河内小児科談話会 2018/12/8 大阪市
特別講演「小児のアトピー性皮膚炎と食物アレルギー」	濱田匡章	第60回中河内小児科談話会 2018/12/8 大阪市
一般演題	道之前八重	第21回奈良新生児研究会 2019/2/14 奈良市
一般演題	桐村章大	第128回日本小児科学会奈良地方会 2019/2/23 奈良市
運動器セッション4	小川卓也	第30回大阪府理学療法士会学術大会 2018/7/1 大阪国際会議場
乳腺症例検討	竹田雅司	奈良胸部(肺・乳)疾患研究会 2018/9/22 枚方市
『当院での低血糖指導におけるチームでの取り組み』 『糖尿病の療養指導に接遇をどう活かすか』『インスリンを中心とした血糖管理テクニック』	木戸里佳	第24回八尾地区糖尿病連携会 2018/6/7 八尾市文化会館ブリズムホール
『糖尿病の早期治療の有効性』	木戸里佳	明日から役立つ糖尿病治療戦略 2018/6/16 大阪市
『化学療法前後で画像変化とともにホルモン動態変化を観察しえた内分泌臓器に浸潤したB細胞リンパ腫の1例』『Ketosis-prone type 2 diabetes の臨床的特徴についての検討』『運転中に低血糖を来した入院となった急性腎不全合併高Ca血症の1例』	木戸里佳	第12回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス 2018/6/30 大阪市
『複数の合併症をもつ高齢糖尿病患者の看護』	木戸里佳	第2回やお糖尿病スキルアップセミナー 2018/9/1 八尾市文化会館
『2型糖尿病の病態からメホルミンとDPP-4阻害薬の併用意義を考える』	木戸里佳	糖尿病 Early Treatment Seminar 2018/10/5 大阪市
『知って得する！専門医が教える糖尿病治療』	木戸里佳	第9回いきいき！糖尿病健康フォーラム 2018/10/20 八尾市文化会館
興味ある症例 3	木戸里佳	第55回日本糖尿病学会近畿地方会 2018/10/27 神戸市
『糖尿病足病変の治療について』『当院でのフットケアの関わり』『フットケアの実践』	木戸里佳	第2回八尾 足を学ぶ会 2018/12/1 八尾市文化会館ブリズムホール
『ダブルワークの患者さんの合併症予防に向けて』	木戸里佳	第4回MODSカンファレンス 2018/12/8 大阪市
『日本人2型糖尿病の病態に合った薬剤選択～ビグアナイド薬とDPP4阻害薬のコンビを考える～』『尿酸から心血管保護を再考する』	木戸里佳	生活習慣病治療フォーラム 2019/1/19 大阪市
『DPP-4阻害薬による糖尿病病態改善に対するアプローチ』	木戸里佳	Diabetes Frontier Seminar 2019/3/16 大阪市
『実臨床におけるレパグリニドの活用方法』『メホルミンの最新の話』『在宅医療におけるトルシシティ®の使用経験』	木戸里佳	第5回中河内糖尿病治療フォーラム 2019/3/23 大阪市
一般演題 四肢静脈	浅岡伸光	第43回日本超音波検査学会学術集会 2018/6/2 大阪市
下肢深部静脈・表在静脈エコー ガイドライン レクチャーライブ	浅岡伸光	第11回心血管エコーライブハンズオンセッション2019 2019/3/3 大阪市
腹部領域 肝臓 I	寺西ふみ子	第43回日本超音波検査学会学術集会 2018/6/3 大阪市
初級者対象講義講習会 血管領域	寺西ふみ子	日本超音波検査学会第132回医用超音波講義講習会 2018/6/1 大阪市
運動器・関節領域	細井亮二	日本超音波検査学会関西 第30回地方会研修会 2018/12/9 姫路市
これからの薬剤師に求められる緩和医療 ～オピオイド鎮痛薬を使いこなす～	長谷圭悟	大阪府病院薬剤師会中河内支部研修会 2018/10/26 大阪市
第40回日本病院薬剤師会近畿学術大会シンポジウム 4 地域連携におけるポリファーマシー対策の現状と薬剤師のかかわりを考えよう!!	長谷圭悟、石巻康弘	第40回日本病院薬剤師会近畿学術大会 2019/1/19 奈良市
病院における医療情報部門のあり方について	小枝伸行	関西医療情報処理懇談会(KMI)第59回例会 2019/1/11 大阪市
八尾病院・薬局連携フォーラム	小枝伸行	八尾病院・薬局連携フォーラム 2018/12/1 大阪市
副作用防止のためのアレルギー・副作用情報管理	小枝伸行(オーガナイザー/座長)	第28回日本医療薬学会年会 2018/11/23 神戸市
患者を守る薬剤ICT管理医薬品適正使用のための現状と今後の展望	小枝伸行(オーガナイザー/座長)	第38回医療情報学連合大会(第19回日本医療情報学会学術大会) 2018/11/22 福岡市
ポスターセッション 地域連携 2	小枝伸行	第19回日本クリニカルパス学術集会 2018/10/12 函館市
電子カルテフォーラム「利用の達人」& 地域医療ネットワーク研究会合同企画 導入／運用ノウハウ事例発表会	小枝伸行(ファシリテーター)	電子カルテフォーラム「利用の達人」& 地域医療ネットワーク研究会合同企画 導入／運用ノウハウ事例発表会 2018/9/28 大阪市
医療ビッグデータとしてのMID-NETの全容と医薬品情報の関わり	小枝伸行	第21回日本医薬品情報学会 2018/6/28 大阪市

編集後記

平成 30 年度は日本各地、中でも西日本で多くの災害が発生した年でした。6 月に大阪府北部を震源とするマグニチュード 6.1 の地震が発生し、一時交通機関やライフラインがストップしたほか、ブロック塀倒壊による死亡事故も発生しました。7 月には岡山や広島、愛媛など西日本各地を記録的な豪雨が襲い、死者 220 人を超える被害となりました。9 月には台風 21 号が四国、近畿を縦断し、近畿地方を中心に甚大な被害をもたらしました。中でも関西空港が高潮で浸水し、連絡橋にタンカーが衝突したことなどご記憶の方も多いのではないかと思います。

一方、今年度はスポーツで明るい話題が多かった年でもあります。女子テニスの大坂なおみ選手が 9 月の全米オープンで優勝したのに続き、1 月の全豪オープンでも優勝し、世界ランキング 1 位の快挙を達成しました。また、米大リーグエンゼルスの大谷翔平選手が、日本選手ではイチロー選手以来の年間最優秀新人選手（新人王）に選ばれました。他にも卓球やバドミントン、水泳など日本選手の活躍が印象的な年でした。来年に迫った東京オリンピックが今から楽しみです。

さて、今年もみなさまに八尾市立病院年報（平成 30 年度、第 31 号）をお届けいたします。平成 30 年度は、佐々木総長・星田病院長体制の 4 年目にあたります。この一年間は様々な課題に直面しましたが、職員一丸となった取り組みによりそれらを乗り越え、今年度も最終的に黒字を達成することができました。病院としてまだまだ成長途上であり、現状に甘んじることなく、さらなる診療の質の向上に取り組んでいきたいと思ひます。

末尾にはなりますが、今回も年報発行にあたり病院内の各部署のみなさま方の多大なご協力をいただきました。編集委員一同、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

編集委員長 田中 一郎

年 報 編 集 委 員 会

編集 委員長	田 中 一 郎	副院長
編集 副委員長	宮 田 辰 弥	企画運営課課長補佐
編集 委 員	大 江 洋 介	内科部長
	上水流 雅 人	中央手術部部長兼泌尿器科医長
	長 谷 圭 悟	薬剤部長補佐
	平 井 良 介	放射線科技師長
	青 木 美加子	看護部次長
	山 本 恵 郎	S P C (MS)
	原 田 美永子	S P C (協力企業)
	中 野 佐 歩	企画運営課副主査
編集事務担当	中 野 佐 歩	企画運営課副主査
	山 本 恵 郎	S P C (MS)



病院年報（第 3 1 号）
令和元年（2 0 1 9 年）1 2 月発行

-
- 編集・発行 八尾市立病院 年報編集委員会
 〒581-0069 八尾市龍華町 1-3-1
 TEL (072)922-0881(代)
 - ホームページ:<http://www.hospital.yao.osaka.jp/>
 刊行物番号 R 1 — 6 5
-